

ご挨拶

学習支援センター センター長

関根 勉

東北大学は、平成 26 年 4 月に「高度教養教育・学生支援機構」を設置しました。この機構は、高等教育開発推進センター、グローバルラーニングセンター、教養教育院、国際教育院、高度イノベーション博士人材育成センターを統合したものであり、新たな教養教育及び学生支援に関する調査研究や企画開発などを一体的に実施することによって、教育の質をさらに向上させること(高度教養教育)を目的としています。機構には 11 の業務センターが設けられましたが、その中に、東北大学の学習支援の中核を担う機関として学習支援センターがあります。

学習支援センターでは、スチューデント・ラーニング・アドバイザー(Student Learning Adviser、SLA)の活動を主とした運営を行っています。これは、学内の高年次の学部生や大学院生がアドバイザーとしての高い意識を持ち、1、2 年生の学習支援を行うというシステムです。このシステムは、平成 22 年に「全学教育学習支援プロジェクト SLA (スチューデント・ラーニング・アドバイザー) システム – スチューデントアドバイザー制度の実践 –」としてスタートしました。手探りを続けながらのシステム作りであったことは言うまでもありませんが、“東北大学に学び合いの文化を” 作ろうという精神のもと、「ともと学ぼう、ともに育とう、ともそだち！」をキーフレーズとして、スタッフと SLA が奮闘してきました。SLA の皆さんが自分達の支援のあり方を定期的に話し合ったり、また合宿などを通して高い意識を醸成するなど、アドバイザー自身の成長のもとに質の高い学習支援が行われていくという特徴的なシステムとなっています。利用者数も徐々に増加してきましたが、平成 26 年度は利用者数がのべ約 3,500 人(理系・英会話支援のみ)になるなど、まるで学習支援センターの設置をお祝いしてくれたように、スタッフと SLA が“てんてこ舞い”となる盛況ぶりになりました。このようなおりに、学習支援センターとしての初めての年報を制作し、皆様にご報告できることを大変うれしく思います。

研究大学としての学びや支援とは何かをその出発点として心の中におき、高等教育における学習支援のあり方を常に模索しながら、スタッフ一同、SLA の皆さんとともにその輪を広げていきたいと願う次第です。

年報を手にとってくださいみなさんへ

学習支援センター副センター長

中川 学

スチューデント・ラーニング・アドバイザー(Student Learning Adviser、以下 SLA)は、東北大学の全学教育(1・2年生向け)における学習支援の柱といえる存在です。これは広義のピアサポートの範疇に入るものですが、「先輩の力」を用いた学生の学び合いを特徴としています。「答えだけを教えない」「添削だけはしない」—学生同士の話し合いによる「気づき」と「学び合い」を何よりも大事にするという、確固たる理念に基づいて実施されてきた学習サポートなのです。

発足当初からスタッフたちは、SLA をシステムとして円滑に運営するためのいくつかの「仕掛け」を作ってきました。科目ごとの部会活動や研修合宿、Semesterごとの成果報告会などがそれにあたります。節目節目で、「振り返り」(リフレクション)を用いた現状と課題の把握やその解決に向けた議論などを実施してきました。それらを通して、SLA の理念が共有され、SLA を中心とした学習支援活動が発展してきたといえるでしょう。

本年報は、2014 年度における学習支援センターのスタッフと SLA たち、そしてセンターを利用した多くの学生たちが織りなした諸活動が、ビジュアルに概観できるものです。そこにはスタッフ・SLA たちの成功例だけでなく、試行錯誤の過程や失敗例なども率直に記されています。これは私たちセンタースタッフにとっての年間全体を振り返るための重要な記録ですが、大学における学習支援活動に従事されている方々にとっても、様々なヒントが散りばめられた資料となるのではないかと思います。

大部にわたるものではありませんが、次頁の<読むためのヒント>を糸口に、関心のあるところからご覧いただければ幸いです。

＜読むためのヒント＞

2014 年度活動 ポイント 10

- ① 「SLA サポート室」から「学習支援センター」へ cf) p6

: 2014 年度より、旧高等教育開発推進センターが高度教養教育・学生支援機構と改組されたことに伴い、業務センターの一つとして「学習支援センター」が発足した。理念や実践は、従来のものを継承している。
- ② 理系科目・英会話利用、過去最高の利用者数 cf) p10,14

: 理系科目は前年度比 209.6%、英会話は前年度比 207.7%の利用を得た。それぞれ、利用者数を引き上げた主力要因はあるものの、理系科目については全体的増加傾向、英会話については SLA 側の支援体制安定化の影響を垣間見ることができる。
- ③ ライティング支援の試行実施 cf) p17,(77)

: 理系科目、英会話の支援の恒常化・安定化に伴い、新たに文系学生への支援を視野に入れたライティング支援の開発に着手した。ただし、大学側・教員側のニーズの高さに比して学生の自発的ニーズは低く、課外組織における支援の在り方としては引き続き検討を要する形となった。
- ④ 活動証明書発行 cf) p53

: 年度末活動報告会の場において、学習支援センター・副センター長名により、「活動証明書」を発行することができた。大学の正式な活動への貢献を形として示すことは、SLA にとってもモチベーションの向上につながるものである。本組織がセンター化されたことの、一効用であった。
- ⑤ 学内の他部局、他機関との連携拡大 cf) p10,14,21 他

: 学生相談・特別支援センター、工学研究科工学教育院、附属図書館、グローバルラーニングセンターなど、連携の形は様々であるが、情報共有や人材交流、実践の共有といった観点において、新たな他組織との交流が多く行われた。
- ⑥ 正課への情報フィードバック cf) p10,71

: センター長および SLA 化学部会の尽力により、全学教育の教員組織である化学委員会に向けて、センターにおける化学の質問対応実践に基づいた利用傾向等の分析結果および化学 A・C の授業に関する提案をフィードバックすることができた。これを今後どのように継続・活用していくかは、次年度以降の課題である。
- ⑦ SLA 研修体制の改善 cf) p65,86

: 科目ごとに組織している「部会」の活動について、従来の各部会の志向に沿った運営から、特に理系科目 3 部会において方法を統一して定式化を図った。これにより、部会活動の円滑化と SLA 共通基盤の形成の一助となすことができた。また、昨年度に引き続き、他大学（北海道大学）との合同研修会を実施し、実施方法についての整備を行った。
- ⑧ WEB ページの改修
: 国立大学改革強化推進経費を獲得し、情報発信力強化を目的として web ページを改修した（本格運用は次年度）。
- ⑨ 学習イベント活動の縮小
: 通常活動（理系科目、英会話支援等）の多忙化に伴い、学習イベントの企画・実施は停滞した。ただし、イベント開催については従来より集客力の弱さが課題でもあったため、準備・運営・広報それぞれの方法を見直す必要がある。
- ⑩ 『年報』の発行
: 実践 5 年目にしようやく活動を総括し、対外的に公表することができた。“実践”をどのように形にし、かつ有効な形で発信していくかは常に課題であるが、引き続き、改善と発展に努めたい。

目次

ご挨拶
年報を手にとってくださいみなさんへ

学習支援センター センター長 関根勉
学習支援センター 副センター長 中川学

<読むためのヒント> 2014年度活動 ポイント 10

1. 学習支援センター (CLS) 概要	6
・理念・使命	
・事業	
・SLA とは	
・センタースタッフ構成 (2014年度 SLA 体制を含む)	
2. 学習支援活動	10
(1) 理系科目 (主に、物理・数学・化学)	10
① 概要	
② 各種利用傾向	
(a.利用者数 b.科目別利用傾向 c.目的別利用傾向 d.利用回数別利用者数 e.学部別利用者数 f.学年別利用者数 g.新規・継続別利用者数 h.授業別利用者数)	
(2) 英会話	14
① 概要	
② 各種利用傾向	
(a.利用者数 b.利用回数別利用者数 c.学部別利用者数 d.学年別利用者数 e.新規・継続別利用者数)	
(3) ライティング	17
① 概要	
② 各種利用傾向	
(a.利用者数 b.利用回数別利用者数 c.学部別利用者数)	
(4) 自主ゼミ支援	19
① 概要	
② 利用状況	
(5) 授業連携型学習支援	20
① 前期活動分	
② 後期活動分	
③ 授業 SLA による活動報告書 (アンケート)	
(6) その他活動	32
① PDP 教育関係共同利用拠点提供プログラム「アカデミック・ライティングを指導する」セミナーの開催	
② センター教員による基礎ゼミ授業実践	
③ 『ともそだち本 2015』作成	
④ 学習イベント「わんトピ」開催	
⑤ オープンキャンパスにおける活動	
⑥ 萩友会プレミアム懇談会 (自由見学) 窓口開設	
3. 利用学生の声	34

4.	センター内活動（研修等）	52
(1)	活動説明会・報告会	52
①	新規 SLA 向け活動説明会・前期活動説明会	
②	後期活動説明会	
③	後期活動報告会	
(2)	研修合宿	54
①	概要	
②	前期総括会	
③	合宿初参加者向け研修会・研修会	
④	ワークショップ	
⑤	合宿振り返りシート（参加者の声）	
(3)	部会活動	65
①	物理部会活動	
	・SLA による部会活動報告 なし	
②	数学部会活動	
	・SLA による部会活動報告 執筆：小田部秀介〔理学研究科 博士課程前期 1 年〕	
③	化学部会活動	
	・SLA による部会活動報告 執筆：佐藤悠介〔理学研究科 博士課程前期 2 年〕	
④	英語部会活動	
	・SLA による部会活動報告 執筆：房内まどか〔文学研究科 博士課程前期 2 年〕	
⑤	ライティング部会活動	
	・SLA による部会活動報告 執筆：近藤百世〔国際文化研究科 博士課程後期 3 年〕	
	千葉陽子〔教育学研究科 博士課程前期 2 年〕	
(4)	SLA 活動振り返り作業	81
(5)	対外的活動	86
①	発表・講演等	
②	調査活動	
③	訪問受け入れ	
④	他大学連携合同研修	
⑤	その他	
5.	SLA による活動振り返りレポート	88
①	浜橋めぐみ〔教育学研究科 博士課程前期 2 年・英語担当（2010～）〕	
②	沖坂祥平〔理学研究科 博士課程後期 1 年・数学担当（2010～）〕	
③	金子理〔理学研究科 博士課程前期 2 年・数学担当（2011～）〕	
④	石井亮太〔理学研究科 博士課程前期 2 年・数学担当（2011～）〕	
⑤	小田部秀介〔理学研究科 博士課程前期 1 年・数学担当（2012～）〕	
⑥	房内まどか〔文学研究科 博士課程前期 2 年・英語担当（2013～）〕	
資料 1	2014 年度学習支援センター活動略歴	100
資料 2	各種スライド資料	102
	※研修合宿報告資料における各種スライドの情報は、学生個人の見解によるものも含まれることをあらかじめご了承ください。	
資料 3	各種ポスター	141

編集後記

— 本冊子掲載の写真データの無断使用を固く禁ずる —

1. 学習支援センター（CLS）概要

学習支援センターは、2014年度の高度教養教育・学生支援機構の発足に伴い設立された業務センターの一つである。その前身となったのは、高等教育開発推進センターにおける「SLA サポート室」の活動（2013年度）であり、さらにはそれ以前の「全学教育学習支援プロジェクト—SLA（Student Learning Adviser）制度の実践—」（総長室付け、2010年度～2012年度）の活動が土台となっている。

◆理念・使命

学習支援センターの使命には、次の3点を掲げている。

- (1) 学生の主体的・自律的な学習を、実践的に促進・支援し、研究大学で学ぶ学生としての資質を育成する。
- (2) 初年次教育や学習支援に関する国内外の動向を調査研究し、東北大学の学習支援の質的向上に寄与する。
- (3) 教職員・学生の中に「学び合い」文化を醸成し、学習共同体（ラーニング・コミュニティ）の形成に寄与する。

2014年現在、学習支援センターの支援対象は学部1・2年生であり、1・2年次学生にとって、“学び”という観点で最も身近な組織であることが、本センターの役割である。また、本センターの学習支援の特徴は、学習支援主体が「SLA（Student Learning Adviser）」と呼ばれる学生スタッフであることにある。「学生による学習支援」の在り方を模索し、開発していくことも本センターの使命の一つである。

◆事業

学習支援センターが行う業務は、次の4点である。

- (1) 全学教育段階のリメディアル・レベルアップ学習支援の開発・実践を行う。
- (2) 学習支援の組織開発および支援者育成システムの開発・実践を行う。
- (3) 情報還元による正課カリキュラムの改善・充実に貢献する。
- (4) 全学教育範囲における学習支援ネットワーク（部局間連携体制）を構築する。

本センターでは、高大接続の円滑化と大学教育における学びの実質化に対応するため、大学初期段階での学びのスタート・アップ支援の充実方策を提案・実施する。大学4年間につながる基礎創りを大学での学びの出発点である1・2年次に行うことが重要である。その際、研究大学における支援としては「リメディアル」的支援と同時に、「レベルアップ」的支援を開発・実施していく。

また、研究大学において、「学生同士の学び合い」を核とした学習支援を組織することは、本センター固有の特徴である。この組織開発の一環として教育専門スタッフ（教職員）の充実を図るため、教育（実践）志向型大学教員の在り方を模索・提言する。また、支援主体学生として「学習意識の高い先輩学生（学士課程後期学生、大学院生）」を育成することが本センター成功の鍵である。この教育支援人材育成システムの開発・提案を行う。

なお、本センターでは、学習支援活動を①個別対応型学習支援、②企画発信型学習支援、③授業連携型学習支援、④自主ゼミ支援の4形態で展開している。このうちの①・②における具体的な支援内容は、主に物理、数学、化学、英会話、ライティングの5分野（セクションである）。

[個別対応型学習支援]

学部1～2年生からの個別の学習相談・質問に対応する形態の支援。SLA ラウンジに待機しているSLAが平日2～5限の間、主に物理・数学・化学・ライティングの質問に対応している。

[企画発信型学習支援]

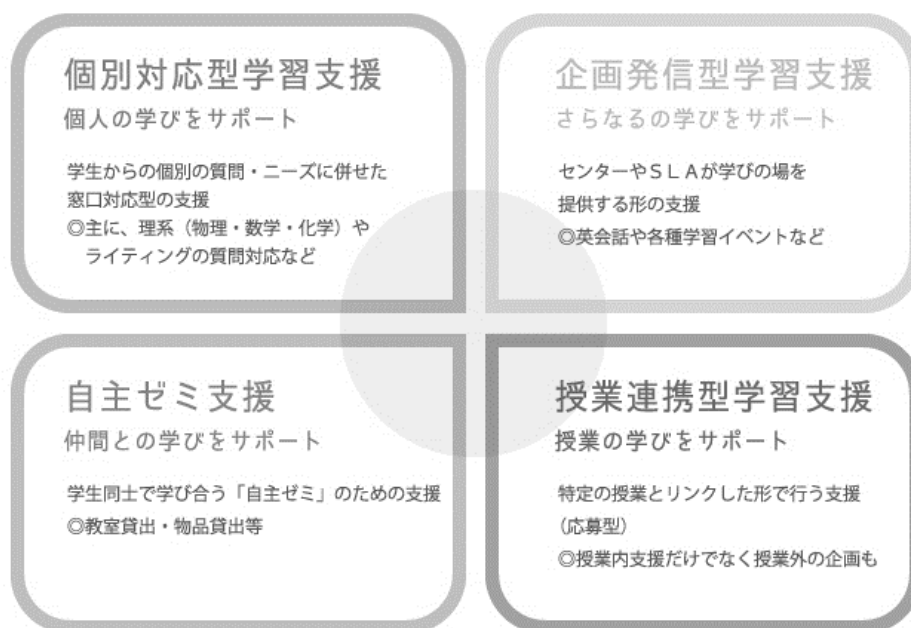
個別対応型のように質問を待つ形ではなく、SLAから学びの機会を提供する活動の総称である。主に英会話支援の活動や学習イベントの開催がこれにあたる。

[授業連携型学習支援]

TAのような形で授業ごとにSLAを配置し、担当授業の受講生を対象として学習支援を行う。具体的な活動内容は、連携する授業毎に異なる。

[自主ゼミ支援]

自主ゼミ活動をしている・したい学生を支援する活動。具体的には、①活動場所の提供、②備品貸出、③相談受付、④自主ゼミ交流会の実施などを行うことで、活動の円滑化・促進を図っている。



<図1. 学習支援形態による概念図> *学習支援センターHPより

◆SLAとは

SLA（エスエルエー）とは、Student Learning Adviserの略で、東北大学における学生による学生のための学習支援スタッフのことを指す。主に学部3年生～大学院生の幅広い層の先輩学生たちが、SLAとして全学教育を受ける学部1・2年生の学習サポートを行っている。SLAによる学習支援のコンセプトは学生同士の“学び合い”である。「ととも学ぼう、ともに育とう、『ともそだち』 Together we learn, Together we grow,TOMOSODACHI!」をキーワードに、学習支援を行っている。

一 “先輩の力” の考え方

SLA を核とする本センターの学習支援は、「先輩の力」を活用したサポートであることが特徴である。これまでの活動から、「先輩の力」には次のような可能性があるセンターでは考えている。

①わからなさや面白さへの共感

学部1・2年生にとって、教員へ質問することは物理的にも感情的にも思いのほかハードルが高いように感じられる。そのような大学の環境において、「先輩」という存在は、学問について誰かに聞くという行為を身近にしてくれる良さがある。また、つい数年前までは学部1・2年生だった「先輩」たちは、その経験から、どこでつまづきやすく、何がわからないのかの“ツボ”を最もよく知る存在である。と同時に、わからなさだけでなく、面白いと感じる“ツボ”についても、同世代ならではのアンテナを働かせて共感できるということもまた意義深い。利用学生から「一緒に喜んでもらったのが嬉しかった」という声も聞かれ、そんな素朴な「喜び」を自然と生み出せるのも「先輩」が有する潜在的な力であると考えている。

②ロールモデルとしての少し上の先輩たち

大学一特にキャンパスが点在する東北大学において、1・2年生からすると、「学び」という観点における少し上の先輩の姿は見えにくいものである。そんな中、SLA に集まる先輩学生たちは、「大学での学び」に苦勞をした人も楽しんだ人も様々ではあるが、いずれも「大学での学び」に何かしらの意義を感じそれを志そうとする学生たちである。そんな先輩の姿や経験値に触れることで、1・2年生たちは自分なりの大学での学びの過程を思い描くヒントにすることができる。

③共に考える存在

SLA (先輩) といえども、完璧に質問に答えたり、ベストな方法で教えることができるわけではない。試行錯誤しながら、質問に来る学生たちと「共に考える」という光景も、質問対応の場ではよく見かける光景である。この姿勢が自然と成り立つのは、大学での学びの過程を共に歩む学生同士だからこそであろう。利用学生から聞こえてくる「答えだけでなく考え方を教えてくれる」「(自分自身が) 成長できた感があって嬉しい」といった声からは、「共に考える」という、教えー学び合う支援の在り方の意義を感じることができる。



◆センタースタッフ構成

- センター長 : 関根勉 (高度教養教育・学生支援機構 教授、放射化学)
- 副センター長 : 中川学 (同 講師、日本近世史)
- センター員 : 足立佳菜 (同 助手、学習支援 [高等教育]・道德教育史)
- センター員 : 鈴木学 (同 助手、学習支援 [高等教育]・教師教育)
- センター員 : 鈴木真衣 (教育・学生支援部 教務課 全学教育実施係、事務補佐員)
- SLA : 人数は年度による。2014年度の体制については次ページ参照。

— 2014 年度 SLA 体制 —

■前期セメスター

2014 年度前期の SLA は全 46 名体制で運営した（途中採用含む）。内訳は下に示すとおりである。

○継続 26 名／新規 17 名／復帰 3 名（新規・復帰のうち、4 名はセメスター途中の採用）

○留学生数：5 名（うち 1 名は、短期留学生）

＜表 1. SLA 所属別人数【14 前期】＞

	文	教	経	理	工	農	国文	合計
博士				8			2	10
修士 2	1	2		8	2			13
修士 1				6				6
4 年		2		8	2			12
3 年				2				2
2 年	1		1			1		3
合計	2	4	1	32	4	1	2	46

＜表 2. SLA 担当別人数【14 前期】＞

	物理	数学	化学	ライティング	英会話	授業	合計
博士	4	2	2	(1)	1	1	10
修士	4	8	2	1	3	1	19
学士	6	1	2		3	5	17
合計	14	11	6	1(2)	7	7	46

※ライティングと授業の兼任 1 名あり。()は兼任を含む数。

■後期セメスター

2014 年度後期の SLA は、全 49 名体制で運営した（途中採用含む）。内訳は下に示すとおりである。

○継続 40 名／新規 9 名（新規のうち、2 名はセメスター途中の採用）

○留学生数：5 名

＜表 3. SLA 所属・学年別人数【14 後期】＞

	文	教	経	理	工	国文	合計
博士	1	1		8		2	12
修士 2	2	2		8	2		14
修士 1				6			6
4 年		1	1	10	1		13
3 年			1	3			4
2 年							0
合計	3	4	2	35	3	2	49

＜表 4. SLA 担当別人数【14 後期】＞

	物理	数学	化学	ライティング	英会話	授業	合計
博士	4	2	2	1(2)	2	1	13
修士	4	8	2	2	1	3	20
学士	9	1	2		1	4	17
合計	17	11	6	3(4)	4	8	49

※ライティングと授業の兼任 1 名あり。()は兼任を含む数。

2. 学習支援活動

(1) 理系科目（主に、物理・数学・化学）

① 概要

理系3科目の質問対応は、物理・数学は平日2～5コマ、化学は平日3～5コマに窓口を設置している。現在のセンターの活動の中核であり、恒常的な運営が行えている活動である。今年度は過去最高の利用者を得た（表5）。

今年度の特徴は、「数学物理学演習」という特定授業（工学部生必修）の質問者が増加したことである（詳細は後述）。このことを機に、「数学物理学演習」の総括をされている工学研究科工学教育院と連携を図り、後期セメスターからは、輪番制の形で当該授業のTAを週に2日（各1名、約2時間）派遣していただく体制を試行した。この他、工学教育院で開かれたTA懇談会への参加の機会を得たり、当センターで受けた質問事例の情報フィードバックを行うなど、正課授業への情報還元を進められたことが、新たな活動であった。同様に、全学教育の教員組織である化学委員会に対し、SLA化学部会が取り纏めた化学に関する質問傾向を分析した情報をフィードバックした。これらの動きの成果は次年度以降に検討したい。

<表5. 2010～2014年度の理系支援利用者のべ数変遷>

	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
前期	85	901	1,125	916	1,682
後期	304	433	761	421	1,121
年間合計	389	1,334	1,886	1,337	2,803

(単位:人)



② 各種利用傾向

a) 利用者数

2014年度の利用者のべ数は、前期 1682 人・後期 1121 人で、両セメスターとも過去最高の利用者を得た。月別の利用者数、1日当たり利用者数、実数についても表 6 に示す。

<表 6. 2014 年度理系支援利用者数>

	延数(人) a	対前年度	対前年度比	受付日数(日) b	1日当たり数 a/b	実数(名)
4月	158	+69	177.5%	12	13.2	99
5月	430	+151	154.1%	20	21.5	196
6月	496	+300	253.1%	21	23.6	240
7月	593	+263	179.7%	22	27.0	281
8月	5	-17	22.7%	2	2.5	5
10月	310	+233	402.6%	18	17.2	137
11月	301	+184	257.3%	18	16.7	126
12月	154	+100	285.2%	17	9.1	79
1月	283	+127	181.4%	18	15.7	143
2月	73	+56	429.4%	6	12.2	53
合計	2,803	+1,466	209.6%	154	15.9	583 ^{※1}

※1 実数合計は、月別合計の累計数ではなく、年間の実数を表す。

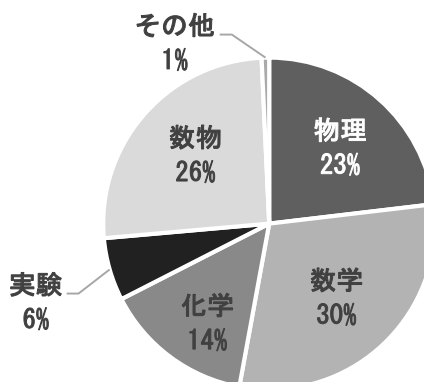
b) 科目別利用傾向

科目別の利用傾向は、物理>数学>化学の順であり、これは例年の傾向と相違はない。

<表 7. 科目別利用件数【理'14】>

物理	537
数学	691
化学	339
実験	142
数物	596
その他	17

単位：件



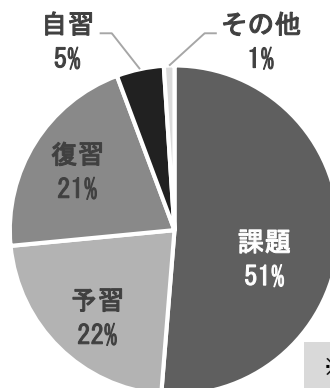
<図 2. 科目別利用割合【理'14】>

c) 目的別利用傾向

<表 8. 目的別利用件数【理'14】>

課題	1137
予習	492
復習	462
自習	103
その他	23

単位：件



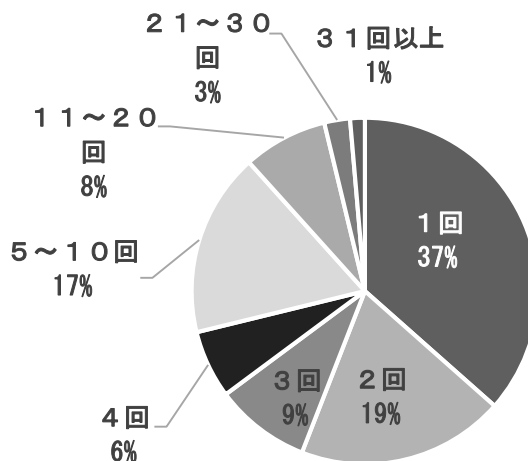
※未回答を除いた割合

<図 3. 目的別利用割合【理'14】>

d) 利用回数別利用者数

<表 9. 利用回数別人数 (実数)【理'14】>

利用回数	人数
1回	213
2回	113
3回	52
4回	37
5~10回	100
11~20回	46
21~30回	14
31回以上	8

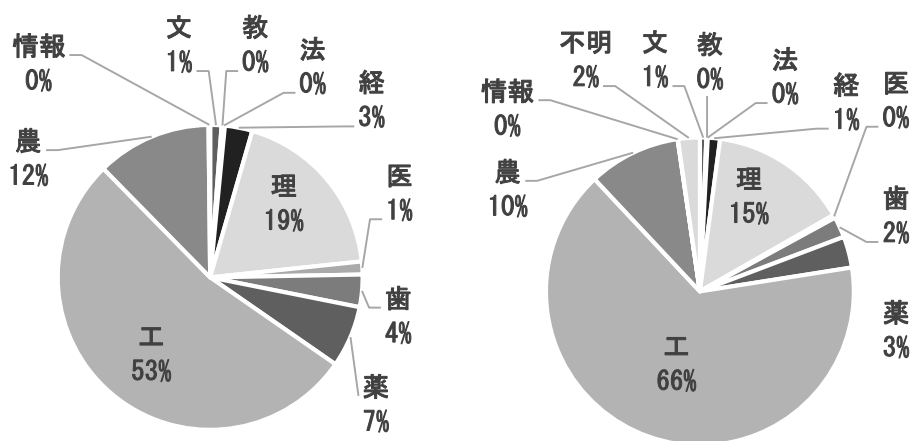


<図 4. 利用回数別利用割合；理'14>

e) 学部別利用者数

<表 10. 学部別利用者数【理'14】>

学部	実数(名)	延数(人)
文	7	19
教	1	3
法	1	1
経	17	36
理	110	410
医	8	9
歯	20	61
薬	38	92
工	309	1,836
農	71	271
情報	1	1
不明	—	64
合計	583	2,803

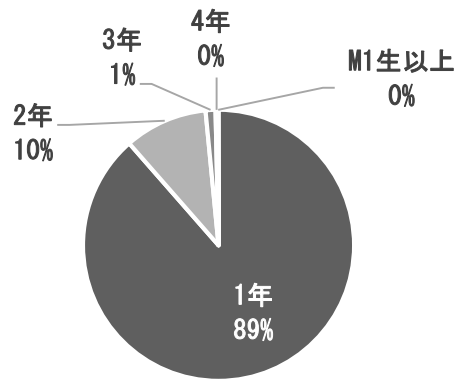


<図 5. 学部別利用割合 (左: 実数、右: のべ数)【理'14】>

f) 学年別利用者数

<表 11. 学年別利用者数 (のべ数)【理'14】>

学年	人数
1年	2,482
2年	278
3年	33
4年	8
M1生以上	2
合計	2,803



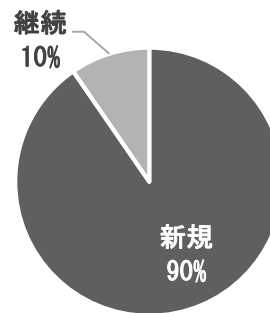
<図 6. 学年別利用割合 (のべ数)【理'14】>

g) 新規・継続別利用者数

<表 12. 新規・継続利用者数 (実数)【理'14】>

新規利用者	527
継続利用者	56

※「新規利用者」=2014年度初めて利用した学生、「継続利用者」=前年度以前も利用したことがある学生



<図 7. 新規・継続利用者割合 (実数)【理'14】>

h) 授業別利用者数

工学部対象「数学物理学演習」に関する質問が昨年度比、前期 497.5%・後期 1020.5% (延べ人数による比較) の増加であったことが、全体の利用者数の伸び率を引き上げた。ただし、数物演習に限らず、その他の授業でも昨年度比 200%を超えるものも多く、全体傾向としても利用が増加している (表 13)。

<表 13. 2013 年度・2014 年度上位 7 授業別利用者のべ数比較>

A. 前期セメスター

授業名	2013	2014	前年度比
数学物理学演習 I	83 人	413 人	497.5%
化学 A	92 人	239 人	259.7%
物理学 A	124 人	152 人	122.5%
解析学 A	54 人	122 人	225.9%
線形代数学 A	49 人	121 人	246.9%
物理学 D	24 人	99 人	412.5%
自然科学総合実験	51 人	88 人	172.5%

B. 後期セメスター

授業名	2013	2014	前年度比
数学物理学演習 II	39 人	398 人	1020.5%
物理学 B	54 人	179 人	331.4%
線形代数学 B	57 人	126 人	221.0%
化学 C	33 人	89 人	269.6%
解析学 B	41 人	83 人	202.4%
解析学概要	66 人	62 人	93.9%
自然科学総合実験	31 人	59 人	190.3%

利用者数合計	916 人	1,682 人	183.6%
--------	-------	---------	--------

利用者数合計	421 人	1,121 人	266.0%
--------	-------	---------	--------

(「利用者数合計」はその他の質問を含むセメスター全体の合計数である。前年度比率の比較のために掲載した。)

(2) 英会話

① 概要

英会話支援では、複数人で話すタイプの「英会話カフェ」とマンツーマンタイプの「1 on 1 英会話」の2種の活動を展開した。英会話についても理系窓口ほど規模が大きくないため、担当する SLA 学生の時間割を鑑みながら Semester ごとに活動時間を決定している。2014 年度は、前期 Semester = 月・火・木 昼・3 コマ「カフェ」、4・5 コマ「1 on 1」、後期 Semester = 火・水・木 昼・3 コマ「カフェ」、4・5 コマ「1 on 1」という体制で運営した。

今年度の特徴は、グローバルラーニングセンター主催の SAP (Study Abroad Program) 参加学生による利用が増加したことである。SAP 参加学生は学内の指定 (紹介) された場所で英会話を学ぶよう指示されており、これの指定箇所の一つとなっていたために、利用者が増加したという背景である。急増への対応は課題であるが、指定回数を超えても利用を続けてくれる学生もおり、他機関との連携による利用促進の好例となった。

<表 14. 2010~2014 年度の英会話支援利用者のべ数変遷>

	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度
前期	(7)	215	100	203	238
後期	(22)	183	61	133	460
年間合計	(29)	398	161	336	698

※2010 年度は別形態だったため、参考値 (単位:人)



② 各種利用傾向

a) 利用者数

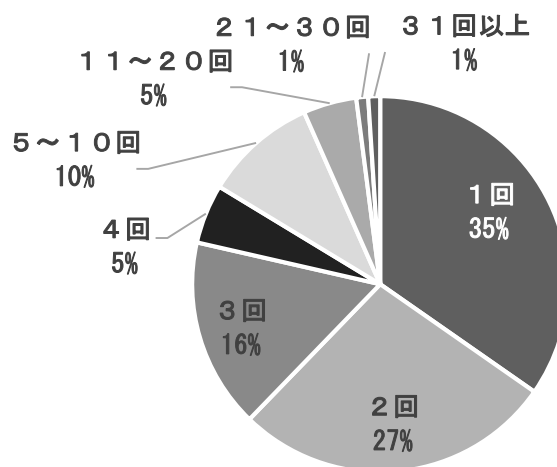
<表 15. 2014 年度英会話支援利用者数>

	4月	5月	6月	7月	前期計	10月	11月	12月	1月	後期計	合計
開催回数	14	22	26	22	84	16	22	20	21	79	163
利用者数	33	83	76	46	238	39	62	139	220	460	698
(カフェ)	(23)	(40)	(33)	(21)	(117)	(16)	(33)	(67)	(135)	(251)	(368)
(1on1)	(10)	(43)	(43)	(25)	(121)	(23)	(29)	(72)	(85)	(209)	(330)

b) 利用回数別利用者数

<表 16. 利用回数別人数【英'14】>

利用回数	人数
1回	68
2回	54
3回	32
4回	10
5~10回	19
11~20回	9
21~30回	2
31回以上	2

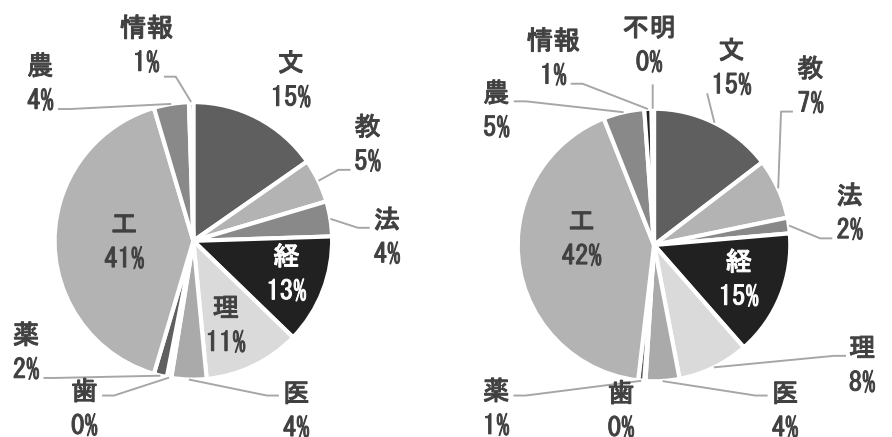


<図 8. 利用回数別割合【英'14】>

c) 学部別利用者数

<表 17. 学部別利用者数【英'14】>

学部	実数(名)	延数(人)
文	30	102
教	10	50
法	8	13
経	25	104
理	22	59
医	8	28
歯	1	1
薬	3	5
工	80	294
農	8	34
情報	1	6
不明	—	2
合計	196	698

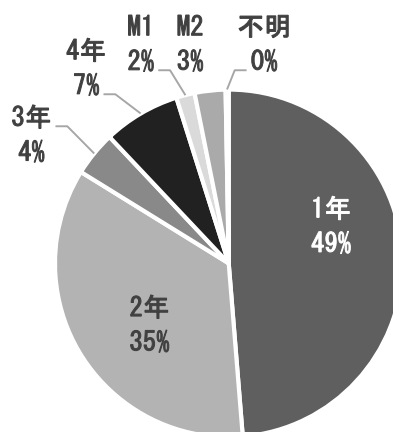


<図 9. 学部別利用割合 (左: 実数、右: のべ数)【英'14】>

d) 学年別利用者数

<表 18. 学年別利用者数（のべ数）【英'14】>

学年	人数
1年	340
2年	245
3年	29
4年	50
M1	12
M2	20
不明	2
合計	698



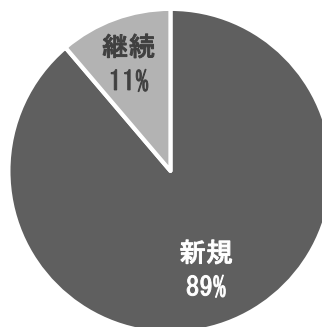
<図 10. 学年別利用者数（のべ数）【英'14】>

e) 新規・継続別利用者数

<表 19. 新規・継続利用者数（実数）【英'14】>

新規利用者	174
継続利用者	22

※「新規利用者」＝2014年度初めて利用した学生、「継続利用者」＝前年度以前も利用したことがある学生



<図 11. 新規・継続利用者割合（実数）【英'14】>

(3) ライティング

① 概要

昨年度の試行実施を経て、今年度から正式に個別窓口としてライティングの質問対応を始めた。ただし、前期 Semester 中は、対応できる SLA は 2 名 + センター員 2 名の計 4 名体制の影響により、理系窓口のように常時質問を受け付けることはできないため、〔月曜昼・3 コマ、火曜 3～5 コマ、水曜昼・3 コマ〕の部分的な窓口設置となった。

また、受け身の支援（質問窓口の設置）のみでは利用がなかなか見込めないことから、Semester 途中より、企画発信型学習支援の一環として 30 分弱のプチセミナーを並行して実施した。本セミナーは、6 月 23 日～7 月 29 日の間、毎週月曜 3 コマと火曜 5 コマの窓口時間内に併設した。

前期 Semester 中の利用者数は、のべ 22 人であった（表 20）。昨年度前期末～後期 Semester 中の試行実施時はのべ 7 人の利用だったので増加はしたが、利用者の確保（ニーズの把握・創出）は引き続き課題である。加えて、のべ数と実数を比較しても分かるように、2 回以上利用者（リピーター）が少ないことも特徴である。検討を繰り返すことで文章が洗練されていくというライティングの性質からしても、継続的な利用を生み出すことも課題である。

なお、利用者 22 人のうち 5 人は、授業連携型学習支援の関係で利用につながった事例である。それ以外の一般利用者であっても、質問の大半は授業レポートに関する内容であった（※昨年度の試行実施時は、留学や転学部のための応募書類の質問が大半であった）。これらを鑑みると、ライティング支援充実に向けては、授業との関係性を強化する必要があると考えられる。

後期 Semester は、前期の体制に加え Semester 途中で SLA 2 名を迎え、計 6 名体制となった（ただし、1 名については Semester 終盤での採用であり、来年度に向けた準備中心の活動となった）。後期 Semester 中の利用者数は、のべ 4 人で前期利用者数を大幅に下回った。質問窓口対応以外に後期の活動の中心として、ライティングの学習支援教材作成を据え、2015 年度開始時に学部 1・2 年生に配布する『ともそだち本』での掲載を目標に活動した。

後期の特徴として、前期に比べて質問窓口の需要が減少したことが挙げられる。前期は「ライティング全般」の質問で利用者を得ることができたが、後期においてはこの類の質問を得ることはできなかった。高大接続を意識したライティング支援だけでなく、大学生活におけるライティング・スキルの必要性を学部 1・2 年生に周知していく活動が今後の SLA のライティング支援の課題である。



② 各種利用傾向

a) 利用者数

<表 20. 2014 年度ライティング支援利用者数>

	延数(人) a	受付日数(日) b	1日当たり数 a/b	実数(名)
4月	3	7	0.4	3
5月	1	8	0.1	1
6月	10(2) ^{※1}	14	0.7	9
7月	8(2) ^{※1}	14	0.6	6
10月	0	10	0.0	0
11月	1	11	0.1	1
12月	1	12	0.1	1
1月	1	16	0.1	1
2月	1	6	0.2	1
合計	26	98	0.2	19 ^{※2}

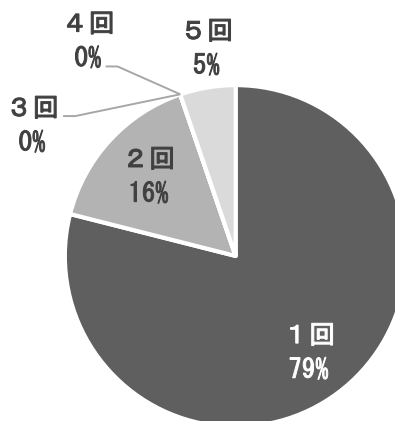
※1 表中()内の数字は、セミナー参加者。内数。

※2 セメスターを通しての合計実数であり、月間の単純合計ではない。

b) 利用回数別利用者数

<表 21. 利用回数別人数【ラ'14】>

利用回数	人数
1回	15
2回	3
3回	0
4回	0
5回	1

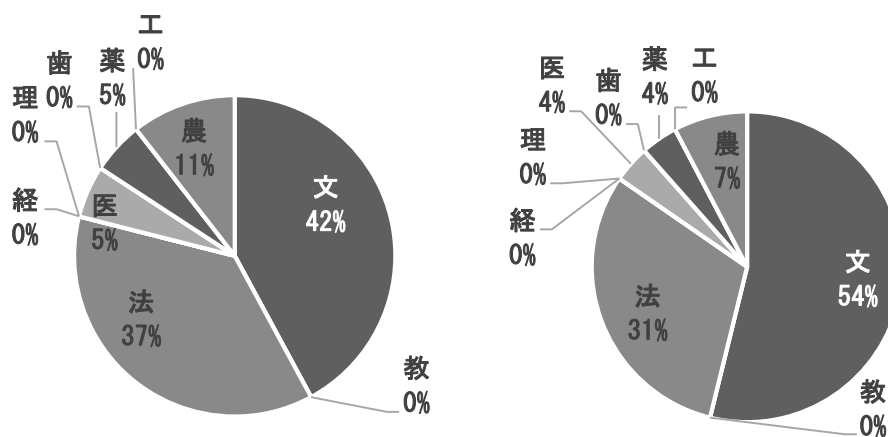


<図 12. 利用回数別割合【ラ'14】>

c) 学部別利用者数

<表 22. 学部別利用者数【ラ'14】>

学部	実数(名)	延数(人)
文	8	14
教	0	0
法	7	8
経	0	0
理	0	0
医	1	1
歯	0	0
薬	1	1
工	0	0
農	2	2
不明	—	0
合計	19	26



<図 13. 学部別利用割合 (左: 実数、右: のべ数)【ラ'14】>

(4) 自主ゼミ支援

① 概要

前期セメスター中の登録自主ゼミは、6ゼミ（名簿登録学生数113名）であった。2014年度登録自主ゼミの特徴として、①その半数が昨年度から継続の大規模自主ゼミであること、②放課後教室貸出へのニーズが高いこと、③ほぼ理系学生であることが挙げられる。③に関して補足すると、理系学生だからといって理系科目の学習のみを自主ゼミで行っているわけではない。社会問題に関する議論や企業見学といったように、幅広い興味・関心に基づいて具体的に行動に移している自主ゼミも見られる。

前期セメスター中は自主ゼミとして登録はしないまでも、SLA ラウンジにて毎週同じ時間帯に仲間同士で学習している学生グループも複数確認することができた。例年、登録自主ゼミへの支援の在り方に関しては、支援の度合や関係性の構築という点で課題が挙げられているが、登録如何に関わらず、学生が自主ゼミ活動に取り組みやすい環境を整備し続けることが自主ゼミ支援の大前提であると再認識したセメスターであった。

後期セメスターは、前期から継続して活動する自主ゼミが大半であった。後期の自主ゼミ支援の特徴は、『ともそだち本』の自主ゼミページのコンテンツを「金ゼミ」と協力して作成したことにある。この動きは自主ゼミにとっては自身の活動を学部1・2年生に広報する上で有用であり、学習支援センターとしても自主ゼミの活動モデルを学生に届けられるという点で両者にとって意義ある活動であった。今現在活動している自主ゼミへの支援はもちろんのこと、大学に入学して今後自主ゼミ活動をするであろう学生に向けて、意味ある情報を届けていくことも今後の自主ゼミ支援の柱としていきたい。

② 利用状況

<表 23. 2014 年度登録自主ゼミ>

ゼミ名	母体	内容	主要学年	人数※	継続/新規	支援時期
青星塾	理学部生物学科	勉強会(生物)	1～2年	14	継続	前期・後期
金ゼミ	工学部(材料系)	勉強会(材料系)	1～3年	18	継続	前期・後期
FTE	主に、工・理	ロケット製作	2～3年	58	継続	前期・後期
電ゼミ	工学部(電子工学系)	勉強会(電子工学系)	1～3年	7	継続	前期・後期
Think	主に、工・教・理	議論	2年	12	新規	前期のみ
SCG	文学部+経済学部	議論	4年	4	新規	前期のみ

※「人数」は名簿登録人数であり、実際の活動人数は異なる場合もある。

(5) 授業連携型学習支援

本年度の活動授業は、前期 4 授業・後期 4 授業であった。以下、各授業における SLA の活動について概説する。今後の授業連携型学習支援の課題は、これらの連携実践のノウハウを、他の授業実践の参考にしてもらえようように分析・整理することである。

① 前期活動分

＜表 24. 2014 年度前期連携授業＞

	科目	授業名	教員 (所属)	継続/ 新規	活動 範囲	SLA	その他
a	基礎ゼミ	西洋近代史への誘い	関内隆 (高)	継続 (3年)	内・外	博士3年生、1名 (継続)	TA1名 あり
b	基幹科目	言語表現の世界／社会科学レ ポート作成法—『知的生産』の 基礎技術	沼崎一郎 (文)	継続 (2年)	外	学部2年生、3名 (昨年度受講生)	
c	展開科目	基礎フランス語 I / フランス語 の文法と会話(1)	森田直子 (情)	新規	内	修士2年生、1名	プレ実 践あり
d	基礎ゼミ	教育と社会のデータサイエンス	三輪哲 (教)	新規	内	学部4年生、2名 (研究室所属学生)	

※「活動範囲」における「内・外」は、受講生を対象とした授業内活動、授業外活動の有無を示す。
ここでいう活動には“準備活動”は含まない。

a) 基礎ゼミ「西洋近代史への誘い」(関内隆先生)

本授業との連携は今回で3回目であり、担当 SLA も同一学生という事例である。授業の節目において、授業担当教員、SLA、センタースタッフの三者で情報共有・意見交換しながら活動を展開している。継続した活動のため、授業の意図や流れなどが三者で共有されており、それらに基づいて今期の授業における新たな活動を模索している点が特徴である。今回の授業では、SLA は主に①授業内における討論会の企画運営、②授業外における受講生のコンサルティングなどを行い、授業内外において受講生の学びの促進に尽力した。本授業における活動は、センタースタッフも SLA の活動を検討することを通じて授業の在り方を共に模索する立場にあり、他実践と比較すると授業への関わり度合いが大きい。

b) 基幹科目「言語表現の世界／社会科学レポート作成法—『知的生産』の基礎技術」(沼崎一郎先生)

昨年度に引き続き2回目の連携となる。同授業を昨年度受講した学部2年生3名が SLA となり、受講生のレポート作成を課外で支援する活動を行っている。本活動の特徴は、SLA が授業には参加せず完全課外で活動している点である。これは、活動する SLA が同授業の元受講生であること、カリキュラムが綿密に組み込まれている授業であること、クラウド環境を活用した授業であることなどの要因によって成立している。またこれらの条件により、2年生が SLA として活動することが可能となっていることも特筆すべき点である。完全課外で活動する上で、受講生からの質問を受ける窓口をセンター内に設置しており、SLA への日常的指導を主にセンタースタッフが担っている点も、特徴である。

c) 共通科目「基礎フランス語 I / フランス語の文法と会話(1)」(森田直子先生)

授業連携型の活動の中で、初の語学系授業の事例であった。SLA が留学生(モロッコ出身、仏語上級者、日本語初心者)であることに本授業の特徴がある。SLA の具体的な活動は、①授業内でフランス文化の話題提供を行うこと、②受講生の対話の相手となることであった。語学の授業としては、「年の近い」「留学生」が関わることで、「生きた言語の習得」を目指す授業創りに SLA の存在が貢献したようであ

る。運営的側面では、SLA が日本語での会話が不十分であったこともあり、教員に多くの協力を得ながらの活動となり、センタースタッフの関わりは事務的バックアップが中心であった。しかし、教員とのコミュニケーションが比較的スムーズに行えたこともあり、全授業終了後に教員も含め、三者で意見交換をする場を設けられたことが特徴的であった。ここで得られた貴重な意見（事務手続き上の課題も含めて）を授業 SLA の在り方改善に反映していきたい。

d) 基礎ゼミ「教育と社会のデータサイエンス」（三輪哲先生）

大学院に進学予定の研究室の4年生2名を SLA として活用した事例である。授業担当教員が授業連携の意義を受講生への影響だけでなく、SLA となる学生の成長も意図していた点が特徴的であった。実際に、SLA は授業の計画・実施に携わることで、教育的な関わり方の難しさを実感していたようである。本事例では、センターと SLA および教員の関わる機会が SLA による月末の活動報告のみだったため、双方の資源が上手く活用できなかった側面がある。教員や SLA 学生に負担にならない程度の関係構築の在り方を検討していきたい。

② 後期活動分

<表 25. 2014 年度後期連携授業>

	科目	授業名	教員(所属)	継続/新規	活動範囲	SLA	その他
e	展開科目	「レポート力」アップのための情報探索入門	附属図書館	新規	内・外	博士1年生、1名	TA3名あり
f	展開科目	【展開ゼミ】西洋近代史への誘い	関内隆(高)	継続	内・外	博士3年生、1名	TA1名あり
g	展開科目	基礎フランス語Ⅱ	森田直子(情)	継続	内	修士2年生、1名	—
h	共通科目	スポーツB 留学生と学ぶ初心者空手	[管]藤本敏彦(高)	新規	内	学部4年生、1名	—

※「活動範囲」における「内・外」は、受講生を対象とした授業内活動、授業外活動の有無を示す。ここでいう活動には“準備活動”は含まない。

e) 「レポート力」アップのための情報探索入門（附属図書館）

ライティング支援における附属図書館との連携の在り方を検討する文脈と相まって試行的に実践した取り組みである。SLA の他に TA3 名を擁しており、授業内でのサポートの他、授業外でサポートデスクを設置し、質問を受けつける形の活動を行った点が特徴である。SLA のライティング窓口情報を共有するなど、互いのデスクを斡旋できる体制作りを試みたが、あまり利用者は得られなかった。ただし、これらの活動を通じて、ライティング支援に関する情報交換を進められた点が有意義であった。

f) 展開ゼミ「西洋近代史への誘い」（関内隆先生）

前期の基礎ゼミの流れを汲む授業であり、担当する SLA も継続しての活動となった。東北大学全体として「展開ゼミ」は初めての試みであり、受講生数などの規模感が掴めない中での活動となった。当初予定していたものよりも小規模の授業となったため、活動形態自体をセンタースタッフ含め検討する形となった。SLA 自身は、“基礎ゼミからの発展”をいかに実現するかを課題に据えて活動を行っており、グループワーク等も新たな試みを取り入れるなど、小規模を活かした活動を展開することができた。

g) 基礎フランス語Ⅱ（森田直子先生）

教員・SLA の組み合わせは前期に引き続いての活動であったが、授業内容の変化や SLA の活動可能時間数の変化に伴い、活動は異なるものとなった。具体的には、前期は SLA 自身がプレゼンテーションを作成する機会が多かったのに対し、後期はカードゲームや対話劇を活用した学習の中で、対話劇の台本作成や相互評価への参加等に SLA の役割が求められる形となった。教員自身が当該 SLA に対し、「ほぼネイティブ話者であり、かつてはフランス語学習者でもあった」ことや「学生に近い立場」である点に意義を見出しており、「SLA の特性を生かした授業および SLA の活動を構想」しており、効果的な活動が展開できたと考えられる。受講生に対して行ったアンケートの回答においても、「発音が身につきやすかったと思う。先生との距離を感じず、授業に楽しくのぞむことができた」等の声が聞かれ、受講生と教員の間に立つ、第三者的役割を担っていたことを窺うことができた。

h) 「スポーツB 留学生と学ぶ初心者空手」（管理者：藤本敏彦先生、担当教員：佐藤道雄先生）

本授業としては新規であるが、藤本先生を通じて、スポーツの授業において SLA を活用する実践は 2 度目となった。スポーツー特に空手の授業においては、教員の他にもう 1 名の経験者（の学生）がいることで、「型」を見せることができることに意義が大きいようであった。また、SLA 自身は、空手初心者の多いクラスの中で、「個別指導」の方法を工夫したり、「安全管理に配慮」するなどの意識で活動を展開していた。受講生からも、「受講生が多いため先生が全員に細かく指導できない中で、細かく一人一人を見て頂いて、分からない点を解消できた。空手の細かい事まで聞くことができた。非常に親身に教えて下さり、親しみやすく、学生目線でお話して下さい、色々とためになったことも多かった」等の声をもらうことができている。加えて、本クラスは留学生の受講者が多いクラスでもあり、「言語の側面でのフォロー」も SLA の役割として重要なものであった。

③ 授業 SLA による活動報告書（アンケート）

ここに掲載する報告書は、次のような指示の下、活動した SLA に対し提出を求めているものである。ヒアリングシートとなっているのは、レポートの提出方法自体を検討している過渡期にあり、直接ヒアリングをさせてもらうケースが先行していたためである。これらヒアリング項目を踏襲する形で、授業 SLA には活動終了後に活動報告書を A4 用紙 1 枚で作成してもらった。以下、名前を省略し、レポートを掲載する。なお、編集の都合上、提出時のタイトルを変更し、統一した表現とした。

＜授業 SLA への活動後ヒアリングシート＞	
1. 先生との関係性について	
プラス	・うまくいった点
マイナス	・困った点、不満だった点
貢献	・先生の授業にどのような点で貢献できたと思うか
授業意図	・先生の授業の意図が理解できたか or 理解しようとしたか
先生の視点	・先生から見て SLA の存在はどうだったと思うか
2. 受講生に対して	
貢献	・受講生の学びにおいてどのような点で貢献できたと思うか
SLA 存在	・自分自身は学生にとってどのような存在であったと思うか
対応+	・学生への対応で心がけたことはあるか
対応-	・学生への対応で困ったことはあるか
3. 自分自身について	
努力	・SLA の活動のために努力した点
反省	・SLA の活動における自己反省点
得たもの	・SLA の活動を通して、何か得られたものはあったか
犠牲	・SLA の活動のために、あなた自身の生活で犠牲にしたものがあるか
4. SLA サポート室について	
サポート室	・SLA サポート室の対応や活動全般に関してよかった点・不便に感じた点は
5. 総合	
動機	・SLA として活動するにいたった動機は何か。
目標	・SLA として活動する際、何を目標として活動しようとした・していたか。
評価	・SLA の活動はうまくいったと思うか
+	→うまくいった場合…その要因は
-	→うまくいかなかった場合…その原因は
他 SLA	・自分以外の SLA の活動に対して、気になった点があったか。あれば具体的に。
今後提案	・今後の SLA はどのようにあるべきか、何か提案があればお願いします。
<p>・上記 1～4 の視点には必ず触れるようにし（すべての小項目を網羅する必要はありません）、A4 用紙 1 枚程度（増えても構いません）でレポートをお願いします。</p> <p>・書いて頂いた内容は、今後の活動の改善に活かしていきます。些細なことでも結構ですので、ぜひ率直な意見をお聞かせください。</p> <p>・対外的な使用方法としては、(学内外問わず) SLA 全体の活動報告・発表をする際に使用する可能性がある他、担当教員にも活動全体の振り返りと併せて報告をする予定です。両方の用途において、「この部分は公開しないでほしい」という部分や、「名前は非公開にしてほしい」などのご要望があれば、提出時にその旨を合わせて併記してください！特に記載がなければ、使用方法はご一任頂いたとみなさせていただきます（基本的には、[学部・学年情報]を使用することが多いと思われます）。</p> <p>・〆切 月 日</p> <p>・送付先 sla-support@bureau.tohoku.ac.jp あるいは 直接持参をお願いします。</p>	

■授業 SLA 活動レポート（活動授業 b、文学部 2 年）

1. 先生との関係性

(1) プラス面

昨年の自身の経験を基に、先生のサポートを行えた。具体的には、レポートの形式上の不備の指摘やグラフ・表の作成方法の指南。先生は内容や今後の方向性の指摘が主で、SLA は細かい形式といった事務的な部分の指摘という役割分担が出来た。

(2) 授業意図

授業の進行は昨年と大筋では変わらなかったため、主要な意図は汲み取れた。一方で、細かい部分での変更点についてその意図や目的を理解することがやや困難であった。特に、レポートで取り上げる問題について yes or no で答えられる解を挙げという指示には少し戸惑った。

2. 受講生について

(1) 貢献

SLA の窓口で特に感じたことがあった。それは受講生の授業一般に対する不安や心配といった無知からくる負の感情である。社レポという一授業についての窓口ではあったがその相談の裏に、講義履修、レポート、単位取得や試験といった漠然とした大学の形式に対する不安や適応に対する苦しみといったような感情や姿勢を感じた。この不安に対して一個上先輩として社レポの話題に関わらず、相談に乗ることで多少の不安解消に貢献出来たことと思う。

社レポについては、「常連」ユーザーの手助けや助言についてはこちらも、彼・彼女のレポートの内容及び方向性を諒解しているためより踏み込んだ具体的なサポートが出来たと思われる。その一方で単発であったり、期間を開けて相談にやって来たりするユーザーに対してはその内容把握に時間がかかるため貢献度は低かったと思われる。この点から、情報の共有の重要性を感じた。

3. 自分自身について

(1) 反省

反省点としては、ユーザーの限られた時間の中で最大限の貢献を果たせない場面が多々あったことである。特に、菅野さんの「在日朝鮮人の被事件数」に関する量的データを見つけられなかったことである。私が考えるすべての方法を駆使しても目的のデータを見つけられなかった。力不足で彼女には申し訳なかった。

4. サポートセンターについて

(1) 朝礼で一週間の動態について知ることが出来たのは、状況把握に関して大変有益だったと感じる。SLA としての勤務は初めてであったが、適切なアドバイスをして下さったおかげで、なんとかやり遂げることが出来た。サポートセンターなしに SLA は成り立たないだろう。

■授業 SLA 活動レポート（活動授業 b、経済学部 2 年）

1. 先生との関係性について

自分自身が社レポの受講生だったときとほぼ授業の進め方が同じだったため、困ったことなどは起こらなかった。

先生もお忙しいので、毎日コメントすることが難しい様子だった。すると、コメントが付くまで課

題を進めない受講生や、期限前かけこみで課題を進める受講生が出てきてしまう。そのため、できるだけコメントがついていない文章ができてしまわないように、書き込みを行った。

また、先生のコメントの趣旨をよく理解できていないと思われる受講生には、先生のコメントをもう少しかみ砕いた形にして書き込みをし、課題に取り組みやすくなるよう心がけた。

2. 受講生に対して

受講生は、過去の先輩のレポートを見ることなくレポート作成のための課題に取り組むため、どういった文章を書くことが求められているのか、最初はわかりにくいことがある。そのため、SLAが自身の経験を活かして「もっと具体的に書くといい」「事実と意見の区別をしてみよう」と、アドバイスをしたことが受講生にとっては一番役立っていたのではないかと思う。

困ったこととしては、携帯電話の設定について質問されたことが挙げられる。ドライブの使い方については質問がくるだろうと予想していたが、携帯電話の設定のことは予想していなかった。特に、私の携帯電話と機種が違ったために使い方が少し異なっていて、対応に時間がかかった。

3. 自分自身について

私は、窓口対応が少なかったため、主にドライブ上でアドバイスをしていた。初めは主に分の書き方・どういった内容を書くか、などをアドバイスするので、一人ひとりの文章を読んで、毎回ほぼ全員にコメントをする事ができていた。しかし、後半になると、受講生が書く文章の内容もより深く・具体的なものになったため、私の知識が追いつかなくなっていった。そのため、私も受講生のテーマについて調べてからコメントするようになった。この結果、自分の知識を増やすことが出来たが、一人ひとりの文章へのコメントに時間がかかってしまい、毎回全員にコメントすることができなくなっていった。

4. SLA サポート室について

私は週1日1時間しか勤務をしていなかったため、最初はSLAの勤務になじむことが出来なかったが、サポート室の方は気さくに話しかけてくださったので、だんだん勤務が楽しくなっていった。また、SLAのコーナーでは名前でお互いを呼び合うことが多かったので、勤務回数が少なくても、他のSLAの方の顔と名前を覚えることが出来たと思う。

5. 総合

社レポのSLAは、手探りでレポートを作る受講生のために自分の経験を活かしてアドバイスを行うものだと思っていた。特に、序盤はどの受講生も疑問に思う点や、なかなか先生からOKを頂けない原因が同じであるため、私自身の経験も含めてコメントなどが出来たと思う。

しかし、レポート作りが終盤になると、受講生のテーマも様々になり、自分の経験だけではコメントが難しくなっていった。20人弱の受講生が各々テーマを設定しているので、全員の研究内容を完璧に理解することは大変だと思うが、SLA自身も受講生のテーマについて自身で調べていくと、よりよいアドバイスができるのではないかと感じた。

■授業 SLA 活動レポート（活動授業 b、農学部 2 年）

1.先生との関係性について

Google+上でのみやり取りが行われた。先生と共同で1人の生徒を見てる感覚で行えた。しかし、やはり顔を合わせる機会が無いので、先生との距離は昨年度より遠く感じた。先生の社レポの方針は昨年度と変化は無いとみられ、よく理解できていたと思う。Google+で私が生徒にコメントしたとき、先生が「その通り！」と追加コメントしてくれたことがあり、SLAとして貢献できていたと思う。

2.受講生に対して

受講生に対しては、レポートを書く上でのアドバイスはGoogle+上が多かった。他にも社レポはメンタル面、時間の使い方などのアドバイスも必要で、対応中にそういうこともアドバイスできたのは受講生にとって安心感を与えられたと思う。自分自身が心配性で、昨年は相当不安を抱きながらやっていたので、受講生のメンタルも気にかけてながら対応することを心がけていた。対応として困ったことは特に無い。

3.自分自身について

努力したこととしては、上述したように、受講生の時間の使い方、不安や焦りは無いかを気にかけてながら対応した。反省点としては、Google+上でのアドバイスを全員に、マメにすることはできなかった。他のSLAの先輩方を見て、一緒に考えて教えてあげるという姿勢を学ばされた。

4.SLA サポート室について

利用者としては昨年からかなりSLAと近かったが、スタッフ側に回ると、こんなにもSLAが生徒のことを考えて運営されていたことに正直ものすごく驚いた。また、学部生で1番年下の自分でも温かく接してくれる先輩方ばかりで、ホーム感が楽しかった。

できればもっと院生の研究室での生活など、自分から積極的に質問してみれば良かった。

■授業 SLA 活動レポート（活動授業 d、教育学部 4 年）

1. 先生との関係性について

授業担当は所属するゼミの指導教員であったので、関係性は良好であった。特に不満な点はなかったが、授業方針や企画案に関して、積極的に提言したりアドバイスを貰ったりできた。SLAが独自にテーマをひとつ設定し、細かな授業案は全て任せられたので、その点で貢献できたと思う。他には授業前の準備や課題の作成・採点などのサポート。

授業意図は事前に何度も話し合っただけで、じゅうぶん理解して授業に臨めたと思う。担当教員からは、「自分のみでは負担の大きい授業（SLAがいたからこそ組めた授業計画）だった」という言葉をいただいております、授業SLAの存在意義は一定程度あったと思われる。

2. 受講生に対して

自分の担当回では、データに基づく議論の例示・実践をさせ、大きなテーマの学びに貢献できたと思われる。ほか、PCを用いた実践の回で個々人のサポートを行った。

学生の中には、基礎ゼミの希望順位が低い人も少なからずいた。初回の自己紹介やアイスブレイキングで各受講生の特性をある程度把握し、それぞれに合わせた接し方や助言を工夫できたと思われる。

ただ全体的に、当初の予定より関わり合いの場が少なくなってしまう、議論やフィードバックがいま一つになってしまった感がある。また、途中でだれた雰囲気になったときスムーズに引き戻せなかったタイミングがあった。

3. 自分自身について

自分のテーマについては丸ごと授業案を任されたので、いくつも文献を参照し、受講生から提出されたデータと自分のデータをまとめてプレゼンの準備を行った。映像鑑賞をきっかけにする授業だったので、適切な映像教材探しにも時間をかけた。反省としては、映像鑑賞直後の意見引き出しが上手くできなかったこと、議論において意見（賛成と反対）のバランスが少し偏っていたこと、など。

活動を通して、意見ややる気の異なる学生の興味のひき方・まとめ方を学べたと考える。修士課程以上に進学することを目指している身として、初めての教育経験として良い機会となった。ただ負担は小さくなく、睡眠不足やプレッシャーには SLA 二人で悩まされた。長期休業中も準備を行ったというのもあって、授業 SLA は一定程度のストレスサーになった、というのが本音である…

4. SLA サポート室について

毎月のヒアリングで進行状況を聴いてもらったことで、客観的に状況を整理することができた。また、学生とのかかわり方に関して悩んでいることについて、何度もアドバイスをいただいた。今回の授業に役立ったのみならず、今後にも役立てていけそうである。

あまり頻繁に訪問することがなかったが、全体的にオープンな雰囲気、スタッフさんたちの対応や SLA との距離感も心地よかった。もう少し関わる機会が多くても良かったかな、と、反省している次第である。

5. 総合

SLA としての活動に至った動機だが、もともとは指導教員からお願いされたのがきっかけである。不安もあったが活動を決めた要因としては、後輩に「データサイエンス」の面白さ・重要性を伝えたいという思い、自分の将来を見据えて教育経験を積んでみたいという思いなど。また、受講生の教育はもちろん、SLA 学生の成長も目論んでいるという指導教員の裏目標も背中を押した。これら思いをそのまま大きな目標とし、各回で具体的な小目標（これまで消極的だった学生の意見を引き出す・無意見のコメントペーパーをゼロにする…など）を立てて取り組んだ。

担当教員・授業 SLA とともに初めての試みであったこともあり、我々の中で細かい反省点はいくつも挙がったし、サポート室の皆様としては歯がゆい思いをされたこともあったと推測する。我々の未熟さゆえご心配・ご迷惑をおかけしたこと、この場を借りてお詫びしたい。ただ、皆様の支援のおかげで我々も、恐らく受講生も、良い学びの機会をいただいた。今後の授業 SLA の活動発展のため、これが一つのサンプルケースとして寄与していけば幸いである。

■授業 SLA 活動レポート（活動授業 d、教育学部 4 年）

1. 先生との関係性について

先生とは密な話し合いができ、授業のやり方の修正など柔軟にできた点が良かった。授業で困ったことがあったり、準備に戸惑っていることがあったりしたときにすぐ先生に相談することがで

き、アドバイスを貰うことができた。先生が初めての基礎ゼミということで授業の組み立てが一からだったので、どのように授業を組み立てれば良いか分からなかった。最初はテーマもやり方も自由にして良いという丸投げ感があり困惑したが、先生が一回分担当する形でモデルを示してくださったので、その後の準備の見通しはつきやすかった。

2. 受講生に対して

今回の基礎ゼミの目的として、議論をするときにデータを提示することで意見に説得力を持たせるということがあったが、それを示すことができたと思う。しかし、今回は、学生と一緒に学ぶというよりも少し講義形式に近かった気がする。

学生への対応に関しては、どの学生に対しても公平かつ丁寧に対応するように心がけた。困った点としては、学生からのメール形式がバラバラで、まとめるのに時間がかかったこと、あまり積極的に授業に参加してこない学生に対してどの程度まで参加を促すかわからなかったことなどが挙げられる。

3. 自分自身について

授業準備としてどのようなテーマを扱うのか、是非を問う様な二項対立の議論形式への持っていきた、映像を探ることなど春休み期間から準備をしていた。特に映像を探すのに苦労した。早めの準備を心がけるようにしたい。

また学生に向かって何かを話したり指示を出すという経験が初めてだったので、最初はどのように接すれば良いか分からなかったが、先生の見よう見まねで乗り切ることができた。自分のなかでは当たり前のことを何も知らない学生相手に伝え、理解してもらうことの困難さを知ることができる、貴重な経験ができたと思う。

4. SLA サポート室について

授業開始前のオリエンテーションを個別にして頂いたのは助かった。メールでの対応を丁寧で良かったと思う。

■授業 SLA 活動レポート（活動授業 e、文学研究科 D1）

今回、授業 SLA として活動させて頂いて、とてもよかったと思いながら、感謝の気持ちを伝えたいです。アシスタントとして受講生をサポートしながら、自分もこの活動を通じていろいろ勉強になったことがあると思います。

まず、先生との関係性については、とにかく授業がスムーズに進んでいけるように心がけていました。今回、2人の留学生がこの授業を受けていましたが、まだ日本語がそこまでできていなくて、時々授業の内容を理解できなかったこともあったし、或いは先生の指示がわからなかったこともありました。そこで、もう一度授業内容などを説明したり、先生の指示を伝えたり、特にその中の一人は同じく中国人なので、中国語でもわかるようにやりました。また、例えば、グループディスカッションの時に、メンバーたちがあまり話さなくて、ディカッションが盛り上がっていない時は、とりあえず自分から一問を投げたり、あるいはコメントをつけたりして、なるべく学生たちに喋らせるために工夫しました。

また、受講生に対しては、何よりも受講生の皆さんをサポートできるようなことにいろいろ自分なりに取り組んでいました。まずいつも褒める意識を持つようにしていました。やはり褒められると気

持ちがよくなるので、話し合いがうまくいけるのではないかと思います。例えば、「おもしろいこと書いてるね」「いい着眼点だね」「よくその資料見つけたね」など褒めてから、不足な点を指摘します。また、より説得力があるレポートを出来上げるために、受講生の持っている視点の逆方向、或いは違う側面から根拠づけることもあります。

さらに、SLAの活動を通じて、一番感じたことは人に教えることはいかなることかです。自分がわかるだけでなく、もっと大切なのは、自分がわかった上で、相手がわかるようにうまく説明できるかどうか、自分の意思是ちゃんと伝わったかどうかということです。

少し残念なことに、サポートデスクは十分使われていなかった気がします。あまり相談に来る受講生がいなかったのも、そこが今後改善できればと思います。

■授業 SLA 活動レポート（活動授業 g、工学研究科 M2）

1. 先生との関係について

- ・うまくいった点：

A clear definition of the tasks and responsibilities of each one of us and communication

- ・困った点、不満だった点：

I think we had a good work relationship, the only difficulty was filling the SLA document every week twice and exchanging it by email

- ・先生の授業にどのような点で貢献できたと思うか：

I was between the role of the professor and the role of the student, I was like supplementary support to help animate the class and help the students discover more than only the language, a culture, a world, my experience.

- ・先生の授業の意図が理解できたか or 理解しようとしたか：

I understand the professor objectives and opinion because we discuss and communicate a lot.

- ・先生から見て SLA の存在はどうだったと思うか：

I think the SLA help the professor for oral exercises and cultural presentations.

2. 受講生に対して

- ・受講生の学びにおいてどのような点で貢献できたと思うか

I brought them new methods from my experience, like playing dialogue to help them enjoy the language and learn easier.

- ・自分自身は学生にとってどのような存在であったと思うか

The SLA is a student too. The SLA learned the language too. These common points help the students to feel encouraged by the SLA experience and the knowledge the SLA share with them.

- ・学生への対応で心がけたことはあるか

Through time, I improved my attitude. I try to be patient and comprehensive with the students. And I encourage all their efforts and cheer them up.

- ・学生への対応で困ったことはあるか

Sometimes it is hard to know what they think about the cultural presentation and to know if they were enjoying it. The professor's Minute Paper at the end of the lecture helped solve this difficulty.

3. 自分自身について

- ・ SLA の活動のために努力した点

My efforts were to prepare the cultural presentation to follow the professor grammar lessons every time, and to read and prepare the oral exercises and to exchange emails with the professor to fill our tasks.

- ・ SLA の活動における自己反省点

I don't have any regret for being a SLA. My subject of reflexion is next semester programme to keep the students interest and energy.

- ・ SLA の活動を通して、何か得られたものはあったか

I learned to be as a professor and to share my knowledge and passion for French language. It was also a very interesting moment of interaction with Japanese students every week.

- ・ SLA の活動のために、あなた自身の生活で犠牲にしたものがあるか

I just sacrificed a lot of time because the activity takes a lot of time. But I have no regret.

4. SLA サポート室について

- ・ SLA サポート室の対応や活動全般に関してよかった点・不便に感じた点は

The people at SLA office are very nice and supporting. My only regret is that my Japanese is not good enough for me to talk more with them.

5. 総合

- ・ SLA として活動するにいたった動機は何か。

I was an assistant professor in my former university so I wanted to keep this nice activity.

- ・ SLA として活動する際、何を目標として活動しようとした・していたか。

Being an SLA in French is the best cultural share occasion.

- ・ SLA の活動はうまくいったと思うか

→うまくいった場合…その要因は

SLA activity is a success in my opinion because we have a good feedback from the students. They filled Minute Paper at the last lecture with very positive and encouraging opinions.

→うまくいかなかった場合…その原因は

The key of this success is a very good organisation with the professor and constant frank communication.

- ・ 自分以外の SLA の活動に対して、気になった点があったか。あれば具体的に。

There was no other SLA with us.

- ・ 今後の SLA はどのようにあるべきか、何か提案があればお願いします。

Nothing to signal.

■授業 SLA 活動レポート（活動授業 h、経済学部 4 年）

平成 26 年 10 月 1 日から平成 27 年 1 月 22 日にかけて全 15 回行われたスポーツ B 空手道の授業に授業 SLA として 12 回参加した。

この活動に参加を決めた動機は、私が大学の部活動を通して知った空手道の魅力を部活動以外の多くの人に伝えたいと考えたことである。この授業での私の目標は、第一にアシスタントとして受講者により細かく、わかりやすく空手を教えることであり、第二に受講者に近い立場でコミュニケーションをとり、空手は怖いというイメージを取り去って空手をより身近に感じてもらうことであった。

参加するにあたり、担当教官の藤本敏彦先生と、実際に空手の指導を行う佐藤道雄先生と SLA の役割について相談した。藤本先生は受講生との関係や授業の到達目標を強調されたが、そのおかげでそれらを意識して授業に臨むことができた。授業の報告に行く機会は少なかったが、メールで報告した際には的確な助言や新たな視点を提供していただき、より頻繁に連絡をとっておけば SLA としてより良い働きができたと後悔している。佐藤先生とは実際の授業の進め方や指導内容などを確認した。先生が受講生の前で空手を教え、私はわからない人がいるところへ行ってそばで教えるなどして上手く連携をとり、円滑に授業を進めることができた。しかし複雑な動きをする箇所などでは、教えるのに人手が足りないところもあり組手の時間が少なくなったりした。

受講生に対しては、すぐそばで教え、細かい動きも見せることができるという点が大きな貢献だった。授業の前後や休憩時間にはこちらから積極的に話しかけるようにし、話しやすい雰囲気を作ることに努めた。そのうち授業の復習をしたいなど、受講生の方から話しかけてくれるようになった。一方で受講生には留学生が多く、彼らに空手の細かい動きや体の使い方を十分に伝えることができず、英語力が足りなかったと反省している。

SLA サポート室に関しては、月に一度の活動報告が自身の活動を振り返って次月の方針を立てる良い機会となった。また、スタッフの方々とのお話や質疑応答を通して、授業に対する緊張や不安を和らげることができた。

この授業に際しては自身の空手について復習し、わかりやすい説明を用意したはずだったが、留学生に対して英語で空手の動きを説明するのが難しく、十分な理解を促せなかった。しかし、大学で学んだ空手を多くの人に伝えることができたことで大きな達成感を得た。部活動は大学からの支援があるからこそ成り立っている。私自身も空手道部に入部してから大学を卒業するまでの 5 年間で部費の支給や施設の整備など、大きな支援を受けた。それに対して、部としてそういった支援をただ享受するだけで良いのか、などといった大学部活動の意義について考えることが幾度かあった。そのような時に藤本先生より授業 SLA のお話を頂戴し参加したことで、この 5 年間で得た部活動の成果を少ないながらも授業へ還元することができ、部活動から大学への貢献の仕方を見出すことができた。

(6) その他活動

① PDP 教育関係共同利用拠点提供プログラム「アカデミック・ライティングを指導する」セミナーの開催 (2014 年 9 月 1 日 13:00~16:00)

高度教養教育・学生支援機構主催の標記セミナーの企画運営を担当した。当日は、井下千以子氏 (桜美林大学)、島村健司氏 (龍谷大学ライティングセンター) をお招きすると共に、当センター長である関根勉も講演者の一人として登壇した。講演内容は、井下氏にアカデミック・ライティングの指導に関する理論的枠組みを提供していただき、島村氏には、ライティングセンターにおけるレポート・論文指導の取組みの実際についてご報告いただいた。関根は、東北大学における自然科学総合実験の責任者として、当授業におけるレポート指導の取組みについて報告をした。島村氏は主に文系レポート、関根は理系レポートの実践報告という位置づけである。参加申込者数は 46 名であり、当日のパネルディスカッションでは、高大連携の視点からの質問などが出された。

➡井下氏の講演は大学教育支援センターPDPonlineにて視聴可能

② センター教員による基礎ゼミ授業実践

関内隆先生とセンタースタッフである足立・鈴木の連名で基礎ゼミ「『自分』×『学問』—《はじめの一步》サポートゼミ—」を開講した。その中で SLA 学生 3 名と SLA の卒業生 2 名に「自分」×「学問」をメインテーマとした話題提供をしてもらった。これは、昨年度まで SLA 発信型学習支援の一環として実施していた『雑学ゼミ』のコンセプトを引き継ぐものである。初年次段階の学生にとって、先輩学生の経験や知見 (実際の研究内容や学問観、自分史など) に触れ、自身の大学における学問との関わり方を考えることは、「学びの転換」を促進する上で効果的であると考えられる。

③ 『ともそだち本 2015』作成

2014 年度後期セメスター中、次年度 4 月に学部 1・2 年生に配布する学習支援冊子兼学習支援センター利用案内の作成に着手した。本年度の冊子は、「学習支援センター」としてのスタートしたことにも伴い、SLA サポートの利用方法の紹介に重点を置いたことが特徴である。そのため、学習支援の実際が学生に伝わるよう工夫を施した。SLA が作成を担当する部会ページにおいても、これまで各部会ごとのコンセプトに基づきページを作成していたのに対し、今年度は、全部会で枠組みを揃えて作成を行った。枠組みとして設定したのは、①利用状況の紹介、②対応の様子の紹介、③勉強のアドバイス、④フリーコラムの 4 点である。これらの枠組みを設定することで、「学習支援センターの案内」であり「学習支援そのもの」でもあるという本冊子のコンセプトを、部会ページにおいても体現することができた。

④ 学習イベント「わんトピ」開催

前年度に実施した「てつがくカフェ」を改め「1 トピックダイアログ~90 分の考える対話~」(通称:「わんトピ」)と題したイベントを開催した。しかし、広報期間の短さも相まって、SLA に所属している学生以外の集客を得ることはできなかった。

⑤ オープンキャンパスにおける活動

学習支援センターでは、今期より正式にオープンキャンパスにおいてイベントを企画した。内容はスタッフによる学習支援センター概要の説明、SLA 学生との談話で、2 日間で 98 人の利用があった。高校生だけでなく保護者や高校教員の利用もあり、大学での学習から仙台での生活事情に至るまで、幅広い

質問に対応した。今回は初めてのオープンキャンパス企画ということもあり、高校生や保護者のニーズを把握することが重要であった。本学のオープンキャンパスは各学部の企画に比して、全学教育の情報を得られる企画は多くないことから、今後学習支援センターでは全学教育や1・2年生の学習に関するイベントを企画できればと考えている。

⑥ 萩友会プレミアム懇談会（自由見学）窓口開設

6月7日に開催された萩友会プレミアム懇談会にて、学習支援センターの活動紹介を行った。1回30分の説明を5セット行い、合計113人の利用があった。主に保護者への説明ということもあり、学習支援体制の紹介だけでなく、現在の大学における学習の特徴や、学習支援を利用する東北大生の傾向・実態もあわせて説明した。大学のアカウンタビリティの一環として、今後も学内においてこのような機会がある場合は、積極的に協力していきたい。

3. 利用学生の声

センターでは、理系科目、英会話、ライティングの窓口において、利用学生に対し利用ごとにアンケートを配布している。質問項目は、図 14 を参照。

2014 年度の利用学生による総合評価は平均 94.8 点であった。(無配布・無回答もあるためサンプル数は 1086 件、うち有効回答数 977 件。なお、100 点以上の点数をつけたものは 100 点として修正し換算)。また、「問題は解決しましたか？」と「対応に満足できましたか？」の質問には、表 7 の通り、ほぼ全ての対応で、「解決」「満足」との回答を得ることができている。

任意協力をお願いしている記述式アンケートの結果(一部)は、表 26 の通りである。例年と同様の傾向であるが、①丁寧である、②わかりやすかった、③自分のペースに合わせてくれるなどの声が多く聞かれる。その中でも興味深いのは、「考えさせてくれた」という点に利用学生自身が満足を覚えている点である。「問題の解決には至らなかった」にも関わらず、評価が 100 点である例も見られることから、センター(SLA)が提供する「支援」の内容が、ただ単に問題解決を形式的に援助するためのものではなく、利用学生自身の学習モニタリング(メタ認知)能力を高めるサポートであったり、他者と共に議論・検討する機会の提供まで含みこんだものになり得ていることが、利用学生の様子から窺い知ることができる。

＜図 14. 2014 年度版「利用学生の声」アンケート用紙＞

＜表 26. 「利用学生の声」における評価結果【2014】＞

	Q 問題は解決しましたか？			Q 対応に満足できましたか？		
	した	どちらでもない	しなかった	できた	どちらでもない	できなかった
前期	482	22	3	519	3	0
後期	441	23	7	493	10	2
合計	923	45	10	1012	13	2

<表 27. 2014 年度「利用学生の声」全文>

月日	利用	解決	満足	点数	コメント
4 月					
14 日	理系	した	できた	100	分からない所をとことん考えることができたので良かった。ありがとうございました。(ダ・ヴィンチ)
14 日	理系	した	できた	100	問題の内容から、解き方の糸口などを単に教わるだけでなく、考えながら理解していくことができたので有意義だった。(ナナシ)
14 日	英会話	した	できた	80	初英会話で、たくさん迷惑かけてしまいましたが、自分の今の実力に合わせて会話できて、とても楽しめました。次はもっと上手に、相手のことも考えて会話できるようになりたいと思いました。
14 日	英会話	した	できた	90	自分の英語力のなさを痛感できた。次回までに準備すべき課題が分かったのでよかった。(ふじもと)
14 日	その他	した	できた	100	レポートの書き方がよくわかりました！！これからがんばります！！ありがとうございました。
14 日	その他	した	できた	100	丁寧に説明して頂いて、ありがとうございました。社レポを受けるのに不安で一杯だったのですが、今日のアドバイスをもらって、やってみようと思えました。また来ると思うのでそのときもよろしく願います。
15 日	理系	した	できた	100	・スッキリしました ・ていねいにゆっくり教えていただいたので、すごくわかりやすかったです。また来ます。かなり助かりました。(きちなか)
15 日	理系	した	できた	100	ていねいに教えていただいたので不安が解消しました。次回も利用したいです。【掲示不可】
15 日	理系	した	できた	90	深く分かった！！
15 日	英会話	どちらでもない	できた	90	自分は全く英語がしゃべったことがなかったので、全然しゃべれないと思っていましたが、話してみると意外と話すことができました。英会話は伝えたい気持ちが大変だと思いました。(ネギ)
15 日	英会話	どちらでもない	できた		言葉が出ない (Nashy)
15 日	英会話		できた	90	楽しかったです。また来ます。(Yusaku)
15 日	英会話	した	できた	80	自分が思っているよりも言葉が出てきませんでした！これからはもっと頑張っていきたいです。丁寧に指導ありがとうございました！また利用しようと思います。(Saya)
16 日	理系			90	答えは得られませんでした。有用と思われる本を紹介してくれました。(Fuuga)
16 日	理系	した	できた	90	ε-N 論法を丁寧に教えてもらえたので良かったです。やる気が出てきました。(Fuuga)
16 日	理系	した	できた	200	なかなか収集できない情報を聞くことができて、非常に役立ちました！(SZM)
16 日	理系	した	できた	90	
16 日		した	できた	95	説明が理解できなかった時は言い方を換えたり、例を出したりして理解できるよう工夫してもらえたので良かったです。
16 日	その他	した	できた	90	丁寧な対応で、自己紹介のアカウント作成のしかたを学習できた。また行きたいと思いました。(なお)
16 日	その他	した	できた	100	また利用させて下さい。
17 日	理系			90	解答を吟味してもらえたので助かりました (Fuuga)
17 日	理系	した	できた	90	わかりやすく説明してもらえたのですぐに理解でき助かった。(ケン)
17 日	理系	した	できた	100	問題が解決したので、良かったです。また利用したいと思います。(理物女子)
17 日	理系	した	できた	100	ごめんなさい
17 日	理系	した	できた	100	くだらない質問でも、親身に解説して下さいました。ありがとうございました。(しからを)
17 日	理系	した	できた	100	
17 日		した	できた	90	説明には十分まろぞくでした。あとは自分で考えて計算して実感を持ってわかるようになると思います。
17 日	英会話	した	できた	100	
17 日	英会話	した	できた	100	英会話でどう表現するか分からなくてもワードを拾って分かりやすい表現をしてくれ、表現の仕方の勉強になりました。またフリートークだったので楽しく過ごすことができました。(りょーた)
17 日	英会話	した	できた		日本語で分からない所を質問できるので助かりました。寺岡さんとても優しく話しやすいかったです！また来ます^-^- (まい)
17 日	英会話		できた	80	初めて来たのでとても緊張していたし、不安な気持ちもありましたが、とても楽しく会話することができました。英語の勉強をするモチベーションにもなってとても良いと思いました。また来たいです。
17 日	その他	した	できた	100	パソコンを用いたレポートの作成方法がサッパリだったので必要なものから多くのことを聞いて安心した。(セツカッコ)
17 日	その他	した	できた	100	丁寧に教えてくれて、本当にうれしいです！これからもよろしく願います！(丁小萌)
18 日	理系	した	できた	100	
18 日	理系	した	できた	100	
18 日	理系	した	できた	90	
18 日	理系	した	できた	100	
18 日	理系	した	できた	100	
18 日	理系	した	できた	100	
18 日	理系	した	できた	100	すごく分かりやすかったです。ありがとうございました。(ミドル G)
18 日	理系	した	できた		
18 日	理系	した	できた	100	
21 日	理系	した	できた	100	
21 日	理系	した	できた	100	自分が何を分かっていないことを知ることができ、アドバイスも貰えてよかった。(ナナシ)
21 日	理系	した	できた	100	今まであいまだった点がはっきり分かりました。また質問あったらおねがいします。
21 日	理系	した	できた	100	
21 日	理系	した	できた	90	
21 日	理系	した	できた	90	分かりやすく解説してもらえ、とても助かった。とても感動しました。これからはがんばります。
21 日	理系	した	できた	100	ありがとうございました。
22 日	理系	した	できた	95	分かりにくい疑問に分かりやすい解説をありがとうございました。
22 日	理系	した	できた	90	自分一人じゃあずつとなやんでました。ありがとうございました。
22 日	英会話		できた	80	英会話に参加するまで不安だったが、実際に行ってみると思ったより話しやすくて楽しかった。
22 日	英会話		できた	50	英会話に少し不安があり、やることに抵抗があったのですが、自分から話してみるきっかけになりました。
22 日	英会話	した	できた	80	ずっと英語の勉強が必要だとは思っていたのですが特に何もしていなかったので、何かきっかけになったらいいと思ってきてみた。楽しく英会話できたのでよかった。また来たい。
22 日	その他	した	できた	80	パソコンを買わなければいけない。写真の取り方が分かってよかった。
22 日	その他	した	できた	100	分からなかったところが解決し、さらに解法まで丁寧に教えていただきました。ありがとうございました。
23 日	理系	した	できた	100	数多くの質問に答えてもらえて助かりました。(Fuuga)
23 日	理系	した	できた	90	理解できるまで教えていただけて、時々理解できているか聞いてくれるので、質問しやすく、とても助かりました。

23日	理系	した	できた	100	ていねいでわかりやすかったです。フレンドリーでした。(パッハ)
23日	理系	した	できた	80	やさしく根気よく説明してもらえた！先生方の知識の深さにおどろいた。1年生の内容なのにわからなかったので勉強不足だなと自分で感じた。(MAX)【掲示不可】
23日	理系	した	できた	100	
23日	理系	した	できた	100	一人で分からないまま悩んでいたら絶対解決できなかつたと思うので、利用してよかった。(福田)
23日	理系	した	できた	100	誘導してくれたので、一つ一つ理解して進められたので良かったです！(☆)
23日	理系	した	できた	100	特にないです。
23日	理系	した	できた	96	Taylor 展開について詳しく初歩から教えてもらいました。かなり分かり易く、これで授業がより分かり易くなると思います。
23日	理系	した	できた	90	理解がふかかった。
23日	理系	した	できた	100	とてもいねいでわかりやすかったです。(まさや)
23日	理系	した	できた	100	めっちゃわかりやすかったです。(A 次郎)
23日	理系	した	できた	90	
23日		した	できた	100	ホワイトボードの説明がとてもわかりやすかったです。
23日		した	できた	100	とても分かりやすかったです！
23日	その他	した	できた	100	パソコンと仲よくなりたいです。
24日	理系	した	できた	100	
24日	理系	した	できた	80	
24日	理系	した	できた	70	楽しかったです。(ゆー)
24日	理系	した	できた	90	担当:山下さん>自然科学総合実験で出た疑問点を解決することができました。ありがとうございます。(サバを食う人)
24日	理系	した	できた	90	担当:中村悠馬さん>自然科学総合実験のレポートについて書き方全般の説明から、教科書のよく分からない数式をわかりやすく説明していただきありがとうございます。納得のいくレポートに仕上がるように頑張ります。(サバを食う人)
24日	理系	した	できた	100	最小二乗法がよく分かりました！ありがとうございました。
24日	理系	した	できた	100	質問1つ1つにじっくり答えて下さりかいくすることができました。
24日	理系	した	できた	100	やり方が分かりました。ありがとうございました。(ミドルG)
24日	理系	した	できた	100	丁寧に教えていただいたので、良かったです。長時間にわたる説明でしたが、理解するまで付き合ってくれたので助かりました。
24日	理系	した	できた	100	基礎からしっかり教えていただき、本当にありがとうございました。物理がわからなさすぎて申し訳なかったです。
24日	理系	した	できた	100	空いていたのもあるのか、3人がかりで丁寧に教えてもらい、理解できました！！ありがとうございました☺(M)
24日	理系	どちらでもない	できた	95	まじめにかんがえてもらって良かったです。
24日	英会話	した	できた		英会話に自信がないので不安でしたが、気負わずにできて良かったです。
24日	英会話	した	できた	100	二限から始めてほしい。あと水曜日に開講してほしい。
24日	その他	した	できた	80	分からないところと一緒に考えてくれたのでとてもよかったですと思う。(S)
25日	理系	した	できた	100	すごくアホな質問にもとことん答えていただけで非常にうれしかったです。対応もやさしくて、勉強のことだけでなく、雑談も楽しめていただけました。ありがとうございました。(それゆけー)
25日	理系	した	できた	85	丁寧に教えていただけありがたかったです。
25日	理系	した	できた	100	勉強をする意欲が湧きました。
25日	理系	した	できた	100	説明がわかりやすかったと思いました。
25日	その他	した	できた	100	すごく丁寧に教えていただいて、本当にありがとうございました！またよろしくお願ひします。(ちー)
28日	理系	した	できた	100	1対1で教えてくださったので、自分のペースで理解を進めることができました。(チェックシャツ)
28日	理系	した	できた	90	SLA を初めて利用しました！自分が疑問に思っていたことだけでなく、簡単な解き方も教えていただけとても助かりました。皆さんも利用することをオススメします！(だむ)
28日	理系	した	できた	100	(ナナン)
28日	理系	した	できた	100	物理のもんだいでわからないところがわかってすっきりした！((・▽・))
28日	理系	した	できた	100	大学の授業は難しいのに質問できる相手がないと思ってたけど、お兄さんたちが丁寧に答えてくれたので安心しました。ありがとうございました。【掲示不可】
28日	英会話	した		100	とても楽しかったです！文法とか色々考えずに、まず話してみるのが大切なんだなと思いました。(冬木)【掲示不可】
28日	英会話		できた		とても楽しかった。落ち着いて話せるようにならなければならない。(Haruki)
28日	その他	した	できた	100	SLA にきていまいち分かっていなかったところが理解できました。もし理解できないところがあったら、ぜひ一度 SLA に足をはこんでみたらどうでしょうか。
28日	その他	した	できた	100	とてもわかりやすかったです！解決しました！ありがとうございました。
28日	その他		できた	50	とにかく頑張ろう。先は長いけど社レポでレポート作成法身につけます。
30日	理系	した	できた	75	関数ソフトありがとうございました！！(P)
30日	理系	した	できた	90	SLA を初めて利用しました！自分が疑問に思っていたことだけでなく、簡単な解き方も教えていただけとても助かりました。皆さんも利用することをオススメします！(だむ)
30日	理系	した	できた	100	便利なサイトなども教えて頂いて、大変満足しました！
30日	理系	した	できた	100	自分の考える視野をもっと広くできたらいいなと思った。
30日	理系	した	できた	100	大変だった
30日	理系	した	できた	100	電磁学における線積分と面積分について、これまでイメージとして明確に捉えることができていなかったものを正確なイメージとして理解することができました。本当にありがとうございました。(Y.S.)
30日	理系	した	できた	100	わかりやすくて、気軽に質問できるのがいい。(さとう)
30日	理系	した	できた	100	初めての利用でしたが、とてもいねいに対応してもらえて良かったです。
30日	理系	した	できた	100	私のペースに合わせてゆっくり説明してくれたので1つ1つ確認(理解?)しながらできたので良かったです！(ばなな)
30日	理系	した	できた	100	ありがとうございました。
30日	理系	した	できた	100	問題の先が見えてよくなりました。(N.S.)
30日	理系	した	できた	100	冷静に対応してくれ、自分で解けるように助けてくれたのでとてもありがたかったです。先輩方の経験もきけたので良かったです。
30日	理系	した	できた	100	丁寧に教えて頂いてありがとうございました！
30日	理系	した	できた	100	サクサク解決していただきありがとうございました。(Y)
30日		した	できた	100	SLA では、質問にとっても丁寧に回答してくれました。皆さん、たくさん質問して下さい。
30日		した	できた		ただの計算ミスでした。すみません。でも、計算ミスでも優しく対応して下さってうれしかったです。

5月					
1日	理系	した	できた	100	すぐ和やかな雰囲気&ていねい&わかりやすく、無機のことを教えていただきました。ありがとうございました！(Max)
1日	理系	した	できた	100	
1日	理系	した	できた	80	
1日	理系	した	できた	100	楽しかった。(まつ)
1日	理系	した	できた	100	非常に分かりやすく、かつスピーディーでした。さらにアドバイスもいただけたのでとてもよかったです。(ハル)
1日	理系	した	できた	100	
1日	理系	した	できた	100	授業で全く分からなかった公式が話を聞いてようやく理解できたので安心した。とても頼りになった。
1日	理系	した	できた	90	いまいち理解できていなかったところを理解できてよかったです。
1日	理系	した	できた	100	問題が解決して良かったです。
1日	理系	した	できた	100	問題がとけました。ありがとうございます。
1日	理系	した	できた	100	ひまんなのでほぼ毎日のように来させていただいていますが、いつも新しい発見と知識をもらっています。ありがとうございます！
1日	英会話		できた		水曜日に開講を。
1日	英会話	した	できた	70	もっと語彙を増やす！（尾形）
2日	理系	した	できた	85	
2日	理系	した	できた	100	長い時間ありがとうございました。また来ます！（みな）【掲示不可】
2日	理系	した	できた	90	とても初歩的な質問だったのですが、丁寧に教えていただけてありがたかったです！
2日	理系	した	できた	100	とても丁寧な解説でよく理解できたとおもに楽しむことができました。(チューリップ)
2日	理系	した	できた	100	とてもよく説明して頂きました。かなりわかりやすかったです。また利用したいと思います。【掲示不可】
7日	理系	した	できた	90	よく分かりました。(マイケル)
7日	理系	した	できた	100	すぐに解決していただきありがとうございました。
7日	理系	した	できた	100	テストにない知識まで教えてもらえて満足です。(314)
7日	理系	した	できた	85	数物前は特別授業とかやってほしいです…。
7日	理系	した	できた	100	担当：吉川さん、佐藤さん>よく分からない問題を一緒に考えてくださり、疑問点を解決することができました。また分からないことが出てきたらよろしくお願いします。(さばを食う人)
7日	理系	した	できた	100	たずかりました。ありがとうございました。
7日	理系	どちらでもない	できた	100	とてもこんがらがった問題だったのですが、SLAの方々が1時間ほど一緒に考えて下さって、解決にはいたりませんでした。が現状打破ができました。ありがとうございました。
7日	理系	どちらでもない	できた	90	出題ミスかもしれない問題に長時間付き合っただき、ありがとうございました！！(かえで)
7日	理系	どちらでもない	できた	90	優しくおして下さりありがとうございました！！長い間一緒に考えて下さりうれしかったです。(みか)
7日	理系	した	できた	100	解決ありがとうございました。とてもわかりやすかったです。
7日	理系	した	できた	100	(N.Y)
8日	理系	した	できた	90	
8日	理系	した	できた	100	
8日	理系	した	できた	100	わからないところをしっかりと理解できました。何についてきかれていますかの説明もわかりやすかったです。(ハル)
8日	理系	した	できた	95	
8日	理系	した	できた	90	
8日	理系	した	できた	100	とても、丁寧に対応してもらえました。ありがとうございました！【掲示不可】
8日	理系	した	できた	100	非常におバかな質問にも1つ1つ丁寧に答えてもらえてとてもうれしかったです。高校の勉強とのつながりも感じて「はっ！」とさせられました！
8日	英会話				水曜日に英会話カフェの開講を
8日	英会話			70	
9日	理系	した	できた		
9日	理系	した	できた	100	線形代数で連立一次方程式で自由度がからむ話を分かりやすく説明してもらいました。情知ではよく使う知識そうですね、理解できて良かったです。(サバを食う人)
9日	理系	した	できた	100	
9日	理系	した	できた	90	じっくり話を聞いてもらって、授業でわからなかったところがほとんど理解できました。ありがとうございました。(ゼン)
9日	理系	した	できた	80	物理の減衰振動の式変形と、実際に特殊解を求めることにより「複素共役」が力であることがわかったが、一般化までは到達できなかったのも、もっと検証したいです。(いっしー)
9日	理系	した	できた	100	ありがとうございました！（りょー）
12日	理系	した	できた	100	優しい先パイでとても分かりやすかったです。ありがとうございました。
12日	理系	した	どちらでもない	30	技術的な会話ができて、非常におもしろかった。(田中)
12日	理系	した	できた	100	
12日	理系	した	できた	100	全くわからなかったのですが、聞いたらよく分かりました。ありがとうございました！
12日	理系	した	できた	100	わかりやすく、丁寧でした。(れみ)【掲示不可】
12日	理系	した	できた	100	とても分かりやすかったです。また分からないことがあったらSLAを利用しようと思いますので、そのときはよろしく願います。
12日	理系	した	できた	100	ずっと悩んでいた問題が解決できました。ありがとうございました！（MK）【掲示不可】
12日	理系	した	できた	95	肝心な考えは考えさせてくれました。また、説明を自分でさせることで、考えのプロセスを確認できました。
12日	理系	した	できた	100	疑問が解決できました。ありがとうございました。
12日	理系	した	できた	90	分かりやすい解説ありがとうございました。今後も利用したい。(田中)
12日	理系	した	できた	100	奥田さんの髪色が好き(ゆーき)
12日	理系	した	できた	95	分かりやすく説明してくれてよかった。
12日	理系	した	できた	100	
12日	英会話		できた	80	とても楽しく英会話できました。まだ2回目ですが前回よりは話せました。また来ます！
12日	英会話			100	知らない言葉をたくさん教えてくれた。ホワイトボードを使って説明してくれたので、わかりやすかった。(ななめがね)
13日	理系	した	できた	100	エンタルピーが大切だということを教えてもらいました！断熱という状態のことについても新しい知識が得られたので良かったです☺(豆乳)
13日	理系	した	できた	100	質問の意味から分からなかったのですが、解決することができました。ありがとうございました。

13日	理系	した	できた	100	丁寧に教えていただきありがとうございました。
13日	理系	した	できた	100	
13日	英会話	した	できた	100	外国の方と話すので、日本との違いや自分の先入観が間違っていたことなど、英語以外のこともとても勉強になった。
13日	英会話	した	できた	70	とても楽しかったです！毎週来て、英語力をのばしたいと思います＼(^o^)/
14日	理系	した	できた	100	すべて解決～！（りょー）
14日	理系	した	できた	100	化学Aの量子力学についてさっぱりわかりませんでした、何をやっているのかわかるようになりました！本当にありがとうございました。今後もよろしくお願いします。
14日	理系	した	できた	100	根本的な部分から丁寧に教えていただけて、よく理解することができました。また利用したいです！！（なつめ）
14日	理系	した	できた	100	
14日	理系	した	できた	90	いつもありがとうございます。
14日	理系	した	できた	90	
14日	理系	した	できた	95	助かりました。ありがとうございました！
14日	理系	した	できた	90	
14日	理系	した	できた	100	
14日	理系	した	できた		分かりやすい説明ありがとうございました。
14日	理系	した	できた	100	
14日	理系	した	できた	100	
14日	理系	した	できた	100	
15日	理系	した	できた	100	いつも利用させていただきありがとうございます。勉強不足ですみません！！（豆乳）
15日	理系	した	できた	100	数学が本当に苦手なので毎週来ることになりそうです。すみません…
15日	理系	した	できた	95	
15日	英会話		できた		1on1の英会話目当てで来たが、複数人の英会話もとても良かった。周りの会話を聞きながら発音や単語の勉強にもなることがわかったので、時間があればカフェにも行ってみたい。今日はありがとうございました。（Michio）
16日	理系	した	できた		効率のいい解き方も教えてもらってよかったです。
16日	理系	した	できた	100	神（Fuuga）
16日	理系	した	できた	89	説明がわかりやすかったです。わからないところを丁寧に教えてもらい、理解が深まりました。（MH）
16日	理系	した	できた	100	とても丁寧に对应してくれて質問しやすかったです。何が重要かということを通して勉強の方針が立ちました。ありがとうございました。（K）
16日	理系	した	できた	100	
16日	理系	した	できた	100	質問に対してとても親身になって対応していただき、解決することができました。ありがとうございます。
16日	理系	した	できた	85	（楽しみ）
19日	理系	した	できた	100	中村悠馬さん、わかりやすく丁寧に教えてくれてありがとうございます＼(^o^)/アミノ酸がんばります！！
19日	理系	した	できた	80	
19日	理系	した	できた	100	結構悩んでた問題をすぐに解決してもらえて嬉しかったです。SLAの力はすごいなと思いました（小並感）奥田さんのスキンヘッドを見てみたいです。（KN）
19日	理系	した	できた	90	
19日	理系	した	できた	100	2人がかりで丁寧に解説して頂き、本当にありがとうございました！！とても助かりました。今後も、ちょっとの疑問でもSLAに質問したいと思います。
19日		した	できた	100	
19日	理系	した	できた	100	机の数ふやしてほしい（りょー）
19日	理系	しなかった	できた	95	長時間一緒に考えていただいて、問題の考え方が分かりました。
19日	英会話	した	できた		細かく指摘してもらって自分の間違いに気づきやすく、改善すべき所が明確になりました。とても良かったです。
19日	英会話		できた	90	英語難しい。なかなか上達しませんが、続けようと思います。
19日	英会話	した	できた	100	スミットさんが英語が下手な私を適切にサポートしてくれました。ありがとうございました！！（たかな）
20日	英会話		できた		すごく楽しかった。以前より英語を落ち着いて話せた気がします。文法がまだまだですが、とりえず勇気だけは持っていたと思います。
21日	理系	した	できた	100	小さな疑問にも1つ1つわかりやすく教えてもらって大変満足でした。
21日	理系	した	できた	100	混乱していたところがはっきりして、問題が解決しました！ありがとうございました！
21日	理系	した	できた	90	
21日	理系	した	できた	100	いろんな話をしていただいて、とても興味深かったです！本当にありがとうございました。今度はもう少し早くきます…（ひろな）
21日	理系	した	できた	90	非常に分かりやすかったです。ありがとうございました。
21日		した	できた	100	最後までやってくれて助かりました。（りょー）
21日	理系	した	できた	100	問題も解決し、対応にも満足だったので、何も不満はありません。
21日	理系	した	できた	100	分かりました！先生の言っていたことも思い返せば理解できました。丁寧に教えていただけてよかったです。
21日	その他	した	できた	100	パソコンのスキルが皆無なのでパソコンこれから多く教わりそうです。よろしくお願いします。（おらさ農家するだ）
22日	理系	した	できた	100	すごいすっきりしました！（ミドルG）
22日	理系	した	できた	85	問題にどう取り組みればよいかわからなかったのですが、教えていただいて、少しわかりました。（ゆう）
22日	理系	した	できた	95	教え方が分かりやすくて最高でした！（sigunamu）
22日	理系	した	できた	90	
22日	理系	した	できた	100	説明がわかりやすかったです。
22日	理系	した	できた	100	ずっと気になっていたことが解決できました。ありがとうございました。
22日	理系	した	できた	100	
22日	理系	した	できた	100	
22日	理系	した	できた	95	
22日	理系	した	できた	100	
22日	英会話		できた	90	みんなで楽しく英会話ができとても楽しかったです。
22日	英会話		できた	90	もっと英会話の先生がいたらいいなと思う。
22日	英会話	した	できた	90	とても難しい内容の話ができて楽しかった。もっと自分の語彙力を高めたいと思った。くやしい！（Rumi）
23日	理系	した	できた	100	物理の式の根本的なイメージから説明していただき、とてもわかりやすかったです。（びい）
23日	理系	した	できた	100	とても分かりやすくてよかったです。
23日	理系	した	できた	100	一緒に考えることでより理解が深まりました。
23日	理系	した	できた	100	理解が遅い自分にもちゃんと付き合ってくれたのでよかったです。あと、分かりやすかった。（KN）
23日	理系	した	できた	95	

23日	理系	した	できた	100	総合実験のレポートが終わりそうです。ありがとうございます。(S.N.)
26日	理系	した	できた	100	
26日	理系	した	できた	100	はじめて利用させてもらいましたが、とても自然なふんいきで質問しやすかったです。また分からないところがあったら、質問しに来ようと思いました。(TKYK)
26日	理系	した	できた	100	数Ⅲ・Cを習っていなかったのですが、とてもわかりやすく教えていただき、しっかり理解できました。
26日	理系	した	できた	100	親身に対応してくれて、いつも心強いです。いつもありがとうございます。
26日	理系	した	できた	100	答えが合わず計算過程を確認して頂きました。1つ1つ目で追って確認して下さり、助かりました！ありがとうございます。
26日	理系	した	できた	100	わからないことに答えていただけよかったです。また利用したいと思いました。
27日	理系	した	できた	100	サクサク解決していただきありがとうございました。
28日	理系	した	できた	100	予習で分からなかったことが、分かるようになった。先生より分かりやすくて良かった。
28日	理系	した	できた	100	とても分かりやすかったです！ありがとうございました^^
28日	理系	した	できた	100	さすがでした。
28日	理系	した	できた	100	今回も聞き切れてよかったです。ありがたい。
28日	理系	した	できた	100	
28日	理系	した	できた	100	
28日	理系	した	できた	100	
29日	理系	した	できた	100	私のちょっとした疑問にも答えていただきました。(化学さん)
29日	理系	した	できた	100	教えてもらった途端に分かった。
29日	理系	した	できた	100	
30日	理系	した	できた	100	授業よりも詳しく教えてもらうことができました。ペースを合わせて一緒に考えてくれる雰囲気良かったです。
30日	理系	した	できた	100	物理学のSLAは皆神。(fuuga)
30日	理系	した	できた	100	
6月					
2日	理系	した	できた	120	自然科学総合実験のレポートの考察をとても長い時間一緒に考えていただきました。おかげで良いレポートが書けました。ありがとうございます^^ (作並のくま)
2日	理系	した	できた		説明を聞いて、授業の内容をちゃんと分かりました。ありがとう！^^ (楽しみ)
2日	理系	した	できた	100	(経済)分からない点をわかりやすく、曖昧にそのままにせず教えていただきました。しかも質問が複数だったのに一つ一つの対応が丁寧でした。ありがとうございました。【掲示不可】
2日	理系	した	できた	95	授業で配られた解答を読んでも分からなかったところを教えていただき、とても分かりやすかったです。文系なので周りに聞ける人が少ないのでSLAの先輩に教えていただけるのが助かります。
2日	理系	した	できた	100	とても丁寧で、分かりやすくてすっきりしました^^ ありがとうございます！
2日	英会話	した	できた	100	長い間1対1で英会話が出来て、とても楽しかった。同時に、生のタイの歴史が聞けてより興味を持った。自分の世界史の授業がムダになっていないと感動した。(Fumi)
3日	理系	どちらでもない	できた	65	全く分からなかったところがなんとなく少し分かったような、実際に解いて理解を深める努力ができる段階までは来られた気がします。問題を解いてまた分からなくなったら来ます。
3日	理系	した	できた	100	ていねいに教えていただきありがとうございました。
3日	理系	した	できた	100	とても分かりやすくて良かったです！！左利きでとても親近感があってうれしかったです。
3日	理系	した	できた	100	
4日	理系	した	できた		具体例がとても分かりやすくてよかったです。
4日	理系	した	できた	80	
5日	理系	した	できた	100	今日、対応してくれたTAさんお2人は、とても話しやすくて、かつ、分かりやすい説明をしてくださいました。ありがとうございます。また来ます(みな)【掲示不可】
5日	理系	した	できた	100	ありがとうございます。計算が合いました！
5日	理系	した	できた	100	いつもお世話になっております。熱力学を教えていただきました。疑問解決しました！
5日	理系	した	できた	100	
5日	理系	した	できた	100	
6日	理系	した	できた	100	線形微分方程式について、教えてもらいました。実際に紙に例を書いて説明して下さり、非常に分かりやすかったです。分からなかったことが分かっただけでなく、線形代数への興味がわいてきました。
6日	理系	した	できた	100	分かりやすいヒントをもらったので全て解くことができました。
6日	理系	した	できた	100	【掲示不可】
6日	理系	した	できた	100	親かな対応ありがとうございました。また来ます！(みな)【掲示不可】
6日	理系	した	できた	81	きそはわかったけど応用がわからん！！(Mina)
6日	理系	した	できた	80	よくわかりました！時間かけずにスパスバと解説してくれたのが良かったです。(Y.Y)
9日	理系	した	できた	99	私が理解するまで粘り強く教えて頂きありがとうございました。混み合う時間には、もっと人がいた方がいいのかなと思います。
9日	理系	した	できた	90	教授方とは比べ物にならないくらいわかりやすかったです。ありがとうございました。
9日	理系	した	できた	100	ていねいに教えてもらって解決できた。(ニッキー)
9日	理系	した	できた	100	とてもわかりやすかったです。また利用させて頂きたいです。(みく)【掲示不可】
9日	理系	した	できた	95	SLAは場所が分かりにくかったので、来たことがなかったが、説明を聞いて理解がとても深まったのでまた利用したい。(丘)
9日	理系	した	できた		とてもわかりやすくて、理解がふかまりました。ありがとうございました。
9日	理系	した	できた	100	テイラー展開の大切さを学んだ。(いっしー)
9日	理系	した	できた	100	
9日	理系	した	できた	100	
9日	理系	した	できた	100	
10日	理系	した	できた	6.02 × 10 ²³	問題が解けてよかったです。対応もフレンドリーで楽しかったです。これでレポート提出もばっちりです。(アボガドロ1と2)
10日	理系	した	できた	90	ていねいに解説していただきありがとうございました。
10日	理系	した	できた	100	勉強不足が露呈してしまい、心が折れそうになりましたが、やさしくねばり強く対応していただけたので感動しました。ありがとうございます。
10日	理系	した	できた	100	
10日	理系	した	できた	100	初めてだったが、分かりやすかった。
11日	理系	した	できた		内容の理解のとき、かなり初歩から丁寧に教えて頂けて良かったです！

11日	理系	した	できた	100	たくさん問題を長時間教えてくださりありがとうございました。
11日	理系	した	できた	100	佐藤藤さんありがとうございました。サバサバ冷静にアドバイスしていただいて助かりました。本当にありがとうございます。親しみやすかったです！
11日	理系	した	できた	90	丁寧に説明して頂けました。ありがとうございます。(白秋)
11日	理系	した	できた	100	問題を解く過程について適切な回答及び糸口をつかめた。(りんぞー)
11日	理系	した	できた	100	感動的に分かりやすかったです！(だいき)
11日	理系	した	できた	100	解説が丁寧でした。
11日	理系	した	できた	79	
11日	理系	した	できた	80	
11日	理系	した	できた	100	
12日	理系	した	できた	100	とても親切に教えて下さって、よく理解できました。ありがとうございました。
12日	理系	した	できた	80	今回初めて利用したのですが、とても分かりやすい説明で、理解できました。ありがとうございました。
12日	理系	した	できた	90	とっても分かりやすかったです。
12日	理系	した	できた	60	わからないことがわかってよかったです。
12日	理系	どちらでもない	できた		分かりやすかったです。ありがとうございました。
12日	理系	した	できた	95	とび込みでしたが、丁寧に対応してくれました。(774)
12日	理系	した	できた	95	用語の基礎から教えてもらってとてもありがたかったです。すぐ理解できる子じゃないので大変だったと思います。ごめんなさい。(世紀末給水主)
12日	理系	どちらでもない	できた	120	教えてくれた方がすごかった。天才だと思った。
12日	理系	どちらでもない	できた	100	何も分からない状態で質問してしまったけれど、丁寧に教えてもらえてよかったです。
12日	理系	した	できた	75	授業の先生よりもわかりやすかったです。
12日	理系	した	できた	99	
12日	理系	した	できた	90	(いっしー)
12日	その他	した	できた	100	初めて利用させてもらいました。ずっと疑問だったけど、基本すぎて誰にもきけなかったレポートの書き方を納得するまで教えてもらったのでよかったです(^_^) (もえ)
13日	理系	した	できた	100	助かりました。
13日	理系	した	できた	100	こちらの複雑な質問にもいいに答えてくださってありがとうございました。
13日	理系	した	できた	100	発問をベースとした理解のさせ方をして頂き、スムーズに納得できました。(うっちー)
13日	理系	した	できた	100	ずっと分からず悩んでいたけど、定義の理解不足だったことに気づきました。定義をおろそかにしてはいけません。(SK)
16日	理系	した	できた	100	めっちゃわかりやすかったです。
16日	理系	した	できた	90	偏微分など演算子の意味の理解が深まったので良かったです。
16日	理系	した	できた	120	すごく分かった！！理解できてもやもやした気持ちがすっきりしました。
16日	理系	した	できた	90	分からなかったポイントを丁寧に説明していただいたので、大変ありがたかったです。
16日	理系			100	説明が親切で、理解しやすかった。また、もっと簡単な方法を教えてくれて、ありがたいと思います。(mfhmzh)
16日	理系	した	できた	100	全くわからなかった問題を一からとても親切に教えていただき、本当に感謝です。ありがとうございました。
16日	理系	した	できた	100	先生が詳しく教えてくれて嬉しかった。たぶん3時間以上かかったのにずっと丁寧に頭が上がらないと思います。ありがとうございました。(SAKI)
16日	理系	した	できた	100	優しかった。(BF)
16日	理系	した	できた	120	オーダーの話を、分かるまでいいに教えてくれました。すごくよく分かり、納得できました。ありがとうございました。【掲示不可】
16日	理系	した	できた	85	基本の部分を教えていただいたので、私が見落としていた根本のところから分かりました。
16日	理系	した	できた	100	とても分かりやすかったです！またよろしくお願いします。(かっさ)
16日	理系	した	できた	100	長時間にわたり、辛抱強く指導して頂きました。(うっちー)
16日	理系	した	できた	100	心配だった部分が解消できてほっとしました。(田中)
16日	理系	した	できた	100	頭をかなりつかったので訓練になった。
17日	理系	した	できた	75	問題が解けたのでよかったです。
17日	理系			100	かんたんな質問から、量子力学の大まかな概念まで、親切に説明していただきました。(うっちー)
17日	その他	した	できた	100	今回初めて SLA を利用させていただきました。二人の先輩にレポートを見ていただいて、違う観点からアドバイスをもらうことができて、とてもよかったです。親切に教えて下さって、とてもうれしかったです。ありがとうございました。(ゆき)
18日	理系	した	できた	80	楽しかったです。
18日	理系	した	できた	100	すごくわかりやすかったです ^o^
18日	理系	した	できた	90	分かりやすい説明で疑問点を解決できた。今後も利用させていただきます。よろしくお願いします。【掲示不可】
18日	理系	した	できた	100	ありがとうございました。
18日	理系	した	できた	100	大変分かりやすかったです。
18日	理系	した	できた	100	微分方程式の概念から分からなかったのですが、丁寧に全て教えていただいて自分で問題が解けるようになりました！(WILLPOLIS2014)
18日	理系	した	できた	80	
18日	理系	した	できた	100	
18日	理系	した	できた	85	(^-^)
18日	理系	した	できた	120	
19日	理系	した	できた	98	最高！(sigunamu)
19日	理系	した	できた	85	自分でもっとやらなければいけないと実感しました。
19日	理系	した	できた	100	丁寧にわかりやすかったです。
20日	理系	した	できた		丁寧に解説して頂いてありがとうございました！
20日	理系	した	できた	87	いい先生にあうとすぐおわる！(37)
20日	理系	した		100	細かく分かりやすかったです。
20日	理系	どちらでもない	どちらでもない	50	
23日	理系	した	できた	100	じっくり教えてもらったので良かった。
23日	理系	した	できた	100	微分方程式について理解できました。ありがとうございました。
23日	理系	した	できた	100	超悩んだが、最後には問題をとくことができたのでよかったです。

23日	理系	した	できた	90	ラグランジュの剰余項とコーシーの剰余項の誤差の変動をC言語で組んで調べてみようと思います。(いっしー)
23日	理系	した	できた	100	丁寧に教えてもらえたので良かった。優しく質問しやすかった。(ゆーき)
23日		どちらでもない	できた	90	長かったのに根気強く教えてくださりありがとうございます。
24日	英会話		できた	80	英会話ではなくプレゼンの練習としての利用でしたが、とても丁寧にに対応してもらえました。発音など不安なところが解決できたのでよかったです。どうもありがとうございます。
24日	英会話	した	できた	100	とても丁寧に文構造を見て頂き、その後の英会話のレッスンも、苦しいが充実したものでした。もっと英語を勉強しようと思えました。(うっちー)
25日	理系	した	できた	70	質問途中で17:50になってしまい、バタバタと後半を飛ばしてしまいました。
25日	理系	した	できた	90	専門だたにも関わらず快く対応していただき本当に助かりました。ありがとうございました。(S.Y.)
25日	理系	した	できた	100	分からなくても丁寧に根気よく教えていただけただけで良かったです。計算が遅くても待っていてくださって、助かりました。
25日	理系	どちらでもない	できた	100	時間が無いと言ったが、その時間内で丁寧にに対応してくれた。根本的なところさえわからなかったが、それが理解できたような気がした。
25日	理系	した	できた		おかげさまで展望が開けた。
25日	理系	した	できた	90	(やつしー)
25日	理系	した	できた	100	
25日	理系			100	(こん)
25日	理系	した	できた	100	
25日	理系	した	できた	95	
26日	理系	した	できた	100	量子力学のおもしろさまで伝えて頂きました。おもしろすぎて鳥肌が立ちました。(うっちー)
26日	理系	した	できた	100	とても分かりやすく、基本からていねいに教えてもらった。また利用したいと思った。(M)
26日	理系	どちらでもない	できた		難しい問題をわかりやすく丁寧に教えてくださりありがとうございます！(M)
26日	理系	どちらでもない	できた	98	(´・ω・´)ニヤー！(´・ω・´)
26日	理系	した	できた	100	参考文献も用意してくれたのでとても分かりやすく、参考になりました。今回は長時間に渡ってありがとうございます。
26日	理系	した	できた	100	親しみやすく、説明もわかりやすかった。
26日	理系	した	できた	90	一番困っていた問題が解決できてよかったです！次の授業があったので切り上げましたが、時間があつたらもういろいろ聞きたかったです。
26日	理系	した	できた	100	
26日	理系	した	できた	100	
26日	理系	した	できた	100	
26日	理系	した	できた	100	
27日	理系	した	できた	100	ヤコビアン！(うっちー)
27日	理系	した	できた	100	教科書やノートを見ても分からなかった所を基本から方針と一緒に考えてもらって分かりました。前回利用した後も中間テストでバッチリでした！いつもありがとうございます。
27日	理系	した	できた	100	(ああああ)
30日	理系	した	できた	120	何度やっても合わなかった積分を、答えまで導いて頂きました。解法がわかって感動しました。(うっちー)
30日	理系	した	できた	100	
30日	その他	した	できた	100	次回も参加したい。レポートがんばります！
30日	その他	した	できた		ワードの使い方にまだ慣れていなかったのが、助かりました。またこういったセミナーを開いていただきたいです。(Mai)
7月					
1日	理系	した	できた	100	量子力学…。慣れるのが大変ですが、あきらめないで学習しますので引き続き質問対応よろしくお願いします。(うっちー)
1日	英会話		できた	90	英語力のなさを実感しました。
1日	英会話	した	できた		おもしろかったです。
1日	英会話	した	できた	120	オモシロかったです。(しゅ〜)
2日	理系	した	できた	100	丁寧に教えていただきありがとうございます。
2日	理系	した	できた	100	丁寧に分かりにくかった部分もよく分かった。考え方重視で教えてもらった。
2日	理系	した	できた	100	ふつうにわかりやすかったです。(うっちー)
2日	理系	した	できた	100	自分が失っていた視点を与えて下さいました。ありがとうございます。(うっちー)
2日		した	できた	98	いつもお世話になっています。ありがとうございます。
2日	理系	した	できた	100	分かりやすかったです。
2日	理系	した	できた		分かりやすかったです。
2日	理系	した	できた	95	分かりやすかった。(みつお)
2日	理系	した	できた	100	すごい丁寧に教えていただいて、疑問点が明らかになるだけでなく、勉強の意欲が高まりました。
2日	理系	した	できた	100	3限と5限の時間にたくさん教えていただき、ありがとうございます。とても丁寧に教えていただき助かりました！(ぼっちゃん)【掲示不可】
2日	理系	した	できた	100	
3日	理系	した	できた	100	分かりやすく教えてくださったので問題が解けました。ありがとうございます。
3日	理系	した	できた	100	実際に問題を解きながら解説していただいてわかりやすかったです！
3日	理系	した	できた	100	分かりやすかった。また利用しようと思った。
3日	理系	した	できた	100	初めてだったのがわかりやすかった。
2日	理系	した	できた	100	科目の質問だけでなく、Excel(?)的なとか数学的な？(最小二乗法)理解が深まりました！いつもありがとうございます。(´・ω・´)／
3日	理系	した	できた	100	レポートの問題が全く分からなかったのですが、大勢で押しかけたにもかかわらず、丁寧に熱心に教えてくださったので助かりました。ありがとうございます。
3日	理系	した	できた	70	
3日	理系	した	できた	100	
3日	英会話		できた	100	英会話はいろんな人と会えるので楽しいですよ。(黒ぶち)
3日	英会話	した	できた	100	初めての英会話で緊張しましたが、英語でたくさん会話をして楽しむことができました。(えりな)
4日	理系	した	できた	100	とてもわかりやすく説明してくれたので、ずっとわからなかった所がすっきりと理解できました。対応が丁寧に質問しやすかったです。(傘腹)

4日	理系	した	できた	80	物理のレポートでお世話になりました。丁寧に対応していただき、たすかりました。
4日	理系	した	できた	90	ルジャンドル変換わかりました。大人になりました。(もう子供ではないです)(サトウ)
4日	理系	した	できた	120	ありがとうございます。
7日	理系	した	できた	80	ありがとうございます。
8日	理系	した	できた	100	とてもわかりやすい解説で、問題を解くことができました。(きょうこ)
8日	理系	した	できた	100	ありがとうございます。(まりえ)
8日	理系	した	できた	90	ありがとうございます。
8日	理系		できた	80	意見を入れるすぎがあったのでやりやすかった。
8日	理系	した	できた	90	
8日	理系	どちらでもない	できた	100	
8日	その他	した	できた	125	丁寧に教えていただいて、楽しかったです。わからなかったところも一人で解決できるように説明してもらえたので、自分の力になった気がします。(ミー)
9日	理系	した	できた	90	親しみやすかった。(つだっしー)
9日	理系	した	できた	100	途中、理解ができず苦しかったのですが、何回も聞いて理解できるようになったのでうれしかったです！(もっちゃん)
9日	理系	どちらでもない	できた	80	分かりやすく教えていただきました。(だいき)
9日	理系	した	できた		助かりました。
9日	理系	した	できた	100	12章も関連付けて分かりやすかった。
9日	理系	した	できた		分かりやすかった。
9日	理系	した	できた	80	ほぼ理解。「？」は消えないけど。(me)
9日	理系	した	できた	100	こちらが理解しているか確認しながらすすめてくれたので、とてもわかりやすかったです。(傘腹)
9日	理系	した	できた	100	深いところまで踏み込んで解説していただいて、さらに理解が深まりました！
9日	理系	した	できた	100	
9日	理系	した	できた	100	
9日	理系	した	できた	200	
9日	理系	した	できた	100	
10日	理系	した	できた	100	初めてでしたが親切に対応していただけて良かったです。ありがとうございます。(ゆか)
10日	理系	した	できた	100	解決しました。ありがとうございます。【掲示不可】
10日	理系	した	できた	100	基本的な概念で詰まっていたのでそれを理解することで理解度が深まったのでよかったです。(船長)
10日	理系	した	できた	100	最高(・ω・)！(ニヤース)
10日	理系	した	できた	100	とてもわかりやすかったです。
10日	理系	した	できた	100	くわしいところまで教えて頂きありがとうございます！
10日	理系	した	できた	100	たのしかったです。またきます。
10日	理系	した	できた	100	ていねいにおしえてもらってありがとうございます。
10日	理系	した	できた	90	1から10まで分からない私に丁寧に教えて下さり助かりました！
10日	理系	した	できた	100	とにかく分かりやすかったです！長い間ありがとうございます！((・v・))
10日	理系	した	できた	100	ちょ一分かりやすかったです！！
10日	理系	した	できた	100	
10日	理系	した	できた		
10日	理系	した	できた	100	ありがとうございます！
10日	理系	した	できた	100	
10日	理系	した	できた	100	
10日	理系	した	できた	100	化学Aをききにきました。簡潔でわかりやすい説明でした。来て良かったです。ありがとうございます。(しゅー)
10日	英会話			80	グループでの英会話は楽しいのですが、しゃべる回数が必然的に少なくなってしまうね(・ω・)
10日	英会話	した	できた	85	
10日	英会話	した	できた	100	
11日	理系	した	できた	100	知り合いに似てました。
11日	理系	した	できた	79	楽しかったです。また来たいと思いました。
11日	理系	した	できた	90	ヒントをたくさんいただきました。これから問題をとけそうです。とてもききやすい雰囲気でした。助かりました。(しゅー)
11日	理系	した	できた	80	
14日	理系	した	できた		よく理解できた。
14日	理系	した	できた	100	優しく教えてくれてうれしかった。
14日	理系	した	できた	100	先輩方もテストがんばってください。
14日	理系	した	できた	90	非常に丁寧に対応に感動しました。ぜひまたききにきたいと思いました。(Tom)
14日	理系	した	できた	95	問題が解けなくて困っていたので、方針を教えてください助かりました。ありがとうございます。(ざっきー)
14日	理系	した	できた	100	分かりやすかったです！！
14日	理系	した	できた	98	わかりやすいです。
14日	その他	した	できた	100	レポートを書いていて、自分では気づかなかった不自然な部分を指摘していただいて参考になりました。不安だったところも解決し、書き直したものは自信を持って提出できそうです！
15日	理系	した	できた	100	終了間際にも関わらず教えてもらってとても良かった。(スズキ)
15日	理系	した	できた	100	テストがんばってください！
15日	理系	した	できた	100	分かりやすい説明で、イメージしやすく、納得することができました。【掲示不可】
15日	理系	した	できた	100	すばらしい。
15日	理系	した	できた	100	
15日	その他	した	できた	85	
16日	理系	した	できた	85	一応わかったと思う。(S.S)
16日	理系	した	できた	85	帰ってからがんばってみます。(島崎)
16日	理系	どちらでもない	できた	80	本当にありがとうございます。私の頭が悪いのでまた聞きにきたいと思います。(さき)
16日	理系	した	できた	100	気になっていたことが解決できたのでとても満足です！！またよろしく願います。(K.K)
16日	理系	どちらでもない	できた	100	ありがとうございます。また聞きにきます。この教科書がむずかしいですね。(さき)
16日	理系	した	できた	100	ありがとうございます。
16日	理系	した	できた	99	とてもわかりやすかったです。
16日	その他	した	できた	90	分かりやすかった。(K.S)

16日	理系	どちらでもない	できた	60	化学の時間ではないのに教えていただいて助かりました。
16日	理系			80	(Nick)
17日	理系	した	できた		わかりやすく教えてもらって、とても感謝しています。【掲示不可】
17日	理系	した	できた	100	ありがとうございました。
17日	理系	した	できた	100	SLAの方に教えて頂いていつも思うのは、質問の内容はもちろんのこと、周辺の知識も、おもしろく教えて下さるということです。それが後になって非常にためになります。(うっちー)
17日	理系	した	できた	100	やっと解決することができました。ありがとうございました。
17日	理系	した	できた	100	ノートの証明が分からなかったのですが、解説して下さいありがとうございました！とても分かりやすかったです*
17日	理系	した	できた	90	全く分からなくて手が付けられなかった化学の問題の解き方が分かった。自分の元々の理解度が低すぎて申し訳なかったのですが、おかげ様で解決しそうです！（まろん）
17日	理系	した	できた	100	とても丁寧に教えていただいてうれしかったです。
17日	理系	した	できた	100	すごく基礎的な知識から説明していただいて、わかったことに感動しました！
17日	理系	した	できた	100	山下さんありがとうございました！！（皆川）
17日	英会話	した	できた	95	
17日	英会話	どちらでもない	できた	50	(←自分が) 英語が話せて楽しかった。もっと自由に話してみたい。
17日	英会話		できた	100	
18日	理系	した	できた		混乱していたことが、解決しました。分かりやすく説明していただきありがとうございました。
18日	理系				化学のスタッフの方がもう少し多いと嬉しいです！テスト前のみ増える、などの措置があるといいな…
18日	理系	した	できた	100	基礎から丁寧に教えていただけてとても分かりやすかったです。本当にありがとうございました。助かりました。
18日	理系	した	できた	100	とても丁寧にありがとうございました。(まい)
18日	理系	した	できた	100	農学部1年生で化学Aを教えていただきました。とても分かりやすく非常に感激しました。本当にどうしたらよいか分からず途方に暮れていたのだから感謝しています。ありがとうございました！！(ルンバ)
22日	理系	しなかった		20	分かった所はかなり分かりました！
22日	理系	した	できた	90	ベクトル場とスカラー場のイメージが分かったのが、大きな収穫となりました。
22日	理系	した	できた	90	
22日	理系	どちらでもない	できた		
23日	理系	しなかった	どちらでもない	70	とても親切で丁寧に教えていただきましたが、結局よくわからないまま終わってしまいました。自分で考えていった途中までの計算方法も正しいのかどうか不安が残ってしまいました。ありがとうございました。(MA)
23日	理系	した	できた	90	ありがとうございました。(わぞーすきー)
23日	理系	した	できた	100	
23日	理系	した	できた		
23日	理系	した	できた	100	
23日	理系	した	できた		
24日	理系	した	できた	80	解き方が分からなかった問題を詳しく解説していただき、とても助かりました。(S.Y)
24日	理系	した	できた	90	遅くまで丁寧に教えて頂いてありがとうございました！
24日	理系	した	できた	100	
24日	理系	した	できた	100	
24日	英会話	した	できた	99.9	3ヶ月間通いましたが、英語の進歩というよりは話すことの度胸がついたと思います。これも楽しい授業だったからであり、来 semester も機会がありましたら通いたいと思います。ありがとうございました。(ペンギン)
24日	英会話		できた	99	
25日	理系	した	できた	95	考える力を育ててくれている感じがしました！！テスト頑張ります。ありがとうございました。(ゆうゆう)
25日	理系	した	できた	100	話しやすく、疑問にも丁寧に答えて頂いたので大変満足しております。
28日	理系	した	できた	100	化学の質問をしましたが、丁寧に教えて頂きました。本当にありがとうございました。(しからを)
28日	英会話		できた		ハリポッターについて日本語と英語の両面から色々議論できて楽しかったです^^
28日	英会話		できた	999	自分の英語力の無さに落胆しました。これからも勉強し続けたいです。
29日	英会話		できた	100	初めてでしたが話しやすく良かったです。自分は話を続けるのが苦手なので気まずくならないか不安でしたが、向こうから質問をどんどんしてもらうことで話が続き、自分からも話し出すことができて安心しました。また、利用したいです。(リョー)
31日	理系	した	できた	100	本当にありがとうございました。再試頑張ります。(ニヤンコ)
8月					
1日	理系	した	できた	90	自分の力で解かせて頂いてありがとうございました。(ゆーた)
10月					
6日	理系	した	できた	100	数物頑張ります！
6日	理系	した	できた	100	
7日	理系	した	できた		
7日	理系	した	できた	98	とても分かりやすい説明で助かりました。
7日	理系	した	できた	90	程よくヒントをくれて、やりやすかった。でも内容が難しく、イマイチ理解できない部分もあった。
7日	理系	した	できた	90	難しかったけれどなんとか理解できました。
7日	理系	した	できた	75	根本から考えさせられて「そもそも」を意識させられて自分の理解の浅さを思い知らされた。
7日	理系	した	できた	100	
8日	理系	した	できた	100	とにかく問題が解決したことに、SLA満点。(ジョン)
8日	理系	した	できた	85	数物演習Ⅱの内容を質問した。ベクトル場のイメージを明確にできた。丁寧に解説ありがとうございました。
8日	理系	した	できた	100	ありがとうございました。
8日	理系	した	できた	100	線積分と面積分のちがいが分かりました。よかったです。
8日	理系	した	できた	95	例えが分かりやすかった。
8日	理系	した	できた	100	どの程度妥協しながらテキストを進めるべきか、悩むこと自体にも価値があると気づかせて頂き、有意義な時間でした。(うっちー)
8日	理系	した	できた	93	テキストが分かりにくいので助かります。テキスト作ってる人にSLAから教えてあげてほしいほど。【掲示不可】
8日	理系	した	できた	100	誤解がとけてよかった。

8日	理系	した	できた	100	
8日	理系	した	できた	100	
9日	理系	した	できた	100	自然科学総合実験での失敗の原因や問題への取り組み方がとてもよく分かった。
9日	理系	した	できた	95	ガウスの定理と波動方程式について聞きに行きましたが、どちらも分かりやすく説明してもらえたのでよかったです。どんな本でもサラッと飛ばしてしまうところもこちらの知識に合わせて細かく教えてくれるので助かります。(ヘミング)
9日	理系	した	できた	100	
10日	理系	した	できた	100	ドットを使った微分の表記に慣れないところを、ていねいにサポートして頂きました。くじけそうになっていたので、やる気を頂いてとても助かります。(うっちー)
10日	理系	した	できた		レポートの書き方は、臨機応変に項目を工夫する必要があることが分かりました。あと、友人と議論して進めることが大切だと言われたので、実行してみたいと思います。ありがとうございました。
14日	理系	した	できた	100	やさしくお話をいただきました。しかも必要な部分だけすばやくお話をくれたので慣れているのだなあと思いました。ありがとうございました。(ヤス)
14日	理系	した	できた	100	数学が苦手な私でも分かりやすかったです！
14日	理系	した	できた	100	自分ではどうまとめていかわからなかったデータをまとめられてとても助かりました。
14日	理系	した	できた	100	大変わかりやすかったです！中島さん、北原さんありがとうございました。(Y.Y)
14日	理系	した	できた	85	
14日	理系	した	できた	100	
14日	理系	した	できた	100	
15日	理系	した	できた	100	解き方がわかって安心しました。マクスウェル方程式が表している現象を端的に教えてくださって、スッキリしました。
15日	理系	した	できた	100	よくわかりました。
15日	理系	した	できた	100	問題だけでなく、教科書の説明もしてくれて良かった。混んでなかったのも、じっくりできた。
15日	理系	した	できた		とても親切に解説してくれてうれしかった。(John)
15日	理系	した	できた	100	わかりました。
15日	理系	した	できた	100	サクサク解決していただきありがとうございました。
15日	理系	した	できた	95	分かりやすく説明してくれてよかったです。
15日	理系	した	できた	100	分かりやすかったです。
15日	理系	した	できた	90	問題だけでなく、それを解くためのいろいろな情報があってよかったです。
15日	理系	した	できた	100	短時間で分かりやすく説明していただきました。
15日	理系	した	できた	99.9	点はなんとなくです。
15日	理系	した	できた	90	+ α のことも知ることができてよかったです。(アー)
15日	理系	した	できた	100	説明が分かりやすかったです。
15日	理系	した	できた	100	力学演習IIを教わりました。ありがとうございました。
15日	理系	した	できた	100	
15日	理系	した	できた		
15日	英会話	した	できた	99	
16日	理系	した	できた	100	言葉が難しく、何がどんなことを表すのか分からなかったが話をしながらまとめることでよく分かるようになった。
16日	理系	した	できた	95	
16日	理系	した	できた	100	
17日	理系	した	できた	100	分からなかった概念を徹底的に指導してもらい、非常に分かり易かったです。(ugs)
17日	理系	した	できた	90	方針をわかりやすく教えて下さったので、考えながらできました！ありがとうございました！(Y.Y)
17日	理系	した	できた	100	ImfとKerf、全く分からなかったのにイメージがつかめました！ありがとうございました！(Y.Y)
17日	理系	した	できた	100	学習していなかった範囲を一から学ぶことができてとても助かった。
17日	理系	した	できた	90	デルタ関数のイメージが鮮明になった。教科書にない定義等を教わることができてためになった。
20日	理系	した	できた	100	助かりました。ありがとうございました。(M.G)
20日	理系	した	できた	100	分かりやすく授業では気づけなかった発見があった。
20日	理系	した	できた	95	とても話しやすかった。数物演習でこれからも来ると思います。よろしくお願ひします。
20日	理系	した	できた	100	(とくめい)
20日	理系	した	できた	80	
20日	理系	した	できた	100	
21日	理系	した	できた	120	チョーワカッタ！やったあ！ 本当にわかり易く、大変助かりました。これからもよろしくお願ひします。(タケフシ)
21日	理系	した	できた	95	初めて相談したけど丁寧に教えてくれてよかった。
21日	理系	した	できた	100	とてもわかりやすかったです。ありがとうございました。
21日	理系	した	できた	100	演習問題の解き方を聞くつもりで来ましたが、それだけでなく、デルタ関数の理解を深められてよかったです。
21日	理系	した	できた	90	SLAの方がとても丁寧に分かりやすく教えて下さって助かりました。(あ)
21日	理系	した	できた	90	けっこーわかりやすかった。(F)
21日	理系	した	できた	90	ていねいにお話をいただきました。(宏太)
21日	理系	した	できた	100	今後も利用したいと思いました。
21日	理系	した	できた	90	よかったです。(ハヤト)
21日	理系	した	できた	100	
21日	英会話	した	できた	100	また来ます！
21日	英会話	した	できた	100	またこよと思います！おねがいます。今回はありがとうございました。(ゆーま)
22日	理系	した	できた	100	Thank you! I love you guys! (JOHN)
22日	理系	した	できた	80	デルタ関数がむずかしいです。
22日	理系	した	できた	100	分かりやすい。
22日	理系	した	できた	100	丁寧の説明でしっかり理解できました。質問でどこが分かりにくいかなどをSLAの方がおさえて、そこも解説があってとても分かりやすかったです。ありがとうございました。(H.N)
22日	理系	した	できた	100	数学で初めて出てきた定理がよく分からなかったが使い方や使って何を求めるか分かるようになった。
22日	理系	した	できた	100	3人の方々に教えていただき、興味深いお話がたくさん聞けました。
22日	理系	した	できた	200	やはり数物のテキストは早とちりで言葉足らずで不足している点が多いが、私は彼女を愛したい。(ウエイw)
22日	理系	した	できた	100	よかったです。
22日	理系	した	できた	105	すごく分かりやすかったです。(もってい)
22日	理系	した	できた	185	とってもわかりやすかったです☆
22日	理系	した	できた	100	
22日	理系	した	できた	100	
22日	理系	した	できた	100	

22日	理系	した	できた	75	
22日	理系	した	どちらでもない		
22日	理系	した	できなかった	50	
22日	理系	した	できた	100	
22日	理系	した	できた	100	
22日	理系	した	できた	70	
22日	理系	した	できた	95	
22日	英会話	した	できた	70	次はもう少し自発的に話します！また来ます！（たろう）
23日	理系	した	できた	100	いつも考え方やまとめ方がうまくまとまらないときに話がきけるとありがたいです。
23日	理系	した	できた	90	
23日	理系	した	できた	90	
23日	英会話		できた		楽しかった。でも、英語を話せるようにもっと勉強する必要性を感じました。
23日	英会話		できた	100	沢山話せてよかったです！（ゆ）
23日	英会話	した	できた	100	ありがとうございます。また利用します。（ゆーま）
24日	理系	した	できた	?	
24日	理系	した	できた	100	やっとレポートのまとめにとりかかれそうです。いつもお世話になっています。
27日	理系	した	できた		ありがとうございます。
27日	理系	した	できた	100	丁寧に解説していただいてありがとうございます！
27日	理系	した	できた	100	関西弁が良かった。
27日	理系	した	できた	80	
28日	理系	した	できた	100	親しみやすかった。
28日	理系	した	できた	100	とても分かりやすく説明していただきました。ありがとうございます。
28日	理系	した	できた	100	よかった。（F）
28日	理系	した	できた	100	ものすごくあわただしかったにもかかわらず要点だけわかりやすく教えていただけて良かったです！ありがとうございます！（Y.Y）
28日	理系	した	できた	90	
28日	理系	した	できた	100	（かな）
28日	理系	どちらでもない	できた	80	
28日	理系	どちらでもない	できた	80	
28日	理系	した	できた	90	
28日	理系	した	できた	90	
28日	理系	した	できた	100	
28日	理系	した	できた	100	
28日		した	できた	95	（ヤス）
28日	英会話	どちらでもない	できた	80	まだまだ自分の実力をつけねばと思いました。（ガンガン）
28日	英会話			85	次はトピックで話し合ってみたいです。日本だと改めて自己紹介することも少ないので楽しかったです。（たろう）
28日	英会話			70	もっと質問できたらなって思いました。（ユッキー）
28日	英会話		できた	100	あまり話せなかったので次回はもっと喋れるようにになりたいです。（有野芹菜）
28日	英会話		できた	100	楽しかったです。（みずほ）
29日	理系	した	できた	100	よくわかりました！
29日	理系	した	できた	100	自分で考えられるように教えてくれたので理解して問題を解けるようになった。
29日	理系	した	できた	100	来て良かったと思った。
29日	理系	した	できた	100	方針を教えてもらったからあとは自分でやるだけです。（いいね）
29日	理系	した	できた	100	テキストだけではよく分からなかったところもていねいに説明してもらえて助かりました。（TT）
29日	理系	した	できた	90	わかりやすかった。（こう）
29日	理系	した	できた	100	自分できちんと考えさせてくれる対応だったと思います。（ネオ）
29日	理系	した	できた	100	分かりやすく教えていただきました。
29日	理系	した	できた	90	分かりやすかった。
29日	理系	どちらでもない	できた	80	
29日	理系	した	できた	90	
29日	理系	した	できた	100	
29日	理系	した	できた	100	
29日	理系	した	できた	100	
29日	英会話	した	できた	99	いろいろ話せて楽しかったです☆（がんがん）
30日	理系	した	できた	100	データがどのように扱うか分からなかったところの対処法が分かった。
30日	理系	した	できた	100	物理という自分にとって何も分からない教科について、参考書を見せて頂くなどして道筋を示して下さいました。がんばります。（うっちー）
30日	理系	した	できた	95	分かりやすい説明でたすかりました。
30日	理系	した	できた	100	イメージがつかみにくい問題でしたが基礎から説明してくださってありがとうございました。（yuppo）
30日	理系	した	できた	100	こんがらがっていた所がすっきりしました。ありがとうございます。（M.G）
30日	理系	した	できた	95	問題できてうれしかった。（ffp）
30日	英会話	した	できた	90	SAPの相談もできてよかった。昨日よりは聞き取ることが出来たと思います。（ユッキー）
30日	英会話	した	できた	100	
30日	英会話	した	できた	100	
11月					
4日	理系	した	できた	100	ひとりでは歯が立たない問題だった。授業でも理解できなかったもので、とても助かった。また来ようと思った。
4日	理系	した	できた	80	あいまいなところが分かりました。ありがとうございました。
4日	理系	した	できた	100	
4日	英会話			90	トピックがあった方が、話しやすくて楽しかったです。

4日	英会話		できた	90	楽しく会話ができました。
4日	英会話		できた	100	前よりも英会話ができてよかったです。
4日	英会話			100	なんて言えいいのかわからない表現を知れて良かったです。(みずほ)
4日		した	できた	100	本当にありがとうございました！！
5日	理系	した	できた	100	ありがとうございました。
5日	理系	した	できた	90	ずいぶん長時間だったが、飽きずにしっかり対応してくれました。
5日	理系	した	できた	100	長時間ありがとうございました。
5日	理系	した	できた	100	いつもありがとうございます。
5日	理系	した	できた	100	分かりやすかったです！！
5日	理系	した	できた	80	今日の人は良かった。(やまディー)
5日	理系	した	できた	100	
5日	理系	した	できた	100	
5日	理系	した	できた	100	(MAX)
5日	理系	した	できた		
5日	理系	した	できた	98	
5日	理系	した	できた	100	
5日	理系	した	できた	100	
5日	理系	した	できた	100	
5日	理系	した	できた		(RiYa)
6日	理系	した	できた	90	分かりやすかったです。
6日	理系	どちらでもない	できた	70	自分だけでは解決できなかったため、今回利用できてよかった。
6日	理系	した	できた	100	構造がイマイチ分からなかった物質を説明していただいて本当にありがとうございます！
6日	理系	した	できた	120	(tomugs)
6日	理系	した	できた	90	
6日	英会話	どちらでもない	できた	100	とても楽しかったです！親切に対応してくれてありがとうございました。(リキ)
7日	理系			100	予習の仕事について学べたのは良かった。教科書に書いてあることが理解しやすくなった。(ネオ)
7日	理系	した	できた	100	
10日	理系	した	できた	100	難しい問題の解決に手伝っていただいて感謝しています。
10日	理系	した	できた	95	真剣に話を聞いてくれて、理解するまでしっかりと説明してくれました。ありがとうございました。(傘)
10日	理系	した	できた	90	空いていたせいもあると思いますが、1コマ分以上の時間を割いて対応していただきました。基本のこともわからないままだったので、昔に戻って説明してもらえたりもしました。前よりだいぶ分かるようになったと思います。ありがとうございました！
10日	理系	した	できた	70	自分でもっと疑問点を探すべきでした。(ぼん)
10日	理系	した	できた	100	納得できました。
10日	その他	した	できた	90	レポートの章構成や内容の分配について相談しました。レポートを書いていく見通しができました。【掲示不可】
11日	理系	した	できた	90	一緒に親身になって考えて下さりありがとうございました。
11日	理系	した	できた	100	説明がわかりやすかったです。(さいとー)
11日	理系	した	できた	100	SLAの方が優しく教えてくれました！(みか)
11日	理系	した	できた	100	考えるのが難しい問題でしたがどうにか解けました。ありがとうございます。
11日	理系	した	できた	100	いつも分かりやすい説明ありがとうございます。
11日	理系	した	できた	100	分かりやすかったです。(もっけい)
11日	理系	した	できた		ありがとうございました。
11日	理系	した	できた	100	
11日	理系	した	できた	95	
12日	理系	した	できた	80	解説がやや分かりにくかった、という印象があった。(ネオ)
12日	理系	した	できた	80	全く分かってなかったのが、かなり進歩しました。ありがとうございます。(MG)
12日	理系	した	できた	100	Thank guys, I love you! (JOHN)
12日	理系	した	できた	90	分からない部分を教えていただいて、すっきりしました。説明も分かりやすかったです。ありがとうございました。
12日	理系	した	できた	100	解決していただきありがとうございます。
12日	理系	した	できた	90	すごくわかりやすかった。奥田さんありがとうございます。
12日	理系	した	できた	100	
12日	理系	した	できた	90	
12日	理系	した	できた		(R)
12日	理系	した	できた	80	
12日	理系	した	できた	80	
12日	理系	した	できた	100	
12日	理系	した	できた		
13日	理系	しなかった	どちらでもない	70	微分方程式の解を求める初歩的な手法を解説して頂きましたが、自分の経験不足で理解しきることが出来ず、歯がゆさが残る形となりました。もっと理解できるよう励みますので、またよろしく願います。(うっちー)
13日	理系	した	できた	100	表現行列が分かった。
13日	理系	どちらでもない		70	むずすぎ。(妖怪ウイパー)
13日	理系	した	できた	100	自分の勘違いが一瞬で理解できて良かったです。(ribosome)
13日	理系			80	一人で出来るもん！(妖怪ジバニャン)
13日	理系	した	できた	100	難しい単語を分かりやすく、自分でも分かるように説明していただけたらとても助かります。
13日	英会話		できた	100	英会話をたくさんできたので良かったです！
14日	理系	した	できた	100	
14日	理系	した	できた	100	
17日	理系	した	できた	10000	すごく分かりやすかったです。
17日	理系	した	できた	100	結論がぐだぐだになってしまってます。でも意見の交換ができて良かったです。
17日	理系	した	できた	95	計算ミス(考え方のミス)の指摘がありがたかった。煮詰まってしまったとき本当助かります。これからもよろしく願います。
17日	理系	した	できた	100	解析の試験勉強で質問しました。自分じゃ考えられなかった視点で教えてもらえてためになりました。(かりん)
17日	理系	した	できた	90	かなり末期でしたが…とにかくありがとうございました<(_)>(まかろん)【掲示不可】
17日	理系	した	できた	90	

17日	理系	した	できた	90	(ジバニャン)
17日	理系	した	できた		わかりました。
17日	理系	どちらでもない	どちらでもない	80	
17日	理系	した	できた	100	ありがとうございました！
17日	理系	どちらでもない	できた	100	とても分かりやすかったです。
17日	理系	した	できた	100	線形代数分かってきました！（たけ）
17日	理系	した	できた		問題（自分の計算力）は…依然アレなままです！長時間対応していただき本当にありがとうございました。（まかるん）【掲示不可】
17日	理系	した	できた		
17日	理系	した	できた	85	
17日	英会話	した	できた		英語もつがんばろうと火が付きました！
19日	理系	した	できた	100	相変わらずテキストより分かりやすかったです。（もってい）
19日	理系	した	できた	100	オイラーの公式で $\exp \rightarrow \sin, \cos$ に直すとても分かりやすかった。
19日	理系	した	できた	95	短い時間でも丁寧に教えて下さいました。ありがとうございました。
19日	理系	しなかった	できた	75	ありがとうございました。
19日	理系	した	できた	95	教科書の理解を深めることができた。
19日	理系	した	できた	95	ゆっくり時間をかけながら教えてくださって、わかりやすかったです。
19日	理系	した	できた	100	線形のテスト頑張ります！
19日	理系	した	できた	100	
19日	理系	した	できた	95	
19日	理系	した	できた	90	
19日	理系	した	できた	95	
19日	英会話		できた	100	初めて英会話カフェに行ったのですが、職員の方も、参加している他の方もすごく優しく対応してくださりました。アットホームな雰囲気、気ままに英語を話すことができ、楽しかったです。また、来たいです。ありがとうございました。（コウキ）
19日	英会話	した	できた	95	
19日	理系	した	できた	90	ええで。（大阪人）
20日	理系	した	できた	90	分かりやすかったです。
20日	理系	した	できた	95	一緒になって考えてくれて、適切なアドバイスをもらえたので助かりました。
20日	理系	した	できた	100	ていねいに対応していただき、しっかり理解して解けるようになりました。ありがとうございました。
20日	理系	した	できた	100	有機化学をおそわりました。非共有電子対の攻撃について、軌道の話を用いての説明や、この先出てくるであろう話をうかがい、お徳感がありました。（うっちー）
20日	理系	した	できた	100	
20日	英会話		できた	60	やはり話すためにはまず書かなければならないと感じた。（コッキー）
25日	理系	した	できた	90	今までやったことのない解き方を教わったので、少し困難しました。けれど、問題は解決したので良かったと思います。（ネオ）
25日	理系	した	できた	90	
26日	理系	した	できた	100	確認していただけでよかったです。
26日	理系	した	できた	100	疑問解決しました。
26日	理系	した	できた	100	自分に考える時間を与えてくれて、自分で解決させてくれるようにしてくれたのが良かった。小さな誤解から解決を丸投げしてしまったのが残念。物理に転学科しようと思っているので、参考になる意見をいただけました。
26日	理系	した	できた	98	丁寧に対応していただきました。ちょっと分からないところを分からないといにくいので何度も聞くかもしれませんが、優しく対応してもらえると助かります。（ゆき）
26日	理系	した	できた	98	
26日	理系	した	できた	100	
26日	理系	した	できた	90	
26日	理系	した	できた	100	
26日	理系	した	できた	100	
26日	理系	した	できた	100	
26日	理系	した	できた	100	
26日	英会話		できた	100	
26日	英会話		できた	100	簡単なプレゼンテーションをできて良かったです。（みずほ）
26日	英会話		できた	100	留学する前に学んでおくべきことや、やっておくべきことについて、服部さんに英語で詳しく教えていただきました。勉強に対するモチベーションが上がりました。本当にどうもありがとうございました。（コウキ）
26日	英会話		できた	100	
27日	理系	した	できた	100	ありがとうございました！！
27日	理系	した	できた	100	原理の確認ができてとても安心しました。
27日	理系	した	できた	100	授業で分からなかった所が分かるようになりました。ありがとうございました。
27日	理系	した	できた	100	行列的 det について説明してもらって、とても分かりやすかったです。（tomugs）
27日	理系	した	できた	90	実例が良かった。（θ）
27日	理系	しなかった	できた		
27日	理系	した	できた	100	
27日	英会話		できた	60	I want to come here again. I will study more.（稲飯亜有美）
27日	英会話		できた	70	I wanna talk more !!!!（ゆき）
27日	英会話		できた		初めてきましたが、有意義な時間を過ごすことができました。
27日	英会話		できた	100	英会話する機会はありませんので、とてもたのしく話せてよかったです。
27日	英会話	どちらでもない	できた	85	日本の文化を伝えるのに苦労しました。もっと自国の文化について深く知りたいと思いました。（KI）
27日	英会話		できた	100	少しずつですが、頭の中で英会話の回路ができてきた気がします。これからもよろしくお願ひします。（うっちー）
12月					
1日	理系	した	できた	100	レポート出来そうです！ありがとうございます！

1日	理系	した	できた	100	
1日	理系	した	できた	95	Thanks! I love you, guys! (JOHN)
1日	理系	した	できた	100	今回難しく、時間もほとんど無かったですがなんとか分かる所が出てよかったです。
3日	理系	した	できた	100	とても早く解決しました！ありがとうございました！（Y.Y）
3日	理系	した	できた	100	ヒントを頂いて、自分で考えて答えにたどり着いたので良かったです。
3日	理系	した	できた	100	
3日	理系	した	できた	100	
3日	理系	した	できた		
3日	英会話	した	できた	95	人が少ないと寂しいです…
3日	英会話	した	できた	40	聞きとることができたが、上手く話すことができなかった。スピーキングスキルを伸ばす為にも、積極的にこのような機会を利用してスムーズに会話できるように練習していきたいです。（じーふ）
3日	英会話	した	できた	100	
3日		した	できた	90	
4日	理系	した	できた	100	エクセルを用いたポアソン分布の曲線の描き方等教えていただきました。ありがとうございます。（うっちー）
4日	理系	した	できた	100	先生が渡してくださったプリントの説明が分かり易かったです！（tomugs）
4日	理系	した	できた	100	ありがとうございました！
4日	理系	した	できた	100	
4日	理系	した	できた	95	
4日	英会話	した	できた	90	普通の生活についての雑談もあれば、真面目な話題についての討論をしたり、様々な話ができてとても楽しかったです。今後も利用したいです。ありがとうございました。（しずか）
4日	英会話				It was very nice conversation. I can't wait to come again. (Si Hun)
4日	英会話	した	できた	70	アシスタントの方の英語と英語の発音が素晴らしい。今回、初めて参加してみたけど、リスニングのよい勉強になったと思う。次は、自分の言いたいことを言うように頑張りたい。（トモ）
4日	英会話	どちらでもない	できた	50	英語を話すときに、考えすぎてしまい声に出せない。後半になるにつれて少しずつ慣れてきた気がした。
5日	理系	した	できた	100	自分で考えさせながら解けたのでよかったです。
5日	理系	した	できた	100	何時間も自分の導出過程にまちがいがいかチェックして、それでも納得いかずに SLA に来ました。まちがっていると 思っていた答えが正しいことをいぬいに教えて頂きました。ありがとうございます。（うっちー）
5日	理系	した	できた	100	丁寧に対応して頂き、満足しています。
5日	理系	した	できた	100	優しく親身に教えて下さいました。
5日	理系	した	できた	100	
8日	理系	した	できた	100	すごく分かりやすく、ひもまで使って自由端の振動の仕方を演示してくれて、感動しました。吉川さんは本当に頭いい 人で熱心なサポーターさんだと思います。（榎園）
8日	理系	した	できた	90	授業中に理解出来ないところが分かりました。
9日	理系	した	できた	100	ありがとうございました。
9日	英会話		できた	100	It was so enjoyable time. Thank you!! (Y.Y)
9日	理系	した	できた	90	
10日	理系	した	できた	100	非常にわかりやすい解説でした。
10日	理系	した	できた	100	英会話の期間を延長してほしいです！！
10日	理系	した	できた	80	丁寧に相談に乗っていただけ、ありがたかったです。
10日	理系	した	できた	100	ありがとうございました。（うお）
10日	理系	した	できた	100	計算が合っていないのを教えてもらって問題が解けました。（tomugs）
10日	理系	した	できた	90	わかりました。
10日	理系	した	できた	100	よく理解できました。文句なしです。
10日	理系	どちらでもない	できた	80	
10日	理系	どちらでもない	どちらでもない	80	
10日	理系	どちらでもない	どちらでもない	70	
10日	英会話		できた	100	最初はみんな静かだったけど、だんだん盛り上がりが出てきて、とても楽しかった。みんな面白くて良い人ばかりでした。 （コウキ）
10日	英会話		できた	80	とにかく楽しかったです！毎日参加したいです！
10日	英会話		できた	80	楽しく英会話をすることができました。ぜひまた参加したいです。（Yuya）
10日	英会話		できた	70	
10日	英会話	した	できた	90	とても楽しく英会話できました。また、参加したいです。（ノリ）
11日	理系	した	できた	100	ありがとうございました。
11日	理系	した	できた	100	実験の大まかな流れが確認できてよかったです。
11日	理系	しなかった	どちらでもない		実験レポートの質問でした。（鈴木）
11日	英会話		できた	85	私たちだけだったので、たくさんしゃべれてよかったです！また来ます ^^
11日	英会話		できた		2人だけだったのでたくさん会話することができました。（Rina）
11日	英会話	した	できた	120	もっと早くからここに来ればよかったと本当に後悔しています。（アルバイター）
11日	英会話	した	できた	60	自己紹介の練習をしたけれど、自分の出身地の特徴など詳しく説明できず、海外についてだけでなく、日本についてももっと知っておかないといけないことが改めてわかった。
11日	英会話		できた	100	英会話の期間を延長してほしいです！！
11日	英会話	した	できた	100	楽しかったです。ありがとうございました！！（ゆか）
12日	理系	しなかった	どちらでもない	50	
16日	理系	した	できた	100	
17日	理系	した	できた	100	すごく具体的で分かりやすかったです！助かりました。ありがとうございました。（あかり）
17日	理系	した	できた	100	水曜午前だとSLA すいてるんですね！待ち時間なくてよかったです^^（だむ）
17日	理系	した	できた	100	演習問題をていねいに解説してもらいました。すごく分かり易かったです！
17日	理系	した	できた	90	理解が深まりました。
17日	理系	した	できた	100	テキスト以上のことも教えていただき、とても良かったです。（H.N）
17日	理系	した	できた	100	

17日	理系	した	できた	100	
17日	理系	した	できた	100	
17日	理系	した	できた	100	
17日	英会話		できた	90	楽しく英会話できた。(Yuya)
17日	英会話	した	できた	70	途中参加になってしまったが十分に会話することができた。
17日	英会話		できた	85	楽しかったです！水曜日はゲーム感覚で好きです！
17日	英会話		できた	100	初めてでしたが楽しかったです！
17日	英会話		できた	100	I enjoyed! Thank you!
17日	英会話	した	できた	80	また来ます！（Mori）
17日	英会話	どちらでもない	できた	90	みんなで英語で協力して話せてとても楽しかった。(Kana)
17日	英会話		できた	100	とても楽しかったです。
17日	英会話	どちらでもない	できた	100	
17日	英会話	した	できた	100	
17日	英会話	した	できた	100	
17日	英会話		できた	80	(コッキー)
18日	理系	した	できた	100	化学Cのレポートについて質問しました。とても分かり易かったです。(tomngs)
18日	理系	した	できた	100	資料選択の手伝いをしていただいて感謝しています。
18日	理系	した	できた	100	スライド一枚ずついねいに説明してくれました。特に適している教科書とこれからの勉強の進め方で熱心にアドバイスしてくれました。
18日	理系	した	できた	100	
18日	理系	した	できた	90	
18日	英会話	した	できた	100	今日も英語を話すことに大変苦戦したけど、とても楽しかったです。
19日	理系	した	できた	100	かんちがいして混乱してしまいましたが、フォローしていただき、とても助かりました。
19日	理系	した	できた	100	なぜまちがったのか、どうしたら解けるのかわかって満足です。ありがとうございました。(あかり)
19日	理系	した	できた	100	全く方針も立たないような状態だったので、理解できてとても嬉しかったです！ありがとうございました。(Y.Y)
19日	理系	した	できた	100	
22日	理系	した	できた	100	ゆうどうがわかりやすくてよかったです。なるほどー！！という気持ちになるとすっきりします^^* ありがとうございます。
22日	理系	した	できた	100	分かりやすかったです。ありがとうございます。
22日	理系	した	できた	100	大変丁寧でわかりやすかったです！全て解決しました。留数の定理の説明が特にわかりやすかったです。ありがとうございました。(Y.Y)
24日	理系	した		100	Thanks, man! I love you! (JOHN)
24日	理系	どちらでもない	できた	95	完全に納得のいく解答は得られなかったけれど、深く考えることができました。(マテ女)
24日	理系	した	できた	100	(ニヤンマ)
24日	理系	した	できた	100	
24日	理系	した	できた	95	
24日	理系	した	できた		
24日	英会話	した	できた		楽しかったです。ありがとうございます。(AYUMI)
24日		した	できた	100	
1月					
5日	理系			80	教科書にのってないことをたくさん学べてよかったです。(ネオ)
6日	理系	した	できた	100	
6日	理系			100	解説がとても分かりやすかったです。また、興味をそられるような話も出たので楽しかったです。(ネオ)
6日	理系	した	できた	90	どこまで理解すればいいか教えてくれたのでよかったです。(キンゾク)
6日	理系	した	できた	100	丁寧に分かりやすくおしえていただきました。
6日	理系	した	できた	100	すごく分かりやすかったです。ありがとうございました。(あかり)
6日	理系	した	できた	100	数物演習いつも分かりやすくてありがとうございます。
6日	理系	した	できた	95	
6日	理系	した	できた	100	(ネコ)
6日	英会話	した	できた	90	りかいできたとします。(YL)
7日	理系	した	できた	100	ありがとうございます。
7日	理系	した	できた	95	問題が解けた訳ではないけれど、学習方法をしっかり教えて頂きました。ありがとうございます！(Nanome)
7日	理系	した	できた	90	分かりやすかったです！(ふなっしー)
7日	理系	した	できた	95	分かりました。
7日	理系	した	できた	100	
7日	理系	した	できた	100	
7日	英会話		できた	100	とても楽しい時間を過ごすことができました。
7日	英会話	した	できた	50	SLAの提供する英会話教室 50/50点、自分の英語力 0/50点 →50/100点
7日	英会話			100	楽しかった。(K)
7日	英会話		できた	100	英語が分かる、伝わる楽しさにひたることができました。(うっちー)
7日	英会話	しなかった	できなかった	40	もっと活発にしゃべれるようにしたいです。
7日	英会話		できた	80	
7日	英会話	した	できた	80	
8日	理系	どちらでもない	できた	100	長い時間一緒に考えて下さってありがとうございました。もう一度、練習できます。
8日	理系	した	できた	80	自分では気づかなかった点に気づけました。とても分かりやすかったです。(S.Y)
8日	理系	した	できた	100	最高です！！(signamu)
8日	理系	した	できた	100	大変いいねいに教えていただきました！ありがとうございます！
13日	理系	した	できた	100	数物のテスト勉強で質問させてもらいました。とても分かり易かったです。(tomugs)
13日	理系	した	できた	95	スッキリ(37)
13日	理系	した	できた		とても分かりやすかったです。
13日	理系	した	できた	90	

13日	理系	した	できた	100	
13日	理系	した	できた	90	
13日		どちらでもない	できた	95	
14日	理系	した	できた	100	ありがとうございました。
14日	理系	した	できた	100	ありがとうございました。
14日	理系	した	できた	100	期末試験対策をしました。分かり易い説明ありがとうございました。(tomugs)
14日	理系	した	できた	100	テキスト間のつながりの一例を示して頂き、ためになりました。(うっちー)
14日	理系	した	できた	95	
14日	理系	した	できた		
14日	理系	した	できた	100	
14日	英会話		できた	80	英語で何といえいいのかわからないことがよくありました。もっと勉強しなくちゃ！！
14日	英会話	した	できた	99	久々のSLA英会話、楽しませていただきました。(CCA)
14日	英会話	した	できた	85	とても楽しかったです。
14日	英会話	した	できた		I will practice cooking!!
14日	英会話	した	できた	80	今まで聞かれたことがないことを聞かれたのでこういったシチュエーションがあつたら対応できるような語彙力を身につけたいと思った。(ねえさん)
15日	理系	した	できた	90	先生のプリントがあまりにも記述が少なかったので、見てもらっても分からなかったのですが、残った問題は解決できました。(桿菌)
15日	理系	した	できた	100	ありがとうございました！
15日	理系	した	できた	90	
19日	理系	した	できた	100	これまでにやったものの復習ができました。
19日	理系	した	できた	100	物理学のレポートの対応をしてもらいました。分かり易い説明ありがとうございました。(tomugs)
19日	理系	した	できた	100	説明を聞いたりすることで自分でもひらめいたので楽しかったです。
19日	理系	した	できた	100	テスト前にすくわれました。
19日	理系	した	できた	90	
19日	理系	した	できた	100	
19日	理系	した	できた	100	
20日	理系	した	できた	100	非常にスッキリしました！ありがとうございました。
20日	英会話		できた	100	簡単な英語を使って、コミュニケーションができた。次回もぜひ来たい。何かワンポイントで使えるフレーズなど教えてもらえたら嬉しいです。
20日	英会話		できた	100	気軽に英語が話せてよかったです。ゲームも楽しかったです！
20日	英会話		できた	100	すごく楽しく英会話できました。最後のゲームは難しかったです。
20日	英会話		できた	80	何も英語がでてこなくて何度かどうしようとなってしまったので、話題を用意しておこうと思いました。
20日	英会話		できた	100	英語ができたにことが改めて分かりました…。SAP行く前に単語や文法の復習したいです…。(ゆうい)【掲示不可】
21日	理系	した	できた	85	非常に助かりました。ありがとうございました。(物理がんぼろう)
21日	理系	した	できた	100	フーリエ級数の使い方がよくわかった。来てよかった。(マリアルの神)
21日	理系	した	できた	100	
21日	理系	した	できた	95	
21日	英会話	した	できた	80	ディベート形式だった。とても難しかったが、実際にイギリスでディベートするはずなので、とても良い経験になった。(シェリー)
21日	英会話		できた	100	とても丁寧な対応で、楽しく英会話ができました。ディベートはすごい難しかったですけど、知らないことが知れて、新しいことを経験できて楽しかったです。
21日	英会話	した	どちらでもない		←自分が眠かったせいです。申し訳ないです…
22日	理系	しなかった	できた	70	もっと前から利用すればよかった。(ラッキー)
22日	理系	した	できた	90	今まで悩んでいた部分がすっきりしました。
22日	理系	した	できた	100	かなり分かりやすくよかったです。(miwa)
22日	理系	した	できた	100	よく理解できた。本当に助かりました。
22日	理系			100	物理の全体的な復習をしました。分かり易い説明でとても助かりました！(tomugs)
22日	理系	した	できた	100	漠然とした質問にもきちんと答えていただけに分かりやすかったです！！(まり)
22日	理系	した	できた	100	担当してくれた方が話しやすいし、説明も分かりやすくて良かった！テスト期間で混んでいたの、次からは授業で分からないことがあつたらすぐ来ようと思った。(おぐってい)
22日	理系	した	できた	100	丁寧に説明していただき本当にありがとうございました。(笠)
23日	理系	どちらでもない	できた	90	初歩的なことから教えてもらえて助かった。
23日	理系	した		90	今までわからなかった所がわかった。教え方が上手でした。(MTA)
23日	理系	どちらでもない	できた	95	良かった！(カン)
26日	理系	した	できた	100	サクサク解決していただきありがとうございました。
26日	理系	した	できた	100	テスト対策をしてもらいました。分かり易い説明ありがとうございました。(tomugs)
26日	理系	した	できた	100	分からなかったところを理解できました。
26日	理系	した	できた	90	
26日	その他	した		90	引用注のつけ方、文章の内容など細かいアドバイスを受けることができました。また話すことにより内容を整理・向上させることができました。
27日	理系	どちらでもない	できた	100	本質的な意味では解決できませんでしたが対応が非常に丁寧で感動しました！(SLA1回目) ありがとうございます。(――)
27日	理系	した	できた	100	理解するまで丁寧に対応していただけました。問題を解くのに必要な本も探したのが新鮮でした。【掲示不可】
27日	理系	どちらでもない	どちらでもない		
27日	理系	した	できた	90	
27日	理系	した	できた	100	とても熱心に教えてくれた。(Ao)
27日	理系	した	できた	100	とてもよかったです。
27日	理系	した	できた	100	すっきりしました。ありがとうございました。

27日	理系	した	できた	79	じっくりわかった！(37)
28日	理系	した	できた	100	自分の力で問題を解けるようになるまで丁寧に教えていただきました。ありがとうございました。
28日	理系	した	できた	100	問題が早く解けて良かったです。(匿名)
28日	理系	した	できた	100	分かりました。ありがとうございます。(さき)
28日	理系	した	できた		
28日	理系	した	できた	100	
28日	理系	した	できた	80	
28日	理系	した	できた	80	
29日	理系	した	できた	100	すごく分かりやすかったです。
29日	理系	した	できた	100	基本的な所から丁寧に説明して頂きありがとうございました。(zk)
29日	理系	した	できた	100	とても分かりやすかったです。
29日	理系	した	できた	100	for 山下さん メッチャ分かりやすい。スピーディー。化学の人が少ない気がします。(匿名希望)
29日	理系	した	できた	100	質問以上のことも解説していただき、助かります。
29日	理系	した	できた	100	
29日	理系	した	できた	100	
29日	理系	した	できた	95	
29日	理系	した	できた	100	
29日	理系	した	できた	100	
29日	英会話		できた	90	聞きとりやすいスピードで、とても優しく会話をしていただき、ありがとうございます。なかなか自分が言いたいことを表現できなくて会話が止まりがちになってしまったので、これからもっと訓練していきたいと思います。ありがとうございます。(くさばっち)
30日	理系	した	できた		レポートのことだけでなく、今後の勉強についても教えていただけだったので、大変参考になりました。
30日		した	できた		
30日	理系	した	できた	90	
2月					
2日	理系	した	できた	100	最高に分かりやすかったです。(バックキ)
2日	理系	した	できた	98	問題が解けて良かったです！(サンタ)
2日	理系	した	できた	100	ありがとうございます。頑張ります。
2日	理系	した	できた	100	的確な、指導をしてくださったので、問題をかいけつできました。ありがとうございます！(まいける)
2日	理系	した	できた	100	がんばります。(さき)
2日	理系	した	できた	100	分かりやすかったです。すごく助かりました。テストがんばります。(あかり)
2日	理系	した	できた		
3日	理系	した	できた	100	利用時間を過ぎた後も丁寧に質問に答えてくれました。ありがとうございます。テストがんばります！(ウエスギ)
3日	理系	した	できた	100	ありがとうございます。
3日	理系	した	できた	100	理解が深まった。
3日	その他	した	できた		レポートの書き方や問題点について丁寧に教えていただき満足しています。(AKB8log3729)
3日	理系	した	できた	90	
3日	理系	した	できた	100	
3日	理系	した	できた	100	
3日	理系	した	できた	100	(ひがし)
3日	理系	した	できた	100	(しんどー)
3日	理系	した	できた	100	
3日	理系	した	できた	100	
4日	理系	した	どちらでもない	50	長い時間の丁寧な対応ありがとうございました！私も頭がこんがらがってずいぶんとお手数かけてしまいました。結論が出て良かったですね^^ (直交座標化☆)
4日	理系	した	できた	90	丁寧な対応ありがとうございました。
4日	理系	した	できた	100	後は自分で解決できると思います！ありがとうございました。(きむう)
4日	理系	した	できた	100	
4日	理系	した	できた	100	教員免許の話も出来て良かった。
5日	理系	した	できた	90	わからなかったところを自分の理解が進むように教えてくれたので、とてもありがたかったです。ありがとうございました。
5日	理系	した	できた	100	跳躍指導を物理的に理解することを助けて頂きました。分野を超えて議論することの重要性を感じたつもりです。(うっちー)
5日	理系	した	できた	100	自分では1つの側面から考えるので精一杯だったが、詳しい考えを持っている人から色々な観点でものを聞けて、非常に有意義だった。(クルマ)
5日	理系	した	できた	95	ていねいに教えていただきました！これでレポートも院試もばっちりです！(わくた)
6日	理系	した	できた	100	1年間大変お世話になりました。来年度もよろしくお願いします。
9日	理系	した	できた	80	勘違いだったので、永遠に悩み続けるどころでした。(かとう)
9日	理系	した	できた	90	分かりやすくして順を追った丁寧な説明をありがとうございました。教科書で使われていた例が結局よく分からないままになってしまいましたね(;;)(あれは教科書が悪かったのかもしれませんが…)

4. センター内活動（研修等）

（1）活動説明会・報告会

① 新規 SLA 向け活動説明会・前期活動説明会

【スライド資料→資料2 - ①】

2014年度の前期活動説明会は、4月9日（水）に実施された。これに併せて、別時間に新規 SLA 向け活動説明会も開催した〔新規 SLA 向け活動説明会（15:30～16:15）、前期活動説明会（16:30～18:00）〕。

新規 SLA 向け活動説明会には、授業 SLA を含む対象学生 12名のうち8名が出席し、『SLA ハンドブック』をもとに、SLA としての活動の基本的事項の説明を受けた。

前期活動説明会は、対象学生 41名のうち31名が出席し、『SLA ハンドブック』にて、前年度からの変更点を中心に説明を受けると共に、パワーポイント資料をもとに今年度のセンターの目標（課題）について共有するなどした。特に、セクション（理系、英会話、ライティング、授業）ごとに、現状の位置づけが大きく異なるため、それぞれの現状に基づいた目標と具体的な TO DO を説明することに重点を置いた。全体的課題としては「SLA としての成長」を掲げたが、セクションごとの課題は、資料2-①のスライド13を参照されたい。なお、ここで掲げた「目標」や「課題」は、センターの意向もさることながら、前年度末に SLA に対して実施した「個別ヒアリング」の結果も色濃く反映されている。



② 後期活動説明会

後期活動説明会は、10月2日（木）16:20～17:50に開催された。参加対象 SLA44 名中 32 名が出席した。後期の説明会は、ア）研修合宿の内容の簡単な情報共有、イ）後期活動方針の説明（前期の活動を受けて修正を加えた点等）、ウ）後期のシフト調整が主な内容であった。

後期活動方針としては、『ともそだち本 2015』の作成についてや、カルテ（質問対応記録）の記入方法の改訂趣旨についてなどの説明を行った。



③ 後期活動報告会

後期（年度末）活動報告会は、卒業生の送迎会を兼ねた形で開催される。本年度は 2015 年 2 月 16 日（月）に 16:30～17:50 に第一部；活動報告会、18:00～20:00 に第二部；卒業生送別会・懇親会を開催した。参加対象 SLA46 名のうち第一部に 29 名、第二部に 28 名が参加した。

活動報告会では、①2014 年度後期利用状況等についてのセンターからの報告、②各部会から 2014 年度の活動について報告、③活動証明書授与を行った。②の部会報告は、本会開催前に実施した部会最終ミーティングの場で SLA 同士が取り纏めた本年度の活動総括と次年度への課題等が示された。その後、卒業生に対し、活動証明書の授与式を執り行った。これまでも室員名で作成した感謝状の授与は行ってきたが、センター長・副センター長名にて、センターとして正式に活動証明書を発行できたことは重要な進展であった。



(2) 研修合宿

① 概要

研修合宿は、2011年度（SLA活動2年目）より開催している行事である。研修合宿の目的は、SLAとしての資質・能力の向上の機会とすることである。具体的には、①SLAの活動への理解（大学教育に関する課題等も含む）を深めること、②メンバー間の交流を深め、チーム力を高めること、③学習支援者としてのスキルアップを図ることを目的に掲げている。2014年度は下表の通り開催した。

研修合宿の計画にあたっては、参加SLAの構成も重要な要素となる。今年度は、合宿初参加者が7割を占める一方で、合宿経験者については合宿に数回参加しているメンバーが多く、経験値の差が大きいことが特徴であった。そのため、1日目終了後に合宿初参加者向けの研修の場を設けたことなどが新たな取り組みであった。

開催日	2014年9月11日（木）～9月13日（土）（2泊3日）					
場所	白石温泉 薬師の湯					
流れ	1日目		2日目		3日目	
	10:00	集合	7:00~ 9:00	朝食	7:00~ 9:00	朝食
	10:10~ 11:10	オリエンテーション	9:30~ 12:00	研修会	10:30~ 12:00	合宿振り返り
	11:30~ 12:30	移動				
	12:30~ 13:00	昼食	12:00~ 13:00	昼食	12:00~ 13:00	昼食
	13:30~ 18:00	前期総括会	13:30~ 17:30	ワークショップ	13:00~ 14:00	移動
					14:10	解散
	18:00~ 19:00	夕食	18:00~ 19:00	夕食		
	19:00~ 20:00	初参加者向け 研修会				
参加者	センター員：教員2名、事務員1名 SLA学生：20名（うち、5名は途中参加 or 途中帰宅） ※研修対象学生40名中 （内訳） <ul style="list-style-type: none"> ●合宿経験者…5名 合宿初参加者…15名 ●D1…1名、M2…8名、M1…3名、4年…7名、3年1名 ●活動開始～半年未満…6名、半年～1年…4名、1～2年…4名、2～5年…6名 					

② 前期総括会

【スライド資料→資料2 - ② - i】

前期総括会は、センター員による報告と SLA による報告から構成されている。センター員からは、センター全体の活動総括、統計データを踏まえた利用傾向についての報告が行われた。

各部会からは、各科目の利用状況の傾向分析結果や、対応中に感じたこと、他部会に向けてのメッセージなどを織り交ぜた報告が行われた。各部会の報告の特徴は次の通りであった。

●物理部会

: 次年度の対応に活かせる情報を提供することを目的に、具体的な質問・対応の事例を織り交ぜた報告を行った。学生の主体性を育む支援の在り方の例を3つ紹介し、対応をどう工夫したらよいかを考えるヒントとなった。

●数学部会

: 質問に来る学生の傾向として、数学的な議論に慣れていない学生が多いとの見地に立ち、学生のつまづきどころ・SLA のアドバイス方法などについての紹介を行った。

●化学部会

: 本部会が独自に行っている「部会ノート」の活用方法や効果等の紹介を行った他、物理・数学部会との境界領域になるような分野を例に挙げ“化学”のスタンスを紹介することで、部会間の認識の相違点を共有する報告を行った。

●英語部会

: 日頃の活動から学生と“コミュニケーション”することがメインの活動である英語部会は、主に理系部会に向けての知見提供として、学生への接し方やコミュニケーション上の具体的なコツ・注意点などの報告を行った。

●ライティング部会

: 英語部会と類似の趣旨により、理系部会に向けての知見提供として、学生対応時に行う“コンサルティング”(ここでは学生への聞き取りを通して課題を探っていく作業のことをほぼ意味する)のコツなどの知見を提供した。

このほか、前期 Semester 中に特徴的だった活動について SLA より報告をもらった。

●特別支援の対応について

: 学生相談・特別支援センターとの連携によりサポートを行ってきた学生への対応について報告を行った。特別支援を通して、通常の窓口での対応に活かせる知見を得られたとの報告であった。

●水曜午前シフトについて

: 当該シフトは、特定授業の質問者が殺到したシフトであった。そのため、このシフトでは1組30分対応の時間制限を設けて対応を行った。また、質問者が複数人いるグループ対応が多かったことや、特定授業の質問のために同じ個所の質問が多く来るといった特殊な状況だったため、それらの状況報告と共に、①時間制限を設けても学生側の満足度にあまり変化はなかったこと、②同じ質問はまとめて対応することもあったが、同じ個所の質問でも習熟度が異なるために一緒に対応するのは難しいこと、③質問学生たちが知人同士の場合は、理解の速い学生に他の学生へ教えてもらうよう促すと良い、といった報告者の所感が報告された。

最後に、今期から活動を開始した新規メンバーより感想等をもらい、前期総括会とした。

本年度の前期総括会は、これまでの合宿の中で最も充実した情報交換が行われた会となった。各部会が、それぞれの活動をきちんと他に伝える形に総括できていたことや、他部会を意識した報告内容の選定を行っていたためと思われる。合宿全体の中での前期総括会が担った効果が、本年度合宿においては非常に高かったと、センター員としては感じている。



③ 合宿初参加者向け研修会・研修会

【スライド資料→資料2 - ② - ii・iii】

「研修会」は、“教育”や“大学教育”に関する知識的な補充を行う講義型の研修の場である。理系学生が大半を占めるSLAはこれらの話題に触れる機会が少ないため、SLAの活動を俯瞰的に捉えられるようになることを目的にこうした場が設けられている。例年、2日目の午前中に行われているものだが、合宿に複数回参加しているメンバーにとっては重複する内容も多いため、重複する部分は1日目夜に「合宿初参加者向け研修会」として講義し、2日目午前には新たな内容で研修会を編成し直した。

どちらの会においても、“教育”“大学教育”の広い視野から“SLA”を捉え直し、理解を深めることが目的ではあるが、これまで＝本年度合宿においては「合宿初参加者向け研修会」では、歴史的な説明が中心であった。そこで、本年度の「研修会」では、SLAの活動と似ていると考えられる他の活動との比較の視点を新たに加え、「ピアサポート」「学生FD」「TA」の活動などを取り上げることで、SLAの特徴について理解を深めていった。この他、次の時間に企画されているワークショップでの作業につながるものとして「評価」についての話題に触れ、学生の見方や自身自身の活動の振り返り方のヒントとなるような話題を提供していった。

④ ワークショップ

【スライド資料→資料2 - ② - iv】

ワークショップは、前年度以前のワークショップの経緯を踏まえつつ、本年度の顔ぶれを勘案しながら毎年テーマを定めている。簡単にこれまでの変遷を振り返ると、1年目は「大学生」に必要なスキルを考えるワーク、2・3年目は、「SLA」に必要なスキルを考えるワークであった。ただし2年目は、活動しているSLA自身の体験の振り返りであったのに対し、3年目は運営者側の評価の視点に立つワークを実施した。この流れを受け、合宿4年目にあたる本年度のワークは、SLA自身が自分たちの行動基準＝目標を創出するワークを実施した。詳細は以下の通りである。

テーマ：『SLAによるSLAのためのSLAルーブリックを作成せよ』

趣旨：SLAの行動基準＝目標を自分たち自身で創出する

予定時間：13:30～17:30（4時間）⇒実際はプラス20分ほど

主な流れ：

Section1 SLAの“イイ姿”をイメージする（約40分）

- ① まずは素朴イメージ（個、グループ）
- ② 写真を提示し、「SLAの活動」の指す幅広さを喚起（軽く）
- ③ ①とは異なる側面でイメージ

Section2 観点を洗い出す（約50分）

- ① Section1の作業からいったん離れ、（このワークショップを特に意図せず書かれた）SLAのセメスターアンケートにおける、「一目置くSLA」の情報を材料にする
- ② そこに書かれた「理由」の記述語を分析し、観点をグルーピングしながら洗い出す

Section3 Section1とSection2の作業をもとに、ルーブリックの観点を5つに選択・決定（約20分）

Section4 ルーブリックの基準部分を作る（約100分）

- ① 尺度は事前に決定。基準の文章の書き方の注意点を提示。
- ② 途中、簡易的な他家受粉の時間を入れる
- ③ 完成

おまけ 「ループリック」全体に1票、「観点」に1票、よいと思ったものに投票

グループ構成：くじ引きで決定

A班…3名(担当科目：化・化・数、学年：M1・M1・M2、経験年数：1・1.5・2)

B班…4名(担当科目：数・英・数・数、学年：M1・4・4・M2、経験年数：0.5・0.5・1・3)

C班…4名(担当科目：化・物・化・英、学年：4・3・4・M2、経験年数：0.5・0.5・0.5・1.5)

D班…4名(担当科目：物・数・数・ラ、学年：M2・M2・M2・M2、経験年数：3・3・3.5・4.5)

E班…4名(担当科目：物・物・英・物、学年：4・4・M2・D1、経験年数：1・1・1.5・3)

ワークショップは、長時間の作業にも関わらず、休憩時間中に議論を続ける風景が見られるほど集中が途切れることなく活動が続けられた。本ワークでは「ループリック」の作成と掲げているが、成果物は「ループリック」としての完成度は低いものかと思われる。しかし、ループリック作成の作業やそれに伴う議論を通して自分たちの活動を相対化したり、自覚化したり、言語化するという目的は達成できた。参加学生の感想なども参照されたい。



■ワークショップ成果物

A

2票

観点	Excellence	Good	Needs Work	Bad
対応において学生が利用しやすい雰囲気作り	学生と心を通わせ、対応を抜きたした良き友人になりまた来たいと思わせることができた。(固定客、名前で呼び合うなど)	雑談などもし、質問しやすい雰囲気が作れた。	雑談などもなく、単純な対応に終始した。	一方的な対応のみで双方向のコミュニケーションが取れない。
S L A が働きやすい雰囲気作り 1票	S L A 同士の親睦を深めるためにイベントを企画し、実行できる。(飲み会、B B Q、芋煮など)	普段の業務の中で、積極的に話題を提供し明るい雰囲気作りにも努めることができる。	空き時間に(ラブラライブを除く)雑談をすることができた。	報連相を怠ることが多い。(メールを返さない、あいさつをしない、など)
担当科目に関する専門性 1票	専門分野は勿論、他の分野にも素養があり、横断的な説明ができる。	専門分野に詳しく、発展的 or 分かりやすい説明ができる。	学部1・2年生程度の内容にはほとんど答えることができる。	S L A 試験問題が解けない。
意識・向上心 1票	S L A の仕事に誇りを持っており、課外活動(雑学ゼミ etc.)にも積極的に取り組む。また、S L A の業務改善向上への意識も高く、それを行動に移したり、発信・提言したりする。	サポート室全体の取り組みにも意識を向けており、イベントや課外活動の際に、積極的に手伝いや協力をする。	自分の対応に関しては向上心を持ってやっている。	S L A 活動を単なるバイトとしてしか考えておらず、向上心を持たない。
学生の視点に立ったアドバイス 1票	学生の主体性を引き出す工夫ができる。学生の今後の成長を促すようなアドバイスや目標設定ができる。(勉強法、ツールの紹介、宿題など)	学生の主体性を考えて、誘導的な問いかけができる。	学生の質問の意図をくみ取り、対応することができる。隠された課題を発見・指摘できる。	聞かれたことに答えているだけで、(悪く言えば)便利屋的な存在になっている。

B

4票

観点	Excellence	Good	Needs Work	Bad
対応中の雰囲気作り	何でも話せる親近感を抱かせることができ、必要に応じて厳しくできる。	落ち着きをもって優しく丁寧に対応し、安心感を抱かせることができる。	対応する側が緊張してしまい、学生の表情を見る余裕がない。	無表情や無関心な態度が出てしまう。
知識発信力と収集力 1票	興味関心が広く、自分の専門分野に限らず、様々な話をすることができる。分からないことも、調べつつ教えることができる。	自分の専門分野について詳しく説明することができる。他分野のことについても、学生と一緒に調べ、考えることができる。	1, 2年生の教養の内容については説明できる。分からないことは、専門書で調べて教えることができる。	1, 2年生の内容もおぼつかず、調べることもできない。
教育的バランス(学生のニーズに合った教え方、S L A としての教え方)	学生が自分で学ぶ姿勢や、その方法を示し、学生が実践できる。	学生と一緒に、問題を解決することができる。学生に、疑問を持たせることができる。	自分で解決した問題を、解説することができる。	学生の疑問を、自分が解決し、納得するだけで満足してしまう。
S L A の運営、連携に関わる姿勢	新しいものが企画できる。多くの人を巻き込んで運営できる。	自分の意見を持ち、議論はできるが、具体的な行動に移せない。	自分の意見はまだないが、指示されたら動ける。	活動に消極的、自分の意見なし。
情熱 3票	S L A 活動に積極的に参加し、自分がどの様に全体に貢献し、自分の成長につなげる具体的な考えがある。	S L A 活動に積極的に参加し、自分が活動を通してどのように成長したいかというビジョンがある。	S L A 活動の内容、目的を理解していて、活動に参加したが、個人的な意義を見出せなかった。	S L A 活動の内容、目的を理解しているが、参加には消極的である。

C

4 票

観点	Excellence	Good	Needs Work	Bad
専門知識	幅広い分野の知識を持ち、別解や周辺知識も教えられ、質問に対して正しく答えられる。	自分の分野について理解し、あらゆる問題を解決する能力があり、参考文献を紹介することができる。	自分の理解範囲を理解して、できない問題は他のSLAと協力して答えられる。	理解範囲を認識できていない。
SLAチーム内への貢献度	SLA内の交流を深めるための企画が立てられ、他部会のSLAと情報共有ができ、部会で積極的に発言できる。	他部会の人と仲良くでき、自分の部会のカルテによく目を通し、有意義なコメントができる。	自分の部会の人とは仲良くでき、サポート室に必要事項の報告ができる。	SLA間での交流に消極的で、遅刻など周りに迷惑をかけるようなことをする。
人間的魅力 1 票	また来たくなくなる、あるいは自由に出入りできる雰囲気を作れ、学生が発言しやすい接し方ができる。	初対面の人でも来やすい雰囲気を作れ、笑顔をやささず、あいさつができる。	学生さんの話を聞くことができ、頭ごなしに否定しない。	学生さんにきつい言い方をし、それに気付かない。
プレゼンカ 3 票	学生が内容に興味を持ちやすい構成で、学生が後から見ても復習できるように説明できる。	声のメリハリをつけて説明ができる。読める字で、キーポイントを押さえて説明できる。	学生の反応を見つつ、対応することができる。	学生の反応を見ず、不適切な声量で、学生のレベルに合わない説明を一方的にする。
ともそだちの姿勢 1 票	学び合いの姿勢を持ちながら、学生の自主性とは何かを考えた対応を、学生のレベルに応じてできる。	学生と対話をしながら、対応できる。学生のニーズを正しく理解している。自分の反省を次に生かすことができる。	学生のコンサルティング(学部・学科・授業等)をしてから対応する。	学生に興味がなく、質問された問いだけを解いたり、質問だけに答える。

D

2 票

観点	Excellence	Good	Needs Work	Bad
知識 1 票	〈理系〉その科目について、教養科目だけでなく、専門科目の知識もあり、専門外の人にも興味を持たせられる。 〈英語〉ネイティブが来てても大丈夫。 〈ライティング〉どのような分野の文章が来て、普遍的な知識・技術を使って対応ができる。卒論・修論レベルでも対応可。	〈理系〉その科目について教養科目の講義だけでなく、専門科目の講義に値する知識を有する。 〈英語〉発展的な会話ができ、どんな話題でも即対応可。 〈ライティング〉ライティングについて知識と理解があり、適切な状況判断とアドバイスができる。	〈理系〉教養科目の講義で単位が取得できる程度の知識があり、分からないことがある場合は自分で調べることができる。 〈英語〉日常会話ができ、適切な教材を作り使用することができる。 〈ライティング〉卒論などは書いたことがないが、簡単な文章添削はできる。	〈理系〉学部1, 2年生程度の学習が身に付いていない。分からない内容に対して、どのように調べればよいかわからない。 〈英語〉日常会話ができない。 〈ライティング〉ライティングの指導を受けたことがなく、ルールに沿ったレポートを書くことができない。
情報共有	〈ハウレンソウ〉事実を端的に正しく伝え、そのうえで自分なりの意見を加えることができる。 〈カルテ〉学生のキャラを加味して、それに対してどう問題と方針を設定してその下でどう対応したか、なぜその方針にしたかが書いてある。	〈ハウレンソウ〉自分が重要だと思ったことを伝えられる。 〈カルテ〉読み手がその対応をイメージできる。	〈ハウレンソウ〉何か報告することがあるか聞かれたら、報告できる。 〈カルテ〉字がきれいで文章が整理されており、読み手を意識してカルテを書ける。	〈ハウレンソウ〉問題があっても報告しない。 〈カルテ〉ひとりよがりのカルテになっている。
対応力	学生もSLAも常に笑顔で対応ができる。難しい内容の対応でも自分のペースを保つことができる。	適宜SLAから雑談を入れることができ、学生をリラックスさせることができる。	ヒアリングを通して、学生の状況を適切に理解できる。	学生に発言を求めず、SLAが黙って考えるだけの時間が多い。学生に対して先入観を持っている。
雰囲気	〈対応時〉利用学生と名前呼び合うことができ、どうにか質問を作ってもSLAに来たいと思ってもらえる。	〈待機中〉身だしなみに気を配ることができる。 〈対応時〉利用学生と名前呼び合える。	〈待機中〉カウンターの整理整頓ができ、最低限の清潔感のある身だしなみができる。	〈待機中〉SLAが大声で雑談をしている。質問をしたい感じを出している学生を無視する。
自主性	自らが新しいイベントを企画し、リーダーシップを発揮し、皆を巻き込んで進めていくことができる。	既存のアイデアに自分の意見を取り入れ、改善していくことができる。	自分でできることを積極的に探すことができる。	常に指示待ち。

E

2 票

観点	Excellence	Good	Needs Work	Bad
専門知識	他分野にわたる幅広い知識を有し、対応が可能。&他のS L Aにも分かりやすい説明ができる。	専門分野について幅広い知識を有し、学生や他のS L Aに分かりやすく説明ができる。	専門分野であれば、標準レベルの問題を調べながら教えることができる。	専門分野について、標準レベルの問題が調べてもわからない。(→教えることもできない)
対応力	学生に対して親身になるだけでなく、時には突き放した対応をし、学生の主体性を高めることができる。	学生に親身に接することで安心感を与えることができるが、ノンアサーティブな対応が多く、学生を主体的にすることができない。	学生を不安にさせるような言動はないが、質問に答えるのに精一杯で安心感を与えるには至らない。	学生を不安にさせるような言葉が無自覚に発してしまう。
事務処理能力	時間のやりくりが上手い。業務日誌を積極的に書く。フロア全体の清潔感の維持に努めることができる。	遅刻や無断欠席及びメールの不通がなく、10分前行動ができる。自分の物を整理できる。	遅刻はあるが、無断欠席やメールの不通はない。	遅刻や無断欠席、メールの不通が多く、注意をしても直らない。
貢献心	勤務外でもS L A間で交流を図ることができる。or組織としてS L Aの成長を考え、提言する。(サポート室への配慮)	(勤務中) 対応外において、自分ができることを見つけて実行できる。(カルテに書き込みetc.)	言われたことはできる。(指示されないと行動しない)	周りのやる気を削ぐような言動をする。
情報共有	ふと感じたことを日誌にまとめたり、サポート室に話すなどして、全体へ発信することができる。	カルテを他者が読んでも分かりやすく書くことができる。	連絡に回答したり、カルテを書いたり、最低限のことはやるが、他者へ分かりやすい説明することが苦手。	連絡が取れない。カルテを書かない。

3 票

⑤ 合宿振り返りシート（参加者の声）

合宿最終日には、合宿で学んだことの振り返りを共有する場を設けると共に、「振り返りシート」を個人に記入してもらっている。用紙と回答の全てを下記に掲載する。

（用紙）

名前
<hr style="border: 2px solid black;"/> <h2 style="margin: 0;">合宿振り返りシート（アンケート）</h2> <hr style="border: 2px solid black;"/>
合宿についての感想をお聞きます。
<p>1. 各企画について</p> <p style="padding-left: 20px;">以下の各企画について、満足度とコメントをお願いします。</p> <p>①前期総括会 _____ 点（100点満点中）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; width: 90%; margin-left: 20px;"> { } </div> <p>②研修会 _____ 点（100点満点中）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; width: 90%; margin-left: 20px;"> { } </div> <p>③ワークショップ _____ 点（100点満点中）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; width: 90%; margin-left: 20px;"> { } </div> <p>④（該当者のみ）初参加者向け研修 _____ 点（100点満点中）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; width: 90%; margin-left: 20px;"> { } </div>
<p>2. 総合</p> <p>①今回の合宿の総合満足度は何点ですか？ _____ 点（100点満点中）</p> <p>理由</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; width: 90%; margin-left: 20px;"> { } </div> <p>②合宿に関して、要望や提案が何かあれば、お書きください。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; width: 90%; margin-left: 20px;"> { } </div>
<p>ご協力ありがとうございました☆</p>

(結果)

1-① 前期総括会 平均点：92点

90	英語やライティング部会の報告を聞いて、うすうす知っていたことのイメージがはっきりついた。特殊対応の話も参考になった。
100	数年にわたって SLA 全体が積み上げてきたもの(対応のノウハウなど)が開花してきた感がある。過去最高の総括会であった。
100	それぞれのプレゼンが特徴的で、レベルが高かった。聞いていて興味深かった。
90	後輩に指示を出したり、メンバーをまとめたりする作業は大変だったが貴重な経験をすることができた。
80	長いです。
80	他の部会のことをよく知ることができたのと、プレゼンの仕方を学ぶことができました。
100	どの部会の方々も創造性あふれる内容で自分たちもまだまだできることがあるなと思わせていただきました。
100	例年に比べ情報量が多く、楽しめた。その分つかれたが…
90	プレゼンの内容が充実しており、とても勉強になりました。特に高畑さんと寺岡さんのプレゼンが勉強になりました。
100	昨年はある部会→ある部会の要望だったので、当該部会以外は置いていかれている感がありましたが、今年は全体に還元できるような工夫がされていて、かなり頭を使いました。
100	他の部会が普段どの様なことをやり、どのようなことを考えているかを知ることができて良かったです。とても勉強になりました。
100	各発表ユニークな視点で、今後参考にしたい話が多かった。
80	報告しただけで終わって、反省や議論が少なかった。(特に SLA 全体の真衣さんの報告は単に報告だけで分析がなかった)
80	それなりに発表できたのでよかったです。
90	統計等、今後の活動にすぐためになる内容でした。他の部会？との交流ができて良かったです。

1-②研修会 平均点 85.83点

90	アサーティブなど、普段皆がやっていることに明確な定義や区別を与えて整理することでポイントがはっきりして良いと思いました。
100	「常にアサーティブである必要はない」という内容が印象的。今後の対応に生かしていきたい。
100	昨年になかったテーマが聞けた。キャンパスライフ支援室TAもやっているの、TAと SLA との違いが分かったのは良かった。時間があつという間にすぎた。
80	人とのコミュニケーションの取り方については日常生活でも役立てられそうなことを多く学ぶことができた。
70	
90	SLAとしての活動について、考える機会になりました。
100	全国的な動きや歴史などもわかって SLA 活動の意義を再認識することができました。
80	今年は教育の一般論よりも SLA そのものについて考える時間が長かったように思う。しかし自分の集中が持たなかった…
85	SLA に似た組織について調べ、SLA として何ができるのかを考える上での参考になった。苦楽戦隊ピアレジャーの印象が大きかった。
80	ピグマリオン効果、ハロー効果、アサーティブなどの概念やEQIなどの指標について学ぶことができ、有意義な場となりました。
80	午後のワークショップがあまりにも印象が濃くて、それと比較すると 80 点ですが、実際に1対1になって断り方をどうするか？といったことが実践ですぐに使いそうよかったです。パワポの資料が手元にあるとずっと聞きやすかったかな、と思います。
80	知識として、他大学の取り組みを知れたり、コミュニケーションパターンを知れたのでよかったです。ただ、眠くなってしまうので、もう少しディスカッションの時間がほしい。
90	普段、教育について勉強できる機会がないのでとても良かったです！ただ、(教職とってないからか?)話がちょっと難しいと感じることもありました。
80	聞く話としては面白かったが、そこから具体的なものが想像できず、やや聞き続けるのが苦しかった。
80	話の中で、自分の経験とむすびつく所が数多くあり、大変ためになった。Assertion の所は印象深い。自分は明らかに Aggressive だ。

90	学生の評価の観点の比重が、今まで評定によっていたので、学生自身・個人を見た分析・評価を目指そうと思った。
80	教育について知れてよかったです。
90	教育の現場の話がすごく良かったです。

1-③ ワークショップ 92.89 点

100	ルーブリックをつくる中で、他の人が日頃感じている・重視していることを知れた。また、観点のジャンルは同じでも、言葉遣いや切り口が班によって違い、面白かった。
90	SLAとは何か？ 普段からぼんやりと考えてはいたが、それを客観化(文章で可視化)する良い機会であった。集中して取り組んだものの、まだまだ客観化できていない面も多い。これからも思う存分悩み続けたい。
90	内容が高度だった。M2だけのグループができたのは、良くない。
90	SLAとして働く上で必要な能力を客観的に知る良い機会だった。久しぶりにすごい頭を使った。
100	
100	他の人と協力してルーブリックを作成でき、満足なものができました。
100	内容的にとってもハードでしたが、今後の指針や目指すべき姿については自分の中で考え直したいと思っていたのでとても良い機会になりました。
90	M2たちのグループで楽しくできた。去年の”採用試験”より考えること整理することが多く、時間が足りなかった。もっと良いものにしたかったので悔しい。
87	ワークシートをつくる過程で、今後どのような力をつけていべきか考えさせられた。チームのメンバーの言葉やアイデアをまとめる力も感じる事ができた。
80	ルーブリックの作成を通して、SLAとして求められる能力や心構えなどを確認するいいきっかけとなりました。
100	長時間何するんだろう…長いな…と思っていたのも束の間で、グループで真剣に取り組んでいたらいつの間にか終了時刻でした。時間を忘れて本気で取り組めるワークを作って頂いてありがとうございました。ちなみにうちの班が一番トロイ理由は平均年齢が高かったからだと思います(笑)
90	グループでたくさん話せたので、他の SLA がどのような理想像を持っているのかわかってよかったです。理系 SLA と英語 SLA の意識の差もわかった。各グループがみんなの前でプレゼンをする時間がほしかった。
100	SLA 活動について、今までにないくらい考えさせられました。また、他の人の考えも聞けたのが良かったです。「時間がもう少しあれば…」とも思いましたが、制限時間内に最大のクオリティのものを仕上げるのも SLA(大人?)に必要な素質ですよね…
100	一見いろんな作業に振り回されるようで、最後に一つにつながって成果物になっていたのは、実際に体験してて見事だと思った。
85	とても苦戦した。観点の項目がはっきりしないせいで、excellence, good, needs work, bad の着眼点に苦戦した。最終的にはよくまとまったと思う。グループは全員後輩だったので、普段自分がどのようなことを考えて SLA を見ているのかを強調した。
100	学問を教える(専門知識)以外の SLA に求められる指標を整理できた。
85	集中して取り組むことができました。
85	SLAとして自分がどういう所で足りなかったか等、客観的に考えてみる事が出来、すごく良かったです。

1-④ 初参加者向け研修会 平均点 86.11 点

100	大学教育の変化と SLA の関係が明示化され、普段もやっと考えていたことに言葉と後ろ盾が得られた感じです。
100	
80	研修会と内容がかぶることもあったと思いますが、SLA の活動意義を知ることができました。
100	実は以前聞いた内容でしたが、自分にとっては難しい内容なので改めて勉強できて良かったです。
80	SLA の成り立ちを知ることができた。今の大学の役割、その中での SLA の位置づけなどを知ることができた。
100	歴史を追って教育を見ていたのが面白かったです。そして研修を短くしてもらったのも有難かった…。もっと時間と体力があるときに詳しいこと聞きたいです！
80	教育とともそだちの違いを整理できた。
50	あまり頭に入っていないです。
85	おもしろい内容だったのですが、時間のよゆうがなく早くすすめたので、ざんねんでした。今度はもう少しゆっくり聞いてみたいです。

2 総合 平均点 92.28 点

100	いつもはあまり顔を合わせない人とも多く話せた。[]が危険人物だと判明した。今まで「自主性を育てる＝何でも一人でできるようにする」と考えていたが、特殊対応の話を聞き、「頼れるものを適切に頼って前にすすむ」も自主性だと感じ、考え方が広がった。
100	総括会・ワークショップ共に質・量の両面で過去にないほど充実していた。この2つの企画に集中していたら2日間があつという間にすぎ、暇を感じる事が一切なかった。これまでよりも色々なSLAとお話してきたのも良かった。
100	前期のふりかえりはレベルの高いプレゼンが聞けた。研修会では、自分と大きくかわるテーマで興味深かったため。
90	他のメンバーと仲良く話すことができたのが一番の収穫だった。
90	前期総括会のレベルが思っていたより高く、ワークショップ等SLA間の交流を促す企画があり、非常に実のある合宿でありました。しかしご飯が冷たく、悲しかったので-10点し、90点にしました。学さん、足立さんのせいではありません。とても楽しい合宿でした。ありがとうございました。
100	楽しかったです。来年も参加して、SLAの活動をよりよくするために頑張りたいと思います。
100	初参加で始めはスケジュールがぎっしり詰まったハードなものを想像していましたが、意外とゆとりもあつたし、料理も豪華でお風呂も気持ち良く、夜も長時間寝られて良かったです。
90	SLAとの交流、ワークショップなどのおかげで、詰まった日程中でもにぎやかにやれたと思う。詰まったスケジュールのためか、3日間があつという間でした(去年はもっと長く感じたような)。しかし、間に外をふらつく時間がとれる方が良かった。
88	SLAの活動をこれから行っていく上での課題や身につけるべきスキル、例えばコンサル力などが分かった。何といても、SLA同士のコミュニケーションがとれたことが大きい。これからの連携に役立てたい。
80	一日目、参加できなくてすいませんでした…。SLAに求められる能力、SLAとしての活動を振り返ることができたからです。SLAメンバーとの飲み会は、本当に楽しかったです！
100	昨年よりも内容が濃く、疲れしました。全体に内容が還元でき、全体として考えなければいけない仕掛けとなっており、チームとしての意識も高まったように感じました。
85	1日目の前期総括会がとても濃かったそうなので、途中参加にしてしまったのが悔やまれたけれど、それを補うくらいワークショップやみんなとの食事、飲み会が楽しかったからです。後期からのSLA勤務に向かう気持ちが変わりそうです。…あとの15点は、宿のご飯が私には少し合わなかったことです…(食べたけど)。
100	知っている参加者が少なかったのが不安でしたが、SLAの先輩方がとても優しく多くのことを学べました。他の部会の人と会えたことが一番の収穫だったのかな、と思っています。今回学んだことをこれからの活動に生かしていきたいです！
100	初参加で、何をやるのか想像がつかなかったが、実際はとても面白かった。普段自分が考えていることを聞いてもらう一方で他の人の意見をもらえたのは楽しかった。後、個人的には白石なのがポイント高い！！
90	初参加の一昨年の合宿よりも顔が広がったせいか、多くの人と話ができたという印象。M2の仲間がもう最後の参加になると気づいたら、さびしくなった。
80	概ね、SLAに求められているものの認識を深められた、という意味では良かったが、わかった、だけで終わって、だからどうすればいいのか、まで続かない企画があり、残念だった。
80	研修などの活動は割と集中力を保って取り組めた。花粉のせいで死にそうでした。次回は医者に行ってから来たいです
88	自分で考えてみる課題をだしてもらって、いろいろ考えてみるきっかけになりました。

※ []部分について、冗談なのですが誤解を招くので個人名は伏せました。

3. 要望提案

(無理を承知でいえば)学会と時期がずれているとありがたいです。
秋保や作並か忘れたが、おいしいおはぎが売っているスーパーがある温泉街で研修合宿してみたい。
飲み会に参加していない人への日程変更の連絡をしっかりとされた方が良いと思う。
来年以降も温泉があるところがいいですね。
前期総括会で時間制限を意識するため、ベルを鳴らすのはどうでしょう。持ちタイム残り2分の時と、持ちタイム終了時に1回ずつ鳴らすだけでもテンポよく進行してくれると思いました。
また温泉で合宿したいです！！
移動にあまり時間がかからない場所であれば、3日目も何かあったらいいかもしれない(頭を使うものでなく、体を動かすゲーム等)。
来年からは参加できませんが、今年のように全体が考えることが多ければどの部会にとっても有意義なものになると思います。
研修会の時間はもう少し縮めて、グループワークやディスカッションの時間にあててもいいのかな、と思いました。
特にないです。
観光する時間が…！と思いましたをご用意していただけて嬉しかったです。
朝が早いです。

(3) 部会活動

学習支援センターでは、担当科目（物理、数学、化学、英語、ライティング）毎に部会を設定し、毎月1回（90分）定例会を開催している。これまでの定例会は各部会の特性に応じた方法で運営してきたが、本年度は理系の部会は運営方法を共通化し、提携の枠組みを作った上で、運営を行った。

具体的には90分の定例会を二部構成にし、前半45分を情報共有、後半45分をケーススタディとした。これにより、各科目全体の情報を集約する動きと、学習支援のスキルアップをはかる動きを兼ね備えた定例会となった。前半の取りまとめは部会長が行い、後半の企画・運営を月替わりの担当者（ホスト）が行うように変更したことも特徴である。加えて、議事録の作成を取り決めたことで、定例会欠席者への情報共有が比較的容易になった。

以下、部会ごとの活動報告を行う。活動報告には、部会長が執筆したレポートも併せて掲載する。

①物理部会活動

本年度の物理部会は、2つのグループに分かれて活動を行った。物理部会はSLAの中で最多のメンバーを擁する部会である（前期14名、後期17名）。そのため、日程調整が困難なこととや参加人数が多すぎると一人一人の部会への貢献度合いが低くなってしまいうこともあり、本方式を採用した。そのため、部会長も2名体制（いずれもM2生）とした。2グループに分けての活動は、参加者が当事者意識を持って会に臨める点や、別の発想からの提案が生まれることなどがメリットであったが、部会全体としての連帯感を醸成する点ではやや例年より劣る結果となった。またグループに関しても、グループメンバーを固定したわけではなく、その都度2班に分ける形を取った。これについても良し悪しは両面あり、メンバーを固定しないことで、メンバー間の多様な交流を生める反面、継続性のある活動を生みづらくなるというデメリットが生まれた。

定例会の開催過程は次の通りである。

	A班	B班
5月	I. 対応が難しかった事例4件の検討 II. 「回転座標系で、コリオリ力が働く原因を数式を使わずに分かりやすく説明せよ。」(出題;センター)	I. 対応が難しかった事例3件の検討 II. 定積比熱と定圧比熱の大小を考えた時定圧比熱の方が大きくなることを式を使わずに説明せよ」(出題;センター)
6月	I. 工学系の力学「クサリ問題」についての検討 II. 数物演習11章 非同次線形微分法の問題にどのように対応するか?(ホスト;高畑)	I. 「レビチビタの記号」の問題についての検討等 II. 極座標のラブラシアン導出問題を使った模擬対応(ホスト;北原)
8月	前期の総括と合宿における部会活動報告作成の検討(合同で開催)	
10月	『ともそだち本2015』の方針検討(合同で開催)	
11月	I. 各シフトの状況共有等 II. 学生の情報(理解度を含む)を引き出すための模擬対応(ホスト;白井)	I. 対応中に感じた疑問点などの共有 II. ある問題について「定性的理解」を得るための対応方法の検討(ホスト;別所)
2月	本年度総括、次年度への課題	

※ I = 情報共有、II = ケーススタディー

物理部会は、ケーススタディに力を入れた学生が多く、単なる物理的内容理解に留まらない関心でケーススタディが企画されていた。中でも、ケーススタディに模擬対応形式を取り入れた回は、部会メンバーにとっても強く印象に残ったようであった。ケーススタディを企画したホスト役にとっても、自身が

SLA の活動で大事にしていることを見直す機会になると共に、ワークショップのような企画の設計・運営の難しさを知る貴重な学びの機会となったようである。以下、ホスト役となった 2 名の学生の振り返りの文章を、部会記録より転載する。

学生A

今回は、ケーススタディのホストとして、問題、学生、対応の目標の設定等を行った。準備として学生の設定、教科書、授業プリント、解いたレポート等の準備をし、できるだけ実際の学生の条件に近づけて、状況づくりを行った。対応は、単独対応、チーム対応に分けてそれぞれの対応の違いを見るようにした。

状況づくり、対応の雰囲気づくり、学生のキャラづくりに関しては告知から 1 週間という短い時間で作ったにしては、上出来だったのではないと思う。細かい部分、特にどこに主眼をおいて対応するか等、については学さんに助言をいただいて行ったのでそれほど悪くなかった。

1 つ心残りなのは「議論」のパートである。議論をもう少しうまくできなかったかなと思っている。全体的な印象としては、うまくまとまらなかったという感じを私は非常に受けた。原因の一つとして、私に迷いみたいなのがあったからではないかと考えている。今回、ホスト役をやらせていただき、ねらいについては、結構深く考えた。そのため、共有したいことが多くあった。その一方で、ホスト役として「議論を回す」という役目もあり、「こういうことを共有したい、議論したい」という自分と「議論の主演はあくまでみんな」というところで葛藤があった。ホスト役が議論を回す場合には、「意図」を一度忘れ去ることが重要であるということも学んだ。

これは、私の問題だが、私は議論をする際にどうしても主観的になってしまいがちで、議論を回す際に客観性を保つのが結構難しかったりする。議論を回す際、ホストが傍観者を貫けない場合は、客観的な観点から議論を回す役割を足立さんや学さんなど違う立場の人が行った方がよいのかもしれないと感じた。

よいケーススタディであったとは言えないかもしれないが、私個人としては自分の課題点が多く見付き、非常に収穫の多いものであった。参加していただいた皆さんの対応の役に少しでも立てばよいと思う。

学生B

まず、今回のケーススタディでは学生の設定や質問内容、皆で議論したい内容を記したレジュメを作れなかったので、進行がぐだつてしまった。その点は反省したい。特に議論したい内容については皆で話を進める中で掴めてきた感じがあったので、予め十分に煮詰めるべきであった。

今回のケーススタディで主に話し合ったのは、「SLA は学生に対してどの程度まで説明すべきか」という点だった。端的に言えば学生が質問してきた事に対して、必要最低限で簡潔に説明すべきなのか、逆に大切と思われる関連事項について SLA が補足説明もすべきなのか、という事である。

このことについて部会後に足立さんと学さんと夜 9 時まで話した。結局学生さんは十人十色なので、どこまで説明するかは学生さんの立場やモチベーションなどを見て総合的に判断すべきで、一意に判断は出来ない。まあ、当たり前の結論ではある。

が、ここで、SLA の目的が利用学生さんのより高い「教育的満足度」(その場限りの学生満足度ではなく、長い目で見て学生さんにいい影響を与えられたか、学生さんの学びをサポートできたのか、というのを教育的満足度と定義する。)を得ることだとすれば、いったいどうすれば教育的満足度が高くなるのだろうか? という別の疑問がわき上がった。(故に 9 時過ぎまで議論することになったわけだが)

SLA が説明を沢山すればするほど、教育的満足度が上がるわけではないだろうし、学生さんのその場の希望に応えれば教育的満足度が上がるというわけでもないであろう。SLA も回答が分からずに答えられなかった場合でも、一緒に悩んで考えることで学生さんの学習意欲が向上し、結果的に教育的満足度が高まる場合だってあり得る。教育的満足度と相関があるであろうパラメータは無数にあり、それらを全て考慮して評価するのは不可能である。有意に効くと思われるいくつかのパラメータをピックアップして評価することもある程度は有効だと思うし、また他のより良い方法があるのかもしれない。一意に答えが無い場合複数の方法で評価して総合的に考えることが有効かもしれない。

教育的満足度を上げる方法はおそらく無数にあり、またそれも学生さんによりけりだとは思いますが、ある程度の指標・方針となるべきものは無いのだろうか? 今回の部会を通してそんなことを考えた。

■ SLA による部会活動報告

なし

②数学部会活動

数学部会は、M2以上の経験豊富なSLAが約半数、新規メンバーが約半数、その間に位置するメンバーが部会長を務めるというメンバー構成で活動がスタートした。部会全体の課題も、このメンバー構成に紐づいており、これまで部会の雰囲気を作ってきた主力のメンバーが次年度には卒業していなくなることが分かっている中で、いかに経験者メンバーが後輩を育成する視点で部会活動に臨めるかという点が最たる課題であった。ただしこのことは、個々人の目標としては意識づけられたものの、部会全体の課題に据えることはなかなか難しかったように思われる。

各定例会の活動はSLAからの報告に詳しいので省略するが、最終回の第6回(2月10日)のミーティングの内容を補足して、センターからの報告とする。

最終ミーティングでは、全部会共通のタスクとして、本年度の活動の総括と次年度に向けての課題を話し合った。評価できる点として、部会全体で問題意識を共有することで、日々の学習支援における課題への対応策を共有できたことが挙げられた。具体的には授業のレポート課題をどこまで教えるかの「基準」について共通意識をもてたことである。一方で、反省点にはケーススタディのパッケージ・やり方がマンネリ化したことが挙げられた。議論の方向性が数学の内容(解法)を検討するものに偏りがちだったので、今後はもう少し学生の課題状況を把握するスキルや学生対応全体をマネジメント(計画)するスキルの向上に資する企画にも着手していきたいとの指摘がなされた。センターから見ても、数学部会は数学的議論への熱意が強く、議論を続ける力などを持ち合わせている。また、本年度の部会活動においては、それぞれに持っている“対応時のポリシー”や“教える手法”について開示し合うということも、比較的達成できた。しかし、開示された意見やコツを、それぞれ意味あるものとして捉え直したり、自分のものとして取り込んだりするという作業に関しては、まだ十分に改善の余地が残されていると思われる。この点を次年度の課題に据え、部会定例会を位置付けていきたい。

■SLAによる部会活動報告

執筆：小田部秀介(理学研究科数学専攻 博士課程前期1年)

0. はじめに

今年度、数学部会は新規加入メンバーが多く、部会の雰囲気が大きく変わった年であった。新規メンバーは皆、真面目で意識が高く、積極的にSLAの業務に関わっていた。先輩方はますます力強い存在になっていったが、後輩を見守る余裕も持ち合わせていたので、私たちにも活躍の場は多く与えられた。走り出したとき、修士1年は私だけだったので、ほとんど消去法のような形で、私が部会長に就任することになった。結局、部会長らしいことを一つも成し遂げないまま1年経ってしまったが、足立さんや学さんを含め、皆の協力のおかげで大きな事件もなく、この1年を無事に過ごすことができた。感謝したい。以下で今年度の数学部会の活動報告を行う。

1. メンバー構成

今年度は以下のメンバーで活動を行った：

- ・ 博士1年・・・沖坂、佐藤(龍)
- ・ 修士2年・・・金子、石井、中村(聡)、小林*
- ・ 修士1年・・・小田部、久守*、檜垣*、木村*
- ・ 学部4年・・・中島

(*は今年度新規加入メンバー、下線は部会長を示す)。

2. 定例会活動報告

原則的に、月に一度定例会を実施している。情報共有及びスキルアップが主な目的である。今年度は計6回行うことができた。各回の内容は以下の通りである：

○第一回（5月26日）・・・情報共有・ケーススタディ

・ 情報共有：

<議題>

①偏微分や全微分のイメージをどう説明するか（金子）

②解答を知っているときの対応（小林）

<背景>

①については、例年この時期にテーマに上がる。②について、対応の際、SLA側が解答を把握していると、見通しがつく反面、解答に引きずられ対応の入りがかえって難しくなるという意見があった。この二面性について議論した。

<結論>

①について、イメージについては各自工夫して説明する。当然、イメージを理解することは大切だが、計算ができるようになることを目指すように促すことも有効な対応方法の一つである。②について、解答に頼らず学生の様子を見ながら対応することが大切である。

・ ケーススタディ：

<テーマ>

全単射をイメージが分かるように説明する。（担当：サポート室）

<総括>

イメージを説明するにも様々な手段が考えられる。この回で上がったものとしては、「日常的な例を用いて説明する」、「グラフを使って視覚的に比較できるように説明する」、「言葉や概念図で説明する」である。質問学生にあった手段を選ぶことが大切である。

○第二回（6月30日）・・・情報共有・ケーススタディ

・ 情報共有：

<議題・報告>

①学生の理解度と授業の進度のミスマッチについて（小田部）

②数物演習のテキストの例題の解説に誤りがあったことの報告と、正しい解説の提示。（佐藤）

<背景>

この時期、ある特定の授業の受講生が多く質問に来るということがあった。皆、中間試験の救済レポートに関するものであった。その中間試験は受講学生の学年や学部を見て判断しても難しいものであった。このとき、私たちはどの程度、手を差し伸べるべきなのかについて議論した。

<結論>

内容が難しいものであっても、基本的に学生に考えさせるという態度を崩す必要はない。

・ ケーススタディ：

<テーマ>

テイラー展開をわかりやすく説明する。（担当：小田部）

<総括>

テイラー展開を説明する際、動機・定義・応用のうち、どれを主眼に置くかで、様々な説明が可能で

ある。応用を主眼に置いた説明をもっと積極的に用いても良いのではないか。

○ 第三回（8月6日）・・・夏期研修合宿に向けての打ち合わせ・ケーススタディ

・ ケーススタディ：

<テーマ>

コンサルティング力を高めよう！（担当：佐藤）

<総括>

教育実習の経験がある人と無い人で対応の際、コンサルティング力に違いが現れるかをみた。実際、大きな違いは見られなかった。

*後の夏期研修合宿の際、活動報告を行ったとき、この回のテーマについて、山下君と千葉さんが興味を示して下さった。特に千葉さんからは、「教育実習の経験の有無では、コンサルティング力に違いは現れない。塾講師の経験の有無によって班分けをした方が良かったのではないか」という有益なコメントを頂いた。

○ 第四回・・・とも育ち本の部会ページ作成に関する打ち合わせ

○ 第五回（11月25日）・・・情報共有・ケーススタディ

・ 情報共有：

<議題・報告>

①表現行列を説明する際、うまくいかなかった。何がまずかったのか（中島）

②授業全体の整理を手伝うというタイプの対応が立て続きにあったが、質問学生の反応もよく、成功したので、全体で共有したい（中村）

③質問が漠然としている上、レスポンスも少ないという学生の対応について（久守）

<背景>

①について、抽象的な一般論から対応に入ってしまった。③について、質問が「テイラー展開を理解したい」という漠然としたものだった。このとき、本当の問いは何か探る必要があるため、多くの質問を投げかける。しかし、返答が少なく、真意をつかめないまま対応せざるを得なくなってしまう。こういった事例はどう乗り越えたら良いかということについて議論した。

<結論>

①について、一般論から説明するのではなく、具体例から入り、イメージを掴んでもらう、あるいは計算できるようになってもらうことを先にした方が良かった。一般論は、その後、学生に余裕がありそうだったら説明する。③について、レスポンスの少ない学生の対応においては、SLA側で、目標や対応の方針を決めてあげるというのも一つの手である。また、その場で全てを理解させる必要もなく、好反応を常に求めることは難しい。

・ ケーススタディ：

<テーマ>

抽象的な概念に関する説明・対応の仕方、① ε -N 論法で数列の極限を定義することについて、②

「 $\lim_{n \rightarrow \infty} a_n = a \Rightarrow \lim_{n \rightarrow \infty} 2a_n = 2a$ 」の証明について。（担当：石井）

<総括>

高校数学での極限の扱いと大学数学での極限の取り扱いは全く異なる。しかし、その抽象性ゆえ、初年級の段階で、その違いを肌で感じることは難しい。そのため、 ε - δ 論法の威力やメリットも実感できずに、「何故こんなことをするのか？」と疑問に思う学生が多い。実際、こういった類いの質問は少なくない。この質問にどう対応するかを全体で共有した。

○第六回（2月10日）・・・情報共有

3. 夏期研修合宿（前期活動報告）

9月中旬のSLAの研修合宿にて、前期活動報告を行った。小田部、木村がこれを担当した。このとき、利用学生の傾向を分析した上で、「数学担当のSLAとして利用学生にアドバイスできることは何か」という問題に取り組み、得られた成果をまとめ、全体の前で報告した。

4. とも育ち本の制作

新入生向けにSLAが発行する冊子『とも育ち本』の数学部会ページの作成に11月から取り組んだ。部会ページは「大学での数学の学び方・SLAの利用の仕方」と「日常に潜む数学」という二つのトピックから構成される。前者は、修士2年以上のメンバーが作成に取り組み、SLAを利用する学生の質問の傾向や、その質問に対する私たちSLAの対応方法を実際の対応事例を交えながら紹介している。また、大学での数学の勉強の仕方についても取り上げており、新入生に向けてのアドバイスをまとめ、形にすることができた。修士1年以下のメンバーで後者のトピックに取り組んだ。前者とは、趣旨が異なり、新入生に数学の面白さを伝えようと、「意外性」をテーマに日常の中で数学が現れる場面を多く取り上げることを目標とした。実際、そのことに成功し、形にすることができた。「日常・生活の中の数学」というテーマは例年になかった発想で、今回実現できたことで、数学の面白さを非専門外へ発信するという点において、私たちの可能性が広がったと言える。

以上

③化学部会活動

化学部会は、総勢 6 名の少数メンバーの部会である。しかしながら、学部生・修士学生・博士学生各 2 名というバランスの良い構成、約半数は SLA 歴の長いメンバーであるといった利点を活かし、M2 生の部会長を筆頭に全員で活発に意見交換し、主体的・自律的に活動を展開していった。

本年度の化学部会の特徴的な活動としては、①部会ノートの積極活用による日常的な情報共有の推進、②正課への学習支援情報（学生のみならず等）フィードバックの実施が挙げられる。①については、メンバー自身が部会運営の改善を意図し、計画・実行していったものであった。②についても、センターと共同しての動きではあるが、こうした活動の必要性自体はメンバー自身が日頃から意識していたものであり、彼らの声も参考にすることで、センター全体の動きが形作られていったという経緯もある。

これら部会活動を進める上で化学部会に特徴的なのは、“全員参加”の動きが可能になっている点である。定例会の場で全員で取り決めた課題に全員が意識して日常業務にあたる動きが化学部会には定着している。こうした在り方を SLA 全体にも広げられるよう、彼らの動きから私たちが学んでいきたい。

■SLA による部会活動報告

執筆：佐藤悠介（理学研究科化学専攻 博士課程前期 2 年 2 年）

1. 今年度の化学部会の活動

今年度の化学部会は、各自の窓口対応に加え、部会として定期的な話し合いと合宿における発表・他部会との議論を行った。

・第一回部会(5 月 8 日)

年度初めに比較的多い実験の質問への対応を取り上げ、各部員によってばらつきがある説明内容に統一を持たせた。

部会員間の連絡を密に行うために、日々の活動の簡潔な報告をノートに書きそれぞれ必ず目を通すことを通年の目標とした。

・第二回部会(6 月 24 日)

増加する窓口対応に対し、できるだけ多くの学生を対応するにはどのように効率化する工夫があるかを話し合った。あらかじめ説明用のプリントを作っておき活用するという方法を実際に行うことになった。

・第三回部会(8 月 7 日)

学問的に難しい問題に対しどう対応すべきか、単なる学習支援にとどまらない領域について話し合った。学生の履修状況や今後の進路における重要度など、様々な要因が関わっており、はっきりとした結論は出なかったが、意識して考えるべき点を確認することができた。

合宿について発表する内容を決め、それぞれの役割分担を行った。他部会と化学部会との教え方の姿勢の違いを意識した発表内容となった。

・第四回部会(10 月 30 日)

ともそだち本の執筆内容と担当、全体のスケジュールを話し合った。初学者が大学で化学を学ぶにあたりみずきやすいポイントを紹介する内容になった。部会員自身の体験や窓口対応の傾向などから細かい内容を決めた。

・第五回部会(11 月 28 日)

対応件数が増え始めた有機化学について模擬対応を行い、有機化学の対応経験のない部会員と経

験者として、対応内容の違いを考察した。結果、対応経験や問題演習の量が対応内容に大きく反映されるとわかった。未経験部会員への知識の継承が必要であると同時に、化学部会の中に有機化学を専門としている学生が求められると結論した。

・合宿での発表

それぞれの部会を横断した対応がスムーズに行えるようになることを目的とし、化学部会と他部会で教え方や教える範囲が違う問題について、化学部会の立ち位置とその理由を説明した。他部会からの意見を受け教える内容について改めて考えた。

2. 今年度のよかった点と反省点

今年度は、これまでの5年間の活動を通じて浮き上がってきた問題点や課題を解決するために前向きな検討を多くすることができた。自然科学総合実験への対応における単に問題に答えるだけではない教え方の工夫や、利用者が多く対応も長くなりがちな有機化学の対応における効率化など、利用学生・SLA双方にメリットのある結論を出すことができた。また、その解決にあたり、年度初めに目標としたノートによる情報交換が大きな役割を果たすことができ、部会員が少ない中でも工夫次第で良い成果をあげることができた。

部会員の少なさも、部会内のまとまりがあるというよさとして活かすことができた。合宿の発表資料作成やともそだち本の執筆において、役割の分担やスケジュール管理などを素早く確実に行うことができ、またそれに関わる全体連絡も全員が参加する形で進めることができた。

一方、対応における時間の使い方について、徐々に改善は見られつつも、なお対応が長時間に渡るという点が全体の感じる問題点として上がった。一人のSLAが対応しきれる人数を超えた利用学生が訪れることも多く、化学部会員の少なさもあり、対応の効率化だけでは解決は難しいだろうと考えられる。

利用学生へとこちらからもっと働きかけ、テスト直前よりももっと前から窓口を利用する、疑問点を明快にしてから質問に来る、などお互いに助けあう形での解決を目指すことができるのではないかと考えた。

3. 来年度に向けた活動の展開

来年度は授業や先生とより連携した形で学生の学習支援にあたることになっており、SLAとして今までの窓口対応から提供できる情報の準備を進めている。それにより、学生をつまづきやすいポイントや質問が多い領域について先生方に把握していただき、授業内容へとフィードバックすることができる。

また、他部会と助け合い活動をしていく準備も必要だと考えられる。化学部会は来年度人数が更に少なくなり、質問に来る学生に対応するのが難しくなる。また他部会も必ずしも一定のペースで学生が質問に来るわけではないため、一時的に対応しきれない学生が出ることも多い。そのようなときに部会の違いを超えてお互い助けあうことで窓口の混雑を解消することができる。実際、数学・物理・化学はそれぞれ独立した科目ではなく、学部生が質問する難易度であれば答えられることも多い。しかし、完全に専門家ではないため戸惑うこともある。その際に各部会がその分野についてまとめてくれた資料があれば学習支援の補助教材に使うことができる。今までは対応記録という形でそのような資料を残してきたが、ある程度学生をつまづきやすいポイント、質問が多い問題がはっきりしてきたので、そのような領域について資料を作っておくことは有益だと考えられる。

④英語部会活動

本年度英語部会の最大の特徴は、“部会”としての活動（定例会の開催など）を継続的に実施できた点にある。従来、英語部会は、英会話支援の在り方自体がまだ発展途上で固定化されていなかったこと、個々の資質・能力である程度活動が可能であること、メンバーの入れ替わりサイクルが比較的早いこと、ミーティング開催に関しても、多様な学部メンバーの集まりであることから日程調整が困難な場合が多くなるといった諸々の要因により、「部会」としての動きは理系部会に比して活発な状態にはなかった。そこで本年度は、年度当初に「部会活動」の恒常化を目標に掲げ、定例会を定期的に行い、英語部会活動の活性化を図っていった。この目標は、本年度、ある程度達成することができたと思われる。

開催した定例会での具体的な情報共有の内容は下記報告の通りである。1on1 英会話や英会話カフェの企画を共有したり、学生対応で困った・悩んだ事例を話し合ったりすることで、日本人 SLA と留学生 SLA の意識を少しずつすり合わせることでできたように感じられる。英語部会は多国籍な部会ということもあり、これまでも学習支援の理念や方法の共通認識を持つことが容易でなかったが、今年度の動きはこの課題を解決する上で効果的であった。

一方課題としては、当初、理系部会と同様の形（情報共有とケーススタディの二部構成）で定例会を企画したが、この形はあまり英語部会には向いていないということがわかったことである。具体的な“問題”があるわけではないため議論のネタがマンネリ化しがちであり、ケーススタディについても、月に一度の定例会の場で行うに相応しい方法がまだ見つからないという状況であった。次年度はこの点を改善したい。

■SLA による部会活動報告

執筆：房内まどか（文学研究科文化科学専攻 博士課程前期2年）

1. はじめに

本年度の英語部会は、以前からの SLA の 4 人（スミット、濱橋、原、房内）に、新規 SLA を前期は 3 人（席、寺岡、プラーチュ）を、後期はさらに 2 人（五十嵐、服部）を加えて活動を行った。普段の活動として昼休み以降の時間に英会話カフェ・1on1 を行い、定例部会を計 5 回開き、夏合宿では前期の活動報告をした。また、後期はともそだち本の作成を行った。

2. 定例ミーティング

英語部会の定例ミーティングは前期に 2 回、後期に 3 回開かれた。各ミーティングでは、それぞれの SLA が自分のカフェあるいは 1on1 でどのような活動を行っているかを報告したり、抱えている課題を共有して解決策を議論したり、利用学生の特徴などを情報交換したりすることが主な目的だった。

(1) 第 1 回 平成 26 年 6 月 6 日(金) 9:00-10:30

この日はスミット、プラーチュ、原、席、寺岡、濱橋、房内の 7 人が参加した。本年度最初の部会だったので、各カフェ・1on1 の紹介から始めた。カフェと 1on1 両方を担当していたスミットは「楽しく」をコンセプトに Funny Pictures Game をしていることを紹介した。その他、面白い質問をしたり、ディベートをしたり、単語クイズをしたりするが、スミットは昨年度までのストックが多いため、その日に来た学生に何がしたいか尋ねることもあったと言った。1on1 を担当しているプラーチュは自己紹介や最近の出来事を話すのに加え、手持ちホワイトボードを使って利用学生の英語表現をアドバイス

したり、持ち時間の終了前 10 分間で復習を兼ねた単語ゲームをしたりすることなどを報告した。原は 1 人でカフェを担当しており、毎回フリーディスカッションの形式をとり、14 個のトピックを事前に用意しておいて利用学生に選ばせるという。また、リピーター学生には前の週の出来事を質問してアイスブレイクとする工夫を紹介した。席も同様に 1on1 では利用学生の前の週の出来事などから話題を広げているとし、また、6 月 5 日から木曜日にプラーチュと一緒に 1on1 をしているので、きめ細かいアドバイスができると報告した。寺岡はカフェで初めての学生とリピーターでは質問する内容を変えたり、「今セメスターの英語の目標は何か？」を尋ねることで学生のニーズを把握したり、学生同士でそれぞれのモチベーションを認識したりするといった工夫を述べた。

その後、最近の課題について議論した。「来た学生のレベル差が大きい場合にどのような工夫をしているか」という話題において、寺岡はそれぞれの学生の目標を聞くことで、それぞれ違うモチベーションであることを認識させたり、相手によって話すスピードを早くしたり遅くしたりしていると述べた。原は、自分が投げかける質問を相手によって変えているとし、例えば上級者には 5W1H 型の質問をし、あまり自信がない学生には Yes/No で応えられるような質問をするという工夫を紹介した。スミットは自分が投げかける質問に必ず答えてもらうようにしているという。席は、必ず質問に答えてもらう時間と自由に会話する時間の両方を設けているとした。このように、各々がどのような活動をし、どのように課題に向き合っているかを情報交換することができた。

(2) 第 2 回 7 月 4 日 (金) 9:00-10:30

この日はスミット、プラーチュ、寺岡、原、席、房内の 6 人が参加した。まずはじめに最近の活動の報告を各々が行った。寺岡は話すテーマを用意するのではなく、学生の自己紹介からそれを深く掘り下げることで話題を広げるようにしていると報告した。この方が学生は自分の得意な話ができるため表情が明るくなり、学生同士で質問しやすくなるというのである。席の 1on1 も場面に応じて話題を対応させており、プラーチュが入ることで会話が広がって明るい雰囲気では話ができているという。プラーチュは自分の 1on1 で手持ちのホワイトボードを使って最後にフィードバックをするとのことだった。原は、前回の報告と同様ディスカッションを続けており、人数が多いときはグループに分けて行っていることを紹介した。スミットは新しい学生があまり来ないことを悩んでいた。このことから、最近新規利用者ではなくリピーターが多いことについて話題が及び、何人かは英語の上達が顕著で、さらに打ち解けてきて積極的に話してくれるようになった現状を共有した。リピーターの成長を感じた時どのような変化を加えているかということに関して、同じテーマの話でも少し凝った質問をしたり、前回に使った単語をもう 1 回使って復習させたり、宿題のようなものを SLA と学生お互いが持ち帰ったりするなどの工夫が挙げられた。寺岡が挙げた最近の課題は、カフェが終わった後に一緒に話した学生と仲良くなろうとして Facebook の友達申請をしていいかなどと言う積極的な人がいる一方、そのような誘いが苦手な人もいることだった。そのような場合に SLA はどのような対応をすべきかということでケーススタディを行った。SLA がとるべき行動としては、ジョークを言ってはぐらかしたり、「まだ早いから、来週もっとお互いのことを知る時間を作ろう」と先延ばしをさせたり、積極的ではない人に対してこっそり本音を聞いてみるなどの案が出た。

(3) 第 3 回 10 月 30 日 (木) 16:30-18:00

後期に入って初めての部会では、主にともそだち本の構成・作成手順についての相談をした。参加者は席、原、濱橋、房内、五十嵐、服部の 6 人だった。

本年度の英語部会が担当するともそだち本のページは、利用案内として英会話カフェ・1on1 の紹介や、どのように利用されているかを紹介するページ、英語学習について紹介するページ、SLA のメンバー紹介や国際交流の紹介をするページの 3 つに分けて作成していくことになった。この日までにそれぞれのページ担当者たちが内容やレイアウトの案を考えてきていたので、それに対して他のメンバーがアドバイスをするという形をとった。

特に議論をしたのは寺岡・服部が担当する英語学習についてのページで、挨拶などの簡単な英会話の表現を絵入りで紹介しようと考えているが、あまり簡単な表現では意味がないし、かといってスペースも限られているのでどうすればよいかという悩みだった。このことに対し、挨拶ひとつとっても様々な表現があるから、各場面でいろいろなバリエーションを紹介するのはどうかという提案があった。また、メンバー紹介のページで、SLA に対する質問事項の案として、「国際結婚はあり?」「生まれ変わったらどの国の人に生まれたいか?」などユニークなものがあがった。

(4) 第 4 回 平成 26 年 11 月 26 日 (水) 17:00-18:30

この日の参加者は原、濱橋、房内、寺岡、服部、五十嵐の 6 人で、最近のカフェで行っているゲームやアクティビティの共有をした。ただ紹介するのではなく、他の SLA が自分のカフェで教わったゲームができるようにすることを目的とした。

まず五十嵐からストーリーゲームが紹介された。これはランダムに選んだ 6 つの英単語を使って物語を作るゲームで、文章作成能力が試される。席は毎回テーマを設定し、関連する情報やいくつかの質問を用意しておくことでディスカッションを回しているとのことだった。服部・寺岡からは足し算自己紹介、What if game、Story telling、ショートプレゼンテーション、上級者向けとしてディベートを紹介した。また、五十嵐などが挙げた Guessing Game は、写真や単語が記されたカードを頭の上に持った人が、周りの人の説明によってカードの内容を当てるといったものだった。五十嵐は日本文化の写真を使ったそうだが、これは職業や、自分の夢など、いろいろなテーマに応用できるとのことだった。また、スミットとカフェを運営する原は、ディスカッションでは来た学生のレベルに合わせてテーマの難易度を変えているという工夫や、前期でも紹介したピクチャーゲームをやっていることを報告した。

また、最近 SAP の申し込みを考えている人やすでに応募したので英語を使いたいという学生が増えていることに話題が移った。その時に申請している TOFEL の点数を学生に聞くのはどうなのかという質問があったが、点数アップのためなら良いのではないかと、聞く理由・目的があればよいのではないかと意見が出た。本年度の SAP は英語圏だけでなく、ヨーロッパやアジアの国々も多数あるようだということなどを情報共有した。

(5) 第 5 回 平成 27 年 2 月 10 日 (火) 14:00-15:30

本年度最後の部会として、原、房内、服部、席、スミットが参加した。まず後期の良かった点と反省点をそれぞれが挙げた。良い例として、レベルが高い人が集まった時に活発なディベートができたこと、2~3 人のグループを作って、ミニプレゼンテーションが新しくできたこと、ペアによる職業当てゲーム (Guessing Game) は雰囲気よかったことなどが挙げられた。一方、反省点としては、11 月末頃から SAP に参加する学生が大量に押し寄せたことについて話題が集中した。多いときは昼・3 限を含めて 20 人以上がカフェに訪れていたこと、1on1 も予約がいっぱいでやれない人がいたことがまず挙げられた。また、参加者の中でも英語力のレベル差があるだけでなく、スタンプだけ

欲しくて英語に興味がない人がいるなど、モチベーションにも差があるため対応が難しかったことなどが語られた。それらを踏まえて来年度にできそうな対策として、大人数・少人数さまざまな状況を想定すべきという意見が出た。また、ネット予約や、SAP の時期には臨時に人を増やしたりするといった、英語部会のシステム自体を工夫する意見も挙がった。また、SLA 間での情報共有の機会やゲームを実際にやってみるなどのトレーニングを増やしたいという提案があった。

3. 夏合宿での報告

1 日目の報告会で、寺岡がプレゼンテーションを行った。まず英会話カフェと 1on1 の紹介をし、事前に英語部会のメンバーにとっていたアンケートの結果を発表した。特に、人と話すことが大きな仕事の英語部会メンバーが、コミュニケーションを行う上で気をつけていることなどを、他の部会の人に紹介した。

4. おわりに

本年度の英語部会は、昨年度と比べてスタッフの数が増えたので全体として盛り上がった雰囲気だった。また、以前に比べると部会も多く開けたので、情報共有が進み、SLA 同士で切磋琢磨できていたように思われる。特筆すべきは、やはり 11 月末から SAP に参加する学生が多くやってきたことだ。来年度以降も、SAP をきっかけに SLA を利用する人が増えるかもしれないし、夏休み前と春休み前は今回と同じ現象が起こるかもしれない。新メンバーを増やしたり、時期によって体制を変えたりすることも想定しつつ、SLA 内でさらに密な情報共有をするなど、工夫すべき点がたくさん見つかった年度だった。今後は、大学内での英語学習・国際交流へのニーズも察知しながら、柔軟な対応がしていければよいと考える。

以上、平成 26 年度の英語部会の活動報告とする。

⑤ライティング部会活動

■センターから

ライティング部会は、支援の在り方を検討するところからの活動であった。そのため、これまで授業 SLA の活動で長く SLA に関わってくれていた 2 名の文系院生を主力に据え、SLA とセンター教員 2 名で勉強会、窓口対応、その他の活動の検討と開発を進めて行った。

これに加えて、レポート作成に関わる授業の授業 SLA ともリンクをしながら活動を行った。具体的には、前期セメスター中は、「社レポ」の授業 SLA3 名のうち 2 名とライティング担当 SLA のシフト時間を重ねることで、ゆるやかに情報交換を行い互いに学び合いを深めた。後期セメスター中は、図書館の授業で活動していた SLA1 名に、部会のミーティングの場に参加してもらい、情報交換を行った。

窓口対応以外の活動としては、セミナー型の企画とポスターの作成を行ったが、これらの活動については、次項の SLA による活動報告を参照されたい。

定例ミーティングは、次の通り開催された。

第一回(4月28日)	・ライティングセミナーに参加した感想を意見交換 ・これまでの活動の振り返り ・今年度の計画
第二回(5月19日)	・前回ミーティング振り返り ・今後の計画(具体計画)
第三回(6月10日)	・ポスター作成進捗状況確認 ・セミナー企画検討 ・授業での告知
第四回(7月16日)	・現状確認 ・短期、長期 TO DO 確認 ・部会合宿報告の検討
第五回(11月10日)	・図書館授業の情報共有 ・『ともそだち本』構想
第六回(2月9日)	・活動振り返り(年報構想)

■SLA による部会活動報告

執筆：近藤百世（国際文化研究科 博士課程後期3年）

千葉陽子（教育学研究科 博士課程前期2年）

1. はじめにに代えて（※センター補足執筆）

ライティング部会は、2014年度はまだ「部会」としての形が整うまでには至っておらず、センタースタッフが主導する形で活動をスタートさせた。そのため、部会の方針や定例会の流れなどの報告は、SLA メンバーではなくセンタースタッフが行うことを前提として、SLA の 2 名には活動報告の執筆を依頼した。当初、「1.概要」「2.定例ミーティング」とし、以下「3.合宿報告」...と続く目次構成を予定していたが、本年報の編集上、1・2に該当する部分は、他部会の形式に則り、前ページのセンター執筆部分にて紹介する形を取った。そのため、本項「SLA による部会活動報告」が、唐突に「合宿報告」から始まるが、編集の経緯をご了解いただいたうえでお読みいただければ幸いである。

以下、SLA 担当部分の報告原稿である。

2.合宿報告

ライティング部会では、2014 年度の SLA 研修合宿において活動報告を行った。この報告では、主に理系 SLA にコンサルの重要性を伝えることに焦点を当てた。実際に報告で用いるパワーポイントを作る過程において、対応の際に何を意識しているのか、他部会と異なるのは何かを改めて考え、「ライティング＝コンサルが命」という結論となり、ここに重点を置くこととした。

ライティング支援の場合には、学生の「課題（質問）」と本当の「課題（直すべき点）」が異なる場合があるため、支援者にとって必要な能力は学生の状況を把握する力と本質的な問題への気づく力である。しかしながら、これらの能力は他部会において不要なものではない。そのため、報告においては複数の具体的なコンサル・テクニックを示した。例えば、必ずひとつのことについて褒める、学生の表情を見ながら会話をする、学生が理解しやすい言葉でアドバイスをする、学生の言葉を要約して考えをまとめる手伝いをするというものである。

この報告後から、しばしば理系 SLA の口から「コンサルに力を入れるべき」という言葉が聞かれるようになり、SLA 全体にコンサルという言葉が浸透してきたように感じられる。

表面的な課題に答えることによって、学生は満足感を得ることができが、本当の「課題（直すべき点）」に気づき、その課題を解決することが学習支援として重要であり、学生のためにもなる。したがって、今後もコンサルを意識してよりよい支援を行うべきであると改めて感じた。

2. その他の活動

2-1. ライティング・セミナー参加

ライティングの研修を兼ねて、高等教育開発推進センター主催のライティング・セミナー（教育関係共同利用拠点提供プログラム「ライティング支援者を育成する」）に参加した。本セミナーでは、SLA 2 名が東京大学と早稲田大学のライティング指導機関と東北大学のアカデミック・ジャパニーズの指導に関する報告を聴講し、カウンセリングのワークショップにて研鑽を積んだ。

この経験から、ライティングの基本が「思考整理の補助」であり添削ではない点、対話によるコンサルが難しいことの 2 点を学んだ。同時に、学部 1・2 年生をその支援の対象とする本学において、どのような運営形態が最適であるのか検討する必要性が確認された。また、カウンセリングにおいては SLA 側に高度な対話のスキルと教養が求められることが再認識され、その質をどのように獲得し保持するかという点が課題として見出された。

本セミナーへの参加は部会にとって大きな刺激となった。特にライティング部門が全国的な規模で必要とされていること、立ち上げ段階にあるこの部門についてそれぞれの大学にあったやり方を模索中であることを実感できたのは有意義であった。

2-2. プチ・セミナー&ポスター企画実施

学部 1・2 年生のライティング・スキル向上を目指すと同時に、ライティング部門の周知と窓口対応のニーズの創出をその目的として、ライティングに関するプチ・セミナーを実施した。セミナーは「レポートって何もの?」、「初心者向け★レポート作成に必要な PC スキル」、「実践! どんな文が良い文? 悪い文?」の 3 つのトピックで構成され、2 名の SLA によって 2 回ずつ計 12 回のセミナーが設けられた。また、それぞれのセミナーに連動する形で、事前に関連する内容のポスターが作成された。

本企画の実施にあたり、次の作業が行われた。①ポスターの原案作成、②セミナーの資料作成（配布資料・スライド）、③セミナーの実施。特に②の資料作成に多くの時間が割かれたが、それはサンプルとなる文章が思うように集まらないからであった。

作成されたポスターはキャンパス内に張り出された他、SLA ラウンジにも持ち帰り自由な配布物として設置された。これらは概ね好評で、特に後者は自宅に持ち帰る学生が出て何版か増刷された。このポスターは、その後の窓口対応においても説明資料として有効活用されている。

セミナー自体の参加数は少なかったが、受講した学生の意識が変化したこと、コンサルの際の方針が検討されたこと、準備段階で SLA 同士の交流が深まったなどの多くの影響が見られた。それらを鑑みても今後のライティング運営のための基礎形成の好機となったといえよう。

本企画全体を通して、ライティング支援のニーズをどう創出するかという点が今後も一番の課題になることが再確認された。同時に SLA 側の指導スキルの向上や有用な資料作成、学部生のレポートのストックやコンサル内容の共有・再検討などの地道な努力の必要性も痛感した。

2-3. ともそだち本作成

後期は、毎年恒例のともそだち本のライティングのページ制作に取り組んだ。ライティング部会では、この作業を今年度の活動の総まとめと位置づけて経験のふりかえりと蓄積に従事した。

制作に先立って図書館の TA を迎えてミーティングを開き、あらためてライティング・スキルの見直しや意義付けなどを行った。その上で 3 名の SLA が項目毎に担当を振り分けられ、各自作業を行った。その際、部会全体の意思疎通を円滑に図り、整合性のある記事を作成するために、共有ログが設けられ作業が進められた。

これらの作業を通して、それぞれの SLA が持っているスキルが具体化され共有された。また、考えが体系化されることで、まとめた本人も改めて自身のふりかえりの機会を持つことにつながり、概ねよい機会となった。

一方で、ログ以外に作業について話し合いの機会がなかったことで、SLA 同士の意見交換がなされなかったことが残念であった。また、前年度のともそだち本との差異化や、内容更新の意義、他部会のページとの共通性をどうするかなど、課題も多く見出された。それとあわせて、今後はこれらのともそだち本にまとめられた成果がどのようにコンサルに生かされていくのか。また、学生側の意見をいかにコンサルやともそだち本にフィードバックしていくのかという点が課題となっていくだろう。

2-4. 対応報告まとめ作業

今年度は前期・後期あわせて 24 件の窓口対応があった。他部門と比べると圧倒的に少なくはあるが、前年度と比べると飛躍的に人数が増加している。そこで、対応のふりかえりを報告の形でまとめることによって、経験の集積を行うこととした。これは、対応した SLA 自身のふりかえりと共に、他の SLA や次世代の SLA に対して、対応例やサンプルを残すことをその目的としている。

報告書は、次の 5 段階を意識して作成された。①学生・対応全般に関する情報、②学生からの質問内容、③SLA 自身が見出した課題、④対応の内容（基本は対話型で）、⑤所感や感想など。

②と③については、3 の合宿報告でも触れられたとおり、学生の申告した課題と本来の問題点が噛み合っていない場合があるので、意識的に分けることとした。④を対話形式としたのは、コンサル内容を再現することで具体的な対応内容を伝えるようにするためと、対応者自身のふりかえりのためである。

本作業は、SLA のスキル向上に大いに貢献した。特に対話を中心としたコンサル全体の再構成作業は、対応者に自省の機会をもたらしただけでなく、他の SLA にとっては対応者のコンサルのやり方を学ぶ手段となった。具体的な質問やそれに対する返答の仕方、あるいは言葉がけの方法が明らかにされることによって、SLA 同士が互いのスキルや知識・見識を知ることができるようになった。定例報告会のないライティング SLA にとっては、この対応報告書が貴重な学び合いの機会となったのである。

これらの対応報告書を生かしていくためには、今後、ある程度これらの書式を統一させていく必要があるだろう。現段階では各自の裁量によってまとめられているため、SLA 毎にムラがある。その上、報告書をまとめるのに多くの時間を必要とするので、同時に効率化も図っていかねばならない。また、報告書をもとに実際に SLA 同士で意見交換する機会を設けることも急務である。今年度の作業を通して、事例研究ができるぐらいの資料ができてきたように思う。これらの報告書を有益な形で生かせるよう、部会や勉強会などライティング SLA 内での交流を活性化させていきたい。

3. おわりに

ライティング部門は未だ発展途上の段階にあるが、今年度の終わりには部会員も 4 名となり、部会として本格的な形を整えつつある。今年度はその立ち上げ、ライティング・スキルの向上、ライティング部会の周知とニーズ創出に重きが置かれたが、来年度以降は、ライティングの窓口対応数の増加促進、部会員同士の経験知の共有・伝達といった、より具体的な課題が挙がることになるだろう。

これらを解決するためにも、ライティング部会でも他の部会同様に定例報告会を開催する必要があると考えられる。不定期あるいは自発的なミーティングやログでのやりとりだけでも部会員間の学び合いが促進され、様々な企画やアイデアが生まれた。これが定期的に行われたら、更により影響をもたらすことは明らかである。来年度は今までの活動に加えて SLA 同士の連携がよりよいものとなり、活動が更に充実したものになるよう期待したい。

(4) SLA 活動振り返り作業

SLA には、自身の活動を振り返り、次の改善につなげてもらうために、毎 Semester 末にアンケート (レポート) を実施している。このシートは、統計的に処理をするというよりは、SLA が自身の活動を PDCA サイクルに乗せることができるようにするための一種のワークシートのようなものである。そのこともあって、Semester ごとに少しずつ項目や様式を変更させている。シートの記入に併せて、年度末にはこのアンケート (レポート) をもとに、1 人 30 分の個別ヒアリングの時間を設け、直接声を聞く機会を設けた。個別ヒアリングは、前年度までは必要に応じて行ってきたが、次年度の活動を検討する上で欠かせない作業であることから、本年度より、全員必須の形で実施した。

ヒアリングは、次年度の各々の忙しさなどを把握し、個々人の具体的な働き方を相談する場でもあるが、センター員が本年度のヒアリングの際に共通で意識したのは、「個々人のモチベーションはどこにあるか」「個々人の SLA の活動に求めるものは何か」を聞き取ることであった。これは、SLA の人数が拡大していく中で、個々のモチベーションがより多様化していることを 2014 年度の活動を通じて実感したことから来ている。また、規模の拡大と相まって、相対的に一人一人と話をする時間が減ってしまったこともあり、個々のモチベーションに触れながら“新たな活動の可能性”を探るという作業がやりづらくなってきたことを補う機会でもあった。

別の側面としては、本年度中、SLA 学生から「センター/SLA の課題 (目標) が何かが分かりづらい」といった声をちらほらと聞くようになったことも背景としては大きい。この“声”の解釈は幾通りか考え得るが、背景の一つとして、先述の通り、センター員と SLA 一人一人のコミュニケーション—具体的には、「何を目指していきたいのか」をそれぞれ語り、共有する場—が減ってきたことが影響したと捉えている。同時に、この“声”は、SLA の“業務感”が増してきているという危機感を覚えるきっかけともなった。これまでは、“共に活動を創りだす”というスタンスで運営してきた SLA の活動であったが、一定程度ルーティーンとして行うべき活動の形が定まる中で、「何をすべきか」をセンターに問う姿勢が少しずつ増えてきたように感じている。こうした変化は、組織の発展・拡大の中で生まれるやむを得ない側面でもあるが、ここをどう乗り越えて行くかが、次年度以降の課題である。

2014年度前期活動分

氏名 _____

S L A セメスターアンケート&ミニレポート

本アンケート・レポートの第一目的は、自身の活動の振り返りです。自分自身を適切に評価し、今後に活かしましょう！また、運営改善の参考にしたりまするので、率直な意見を聞かせてください。その他、活動報告や研究目的で使用する場合があります。その際は、個人名は特定できないよう使用しますので、ご協力をお願いします。

それぞれ当てはまる番号を○で囲んでください。記述部分もできるだけ記入してください(★は必須)

5あてはまる 4ややあてはまる 3どちらともいえない 2ややあてはまらない 1あてはまらない

【 1 】 学生対応時の状況について質問します。

- (1) 学生の質問・ニーズをくみ取る(くみ取ろうとする)ことができた 5-4-3-2-1
- (2) 対応学生の反応(表情・仕草等)を確認しながら対応することができた 5-4-3-2-1
- (3) 質問しやすい雰囲気・居やすい空気・また来たいと思えるような場づくりができた 5-4-3-2-1

→4か5を選択した方…どのようにしてその雰囲気を作りましたか
 →1か2を選択した方…何が問題だったと思いますか
 →3を選択した方…できた時とそうでない時とでは何が違っていましたか

- (4) 対応学生自身の成長を促せる工夫ができた 5-4-3-2-1

→4か5を選択した方…どのような工夫をしましたか(具体的に)
 →1か2を選択した方…どのような工夫ができればよかったですか
 →3を選択した方…できた時とそうでない時とでは何が違っていましたか

- (5) 状況に応じて臨機応変に対応を変えることができた 5-4-3-2-1

- (6) 時間を意識して対応することができた 5-4-3-2-1

(学生さんの持ち時間、終わり時間から逆算した対応、適度な時間量、待ち札等)

- (7) 対応学生にアンケートを忘れずに渡すことができた 5-4-3-2-1

- (8) 他のS L Aにもわかりやすいカルテを書くことができた 5-4-3-2-1

※対応に追われてカルテが記入できなかったときは除外して考えてください

- (9) あなたが学生対応時に、意識していること・大事にしていることは何ですか？

【 2 】 勤務意識について質問します。

- (1) 5分前出勤を意識することができた 5-4-3-2-1

- (2) 勤務時間が延びそうな場合はS L Aサポート室に相談した 5-4-3-2-1

- (3) 勤務中、身の回りの整理整頓を意識することができた 5-4-3-2-1

- (4) エチケット(身だしなみ、マナー等)を意識できた 5-4-3-2-1

- (5) S L A日誌・業務日誌・部会ノートへの書き込みができた 5-4-3-2-1

- (6) S L Aの掲示物等を把握するようになった 5-4-3-2-1

- (7) 自分以外のS L Aの対応に配慮しながら勤務することができた 5-4-3-2-1

- (8) S L Aサポート室への「ハウレンソウ」をしっかりと実行できた 5-4-3-2-1

【 3 】 部会活動、未対応時の活動、その他諸々について質問します。

(1) 部会活動に貢献することができた 5-4-3-2-1

(2) 部会活動等、通常業務以外でこんなことをやりたいという提案がある人は書いてください

--

(3) 未対応時もSLAの活動に貢献できた 5-4-3-2-1

(4) 他のSLAと積極的にコミュニケーションをとることができた 5-4-3-2-1

(5) あなたが一目を置くSLAの名前とその理由を教えてください _____

--

(6) SLAサポート室への要望等を自由に書いてください

--

(7) 今現在、SLAとして「①身についた・成長したと思う点」、「②課題だな、反省点だなどと思う点」を挙げて下さい。

①	②
---	---

(8) 2014年度前期SLA活動への満足度(100点満点)を教えてください

→なぜその点数なのか理由を書いてください _____ 点

--

✿ミニレポート 今期の自身の活動を振り返り、印象に残ったことなどを中心に、思ったこと・感じたこと・考えたことを自由に記述してください。(コメントペーパー風)

--

2014年度後期活動分

氏名

S L A活動振り返りシート

本シートの第一目的は、自身の活動の振り返りです。自分自身を適切に評価し今後に活かしましょう！また、運営改善の参考にしたりもするので、率直な意見を聞かせてください。その他、活動報告や研究目的で使用する場合があります。その際は、個人名は特定できないよう使用しますので、ご協力お願いします。

【1】基本事項チェック：それぞれ当てはまる番号を○で囲んでください。

5あてはまる 4ややあてはまる 3どちらともいえない 2ややあてはまらない 1あてはまらない

学生対応時	(1) 対応に入る前にコンサル時間を適度に確保し、学生のニーズ・状況を把握したり、今回の対応の目標を共有したりすることができた	5-4-3-2-1
	(2) 質問しやすい・居やすい・また来たいと思えるような場づくりができた	5-4-3-2-1
	(3) 対応学生自身の成長を促す工夫ができた	5-4-3-2-1
	(4) 時間を意識して対応することができた（学生さんの予定、待ち札等）	5-4-3-2-1
	(5) 対応学生にアンケートを忘れずに渡すことができた	5-4-3-2-1
勤務全般	(6) 5分前出勤を厳守できた	5-4-3-2-1
	(7) 勤務時間が延びそうな場合はS L Aサポート室に相談した	5-4-3-2-1
	(8) 勤務中、身の回りの整理整頓を意識することができた	5-4-3-2-1
	(9) エチケット（身だしなみ、マナー等）を意識できた	5-4-3-2-1
	(10) 自分の勤務日～勤務日間のカルテをチェックし質問状況の把握に努めた	5-4-3-2-1
	(11) S L A日誌・業務日誌・部会ノートへの書き込み・チェックができた	5-4-3-2-1
	(12) センターの発行物（掲示物等）を把握するようになった	5-4-3-2-1
	(13) 未対応時も積極的にやることを探して活動できた	5-4-3-2-1
	(14) S L Aサポート室への「ハウレンソウ」をしっかりと実行できた	5-4-3-2-1
部会活動等	(15) 自分以外のS L Aの対応も意識しながら勤務することができた	5-4-3-2-1
	(16) 他のS L Aにもわかりやすいカルテを書くことができた ※対応時間いっぱいカルテが記入できなかったときは除外して考えてください	5-4-3-2-1
	(17) 部会定例ミーティングに向けて事前準備をすることができた	5-4-3-2-1
	(18) 部会活動（定例ミーティング、合宿報告、その他）に貢献することができた	5-4-3-2-1
	(19) 他のS L Aと積極的にコミュニケーションをとることができた	5-4-3-2-1
	(20) 新規S L A：積極的にわからないことを他のS L Aに質問した 新規以外のS L A：積極的に新規S L Aのフォローや指導を行った	5-4-3-2-1

(数字をすべて足してください) 自己評価点数

【2】記述式アンケート

(1)新規S L A =あなたがS L Aとして活動するに至った動機は何ですか？

(半年以上の) 継続S L A =あなたがS L Aの活動を続けている (いた) モチベーションは何ですか？

(2)【1】の(2)・(3)に関わる、あなたの対応上の工夫や意識していることを教えてください。

(3)あなたがS L Aの活動を通じて身についた・成長したと思う点は何ですか？

(4)あなたのS L Aの活動における現在の課題点・反省点を挙げてください。

(5)あなたが一目を置くS L Aの名前とその理由を教えてください。

名前= _____

(6)S L Aサポート室への要望等を自由に書いてください。

(7)今ある活動・業務以外でこんなことをやりたいという提案がある人は書いてください。

(8)今期の活動の満足度(100点満点)とその理由を教えてください

満足度= _____ /100点

❖ミニレポート 今期の自身の活動を振り返り、印象に残ったことなどを中心に、思ったこと・感じたこと・考えたことを自由に記述してください。(コメントペーパー風)

(5) 対外的活動

① 発表・講演等

- ・福島大学 FD 合宿 講師 (足立、鈴木)
 - 報告「東北大学の教養教育と学生支援」
- ・正午 PD (高度教教育・学生支援機構主催) 報告 (足立、鈴木、SLA 学生 2 名)
 - 話題提供「“ともと学ぼう、ともに育とう、ともそだち”」
- ・ピア・サポート科研 (代表: 小貫氏 [大阪大学])
 - 事例報告「SLA 学生の成長とその仕掛け」
- ・第 21 会大学教育研究フォーラム (於: 京都大学) 発表 (足立、鈴木)
 - 自由研究発表「『学生の力』を活用した正課外学習支援活動の可能性—学生アドバイザー (L S A) の成長に焦点を当てて—」

② 調査活動

- ・平成 26 年度東北地域大学教育推進連絡会議 参加 (足立、鈴木)
- ・平成 26 年度秋田大学高大接続教育フォーラム 参加 (鈴木)
- ・大阪大学、同志社大学訪問調査 (足立、鈴木)
 - * 科研プロジェクト「グローバル社会におけるコンピテンシーを具体化する高度教養教育の開発研究」(基盤研究 A、研究代表者: 羽田貴史) に基づく調査訪問
- ・第 20 回 FD フォーラム「学修支援を問う～何のために、何をどこまでやるべきか～」(主催: 公益財団法人 大学コンソーシアム京都) 参加 (関根、中川)

③ 訪問受け入れ

- ・「学生の学習成果に基づいたピアプログラムの開発研究」(基盤研究(C) 研究代表者: 小貫有紀子) に基づく調査訪問 … 来訪者: 安部 (小貫) 有紀子 (大阪大学)、望月由起 (お茶の水女子大)、橋場論 (福岡大学)

④ 他大学連携合同研修

- ・北海道大学アカデミック・サポートセンターとの合同研修会実施

⑤ その他

- ・高度教養教育・学生支援機構主催 PDP プログラム「アカデミック・ライティングを指導する」セミナー企画実施

(参考)

北海道大学(ASC)・東北大学(CLS)合同研修会

<実施日>2015 年 3 月 10-11 日

<参加者>

東北大学 高度教養教育・学生支援機構 学習支援センター(CLS) 計 8 名

・センター長: 関根勉

・センター員: 足立佳菜、鈴木学

・SLA: 北原理弘、奥田貴、木村あさ美、中島啓貴、山下琢磨 5 名

北海道大学 アカデミック・サポートセンター

・センター長: 川端 潤

・特定専門職員: 清水 将英 ほか

・チューター: 4 名

<目的>

- ・情報交換を通して、互いの組織改善に資するアイデアを得ること。
- ・学生スタッフ育成の場とすること。具体的には、比較の視点から、所属組織および自身の活動を省察できる力を身につけること。

<日程・内容>

3月10日(火)

10:00~10:20	開会、趣旨確認
10:20~11:00	①SLAによるCLS活動紹介
11:00~11:40	②チューターによるASC活動紹介
11:40~14:00	昼休憩(学生)
13:00~14:00	③センター長打合せ(教員のみ)
14:00~17:00	④ワークショップ 『トリセツ～正しく・楽しく・上手に私たちを活用するために～』
18:00~	⑤交流・親睦会

3月11日(水)

10:00~12:30	⑥座談会・ディスカッション
12:30~13:00	閉会

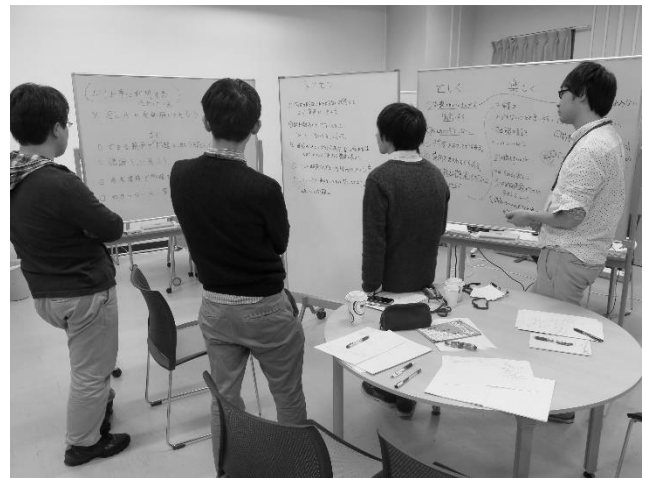
<SLAへの課題>

- ・北大との違い、共通点を探すこと
- ・SLAの武器は何かを考えること(組織として)
- ・「自分自身は、何を大事にしたいと考えているのか?」の省察を深める

【提出課題】

1. 北大アカサポとSLAの違いは何か、それは、具体的な実践・言動等にはどのように現れているか(あるいは、どんな具体的実践・言動等からそれを感じたか)を論ぜよ
2. 北大アカサポとSLAの共通点は何か、それは、具体的な実践・言動等にはどのように現れているか(あるいは、どんな具体的実践・言動等からそれを感じたか)を論ぜよ
3. 1・2を通して考えた、SLAにおける活動に対する考えや提案を述べよ

— A4版用紙1~3枚以内、3月末日まで〆切



4. SLA による活動振り返りレポート

英会話の楽しさを広げるためにやってきたこと

教育学研究科総合教育科学専攻 博士課程前期2年

SLA 英語担当 浜橋めぐみ

1. 英語部会担当として働き始めた動機

私が英語部会所属の SLA として働き始めたのは、「英会話って楽しいと思ってくれる1, 2年生が増えたらいいな」という思いからでした。私自身、幼稚園のころから英会話教室に通っていたこともあり、英語が好きで英語の教員免許も取得しました。自分自身も英語で話す機会を得ることができ、なおかつ英会話を楽しみと思ってくれる仲間を増やすことができるかもしれないという、そんな思いが活動を始めた動機でした。この気持ちはその後も変わることなく、活動を終えるまでそのモチベーションで SLA として学生と接してきました。

2. 行ってきた活動

英語部会には大学3年から修士2年まで在籍しました。大学3年のときはネイティブ主導で行われる英会話カフェ（当時の名称は英会話ゼミ）の補佐役として主に活動し、大学4年のときはカフェよりも新たな試み（Movie Night など）に奮闘していました。修士（主に1年）では英会話カフェを SLA 数人と、もしくは1人で担当しました。

3. 英会話カフェで意識していたこと

上記のような動機から英語部会に所属したこともあり、実際の対応で心掛けていたのは「居づらくない雰囲気づくり」でした。英会話カフェには、様々な学生が一度に訪れることがあります。「様々な学生」というのは、具体的には、比較的流暢に英語を話す学生からゆっくり話す学生、積極的に発言する学生からそうではない学生、友達同士で来た学生から一人でやってきた学生、何度も来ているリピーター学生から初めて参加した学生などです。そのようなときに居づらく感じやすいのは、「流暢にはまだ話せない学生」や「あまり自ら発言しない学生」、「一人でやってきた学生」、「初めて参加した学生」です。そのような学生にも「英会話カフェに来てよかった」と思って帰ってもらうことが、「英会話って楽しい」につながると私は考えています。

「居づらくない雰囲気づくり」のために行っていたことは、「上記のような学生に話を振る」、「初めて来た学生やカフェの途中から参加した学生には、カフェ全体で話している内容についていけるよう情報を共有する」ということです。英会話の楽しさは、「会話」であるだけに「話す」ことを通して感じる事が一番多いと思います。「聴く」や「与えられたフレーズを読む」も英会話の練習にはなりませんが、自分の思いを英語にして伝えられたときの喜びは、「英語が話せるようになりたい」という思いに直結すると思います。そのため、私は「カフェに来てくれた学生全員が1回は発言して帰ることを目標に、話を振るようにしていました。また、発言するためにはカフェの進行・内容を理解していることが必要です。そのため、情報の共有も意識して行っていました。情報共有の方法は、直接学生に話しかけて説明する方法もありますが、ときには SLA がわからないふりをして全体に質問を投げか

ける形で情報共有をすることも可能です。個別に説明するとカフェ全体の話が聞けなくなったり、「自分だけわかっていない」ことを強調してしまったりするためです。以上のようなことを意識することで「居づらくない雰囲気づくり」を心掛けていました。

4. SLA の活動を終えて思うこと

東北大学内には英語力上達を目的にしたサークルや団体がいくつもあり、流暢に英語を話せる学生がたくさんいると思います。しかし、「まだ流暢には話せないけれどたくさん練習してもっと話せるようになりたい」という学生も多くいると思います。SLA はその両者に英会話を楽しんでもらえる場を提供することが役割のひとつではないかと思います。SLA と他のサークル等との違いは、同じ大学生同士であっても「教育的な意識を働かせられる点」だと思います。ただの大学生同士の集まりだと、どうしても流暢に話せる人に合わせるが多くなりがちかと思いますが、「教育的な意識を働かせつつ教師の立場に立たないこと」が SLA の発揮できる力のように思います。「教育的な」と言ってもあまりおおげさなことではなく、例えば英会話カフェの参加者が SLA 含めてみんな流暢に英語が話せたら「まだ流暢に話せない人」は発言しづらく感じるかもしれません。しかし、そこで SLA が1人でもゆっくり英語で話したり、分からないふりをして全体に質問を投げかけたりすれば、発言したり質問したりすることをためらっていた学生が自ら話し始めてくれることもあるかもしれません。SLA が持つ力（英会話力など）をすべて発揮することも学生のモデルとしてときに必要ですが、「状況に応じて SLA として自らの力を調節することで、まだ流暢に話せない人と英会話の楽しさを共有すること」も大切だと思います。そしてそれは、SLA で英会話カフェを開く意味につながるのではないかと感じています。

私自身、留学経験があるわけでもなく、英語を強みとするような仕事に就職するわけでもなく、ただ単に英語を話すことが好きで SLA として活動してきました。どのような目的をもった学生であっても、英会話カフェにやってきた学生が「楽しかった」と思って帰ってくれるようなカフェが続くことを願っています。

SLA を通して得られたもの

理学研究科数学専攻 博士課程後期 1 年

SLA 数学担当 沖坂祥平

1. イントロ

学部 3 年時に SLA に加入し 5 年が過ぎた。お話を頂いた時は学部生が行う TA のような仕事という認識であり、軽い気持ちで引き受けた業務であった。しかし、学生としても人としても未熟な時期にこの業務に携われたことは今考えると自分にとって幸運であったという他無い。

中学、高校の時期から友人からの数学の質問に答えるといった経験をしてきたので、正直 SLA のお話を頂いた時はこの業務に対する自信があった。数学の理論的な部分は言葉の定義を確認し、議論の中に現れる論理のステップを可能な限り細かくして、1 つ 1 つを明らかにしていけば誰にだって理解できるはずだ。そのように考えていた。しかしいざ対応を始めてみると、1 つ 1 つをどれだけ細かく説明してもどこか納得のいかない表情をし続ける学生に数多く出会った。自分の中で様々な不安が生まれ始めた。学生の質問に答えていたつもりが自分の中で問題点はここだ、と勝手に解釈してしまっていたのではないかと自分では細かく説明していたつもりでも気付かないうちに何かを当たり前ものとして扱ってしまっていたのではないかと。そもそも「学生の質問に答えること＝問題を解決すること」なのだろうか？考えると可能性はいくらでも存在し、私は自分の対応の仕方について考えるようになった。

以来、本来の問題点はどこにあるのか、すなわち学生が理解できない理由がどこにあるのかを意識して対応するようになったわけだが、今回 SLA を辞めるに当たり、このような年報執筆という機会を頂いたので、その“理解できない理由”の 1 つに対する私なりの考えを、対応における反省を踏まえて述べたいと思う。

2. 「数学的な議論に慣れていない」

理由を探った際、上に書いたことが原因であると感じた事は少なくない。まず、数学的な議論とは何か。言葉の意味を厳密に定め、ある仮定から論理のみによって結論を導く。数学の“学問”としての特徴は大きく言えばこの 2 つに集約されると思う。正直これ程単純な構造をしている学問は他にないだろう。だからこそ、1 つ 1 つの論理を明らかにすれば誰にでも理解してもらえと思っていた。しかし、まさにそれこそが自分でも気付かないうちに当たり前にしてしまっていたことなのである。学問が「分析する対象」と「分析する方法」で特徴付けられるとするならば、学問を学ぶという事はある対象を分析する方法を身に着けるという事でもある。そして数学的な議論とはまさに数学における「分析する方法」なのであるから、1 年生という大学の数学を学び始めた段階でその議論の仕方に慣れていないのは当然である。

ただ、私が今回ここで主張したい事は、慣れていない学生も勿論いるだろうが、そもそも“数学ではそのような考え方をする”という事を知らない学生もいるのではないかと、いう事だ。数学に限った話ではないだろうが、高校の数学と大学の数学はギャップが激しいとよく言われる。それまでは計算が主体で問題を解くといえれば何かしらの答を出すことが数学であったのに、大学の数学は何かを示すこと、すなわち証明することが主体になる。要は、数学を勉強する上で重きを置くポイントが少し

変わる。また、考える対象も具体的なものから抽象的なものになっていく。つまり、今まで扱っていた数やベクトルといったものは、これから扱う対象の具体例でしかない。しかし学生は講義を受けながら、その変化に自分自身で気が付かなければならない。学生が大学の数学で躓く理由はここにあるのではないか。そして“慣れていない”ならば「慣れるまで自分の手を動かして練習しましょう」としか言いようがないように思うが、学生が“慣れていない”のではなく“知らない”のであれば、まずはその先入観を捨ててもらわないといけないので私たち **SLA** がやるべきことも当然変わってくる。学生の立場でも、**SLA** の立場でも、大切なのは「自分の中にある“当たり前”に気づき、その外側の可能性に目を向ける事」なのではないか。

3. 終わりに

私が、当然と思っていることに意識を向けなければならぬと考えるようになったのは間違いなく **SLA** を経験したからだ。**SLA** に所属していなければ同じ理学部でも化学科や生物学科、ましてや工学部や文学部、教育学部の方々とこれ程までに密に関わる機会を訪れなかったと思う。様々な分野の専門家がいるこの組織の中で、私はその方々との考え方の違いなどに触れる事によって自分の視野がいかに狭いかに気付かされた。そしてそれは同時に、自分の周りには自分の見えていない世界が存在しているという事実を実感するという事でもあった。

見えないものに意識を向けることはとても難しいことであるが、**SLA** は未熟な私にそのきっかけを与えてくれた組織である。学生に対しても **SLA** で勤める人たちに対しても、自分の知らなかった何かを提供してくれる組織として、**SLA** というチームがこれからも発展していくことを心から願っている。

4年間の活動の中で考えたこと

理学研究科数学専攻 博士課程前期2年
SLA 数学担当 金子理

<はじめに>

SLA として活動を始めてから4年間になった。活動をする中で考えていたこと、こだわっていたことについて述べていく。

<3年生前期>

この頃は、SLA の活動というのは学生が話を理解し納得することが何より重要だと考えていた。そのため、どんな質問であっても完璧に答えなければならないという考えだった。

SLA になって最初の対応は線形代数で像と核、全射と単射の質問対応だった。具体例をたくさん出したり、図を書いたりして説明した。核の説明には苦労したが、時間をかけて自分なりに丁寧に解説した。

期末試験の時期になると数理統計の質問を持ってくる学生がいた。当時はまだ浅はかな知識しかなかったため、決して容易な対応ではなかったが可能な限りすべての質問について丁寧に解説した。

このように、当時は学生を納得させて疑問を解決することが何より大事だと考えていた。

<3年次の合宿>

夏休みに SLA の研修合宿があった。周囲は初対面の先輩ばかりであると思ったため、この合宿に参加することをためらっていた。しかし、通常の質問対応のシフトに関わらない先輩との交流があったために、この合宿が大きく自分に影響を及ぼすことになった。

この合宿では自分とは違う価値観を持った人の話が聞けるというメリットがある。当時、質問に来る学生が理解して納得することが第一だと考えていたが、理解させることではなく調べさせることも重要だという価値観には影響を受けた。

また、SLA には学問や後輩の学習指導に対して熱意に影響を受けた。合宿期間はほとんど徹夜になるくらい SLA について話を続けるほどである。

<3年生後期、合宿を終えて>

合宿以降は対応において、「調べさせること」を重視した。対応に入る前にどこまで自分で考えているかを聞くように意識した。わからないことは自分で調べることが重要なので、こちらがあまり手をかけない方がいいという考え方をするようになった。そのため、このころから対応時間が以前に比べて短くなった。

<4年生前期、数学部会長になる>

4年生の前期での1番の変化は数学部会の部会長になったことだ。これまでは、通常勤務において質問対応の質を上げればよかったが、それからは、利用学生全体の質問傾向に目を向けることが求められた。また、部会全体を見渡して自分は何をしなければならないかを考えるようになった。実際、月に一

度行われる定例部会ではメンバーの考えを聞きだして、まとめることに重点を置いた。その結果、まとまりのある定例部会になったと思う。

<4年生後期、雑学ゼミの準備から完成まで>

数学部会の同期で雑学ゼミをやろうという案が4年生の研修合宿の時から話題に上がっていた。そして、その年の後期からその準備が始まった。最初は“何を話したいのか”が定まっていなかったため、準備に苦勞した。話したいことありきで取り掛かったわけではなく、とにかく“実施すること”を目指したため“何を話したいのか”を考えることに時間がかかった。準備に苦勞はしたが、自分の専攻分野は何が面白いのかを考えたような言葉で話せばわかりやすいかを考えるよい機会になったと思う。そして今思うことは、プレゼンテーションは場数を踏みなれることが重要だということだ。雑学ゼミ当日は決して流暢に話せたわけではない。しかし、結論がはっきりしており、論理のステップがシンプルなものにできたと思う。そのようなプレゼンテーションも聞く人は印象に残る事が分かった。このような発見は人前で話すことで得られるものなので、プレゼンは慣れが重要だと学んだ。

<修士、部会長を引き継いでから>

雑学ゼミというイベントが終わり、部会長を引き継いでから利用学生の質問傾向に目を向けるようなマクロな視点を求められることが減った。そのため、個々の学生とのやり取りのようなミクロな視点が重視されたと思う。利用学生が質問に来ることで、それぞれの学生にとって学びの場とするにはどうすればよいかを考えるようになった。この時期から、私の名前を覚えてくれている利用学生が増えた。また私自身、通常シフトでの質問対応が楽しいと思えた。

今年で夏の研修合宿は4回目を迎えるが、幸いにも私は4回とも参加することができた。修士2年次の研修合宿は学部3年次の合宿の時以来、初のプレゼンテーションをしない合宿であった。あくまで個人の意見ではあるが4年目の研修合宿が最も充実していたように思う。理由としては各部会の活動報告が充実していたということが大きいと思う。「充実していた」とは具体的には2点を挙げる。1点目は各部会の発表はそれぞれの個性が出ていたということである。例えば、数学部会であればスライドがシンプルにまとまっており要点が見やすかった。2点目は他の部会の発表であっても通常の質問対応で参考になることが多かったということである。英語部会の学生と接する際に気をつけている事を発表しており、参考になった。また、化学部会では「化学数学」という分野を発表しており、数学部会の私には興味深いものだった。

修士2年の後期になってからの変化はシフトのコマ数を減らした事が挙げられる。金曜日の2限と昼休みにシフトに入った。質問件数は少なかったが、それぞれの質問の内容は時間がかかるものが多かった。これは曜日の特色なのだろうと思う。また、ある利用学生の対応を任されたことも大きな変化であった。数学に苦手意識があり、少しでもわからないことがあるとパニックになる学生であった。決して容易な対応ではなかったが、こちらが落ち着いて対応することで、その学生にとって適切な学習方針を示すことができた。SLAとしての経験値を積んだこと、個々の利用学生とのやり取りを重視したことによる成果だったと思う。

<あとがき>

以上、SLAでの活動において考えたことやこだわったことを述べてきたが当初から比べ大きく変化している。利用学生にとって良いことを探してきたが、それが人と話すことができなかつた頃から特定の学生の対応を任されるまでに自分を成長させた。SLAとして4年間活動できて幸せだった。

年長者から見た SLA

理学研究科数学専攻 博士課程前期 2年

SLA 数学担当 石井亮太

1. はじめに

私は SLA の活動に 3 年半従事した。今年度で SLA は創立 5 年目を迎えたため、私のポジションはベテラン層にあたる。本稿では、年長者という立場として活動を行ってきた中で私の感じた課題と、私が SLA に対して貢献できたことについて触れる。

2. SLA 年長者としての窓口対応

SLA での窓口業務において、同種の質問が何度も来ることは少なくない。例えば、線型代数学での核を求める問題、解析学での $\varepsilon - \delta$ 論法の問題は非常に質問の頻度が高い。窓口対応を繰り返す中で、このような質問における学生をつまづき所に対する理解や、その解決策は自然と得ることができる。もちろんこの経験値は対応において重要である。しかし、年長者になるにつれて、私はこの経験値の弊害を実感することが多くなった。実際、上で述べたような典型的質問に対してはルーティンワークのように対応をこなしてしまうことが頻繁にある。これでは学生と近い距離で対応を行う SLA の良さが損なわれてしまう。このような対応の仕方でも、表面的には学生の問題を解決させてあげることができ、学生は満足しているように見える。しかし、私が体験したいいくつかの対応では、このような経験値による反射的対応では満足して対応を終えることができない学生もいた。この問題点は、学生の疑問をこちらが勝手に決め付け、典型的質問に対する対応策に持ち込んでいたことである。この解決策として、コンサルティングへの意識が挙げられる。コンサルティングは夏の合宿でも話題となり、これは私の持つ問題点への解決策になると考えた。具体的には、対応最初の 5 分で学生のわからなさをこちらが正しく理解し、その対応全体の流れを設計して学生に提示するものである。これによって学生への理解を深め、満足の行く対応につなげることができると考えた。後期セメスターではコンサルティングを意識した対応を洗練させたかったが、対応件数の少なさからこの試みは十分に行えなかった

3. SLA 年長者としての部会活動

修士 2 年という年長者のポジションで部会に臨む際、私は自分の行動をより考えるべきであったと思う。なぜならば、SLA は可能な限り学部生に動かしてもらいたいため、院生はできるだけサポートに回るのが良いと考えているからである。しかし、実際には院生が主体の話し合いとなっていた。先輩が持つ経験から後輩を引っ張ることはもちろん重要であるが、先輩主導による雰囲気のために後輩からの意見が得られなくなることは問題である。私がこの問題を意識し始めたのは活動の終わり際だった。そのため、解決策を考え、それを試みることはできなかった。この問題は後輩 1 人 1 人のキャラクターによって大きく左右されるため、明確な解決策は無いように思う。この解決策を考える中で、私は後輩のキャラクターを深く理解できていないことに気づいた。窓口対応の際には学生のキャラクターを掴むために努力するが、SLA に対しては同等の努力ができていなかったのである。このようなことは部会に限ったことではないと思うので、これからの SLA には学生だけでなく、SLA への理解も深めていって欲しいと思う。

4. 私が SLA に対して貢献できたこと

SLA のメンバーは全員が学問に対して真摯に向き合っているため、メンバーとの交流は自分にとって非常に良い刺激となる。また、学問以外においても先輩のカリスマ性やコミュニケーション能力、後輩のまっすぐさなども自分に刺激をもたらすものであった。したがって、SLA 同士の交流はそれぞれにとってとても貴重な経験になると考えている。しかし、シフトや部会以外では他の SLA と顔を合わせることはほとんど無い。私は今年度が SLA 最後の 1 年ということもあり、SLA 内でのイベント企画を積極的に行った。結果として、普段は接点の無い SLA 同士の交流に貢献することができ、SLA 全体を盛り上げることにもつなげられたと感じている。また、SLA の業務とは異なる先輩の姿を見ることで、私が自身の成長のために吸収したい所が見えた実感している。このようなイベントは上で述べたような SLA 同士の理解を深める場となると考えているので、これからも続けて欲しいと思う。

とも育ちのなかで学んだこと

理学研究科数学専攻 博士課程前期 1年

SLA 数学担当 小田部秀介

私は学部3年の後期に SLA の活動を始めました。一つ先輩の中村さんからの紹介という形で入れさせてもらいました。学部1年のときに私が自主ゼミを立ち上げる際、SLA に支援してもらったことがあり、これが SLA の活動を知るきっかけとなりました。私は学部生のときから勉強が好きだったので、SLA に対しては好印象しかありませんでした。しかし、勉強は基本的に一人でするもの、と思っていたので、あまり質問には行かず、自分で調べたり考えたりしていました。このときは自分が SLA の一員になるとは全く思っていませんでした。

一員になってから始めの半年は、足立さんと学さんに言われて、月毎にシフトを動いて多くの先輩方の対応を観察しよう、ということになりました。この時期に多くの方々の対応を見させていただいたのですが、私の学習能力が低いいためか、残念ながらあまり記憶に残っていません。ただ、最後に同じシフトになった同じ数学部会の S 先輩（現在は先生をされています）と一緒に対応に入っていたことは覚えています。S 先輩は、対応の際、とてもゆっくりとした口調で基本的な事柄から丁寧に説明されていて、質問に来る学生への思いやりを感じました。また、経験の浅い私を頼ってあげるやさしさも持っていて、些細なことでしたが、この時期の私にとっては、自信につながるようなとてもうれしいことでした。私も後輩の面倒をみるのがあれば、このようにしようなどと、入ってから日の浅い経験不足の私が、後輩教育について学んだのでした。ところで、初対応のときのことも思い出したのですが、物理部会の同学年の I 君のサポートの下、対応したのですが、I 君いわく、緊張のせいか、対応中の私の手は震えていたのだそうです。

SLA に入ってからしばらくは、部会活動に馴染めずにいました。自己主張の強い先輩方ばかりで、議論に入り込む余地が見つかりませんでした。始めの1年ぐらいは恐らく部会の中で自分の意見を言ったことがなかったのではないのでしょうか。この時期の私の問題意識は、「定例会をサボるために必要十分かつ社会的に通用する言い訳は何か？」というものでした。（これは難問で、今でも未解決です。）少しずつ自分の意見が言えるようになってくると、今度は自分の考えと他の人の考えのギャップみたいなものに悩み始めました。なんとか頑張っただけでひねり出した言葉が否定され、全体に影響を及ぼさないということがかなりストレスでした。しかし、部会活動は、「自分の中で考えることはあっても他の人の意見を聞くことが無い」という類いのテーマばかり扱っているので、今思うと、とても学んだことが多いと思います。例えば、数学の学び方などについては、自分の中で考えて、ある程度自己流の解答を持っているわけですが、他の人がどう考えているかを聞く機会は SLA を始める以前はあまりありませんでした。定例会での議論の積み重ねのおかげで、考え方が大分、柔らかくなったと思います。今でも融通がきかなかったり、間違っただけで考え方をしたりすることがよくあるのですが、それでも以前よりも、ある程度は客観視することができるようになったのではないかと思います。他の人と自分の考え方の違いを少し楽しめるようにもなりました。その後、部会以外の様々な活動なども通して、いろんな人と出会って話を聞きたいという感情も（行動が伴わないことが私の悪いところですが、）芽生えるようになりました。

普段の業務で、学生の対応をしていて感じることは、「多くの学生は質問下手」ということです。こ

これは批判の言葉ではなく、実際仕方のないことだと今の私は思います。自分の専門外、興味外の科目まで学ばなければならない状況の中で、単位を取るために理解しようとして、なんとか言葉をひねり出しているため、下手な質問になってしまうのではないのでしょうか。しかし、以前の自分はこのように考えることができずに、学生に対して批判的に接している部分が少なからずあったと思います。ある対応のときの話ですが、ある一人の韓国からの留学生が数学の質問をしにやって来ました。その学生の始めの質問は、レポート問題のある問を指差しながら「この問題がわからない」でした。それはとても簡単な微積の計算問題でした。一言二言、私が解答の方針を話し、二分ぐらいで対応が終わりました。そして、いつも通り、カルテを書き、学さんに報告しました。学さんとのやり取りの中で私は「何故こんな簡単な問題がわからないのか」ということ言い、その学生を批判しました。しかし、学さんと話すなかで、その学生はその計算問題自体が分からないのではなく、日本語で書かれている問題文の意味が分からなかったのだということに気づかされました。私はそんなことにも気がついてあげることができなかつた自分が恥ずかしくなり、情けないと思いました。もし対応の際に、その学生の本当の質問に気づくことができたなら、もっと違う対応の仕方があったらと思うのです。この対応から、1年か半年の間、勤務を続けましたが、学生の本当の質問をとらえられるようになったという自信は未だにありません。

最後になってしまいましたが、SLA で出会った皆さんには本当に感謝したいです。特に、こんな自分を雇って下さった足立さんや学さんには本当に感謝しています。何も恩返しすることもできずに、卒業することになってしまい、申し訳ありませんでした。いつも変わらず笑顔でいて下さった真衣さんにもとても感謝しています。

おせっかいの塩加減

文学研究科文化科学専攻 博士課程前期 2年

SLA 英語担当 房内まどか

1. はじめに

SLA の存在をあえて言えば、「おせっかい」なものだと思う。もちろん良い意味でこの言葉を選んでいる。理由はまず、義務教育ではない大学教育において学ぶかどうかは自分次第であるところを、組織としてサポートするのが SLA であるからだ。また、教科だけでなく、「幅広く学びをサポート」と打ち出しており、対応の時のコンサルティングだけでなく、雑学ゼミなども開いている点はおせっかいと言える。さらに、「ともそだち」を掲げているように、利用学生の成長だけでなく、スタッフである学生の人間的成長も意図している点で、かなり欲張りなおせっかいである。ただし当然、おせっかいには塩加減が必要で、しかも SLA のおせっかいは少し特殊であると感じる。私自身は、この「おせっかい加減」というものをしばしば考える機会があったので、本稿では自分がどのようなおせっかいを周りの人にし、どのようなおせっかいを受け取って成長したのかまとめてゆく。

2-1. 英語部会

そもそも私が SLA に応募したきっかけは、人に何かを教えるのが好きだったからだ。ここで大学教育にかかわれば、小学生から大学生の教育活動の経験があると語れるだろうという打算が当時の私にはあった。実際には SLA 英語部会の活動は「教える」こととは多少違う性質を持ち、そう甘いものではないことを後に痛感することになる。

1年目の最初は、正直「英語を話す機会さえ作れば良い」と思っていた。だが、濱橋さんやサポート室とやり取りする中で、自分とは異なる物の見方をしていると気付いた。つまり、利用学生が楽しく、意義ある英会話ができるような「仕掛け作り」を考えることが必要だったのだ。それまでの塾講師や教育実習の経験とは異なり、SLA ではいかに学生の裏手に回って英語を話しやすくするかという、「遠回しなおせっかい」が必要だった。だんだんそのコツは掴んでいったが、1年目は結局もやもやとした気持ちで終わってしまった。なぜなら自分の英語力に自信がなかったからだ。もちろんそれを自覚しながら自己鍛錬を怠った自分のせいではあるが、私より他の SLA の方が学生の役に立てるだろうと考えてしまった。今思えば、私が得意としていたのは場の雰囲気を作ったり、人と人を取り持ったりすることだということをもっと早くから自覚していたら、やれたことは他にあった気がする。

2年目の前期は「のぞき見プレス」という、学内への広報と実際にカフェで行われた英会話の記録を兼ねたポスター作りをした。これは、もともと「書く」ことが好きだという私の性に合っていたのでとても楽しかった。取材のために各カフェを回ったり部会長を務めたりしたので、英語部会 SLA の間をつないでいくような役割もできた。ただ、この時は SLA を大学内に広報するということの難しさを感じた。前期は新規利用者があまり伸びなかったことから、広報としてどれほど役立ったかはわからない。一方、ポスターを読んだ人からは、学んだことの復習に役立ったという声も聞いた。確かに、英会話は学んだことを形に残しづらい。今後は、利用学生が学んだ英単語を記録できるカードを作ったりと、目で見て成長が実感できるシステムを作ってもらいたいと思う。

2年目の後期は SLA の人数がさらに増え、しかもみなアイデア豊富な人たちだったので、英語の触

れあい方を学ぶことができた。前期からすごいと思っていたのは寺岡さんだった。英語力はもちろん、視線をちゃんと学生に合わせながら臨機応変な対応ができるところを尊敬していた。実際、1月に復帰した時はSAP参加予定の学生が大勢押し寄せていて、相手に応じて自分が何をすればよいかを、1足先に考える癖がついた気がする。そして、様々な英語を聞く中で、相手の話を腹を据えて聞くこと力も鍛えられた。

2-2. てつがくカフェ

私がせんだいメディアテークで「てつがくカフェ@せんだい」という市民活動をしていた縁で、SLAで哲学対話を行うことを持ちこんだ。このような教科以外の活動こそ「おせっかい」だろう。しかし、教科の勉強を楽しむための「学ぶ土台作り」のようなサポートこそ、実は大学教育にとって大事だと思っていた。実際私は学部1、2年の頃は勉強をする目的を見失っていたりしたので、後輩たちにはそのような思いをする人が減ってほしいとも思っていた。1年目に行ったテーマは「はたらくって何?」、2年目は「大学生を考える」というふうに、いずれも学部生がもやもやを抱えるところを設定した。だが、実際には参加者は少なく、対話内容は充実したが、学部生の役に立てなかったのではないかと落ち込んだ。少しまじめに人と話す・議論する時間の需要は決して少なくないと私は思う。ただその欲求がやり過ぎそうと思えばやり過ぎせる類のものだから、優先順位が下がってしまうのかもしれない。おせっかいのしすぎなのかもしれない。しかし、目に見えないおせっかいへの要求を先回りしていくことも、SLAのような柔軟な立場では今後も続けてほしいと私は考える。

3. まとめ

以上述べたように、私はSLAを通して「おせっかいの塩加減」を悩み、学んだ。単に教えるような一方的なおせっかいではなく、相手が何を求めてこの場に来ているのか察知して、さりげなくおせっかいすること、つまり真剣に人と向き合い、自分は何ができるかを常にフル回転で考えることを鍛えられた。もちろん、私はたくさんの「おせっかい」を受け取った。就活のときはサポート室や同期SLAに何度も助けられたし、他のSLAが自分の活動や研究に熱い姿勢で取り組んでいたことは、本当に刺激になった。上手いかなかったことはいくつかあるが、おせっかいも悪くない、と感じた2年間だった。サポート室の皆様と、SLAの先輩、後輩、同期へこの場を借りて感謝を伝えたい。

資料 1 2014 年度学習支援センター活動略歴

4 月	
1 日	英会話担当 SLA プレミーティング
7 日	センター引継ぎミーティング
9 日	新規 SLA 向け活動説明会・全体前期活動説明会実施
14 日	窓口OPEN
21 日	第 1 回センター定例ミーティング
5 月	
12 日	第 2 回センター定例ミーティング
20 日	第 1 回化学部会定例会、第 1 回物理部会 A 班定例会、第 1 回数学部会定例会
23 日	第 1 回物理部会 B 班定例会
6 月	
6 日	第 1 回英語部会定例会
7 日	萩友会プレミアム懇談会（自由見学）窓口開設
9 日	第 3 回センター定例ミーティング
24 日	第 2 回化学部会定例会、第 2 回物理部会 A 班定例会
27 日	第 2 回物理部会 B 班定例会
30 日	第 2 回数学部会定例会
7 月	
4 日	第 2 回英語部会定例会
14 日	第 4 回センター定例ミーティング
22 日	センター臨時ミーティング
30・31 日	オープンキャンパス
8 月	
1 日	東北大学附属図書館 ライティング支援の連携についての検討会
4 日	窓口CLOSE（最終日）
6 日	第 3 回物理部会定例会、第 3 回数学部会定例会
7 日	第 3 回化学部会定例会、第 3 回英語部会定例会
9 月	
1 日	高度教養教育・学生支援機構主催 PDP プログラム「アカデミック・ライティングを指導する」セミナー（企画）
11～13 日	SLA 研修合宿実施
27・28 日	◇福島大学 FD 合宿 講師（足立・鈴木）
10 月	
2 日	後期セメスター活動説明会実施
6 日	窓口OPEN／第 5 回センター定例ミーティング／工学教育院打ち合わせ
18 日	平成 26 年度東北地域大学教育推進連絡会議参加（足立、鈴木学）
20 日	センター臨時ミーティング（勉強会）
21 日	数物演習 TA 初派遣
24 日	平成 26 年度秋田大学高大接続教育フォーラム参加（鈴木学）
27 日	後期第 1 回（4 回）物理部会定例会
28 日	後期第 1 回（4 回）数学部会定例会
30 日	後期第 1 回（4 回）英語部会定例会、後期第 1 回（4 回）化学部会定例会
11 月	
4 日	第 6 回センター定例ミーティング
20 日	学生相談・特別支援センター 支援学生に関する打ち合わせ 学習支援企画「1 トピックダイアログ～90 分の『考える対話』」 後期第 2 回（5 回）物理部会定例会
21 日	後期第 2 回（5 回）化学部会定例会
25 日	後期第 2 回（5 回）数学部会定例会

26日	活動希望者向け説明会
27日	後期第2回(5回)英語部会定例会
28日	活動希望者向け説明会
12月	
2日	第7回センター定例ミーティング
4日	認証評価視察
9日	新規採用面接試験
10日	正午PD(高度教教育・学生支援機構主催)報告
11日	新規採用面接試験
15日	センター臨時ミーティング(10:45~12:00)
16日	ピア・サポート科研訪問調査兼打ち合わせ(14:00~17:30) ;小貫氏(大阪大学)、望月氏(お茶の水女子大学)、橋場氏(福岡大学)
1月	
6日	第8回センター定例ミーティング
13日	学生相談・特別支援センター支援学生に関する打ち合わせ
20日	新規採用面接試験
2月	
2日	活動希望者向け説明会
4・5日	大阪大学、同志社大学訪問調査(鈴木のみ、6日シンポジウム参加)
9日	窓口CLOSE(最終日)/活動希望者向け説明会/ライティング部会定例会/ SLA個別ヒアリング開始 *1人30分
10日	後期第3回(6回)英語部会定例会、後期第3回(6回)数学部会定例会
12日	第9回センター定例ミーティング/活動希望者向け説明会 後期第3回(6回)物理部会A班定例会(13:00~14:30)
13日	活動希望者向け説明会 後期第3回(6回)物理部会B班、後期第3回(6回)化学部会定例会
16日	年度末活動報告会
17日	活動希望者向け説明会/新規採用面接試験
23日	来期活動予定授業SLA三者ミーティング(2件)
24日	新規採用面接試験/来期活動予定授業SLA三者ミーティング
26日	北海道大学研修組ミーティング
3月	
2日	新規採用面接試験
4日	活動希望者向け説明会
6日	ピア・サポート科研(代表:小貫氏[大阪大学]) 事例報告
9-11日	北海道大学アカデミック・サポートセンター 合同研修(SLA5名参加)
13-14日	第21回大学教育研究フォーラム(於:京都大学) 口頭発表
16日	新規採用面接試験(3名)
17日	新規採用面接試験
18日	新規採用面接試験(2名)
19日	新規採用面接試験
25日	新規採用面接試験

◇は対外的活動

<その他の動き>

- ・学習支援センターWEBページ改修(8月~3月)
- ・『ともそだち本2015』作成・発行(10月~3月)
- ・年度末SLA個別ヒアリング(2月~3月)

①活動説明会

2014年度SLA活動説明会

2014年4月9日(水)16:00~17:30
@マルチメディア教育研究棟1階 SLAフロア

説明会の目的

1. SLA全体の動きを知る
2. 自分の位置づけを理解する
3. 今年(今セメ)の課題・目標を知る+考える
4. SLAのメンバーを知る(+覚える!)

今日の内容

まずは簡単に全メンバー一覧

物理部会	数学部会	化学部会	英語部会
別所 D2	沖坂 D1	吉川 D2	浜橋 M2/教
中村佳 D2	佐藤藤 D1	佐野 D2	房内 M2/文
高畑 D1	金子 M2	佐藤悠 M2	原 M2/工
遠野 M2	石井 M2	山下 M1	スミット 4/工
紅林 M2	中村聡 M2	★デヒョン 4	★プラーチュ 3(4?)/工
小島 M1	小田部 M1	★齋藤 4	★寺岡 4/理
白井 M1	中島 4		★セキ D3/国
中村悠 4			
佐藤諒 4			
五十嵐 4			
★麻生 3			
★高根 3			
★奥田 3			

ライティング部会	授業部会
千葉 M2/教	近藤 D3/国
近藤 D3/国	浅野 4/教
	小川 2/文
	田中 4/教
	海老根 2/農
	サラ M2/工
	柏瀬 2/経

全41名(4月時点) よろしくね!

そしてもう一つ。

- 今年の『ともそだち本』無事、出来上がりました！(PDFビューワーも作りました☆)
- SLAの皆さんに2冊ずつ配ります。1冊は自分に、1冊は大事な人へ...♥

1. 組織の話

SLAは「学習支援センター」になります！

高度教養教育・学生支援機構

①高度教養教育・学習支援機構とは？

里見進 総長

<2014年 東北大学総長 年頭所感より>
 ...今年は無事であった教育・研究面での改革を実行する年になります。教育面では、今後ますます進行する国際化を見据えて、世界を舞台に活躍し**社会にイノベーションをもたらす人材を育成**するため、**基盤となる教養教育の充実**を図ります。これまで一年余の時間をかけて検討を重ねてきましたが、**既存の高等教育開発推進センターと幾つかの組織を統合して高度教養教育・学生支援機構を設置**することが決まりました。これは教養部を改組した時以来の大改革になります。教育を専門にする教員を大幅に増員することで、**語学をはじめとするコミュニケーション力の向上、自ら問題を設定し解決する能力や総合的に考える力を養う**など、これまで日本の大学でうまく伸ばすことができなかったと言われてきたことを、**上手に育てられる体制に再編**します。全学の先生方には教育面での貢献をさらにお願いすることになりますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。...

②学習支援センターの体制

センター長 : 関根勉先生
副センター長 : 中川学先生

● 学習デザイナー(教員・専任)
→ 足立佳菜、鈴木学
● 事務員(職員)
→ 鈴木真衣

マネージメントスタッフ (SLAサポート室)

学生・ラーニング・アドバイザー(SLA)

理系(物・数・化) 英会話 ライティング 文系

個別対応型 授業連携型 企画発信型

③センターの使命！

学生の主体的・自律的な学習を、実践的に促進・支援していくこと

- ◆主体的・自律的学習→研究大学で学ぶ学生としての資質育成
※「学習支援」観の深化・拡充、「学び合い」文化の醸成が課題
- ◆実践的視点→学生の実際の学習活動に即した支援の展開(個に応じた支援)
※学習という観点で学生に最も身近な存在として組織を形成

<取り組み課題>

1. 全学教育段階のリメディアル・レベルアップ学習支援の開発・実践
2. 学習支援の組織開発および支援者育成システムの開発・実践
3. 情報還元による正課カリキュラムへの貢献
4. 全学教育範囲における学習支援ネットワークの構築



組織の話はここまで！

ここからはみんなの業務に直結する
具体的な話をしていきます！



2. 各活動に即した話

■全体的課題(SLAサポート室としての課題)

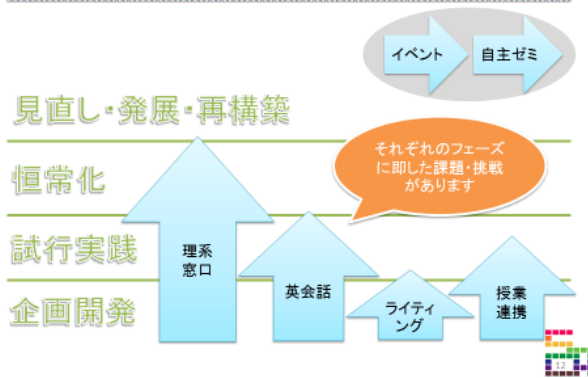
キーワードは「成長」

- ・SLAをやったからこそ、こういうスキルが伸びたという、それぞれの“成長”を増やしたい！
- ・そのために、サポート室が提供できるものをもっと整理していきたい！

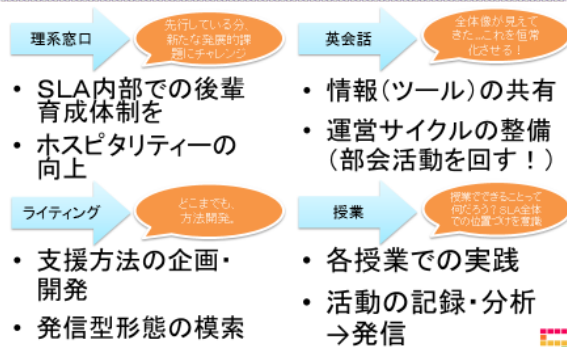
(みんなが大変になるかもしれないけれど...)



各活動の2014年度



各活動の目標・課題



英会話TO DO

- ①部会長を決めます！
- ②部会定例会を月一で実施するようにします。他の人が、どんなツールを使って、どんなふうにかを回しているのか情報共有しましょう。
- ③「活動記録書」を書く...のはやっていますが、他の人の記録を見ることを習慣づけよう！
(他の人の記録に、コメントを書き加えてくてもよいです！)



ライティングTO DO

- ①計画練りから共にやっていきます。基本的には、TO DOを練ることがTO DOです。
- ②4～5月は、勉強会+作戦会議です。
- ③6～7月、セミナー(イベント)形式で会を開いてみようか...?と考え中です。
- ④サポ室で持つ基礎ゼミ受講生のレポート作成支援に関わってもらおうと思います。



授業TO DO

- ①基本的には、各授業ごとに、先生の指示に従って活動を行うことが役割です。
- ②余力と希望があれば、次のような活動も考えています。
 - ・月間活動報告書よりも詳細な活動の記録
ex) 活動風景の写真を撮る ※ただし、学生の顔は×、要先生の許可。
 - SLAで作成する『SLA年報』への掲載も? その場合、担当の先生とも相談。
 - ・レポート作成支援系の活動がある授業SLAは、ライティングSLAとの勉強会等への参加
 - ・学期末の情報交換会実施(協力者がある程度揃えば...)



理系窓口 TODO

日常(当番制)

①業務日誌をつけよう

日常(全員)

②カルテにコメントを残そう！
③カルテ報告を先輩SLAに

部会

④部会定例会の回し方を改善しよう
⑤カルテを使って、スキルUPしよう(新規・若手SLAの育成を兼ねる！)

その他

⑥北大ASCとの連携・交流プロジェクト
⑦未対応時プチワークでスキルUP！？



① 業務日誌を書く



新しい業務日誌



従来のSLA日誌

もあります

- ・当番制(全員一度は書く！)
- ・午前/午後区分
- ・カルテではわからない、SLAから見た“その日の様子”を記録して情報共有しよう！

例)①フロアの様子、②サポート室の様子、③カウンターの様子、④待機場所の様子を記録

こちらには、個人の想いを、好きな時に、徒然なるままにどうぞ♪



②カルテへのコメント

- ・「カルテ」にSLAからのコメント欄を新設します。
- ・カルテを見ていて気づいたことは、書き込んでよいよ！ということです。
- ・せっかく書きこむので、自分が前に書いたカルテも見直すようにしましょう！

これに伴って...

- ・カルテ執筆者は、後にそのカルテを見る他のSLAたちの指標になるように、そのカルテ(質問内容)をラベル付けしてください！(※全てではなく、必要に応じて)

- | | |
|----------|------------------------------------|
| ①基本 | ...「よく来る質問」「みんなもできてた方がよいよ」 |
| ②いいね(良問) | ...「なかなか面白い問題だったよ」 |
| ③要注意(鬼問) | ...「難しい/癖のある問題なので注意！」 |
| ④聞きたい | ...「他の人がどう対応するか聞いてみたい/わからない部分があった」 |



③先輩SLAにカルテ報告(予定)

- ・これまでサポート室が行っていた対応毎のリフレクションを先輩SLAにやってもらいたいなと考え中。(シフト編成によってできないところもあるかも)



④定例会の回し方を改善しよう

◎定例会の基本形を揃える

- ・前半(45分):情報共有(good or bad事例、鬼問・良問等)
- ・後半(45分):ケーススタディ(ホストが設定した問題の検討)
例)1~3名がメンバーの前で説明
→ホスト役がメンバーの前で説明・解説
→全員で説明の仕方を検討

◎各定例会にホスト役(≠部会長)を設ける

<ホストの役割>

- ・前半部分...当日のファシリテート
- ・後半部分...ケーススタディの問題設定、対応例の作成
- ・計画段階では、サポ室と相談



過去の対応事例

⑤カルテを使ってスキルUP

- ・質問を受けたことある事例についてはみんなできるようになってやるぜ！というのが目的
- ・定例会のケーススタディにもつながるかも。

「できる・わかる」と「教えられる・人に伝わる」ことは別。スキルUPは前者が目的、ケーススタディは後者が目的。

<流れ>

- ・新カルテのルールと同じく、4種類の観点で問題を部会ノートにピックアップ！(フォームは後ほど)
- ・各自、未対応時に問題に挑戦☆
- ・新規SLAは、研修として、ここに挙げられた問題は(なるべく)こなす！
→解答を、基本は問題をピックアップした人が採点

①基本、②いいね(良問)
③要注意(鬼問)、④聞きたい



⑥北大連携・交流プロジェクト

大目的:交流を通じてお互いに刺激や知見を得る！！
(SLAの活動を外に発信する目的もある。)

【前期】

- ①SLA・チューターの顔合わせ(6月?) @テレビ会議
- ②後期の授業を対象としたテキストレビュー作成
- ③合同検討テーマの策定(9月)

未対応時MENUの一つ

【後期】

- ①テーマに基づいた活動
- ②選抜隊同士の合同研修会(3月)

【年間】

- ・活動レポートの交換、共有



⑦未対応時プチワーク

- ・未対応時にシフトメンバー同士でやれるプチワークを計画中。
- ・学力面以外の、対人スキル・コミュニケーションスキルの向上に資するものをイメージします。



【全体】SLA通信、復活 & リニューアル

- ・一昨年まで作成していた「SLA通信」を復活！
- ・ただし、もっとSLAに原稿を書いてもらおうかと思えます。
- ・内容は大きく4つ。
 - ①質問の実況 & 予報、
 - ②SLAメンバー紹介
 - ③サボ室からお知らせ系
 - ④コラム(挑戦問題等でもOK)
- ・①は部会単位、②・④は個別オファーになるかと思えます。



ちなみに...

春休み中に変わったあれこれ



SLA用PC(タブレットにもなる!)3台導入

名札デザイン変更
(名前が見えるように)

小島くん復帰ノソくん・井上くん退職

フロアにマガジンラック・パンフレットラック導入

サボ室空気清浄機(加湿器)導入

〇棟横にSLAの案内板設置

SLA文庫補充

『ランダウ=リファンツ物理物理学新編』『物理入門コース3 電磁気学Ⅰ』『物理入門コース4 電磁気学Ⅱ』『物理入門コース8 弾性体と流体』『物理入門コース10 物理のための数学』『物理学キリストシリーズ 解析力学』『物理テキストシリーズ 熱力学』『物理テキストシリーズ10 統計力学』『小川重信物理電磁気学』『三宅啓熱力学』『H&Bキレバ物理熱力学および統計物理入門<上><下>』『清水明樹力学の基礎』『坂岡洋一現代物理学入門講義シリーズ 相対性理論入門』『高村敦志でわかるシュレディンガー方程式―量子力学を学ぶには、ほんとうに難しい!』へ、『リーマン空間』『分析化学』『マクマラー有機化学<上><中><下>』『理工系学生のための日本語表現―学士力の基礎をつくる初年次教育』『大学生のための日本語表現トレーニングスキルアップ編』『大学生のための日本語表現トレーニング実践編』『大学生のための読む・書く・プレゼン・ディベート』の方法



3. 前期カレンダー

- ・詳細は別紙にて確認

- 4月 まずは活動に慣れよう!
- 5月 未対応時も高い意識で!
- 6月 梅雨に負けずに明るく!
- 7月 試験を乗り切ろう!
- 8月 前期お疲れさまでした!
- 9月 合宿実施! 後期に向けて!



4. メンバー紹介 & 交流

- ・まずは、継続SLAメンバーから他己紹介形式でいきましょう。

物理部会メンバー	数学会メンバー	化学部会メンバー	英語部会・ライティング部会メンバー
①別所⇄中村(佳) ②高畑⇄白井 ③遠野⇄小島 ④紅林⇄井上 ⑤中村(悠)⇄五十嵐	①沖坂⇄佐藤(龍) ②金子⇄石井 ③中村(聡)⇄小田部⇄中島	①吉川⇄佐野 ②佐藤(悠)⇄山下	①濱崎⇄原 ②千葉⇄近藤



- ・新規メンバーは自己紹介形式でいきましょう。

物理部会メンバー	化学部会メンバー	英語部会メンバー	授業連携メンバー
①麻生翔吾くん ②高根大地くん ③奥田貴くん	①ユ・デヒョンくん ②齋藤健吾くん	①席芳媛さん ②ブラーチュくん ③寺岡夕里さん	①浅野綾花さん ②田中茜さん ③小川蒼くん ④海老根優香理さん ⑤柏瀬あすかさん ⑥サラさん



最後に

- ・集合写真撮影! こんな感じに↓



②-i 研修合宿；前期活動総括会

■センター員による報告 1



次第

1. 13:30~14:00 全体総括 足立、学、真衣	6. 16:00~16:30 ライティング部会 千葉
2. 14:00~14:30 物理部会 奥田、遠野、高畑	7. 16:30~16:45 特別支援 高畑 (金子・石井)
3. 14:30~15:00 数学部会 小田部、木村	8. 16:45~17:00 水曜午前ｼｯﾄ 五十嵐
4. 15:00~15:30 化学部会 山下、悠介、齋藤	9. 17:00~17:15 新規メンバー 中島、麻生、デヒョン、奥田
5. 15:30~16:00 英語部会 寺岡	10. 17:15~18:00 まとめ 学、足立

1. 全体総括

① 2014年度前期の流れ

4月

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
		1 仏滅 吉藤くん	2 火曜	3 水曜	4 木曜 入学式	5 金曜 「ともそだち本」配布 オリエンテーション
6 土曜	7 日曜 授業開始 センター引継	8 月曜	9 火曜 新規説明会 活動説明会	10 水曜	11 木曜	12 金曜
13 土曜	14 日曜	15 月曜	16 火曜	17 水曜	18 木曜 小林くん	19 金曜
20 土曜	21 日曜 窓口OPEN	22 月曜	23 火曜	24 水曜 基礎ゼミ	25 木曜	26 金曜
27 土曜	28 日曜 センターMTG	29 月曜	30 火曜	基礎ゼミ		

※祝日の日

今年の『ともそだち本』

- ・新2年生にも配布!
- ・1・2年生、計約5000人に学部オリエンテーション時に配布しています。

C棟横外看板

- ・『ともそだち本』表紙と同じデザインで作成
- ・意外といい働きをしました (これを見て来た、という新2年生も!)

新規向け活動説明会

今セメの新規メンバーは、途中採用を含め**20名**でした。(授業S L Aも含む)

デヒョンくん	アラファくん	齋藤くん	木村さん	小川くん	浅野さん
高根くん	奥田くん	席さん	小林くん	久守くん	海老根さん
寺岡さん	麻生くん	小島くん	北原くん	権起くん	柏瀬さん

復帰組 途中採用 授業S L A

前期活動説明会

センター長
関根勉先生

副センター長
中川学先生

今セメ初「業務日誌」

- ・人によって色々な書き方があり、大変面白く読んでいました☺

ちなみに、
ほぼ機能しなかったもの
No.1 『問題データベース』

5月

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
				1 水曜	2 木曜	3 金曜
4 土曜	5 日曜	6 月曜	7 火曜	8 水曜	9 木曜 久守くん 権起くん	10 金曜
11 土曜 みどりの日	12 日曜 こどもの日	13 月曜 振替休日	14 火曜	15 水曜 基礎ゼミ	16 木曜 中村権起くん	17 金曜
18 土曜	19 日曜 センターMTG	20 月曜	21 火曜	22 水曜 基礎ゼミ	23 木曜 石井高次くん	24 金曜
25 土曜	26 日曜 ライティングMTG 北原くん	27 月曜 物理A MTG	28 火曜	29 水曜 基礎ゼミ	30 木曜 物理B MTG 化学 MTG	31 金曜 大学教育学会



6月

基礎ゼミ「自分」×「学問」の授業において、SLAとSLAのOBにゲストスピーカーをお願いしました！



SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1 高引	2 高引	3 仏講	4 大講	5 高引	6 高引	7 高引
8 高引	9 仏講	10 大講	11 高引	12 高引	13 高引	14 高引
15 仏講	16 大講	17 高引	18 高引	19 高引	20 高引	21 仏講
22 大講	23 高引	24 高引	25 高引	26 高引	27 高引	28 高引
29 高引	30 高引					

萩友会プレミアム懇談会

113人の利用★

7月



SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
		1 仏講	2 大講	3 高引	4 高引	5 高引
6 高引	7 仏講	8 大講	9 高引	10 高引	11 高引	12 高引
13 高引	14 大講	15 高引	16 高引	17 高引	18 高引	19 仏講
20 大講	21 高引	22 高引	23 高引	24 高引	25 仏講	26 大講
27 高引	28 高引	29 高引	30 高引	31 高引		



化学A（薬学部）の質問一斉に来すぎてA401教室で集団対応の巻

オープンキャンパス

98人の利用★



シーエイチ東北さんに取材を受けるの図

現影木高校生が編集を担当するフリーペーパーらしいです。TSUTAYA等で置いているとか。



雨宿りでした★

M棟前が川...

8月



SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
					1 高引	2 高引
3 高引	4 高引	5 仏講	6 大講	7 高引	8 高引	9 高引
10 高引	11 高引	12 高引	13 高引	14 高引	15 高引	16 高引
17 仏講	18 大講	19 高引	20 高引	21 高引	22 高引	23 仏講
24 大講	25 高引	26 高引	27 高引	28 大講	29 高引	30 高引
31 高引						

今セメは、部会の定例MTGが今までで最も機能的に運営できました。素晴らしい☆

9月

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
	1 祝祭日	2 祝祭日	3 祝祭日	4 祝祭日	5 祝祭日	6 祝祭日
7 祝祭日	8 祝祭日	9 祝祭日	10 祝祭日	11 祝祭日	12 祝祭日	13 祝祭日
14 祝祭日	15 祝祭日	16 祝祭日	17 祝祭日	18 祝祭日	19 祝祭日	20 祝祭日
21 祝祭日	22 祝祭日	23 祝祭日	24 祝祭日	25 祝祭日	26 祝祭日	27 祝祭日
28 祝祭日	29 祝祭日	30 祝祭日				



■センター員による報告 2



2014 SLA利用状況

2014夏の合宿
SLAサポート室

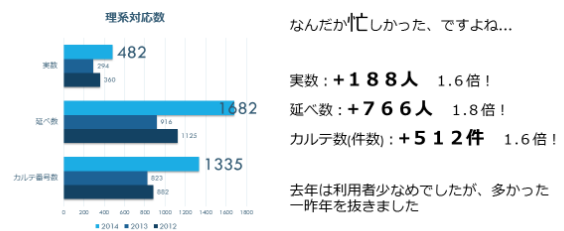
もくじ



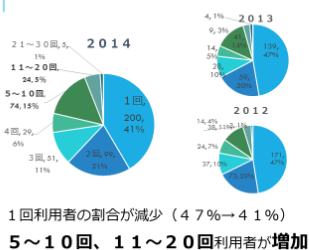
1. 理系窓口



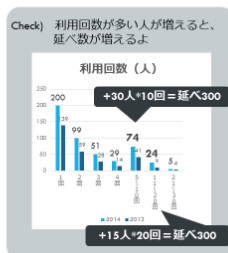
1-1. 理系対応数



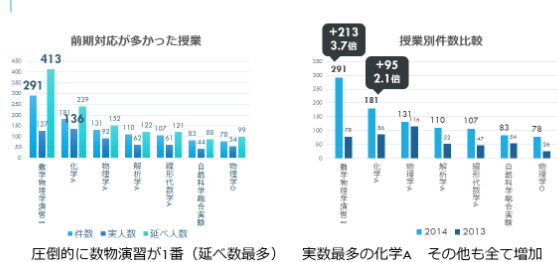
1-4. 利用回数



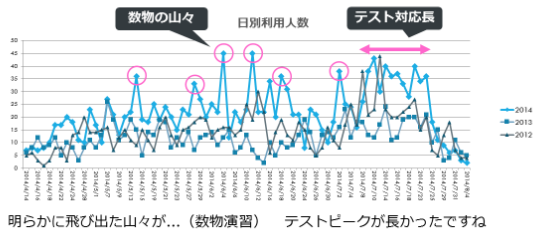
...延べ数+766って?



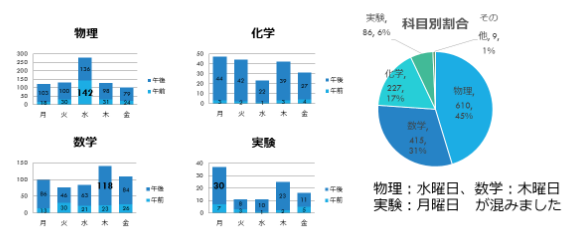
1-5. 対応が多い授業



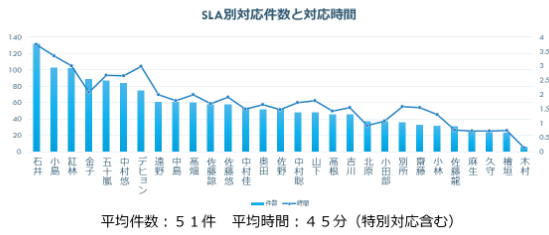
1-6. 日別利用人数



1-7. 科目別件数・割合



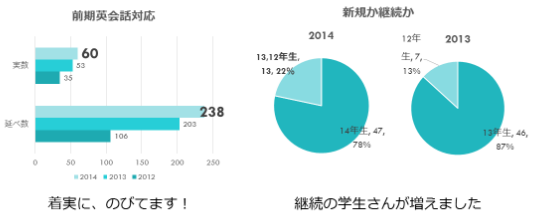
1-8. SLA別おまけ



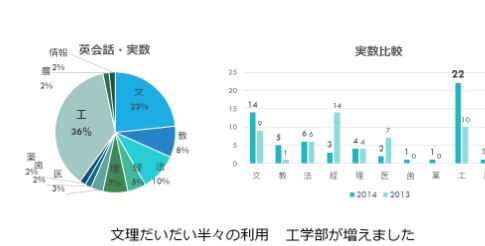
2. 英会話



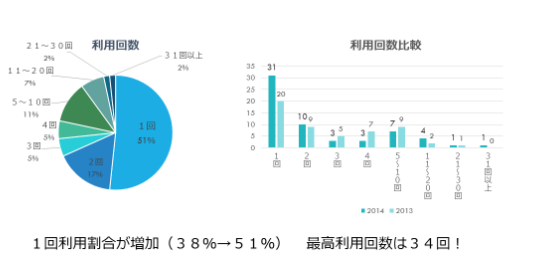
2-1. 英会話対応数



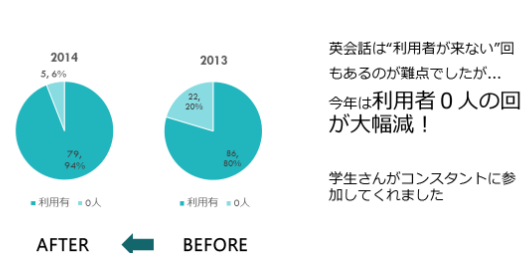
2-2. 学部別利用者



2-3. 利用回数



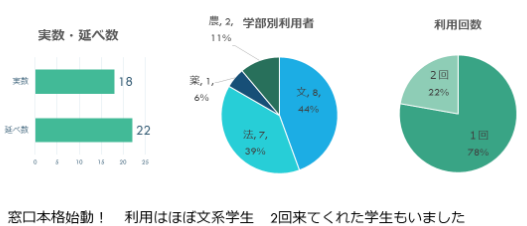
2-4. 利用者の有無



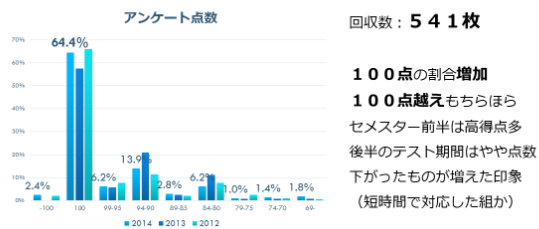
3. ライティング



3. ライティング



4. 利用学生アンケート



4-1. アンケート<理系>

- ・問題の内容から、解き方の糸口などを単に教わるだけでなく、**考えながら理解**していくことができたので有意義だった。(ナナシ)
- ・冷静に対応してくれ、**自分で解けるよう**に助けてくれたのでとてもありがたかったです。先輩方の経験もきけたので良かったです。
- ・理解できるまで教えていただけて、時々**理解できているか聞いてくれる**ので、質問しやすく、とても助かりました。
- ・勉強不足が露呈してしまい、心が折れそうになりましたが、**やさしくねばり強く**対応していただけたので感動しました。ありがとうございます。

4-1. アンケート<理系2>

- ・授業で配られた解答を読んで分からなかったところを教えていただき、とても分かりやすかったです。文系なので**周りに聞ける人が少ない**のでSLAの先輩に教えていただけるのが助かります。
- ・SLAの方に教えて頂いていつも思うのは、質問の内容はもちろんのこと、**周辺の知識**も、おもしろく教えて下さるといことです。それが後になって非常にためになります。(うっちー)
- ・**すごくアホな質問**にもとことん答えていただけて非常にうれしかったです。対応もやさしくて、勉強のことだけでなく、**雑談**も楽しくしていただきました。ありがとうございました。(それゆけー)

4-2. アンケート<英会話>

- ・英会話でどう表現するか分からなくても**ワードを拾って**分かりやすい表現をしてくれ、表現の仕方の勉強になりました。またフリートークだったので楽しく過ごことができました。(りよー)
- ・外国の方と話すので、**日本との違いや自分の先入観**が間違っていたことなど、英語以外のこともとても勉強になった。
- ・初めてでしたが話しやすく良かったです。自分は**話を続けるのが苦手**なので気まずくならないか不安でしたが、向こうから質問をどんどんしてもらうことで話が続き、自分からも話し出すことができ安心しました。また、利用したいです。(リヨー)

4-3. アンケート<ライティング>

- ・初めて利用させてもらいました。ずっと疑問だったけど、**基本すぎて誰にもきけなかった**レポートの書き方を納得するまで教えてもらったのでよかったです。(^^)/ (もえ)
- ・レポートを書いていて、**自分では気づけなかった不自然な部分**を指摘していただけて参考になりました。不安だったところも解決し、書き直したものは自信を持って提出できそうです!
- ・パソコンを用いたレポートの**作成方法がサッパリ**だったので必要なものから多くのことを聞けて安心した。(セッカッコー)

おわり

アンケートは、例年の「**わかりやすかった**」「**丁寧だった**」に加えて、「**楽しかった**」「**優しかった**」がなんとなく増えた印象です。

以上、みなさん前期お疲れさまでした!

ぼち武者こじゅうろう (白石市のゆるキャラ) →



■物理部会報告

SLA物理部会前期活動報告

～量子化学と物理数学の傾向と対策～

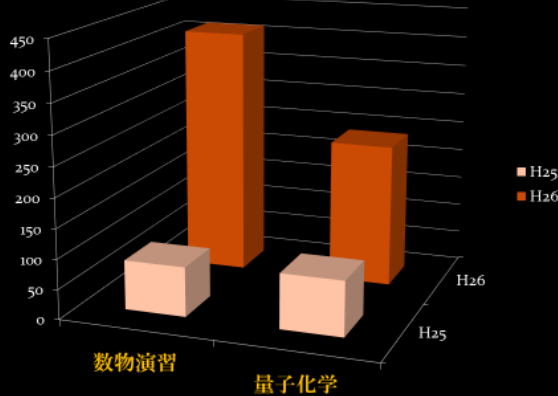
平成26年度SLA夏季研修合宿用

発表者
高畑 正一 (M2)
遠野 恭平 (M1)
奥田 貴 (B3)

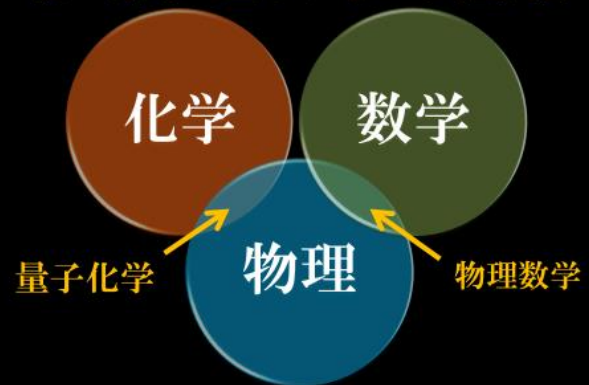
目次

- INTRODUCTION (奥田)
- 利用者数の傾向
- 今発表の目的
- 質問傾向とケーススタディ
 - 量子化学 (遠野)
 - 物理数学 (奥田)
 - 気になった対応事例 (高畑)

利用者数の前年度との比較



物理数学と量子化学の位置関係



目的

- ①質問件数が伸びていて、かつ対応が部会の壁をまたぎやりづらい量子化学や物理数学の質問傾向を知る。
- ②それらの良いケーススタディを学び対応の幅を広げる。

“来年の対応に活かす”

今年度の質問ランキング ～量子化学編～

- 1位 15件 量子数って何？
- 2位 14件 農学部の間接テスト問題(期待値の計算、エルミート演算子)
- 3位 11件 波動関数って何？
- 4位 8件 シュレディンガー方程式って？
- 5位 5件 波動関数が直交するとは？

ケーススタディ

「波動関数って何？」に対する対応



遠野

その時の状況

- ・学生は高校物理未履修
- ・雑談の合間の軽い質問
- ・物理的なイメージを知りたい様子だった

ケーススタディ

「波動関数って何？」に対する対応

ポイント

- ・波動関数自体に物理的な意味はない
- ・「道具」として用いることで知りたい量を求めることができる

知りたい量って??
→ 位置とか速度とか

ケーススタディ

「波動関数って何？」に対する対応

絶対値をとってみると

$$\psi^*(r, t)\psi(r, t) = |\psi(r, t)|^2 \quad \dots \text{存在確率!!}$$

運動量pをはさんで積分すると

$$\int \psi^* p \psi dp^3 = \dots = \int \psi^* \frac{\hbar}{i} \nabla \psi dr^3 = \langle p \rangle \dots p \text{の期待値!!}$$

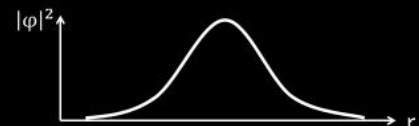
ケーススタディ

「波動関数って何？」に対する対応

粒子の存在確率
イメージ



納得!?



今年度の質問ランキング ～物理数学編～

1位 15件 ストークスの定理の証明

2位 12件 完全微分形の微分方程式

3位 11件 鞍型の関数の図示

$$f(x, y) = (\sqrt{x^2 + y^2} - 1)^2 \text{ の図示}$$

5位 10件 最速降下曲線

$$\int_{-\infty}^1 \frac{x}{(x^2+1)^2} \tan^{-1} \frac{x}{\sqrt{3}} dx \text{ の計算}$$

$$f(x, y) = \tan^{-1} \frac{y}{x} + \tan^{-1} \frac{x}{y} \text{ の計算}$$

ケーススタディ

< 学生さんの質問 > $\left(\frac{1}{2}x^2y - xy\right) \frac{dy}{dx} + x^2 + \frac{x-1}{2}y^2 = 0$
の解き方がわからない

一般的な対応

問題 $P(x, y)dx + Q(x, y)dy = 0$
 $\frac{\partial P}{\partial y} = \frac{\partial Q}{\partial x}$

$f = f(x, y)$ を考える
 $P = \frac{\partial f}{\partial x}, Q = \frac{\partial f}{\partial y}$ と置く

$P(x, y)dx + Q(x, y)dy = 0 \rightarrow \frac{\partial f}{\partial x} dx + \frac{\partial f}{\partial y} dy = 0 \rightarrow df = 0$
 $\rightarrow f(x, y) = C$ とすれば OK

$\frac{\partial P}{\partial y} = \frac{\partial Q}{\partial x} \rightarrow \frac{\partial P}{\partial y} = \frac{\partial}{\partial y} \left(\frac{\partial f}{\partial x} \right) = \frac{\partial}{\partial x} \left(\frac{\partial f}{\partial y} \right) = \frac{\partial Q}{\partial x}$ OK

$$\left(\frac{1}{2}x^2y - xy\right) \frac{dy}{dx} + x^2 + \frac{x-1}{2}y^2 = 0$$

教科書的な解法

$$\begin{cases} P = x^2 + \frac{x-1}{2}y^2 \\ Q = \frac{1}{2}x^2y - xy \end{cases}$$

$$\begin{cases} P(x, y)dx + Q(x, y)dy = 0 \\ \frac{\partial P}{\partial y} = (x-1)y = \frac{\partial Q}{\partial x} \end{cases}$$

を満たすので完全微分系

$$f(x, y) = \int P dx + \psi(y)$$

$$= \int \left(x^2 \frac{x-1}{2} + y^2\right) dx + \psi(y)$$

$$= \frac{1}{3}x^3 + \frac{1}{4}x^2y^2 - \frac{1}{2}y^2x + \psi(y)$$

$$\frac{\partial f}{\partial y} = \frac{1}{2}x^2y - xy + \frac{\partial \psi}{\partial y}$$

Qと見比べて $\frac{\partial f}{\partial y} = 0 \therefore f(x, y) = \frac{1}{3}x^3 + \frac{1}{4}x^2y^2 - \frac{1}{2}y^2x + C = 0$

問題点

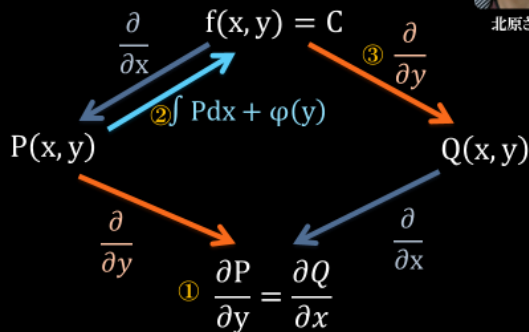
- 解法の流れのイメージが掴みづらい
- P、Q、f と変数が多く、それらを式にどう使うのかがわかりにくい

問題 $P(x, y)dx + Q(x, y)dy = 0$
 $\frac{\partial P}{\partial y} = \frac{\partial Q}{\partial x}$

$P = \frac{\partial f}{\partial x}, Q = \frac{\partial f}{\partial y}, f(x, y) = C$
を満たすような関数 $f(x, y)$ を考える



北原さん



SLA ≠ 便利屋

質問例

(1) 項の記号の意味を教科書で調べたが、書いてある場所が見つからない。どのページを読めばよい？

(2) 積分の計算問題に手が出ない。
解法をすぐ知りたい。

(3) 微分方程式の解き方について、ノートや教科書を見てもよく分からない。何をやっているのか教えて欲しい。

SLAの手助けは最小限にして、
学生が自分で問題を解決できるようにしたい！

ケース1

nd^2 という電子配置に対する項の記号は $^1S, ^1D, ^1G, ^1P$ および 1F である。各々について全角運動量 J の値を計算せよ。
(マッカーリ サイモン 物理化学※(上) 章末問題8.32)

※情報量が非常に多い教科書

nd^2 という電子配置に対する項の記号は $^1S, ^1D, ^1G, ^1P$ および 1F である。各々について全角運動量 J の値を計算せよ。

(質問前の学生)

教科書をやみくもに調べた
・・・見つからない

英字と数字は何を意味しているの？

(対応)

索引使った？ キーワードは何にする？

⇒「項の記号」で検索⇒定義が書いてある！（解決）

①まずは調べ方を教える

$$\int_{-\infty}^1 \frac{x}{(x^2+1)^2} \tan^{-1} \frac{x}{\sqrt{3}} dx \text{ の計算}$$

1. 積分計算のテクニックを確認(頭の体操)

⇒思いつくものをできるだけ挙げてみよう！

- ・変数変換
- ・部分積分
- ・部分分数分解

etc. ⇒ 1つ1つTry&Error

②学生が考えるように誘導する

2. (質問があれば) 逆関数の微分の公式を確認

⇒調べてから計算しよう！

- ・教科書/ノート
- ・SLA文庫
- ・グーグル先生 etc.

①調べ方の確認

$$\frac{d^2x}{dt^2} + \omega_0^2 x = f \sin \omega t \text{ の解き方}$$

Q. この微分方程式の種類は？

A. 非同次線形常微分方程式

Q. じゃあ解はどう書ける？

A. (同次方程式の一般解) + (非同次方程式の特殊解)

Q. 同次方程式の一般解の求め方は？

$x = e^{\lambda t}$ と仮定し、永年方程式を解いて λ を求める。得られた解の線形結合が一般解となる。

(Q. 非同次方程式の特殊解の求め方は？)

□の部分は必ず学生が答える(①調べてもらう)

③内容を自分でもう一度整理してもらう

ケース2(仮想対応)

$$\int_{-\infty}^1 \frac{x}{(x^2+1)^2} \tan^{-1} \frac{x}{\sqrt{3}} dx \text{ の計算}$$

(学生)

- ・全く手が出ない
- ・変数変換 $t = \tan x$ を試した→できない。
- ⇒思いつきそうにない。解法を教えてください

部分積分を使えば先に進める。
どうやって気づいてもらえばよいか？

ケース3(仮想対応)

$$\frac{d^2x}{dt^2} + \omega_0^2 x = f \sin \omega t \text{ を解く}$$

(学生)

- ・微分方程式の解き方自体慣れていない。
- 一般論を教えてください。
- 一般論の解説・・・講義をすることと同じ。

⇒学生が自分でまとめるよう誘導する

まとめ

- ① 調べ方を教える
- ② 学生が思考停止せず、考えるように誘導する
- ③ 学生に内容を整理してもらう
学生の主体性を育む

+

学生のニーズに合った
各部会・各SLAのユニークな対応
様々な分野で学生の学びを深める

謝辞

発表を進めるにあたり、発表の構成のアドバイスをいただいた東北大学高度教養教育・学生支援機構学習支援センターの鈴木学さん、利用者数の統計データを提供していただいた足立佳菜さん、鈴木真衣さんに感謝いたします

数学部会

2014年前期活動報告

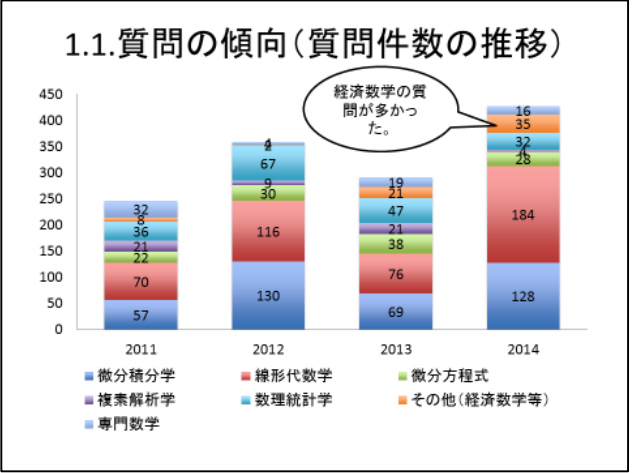
目次

1. 利用学生の傾向
 - 1.1. 質問の傾向
 - 1.2. 気になった事
2. 定例会の内容の紹介
 - 2.1. 定例会の内容
 - 2.2. ケーススタディ
3. 学部生のつまづきとそれへの対応方法

1. 利用学生の傾向

目次

- 1.1. 質問の傾向
- 1.2. 気になった事



1.1. 質問傾向 (単元別～微積編)

	2012	2013	2014
第一位	1変数関数の微分 (32件)	数列・級数 (19件)	一変数関数の積分 (37件)
第二位	1変数関数の積分 (25件)	関数の極限・連続性 (16件)	数列・級数 (25件)
第三位	数列・級数 関数の極限・連続性 (15件)	1変数関数の積分 (14件)	初等関数の定義 (25件)

計算問題でつまづく学生が多い!?

1.1. 質問の傾向 (単元別～線形代数編)

	2012	2013	2014
第一位	行列式 (25件)	行列式 (20件)	行列の基本変形・階数 (51件)
第二位	線形空間 (21件)	行列式の基本変形・階数 (20件)	行列式 (38件)
第三位	線形空間の像と核 (14件)	線形空間、行列の演算 (7件)	線形空間 (37件)

1.2. 気になった事

- ① 線形代数概要、担当: I先生、対象: 薬学部(ミスマッチ)
- ② ϵ - δ の質問が減り、積分計算などの質問が増えた。
- ③ 経済学部の学生の質問が目立った。

⇒ ③ 経済学部の学生の質問が目立った。

大学の数学の答え方に慣れていない学生の姿が見られた。

特に

「(一般には)～でないことを示せ」
⇒ 反例を一つ挙げればよい

という考え方に慣れていない学生が目立った。

2. 定例会について

目次

2.1. 定例会の内容

2.2. ケーススタディ

(1) 各回の流れ

(2) 各回の課題と問題意識

(3) 事例(第一回を例にとって)

2.1. 各回の内容

- 第一回・・・情報共有、ケーススタディ
- 第二回・・・情報共有、ケーススタディ
- 第三回・・・ケーススタディ、夏合宿の話合い

2.2. ケーススタディ

(1) 各回の流れ:

① 課題の提示。

② 各グループ毎に検討。

③ 発表: 各グループの代表者の実演。

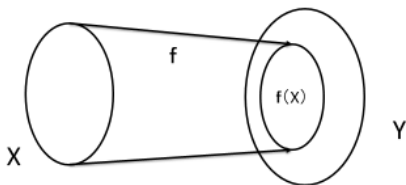
④ 反省・総括。

(2) 各回の課題と問題意識:

	課題	問題意識
第一回	全射と単射の定義と直観的な説明を与える。	抽象的な概念に直観的な説明を与える。
第二回	テイラー展開を分かりやすく説明する。	様々な角度からの説明が可能なので、皆で共有したい。
第三回	時間的な制約と知識不足の状況下でどのような対応をするか。	数学以外の対応力。教育実習経験の有無。

(3) 第一回についてのみ詳しくみる

	課題	問題意識
第一回	全射と単射の定義と直観的な説明を与える。	抽象的な概念に直観的なイメージを与えること。



Aさん: 日常的な例で説明

男女の恋愛で説明⇒実感が湧く

Ex. $X = \{\text{男}\}, Y = \{\text{女}\}$
 $f: X \rightarrow Y$ を「恋愛」:
 $\forall a \in X$ に対し $f(a) = b$
 ・ 全射: $\exists a \in X$ に対し $f(a) = b$
 $\exists a \in X$ に対し $f(a) = b$ かつ $f(a) = c$ (2人)

Bさん: 馴染のある数学で説明

Ex) $f: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}$

単射 $f(x) = x^2$
 全射 $f(x) = x^2 + 1$
 全射 $f(x) = x^2$
 単射 $f(x) = x^2$

関数のグラフで説明⇒異なる概念の比較ができる

$f: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}_{20}$
 $f: \mathbb{R}_{20} \rightarrow \mathbb{R}_{20}$

Cさん: 概念図と言葉で説明

単射 $f: X \rightarrow Y$
 全射 $f: X \rightarrow Y$

概念図と言葉で説明⇒正確な理解・フレーズとして頭に残る

結論

一つ概念でも、説明の仕方は人によって異なる。

3. 学部生をつまづきとそれへの対応

利用学生の傾向から考察したこと

- 数学的な議論に慣れていない。
→ 数学の証明を組み立てられない。
- ~~~であることを示せという問題に対して定義を確認することができていない。
- 条件を式にすることや、逆に式から条件を読み取ることができていない。

対策(線形代数学の具体例)

■ 理学部の線形代数学の問題から抜粋

問題

$U = \mathbb{R}^5, V = \mathbb{R}^4$ とし、 $\{e_1, e_2, e_3, e_4, e_5\}, \{e'_1, e'_2, e'_3, e'_4\}$ をそれぞれ U, V の標準基底とする。線形写像 $f: U \rightarrow V$ を、

$$f(e_1) = e'_1, f(e_2) = e'_2, f(e_3) = e'_3, f(e_4) = e'_4, f(e_5) = 0$$

で定める。このとき次のベクトル空間の次元を求めよ。

(1) $\text{Ker} f$

(2) $\text{Im} f$

この問題で学生がつまづくところ

- 用語の定義を覚えていない。
- 問題で仮定されていることが分からない。
- 次元の求め方が分からない。

SLAがすると良いアドバイス

- 用語の定義の確認。
- 問題で仮定されていることの確認、整理。
- 次元の求め方を教える。(段階的に、ヒントを与えつつ。)

数学的な議論に慣れさせるためのポイント

- 定義に立ち返る。
- 仮定と結論をはっきりさせる。(論理関係の整理)
- 証明の組み立て方や論法を身に付ける。



目次

- 一 化学部会の紹介
- 二 質問者の傾向
- 三 部会員の取り組み
- 四 化学数学なるもの

一 化学部会の紹介

SLA化学部会メンバー紹介 1

化学研究棟

4F-7F: 有機化学系研究室
7F-8F: 無機化学系研究室

3F: 数理化学

計算分子科学

2F: 分析化学・事務室

1F: 放射化学

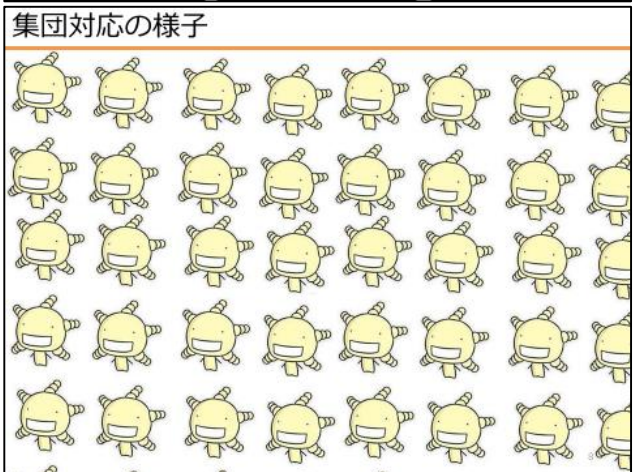
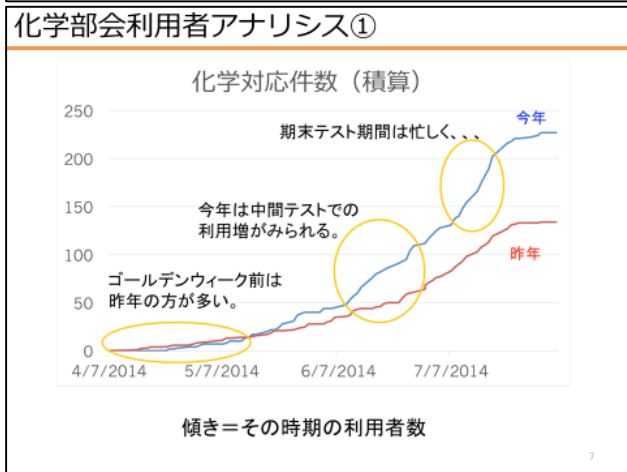
物理C棟
物理化学実験系研究室

佐藤 悠介 ユアヒョン 吉川 信明 齋藤 健吾
佐野 陽祐 山下 琢磨、山口

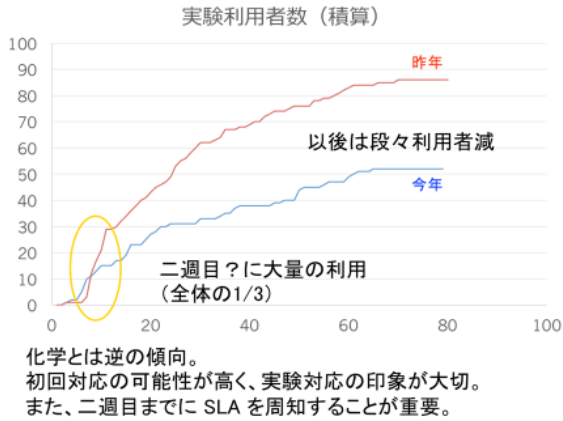
SLA化学部会メンバー紹介 1

名前 (学年)	一言
吉川 信明 (D2)	このままだと1回も合宿に参加できない... 学生に手を動かしてもらおう。計算は学生に任せる。
佐野 陽祐 (D2)	SLA3年目。以後よろしく。学生のニーズに答え、満足して帰ってもらおう。別れ際の一言を大切に。
佐藤 悠介 (M2)	一日が26時間ほしいです 自己紹介を必ずする。相手の顔見て反応を伺う。
山下 琢磨 (M1)	なぜ私が発表することになってしまったのか? 学生の「分からなさ」に共感する
齋藤 健吾 (B4)	仕事が遅いです、危惧していたよりもずっと。とりあえずまずシチュエーションの理解から始める。
ユアヒョン (B4)	日本語タレマゼン。興味を持たせるようにしたい。

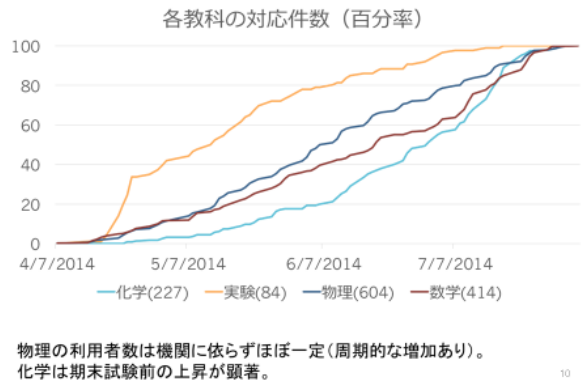
二 質問者の傾向



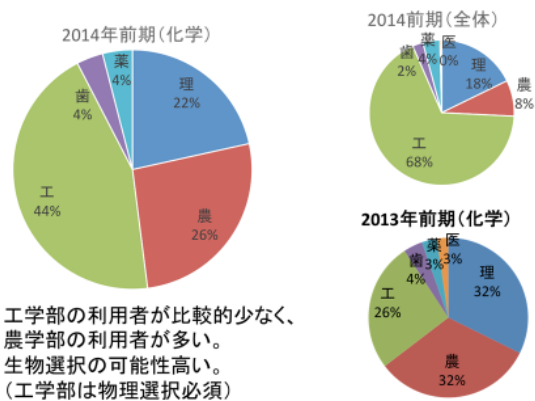
化学部会利用者アナリシス②



化学部会利用者アナリシス③



化学部会利用者アナリシス④ 学部別利用者数



化学部会利用者アナリシス④ 分野・単元別利用者数

量子化学	前期量子論	30	184
	量子力学の基礎	62	
	水素型原子	45	
	電子配置	25	
	原子価結合法	19	
	分子軌道法	42	
	総論 (量子化学)	3	
その他 (量子化学)	5		
熱化学		18	
有機化学		6	
無機分析化学		12	
その他		9	

量子化学の質問が圧倒的に多い。
中でも量子化学の基礎、水素型原子、分子軌道法の質問が多い。

化学部会利用者アナリシス⑤は

特定授業の情報のため掲載を省略します

化学部会利用者アナリシス⑥ 質問のタイプ分け

	勘違い・計算ミス	勉強不足	カリキュラム ミスマッチ
特徴	教科書やノート等で勉強しており、専門用語が通じる。	事前学習をほとんどしておらず、問題文の用語も理解していない。	生物選択や他の授業との進度の違いで基礎知識が足りない。
対応	相手に説明させてみて、どこで勘違いしているのか見つける。	教科書やノート等で必要な情報がどこに書いているのか示す。	不足知識の説明をする。時間がない場合、説明は簡略化し教科書等を示す。
特徴	問題を解いてきているがあつて不安に感じている。	講義で習っていない内容が課題等で出題されている。	他に何かありますか？
対応	ミスなどの指摘やweb、検算等による回答の確認方法を教える。	解き方を教える。記述のある教科書を教える。	人カルテ等で選択式にしたらわかりやすい&統計が取れる。(質問の種類の違い)

学生のニーズに応えたい

先生の意図を汲みたい

傾向を変えていきたい



三部会員の
取り組み

今期の化学部会は、

部会ノートを活用することに決めたのであった



部会ノートとは？

SLA創設初期から存在する、各部会での活動記録や情報共有を行うためのノート(?)である



導入経緯

今セメの化学部会の特徴

- 人数が少ない → こじんまりと意見がまとまる
- 新しい人の割合が高い → 対応中の悩みもたくさん出てくるはず
- 各曜日に1人のみ → 化学部会メンバー同士での交流がない

化学部会全体として、最低限の **意思統一** と **情報の共有**

些細な悩みを共有して一緒に解決しましょ!

ルール

憲法 この2つだけは、絶対を守ることに!! **守れ!**

- 部会ノートに目を通す
- 「日付と名前」を書く

法律 臨機応変に、出来る限り守ること!

- みんなで共有したい対応事例を記す
 - 特筆する質問内容とその対応方法
 - 対応に困った事例
 - わからなかった問題 など...
- 他人のカルテにコメントを入れた際、その旨を記す
- 他の人のコメントには、レスポンスをすること
- 面白い雑記を進んですべし **守って!**

記念すべき1ページ目

Handwritten notes on a page with various entries and a red box highlighting '特筆する質問内容とその対応方法'.

ノートの使い方① 問題提起の場として

燃料電池の例

ノートに問題提起

4/22 燃料電池の仕組みを勉強したので化学部会に話し、実験ミスを発見した。燃料電池について皆さんの意見を伺いたい。お願い!

4/22 佐藤「自然科学総合実験の燃料電池について意見を求む」

5/2 佐野「カルテ(2014年no.95)にコメント入れた」

5/13 佐藤「わからない。もう少し詳しくコメントよろしく」

5/21 デヒョン「これで説明が付かず」 佐野&佐藤、デヒョン、ノートにて議論

部会での議論に発展

皆が明かないので

5/21日:部会で議論

...少し疑問が残った。

ノートで問題解決

5/23 佐野「解説を追加」

5/27 佐藤「解説記事をネット上で見つけた。解答を部会フォルダに保存した」

ノートの使い方② 情報・感想の共有

有効核電荷とイオン化エネルギー

ぱっとしない問題だ、全く。

メンデレーエフの周期表

面白かった。

熱力学について

苦労した。

ノートの使い方③ 雑記

疲れた

小島さん登場→スルー ×3

努力の証!!

雑談

化学部会のマスコットができた



ただの雑談

うつろな目。動きやすい服。口からは泡。実験家の鏡ですね。

部会ノート運用後の考察

メリット

- 1週間の様子がわかる（質問内容やテストの動向）
- 重要なカルテが見つけやすい
- 自信がない内容についてアドバイスがもらえる
- 議論した内容が残る

デメリット


- 多少の時間が必要
- 鈴木さんや足立さんの目が届かなくなる可能性も？（化学部会独立!?)

まとめ

部会ノートを使い、化学部会全体として、最低限の **意思統一** と **情報の共有** ができた。

反省点と改善点（意見や議論してね）

- 忙しい時にはあまり機能しないかも
- マンネリ化しないように注意する!
- 足立さんと鈴木さんとの情報共有について



来期に向けて・・・

化学部会としては、後期も続ける!!

四 化学数学

なるもの

化学数学とは？

化学（主に量子化学）で使われる数学である。

時には、
化学の授業につまづいてSLAに来てくれる学生に、
全力投球で数学（or物理）を教えなくても
（教えない方が）良い場面があると思うのです。

そこで、
化学の授業を受ける学生の立場から、
数学の何が出来るようになれば良いのか、
数学がどこにつながっていくのか を紹介します。

逆に言うと、
どこまで手を抜いてよいのか
という切実な問題です。

TOPIC 1 偏微分

何が必要とされるのか？

case 1 授業前半の偏微分

- ①運動エネルギーの計算
- ②角運動量の計算

case 2 授業後半の偏微分

- ③化学結合（分子）の平衡核間距離

case 1 授業前半の偏微分

①運動エネルギーの計算

ポイント1 化学の授業では、
「ナブラ二乗という微分をすれば 運動エネルギーがでてくる」
ということしか習わないことも多い。

$$\hat{K}\psi = -\frac{1}{2}\nabla^2\psi$$

ポイント2 x, y, z での微分の他に、極座標での微分も出てくるが、現実的な問題としては

- 箱（一次元）の中の粒子の問題
- 水素原子の動径方向のみで考える問題

が多く、多次元の偏微分が授業実用上要請されないことも。

$$\hat{L}_s = -i\hbar \left(y \frac{\partial}{\partial z} - z \frac{\partial}{\partial y} \right) = -i\hbar \left(-\sin\phi \frac{\partial}{\partial\theta} - \cot\theta \cos\phi \frac{\partial}{\partial\phi} \right)$$

②角運動量の計算

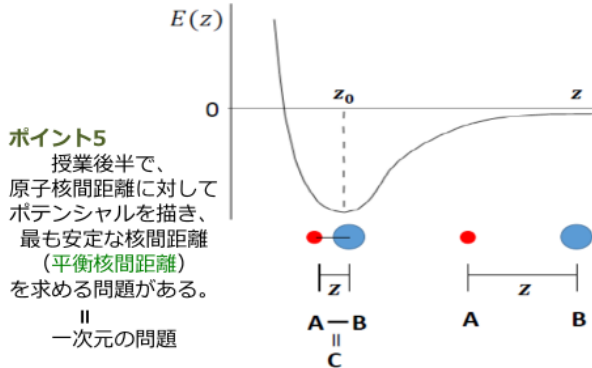
ポイント3
化学A受講者にとって角運動量は比較的高度な問題である。
角運動量について事細かに説明するのは相手を見てから。

ポイント4 授業の後半につながる内容としては
角運動量の偏微分はあまり出来なくてもかまわない。

授業の後半では、
軌道角運動量量子数によって原子・分子の電子状態を
場合分けする問題が出題される。
つまり、球面調和関数や電子の波動関数が角運動量演算子の
固有関数になっているという理解だけでも、なんとか乗り切れたりする。

case 2 授業後半の偏微分

③化学結合 (分子) の平衡核間距離



TOPIC 1 偏微分



まとめ

最低限できてほしいこと

- ・一次元の偏微分
- ・偏微分の結果、それが物理量に対応するという認識
- ・偏微分と、「固有関数、固有値」がつながること
- ・偏微分のご利益としては、たとえば、分子などの安定状態を求めることができるということ。

無理してできなくてもいいこと

- ・難しい偏微分 (三次元とか)
- ・偏微分の抽象的な概念
- ・他、ちょっとむずかしいかな、と思うことすべて

TOPIC 2 線形代数/行列

何が必要とされるのか?

case 1 学生をつまづきポイント

①固有値問題と演算子

case 2 行列 (式) が化学で重要となる場面

②永年行列式・ヒュッケル法

case 1 学生をつまづきポイント

①固有値問題と演算子

ポイント1 「演算子の固有値」というのが分かりにくい。

化学Aと線形代数学は1年前期で同時進行。行列の固有値までは高校の知識もあるはず*だが、「演算子の固有値」は大学で初耳、ということも。

➡ こんな例を挙げてみてください

$$\frac{d}{dx} e^{kx} = ke^{kx} \iff \frac{d}{dx} x^2 = 2x = \frac{2}{x} x^2$$

$$x \cdot \delta(x-k) = k \cdot \delta(x-k) \iff x \cdot x^2 = x \cdot x^2$$

*数Cが消滅する=行列を高校でやらなくなる新課程以降、我々がどう対応すべきか、という、甚だ厄介で惨劇的な未来については後日考えることといたしましょう。

釈迦に説法ですが・・・

化学A最初あたりの固有値問題

$$i\hbar \frac{\partial}{\partial t} \psi = \hat{H} \psi$$

化学での量子状態は、基本的に[安定な状態]を考える。ここで[安定な状態]とは、時間が過ぎても状態が変わらない[定常状態]を意味する。シュレディンガーの時間発展の方程式を見ると、[ハミルトニアン]の固有状態]になるときに波動関数が[定常状態]になる。

$$\hat{H} \psi = \left(-\frac{1}{2} \nabla^2 + V(r) \right) \psi = E \psi$$

$$\hat{L}^2 Y_l(\hat{r}) = l(l+1) Y_l(\hat{r})$$

case 2 行列 (式) が化学で重要となる場面

②永年行列式・ヒュッケル法

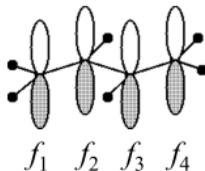
ポイント2 分子の波動関数・エネルギーを求めるときに永年行列式が出てくる。

ポイント3 永年行列式を近似する方法として「ヒュッケル法」が出てくる。

化学でシュレディンガー方程式を解析的に解いて求められる波動関数の解はとても限られている。分子の波動関数はその典型的な例で、それぞれの単原子分子の解を用い、線形近似させ、重ね合わせで求めるときが多い。

例) プタジエン

まともに量子力学でやると無理なので、プタジエンを構成する各原子における電子の波動関数を右のようにおく。



$$F = c_1 f_1 + c_2 f_2 + c_3 f_3 + c_4 f_4$$

Fがプタジエン分子の波動関数となる (と思うことにする)。

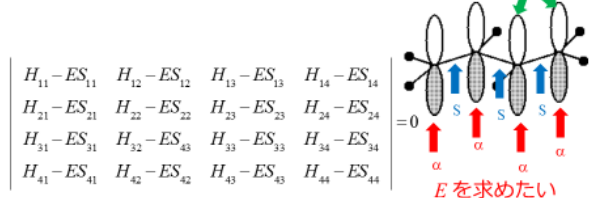
$$E = \frac{\int d\tau F^* \hat{H} F}{\int d\tau F^* F} \quad \leftarrow \text{エネルギー期待値を極小化します}$$

$$S_{ij} = \int d\tau f_i^* f_j, \quad H_{ij} = \int d\tau f_i^* \hat{H} f_j \quad \leftarrow \text{記号の定義}$$

$$\frac{\partial E}{\partial c_i} = 0 \quad \text{を使ってすべての } c_i \text{ に関する連立方程式をつくらんと}$$

次ページの行列式による方程式をとくことと同義になる！！

ヒュッケル法の要点



*基底関数は正規直交化されている

*自分自身のエネルギーは α として勘定する。

*隣の相互作用は β として勘定する。

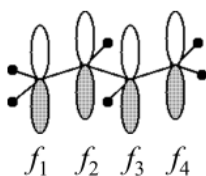
*隣の隣の相互作用は 0 として勘定する。

$$S_{ij} = \int d\tau f_i^* f_j = \delta_{ij}$$

$$H_{ij} = \int d\tau f_i^* \hat{H} f_j = \begin{cases} \alpha & |i-j| \leq 1 \\ \beta & |i-j| = 2 \\ 0 & |i-j| > 2 \end{cases}$$

ヒュッケル法の要点

$$\begin{vmatrix} \alpha-E & \beta & 0 & 0 \\ \beta & \alpha-E & \beta & 0 \\ 0 & \beta & \alpha-E & \beta \\ 0 & 0 & \beta & \alpha-E \end{vmatrix} = 0$$



化学の行列はこのくらいができれば十分

TOPIC 2 行列

まとめ

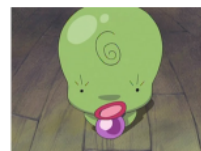
最低限できてほしいこと

- ・演算子の固有値問題が扱えること
- ・具体的な計算(行列の和と積、行列式)
- ・ヒュッケル法程度の行列方程式が解けること

無理してできなくてもいいこと

- ・rank、写像などの概念

魔法が使えればそれで良い



TOPIC 3 重積分/座標変換

何が必要とされるのか？

case 1 極座標の積分はどこまで教えれば良いのか？

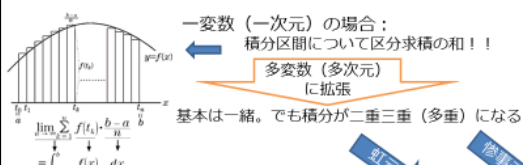
①重積分のイメージ

②三次元極座標系について

case 2 化学Aにありがちな重積分の問題

case 1 極座標の積分はどこまで教えれば良いのか？

①重積分のイメージ



教えたいポイント！！

- ・計算法としては、それぞれの変数について独立に積分していくだけ！！
- ・一次元は長さ、二次元は面積、三次元は体積、と考えると、積分は次のように書ける。

$$\text{二次元: } \iint f(x, y) dx dy = \iint f(x, y) dS$$

$$\text{三次元: } \iiint f(x, y, z) dx dy dz = \iiint f(x, y, z) dV$$

$$\iint f(x, y) dx dy \quad \iiint f(x, y, z) dx dy dz$$

②三次元極座標系について

直交座標 (xyz座標系) 以外の座標を使ったほうが都合が良い場合がある！
(ex. 水素分子は球対称→極座標)

一次元での変数変換
(高校数学の範囲で)

$$x = g(y) \text{ のとき } \frac{x}{y} \frac{dx_0 \rightarrow dx_1}{y_0 \rightarrow y_1} \rightarrow \frac{dx}{dy}$$

$$\int_{x_0}^{x_1} f(x) dx = \int_{y_0}^{y_1} f(g(y)) \frac{dx}{dy} dy$$

変数変換の結果現れる部分

多次元化
+
三次元での
極座標に

$$\int_{x_0}^{x_1} \int_{y_0}^{y_1} \int_{z_0}^{z_1} f(x, y, z) dx dy dz = \int_{\theta_0}^{\theta_1} \int_{\phi_0}^{\phi_1} \int_{r_0}^{r_1} g(r, \theta, \phi) r^2 \sin \theta dr d\theta d\phi$$

変数変換の結果現れる部分

教えたいポイント！！

- ・変数変換の結果現れる部分があるということを知って貰った上で、結果だけ「覚える」
- ・体積要素の話はしてもいいかも。でも時間かかるし、数学が得意じゃない人のことも考慮してあげたい

それ以上いけない

- ・ヤコビアンは絶対に持ち出したい単語の一つ。化学の範囲から脱線するし、数学が得意じゃないととてもつらい。

- ・ちなみに化学的意味は・・・？
- ・積分→存在確率→電子密度！！
- ・電子密度がわかれば双極子モーメントとか反応しやすさとかがわかる

case 2 化学Aにありがちな重積分の問題

水素型原子の波動関数が規格直交化されていることを確かめる
(マッカーリサイモン物理化学例題6・9)

ポイント！！：積分区間が大切ですね

略解：下式を頑張って計算してもらいましょう。

$$\int_0^{\pi} dr r^2 \int_0^{\pi} d\theta \sin \theta \int_0^{2\pi} d\phi \Psi_j(r, \theta, \phi) \Psi_j(r, \theta, \phi)$$

($\Psi_j(r, \theta, \phi)$: 水素原子の波動関数)

水素原子の1s波動関数で記述される電子を核から1 bohr半径以内に見つける確率を計算せよ

(マッカーリサイモン物理化学例題6・10)

- ポイント！！：①被積分関数が r のみに依存してる
- ②動径方向の波動関数しか与えられてない。

略解：角度部分がないので、 4π が出てこないのです

$$P = \int_0^{a_0} r^2 R(r)^2 dr$$

(a_0 (ボア半径), $R(r)$ 1s波動関数の動径部分)

化学数学 まとめ

化学数学全体の教え方ポイント

- ・高校数学の範囲で教えられるだけ教える。化学Aならそれで充分なことが多い



線引きが大事

これからも楽しくやりましょう！



英語部会2014前期報告

目次

- 英語部会の活動
 - いつ活動してるの？
 - どういう学生が利用するの？
 - どんなことやってるの？
 - どういうメンバーがいるの？
- TOPIC~理系部会へアドバイス！~
 - 初めての学生への接し方
 - コミュニケーションで気を付けていること

英語部会の活動

- いつ活動してるの？
- どういう学生が利用するの？
- どんなことやってるの？
- どういうメンバーがいるの？

いつ活動してるの？

7月29日 終了

Let's 駅前より近い！林留学!

時間別	英会話受付	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri
12:15~14:00 (13:00 時頃に一旦区切りませ)		カフェ (スミト)	カフェ (藤)	-	カフェ (寺岡)	-
14:40~17:50		1on1 (アライチ/スミト)	1on1 (松)	-	1on1 (松/アライチ)	-

日程や担当者が変更になる場合もあります。最新情報・詳細は HP や M 様入口前の看板をチェック！



活動内容

	人数構成	内容
英会話 カフェ	SLA1人 学生1人以上	SLAがコンテンツを用意
1on1	SLA1人 学生1人 ※学生さんの同意のもと複数人一緒に会話することも	コンテンツは用意せず、英会話をベースに進める

利用学生について

- 文系学部生が多め
- SLA以外でも毎日英語に触れている人
- 英会話サークルに対して物足りなさを感じるレベルが高い学生
- 1on1は大学院生も
- シャイな学生も多い！



利用学生について

来年の留学に向けて英語の特訓をしたい！

(留学生SLAと)国際交流がしたい！

英語が上手になりたいけど自信がない...

ただSLAと話したい！英語はそのツール♪

どういうメンバーがいるの？

寺岡 夕里 (理・4)

帰国子女なので同意語のニュアンスの違いを教えられるのが取り柄です！毎週テーマを設定して、学生さんのニーズに合わせてゲームやディスカッションをしました。

房内 まどか (文・M2)

「のぞき見プレス」という英語部会の宣伝・英語の学習にもなるポスター作成の担当でした。学生さんが「英語をやりたい！」と思えるよう書きました！

どういうメンバーがいるの？



スミット(エ・4)

意外に努力家でみんなが英語をどうすれば楽しめるかをいつも考えてくれています。ネパール出身で話の引き出しも多く英会話カフェの人気者です！
by 原



セキ(国・03)

明るい性格で、人と話すことが大好きです。利用学生の目的を理解し英会話をし、学生さんの興味に応じて話す。質問や要求にも真面目に対応する。楽しい雰囲気を作り、SLAと学生が共に有意義で満足できる時間を過ごすために頑張ります



フラージュ(エ・3)

My strong point as SLA is my confidence in accent. Actually my English is not that good in any aspects- still have lots of grammar mistakes, wrong word choices, poor narration, and even wrong pronunciation- but my confidence, together with my improving accent, does help me a lot in concealing that face.



TOPIC~理系部会へアドバイス！~

- 初めての学生への接し方
- コミュニケーションで気を付けていること

英語SLAの悩み...

- 利用学生の英語のレベルが違う！
- **初対面の学生とも仲良く話さなければならない**
- リピーターも多いけど1回きりの学生も...
- 人が来ないとめっちゃ寂しい
- 6時間も同じ人と話せない！
- 塾の先生と思われ難いことを聞かれる
- 理系窓口のSLAと仲良くなりたい(><)



初めての学生への接し方

挨拶

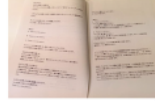
- 笑顔で！
- 明るく！
- ちょっと雑談

親近感！

- 名前を呼ぶ
- 共通の話題
- SLAも楽しそうに♪
- 帰られる雰囲気作り

前回から繋げる 次回へ繋げる

- ○○どうだった？
- 復習
- 宿題



利用後の雑談

- 趣味・部活
- 恋愛相談

コミュニケーション

- 目を見て話す(照れる時は鼻を見る！)
- 笑顔を絶やさない
- 相槌
- 相手を認める

- 相手を否定する
- 話を遮る
- 一方通行の話をする
- 注意散漫になる

合わない人は...

- 良い部分を見つけてそこだけ見るようにする
- 自分の弱点を少しずつ出す
- それでも合わない人には無理に近づかない



コミュニケーションスキル、参考にしてみてください！

ライティング部会報告

前期活動報告

ライティング部会



目次

- 前期の主な活動について
- 数字で見るライティング支援活動
- コンサル風景から見るポイント
- その他コンサルテクニックの紹介
- 後期に向けて

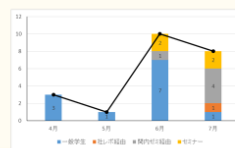
前期の主な活動

忙しかった闇期病み期前期

- **ライティング窓口の開設**
月曜日・水曜日(千葉)昼～3コマ → 昼だけ社レボのヘルプしたり
火曜日(近藤)3コマ～5コマ
- **ライティングポスター作成** → **ライティングセミナー企画・開催**
第1回 レポートとは
第2回 PCスキル
第3回 悪文・良文
- 自主部会(笑) → 昼間は言えないことも...

数字で見るライティング支援活動

前期のライティング窓口利用者数

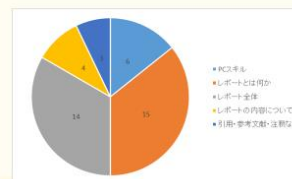


前期のライティング窓口利用者数

- 計**22名**の利用(うち8割が文学部&法学部)
- 時期によって変わる対応内容
第1段階(執筆前期)...レポートの書き方
第2段階(執筆後期)...文書添削
第3段階(執筆後期)...分析の仕方、文章の整合性

※昨年度前期は利用者1名

対応の種類



対応の種類

- 対応の多くが2つの要素を含む
「**レポートとは何か**」...レポートの書き方、レポートらしい文章の書き方など
「**レポート全体**」...文章添削、整合性の確認、体裁の確認など
- **パソコン**に関する質問もあった

※昨年度は奨学金、転学部に関わるエッセイ的なものの支援のみ

実例から見るコンサルのポイント

ライティング支援あるある

学生「このサイバー犯罪事例の書き方を見て欲しいです」
2013年3月26日、Tサイトで不正ログインがあり...、2013年4月3日、gooのIDで不正ログインの形跡があり...、2013年4月4日、フレッツ光の会員サイトで不正ログインが確認された。2013年4月1日から5日にかけて...
SLA『特に気になりませんが、このような場合は表を作るなどの工夫はできますね。それよりも、この日付にはどのような意味がありますか?』
学生「短期間に不正ログインが発生したということをお願い...」
SLA『それ、書いてる?』
学生「あ...」

ライティング=コンサルが命!

- ライティングの場合、**学生が出した「課題(質問)」と本当の「課題(直すべき点)」**が異なる場合がある
→ **学生の状況把握**
→ **本質的な問題への気づき** } 支援者に必要な資質!
- ライティングにはルールはあっても答えはない
→ ルールに沿いつつ、学生の同意を得ながらの支援
→ 支援者間である程度の共通理解が必要



ある日のコンサル風景(7月某日)

～履修放棄をしたい学生が相談にやってきた～

学生の状況

- ・「履修放棄ってもうできませんよね...」
→成績に“D”がつくことへの不安
→進級にあたって評価が重要らしい



学生の状況

- ・励まして何とか放棄しない方向へ
- ↓
- ・「もう放棄できないならせめてCを取りたいです」



正論は人を傷つける

- ・思ったことをそのまま言ってませんか？
(先ほどの例では、SLAの言葉が学生にグサッと刺さっていた...)
- ・コンサルの流れが止まってしまう
→発展的な議論ができなくなる



ある日のコンサル風景・続き

～履修放棄をしたい学生が相談にやってきた～





指導の方法次第で学生は来なくなる

- 必ずひとつは褒める
- 質問をするなどして話の流れを止めない
- 具体的な行動を示してあげる

その他コンサルテクニク

表情を見る

- 学生の表情を見えていますか？ ↓アルパカ学生3面相

アドバイスの仕方に気を付ける

- 学生が理解できる言葉を使っていますか？

自分の意見と異なる意見が出てきた際の対処方法(7月上旬)
 「レポートの中で、反対意見を提示して、自分の主張と対立させておいて、自分は他のデータを使ってたかわければ良いんだよ」

→千葉がこの意味を知ったのは、1ヶ月後の部会だった...

要約・まとめ直し

- 学生の言葉を要約して考えをまとめる手助けをしていますか？

SLA『ヘンリー6世の話が面白いと思ったのはなぜ？』
 学生「最初に○○という悪人と、●●という善人がいて～～、第2幕になると、なぜ○○が悪人になったかについて書かれていて～～」
 (3分間、話の最初から最後まで話し続ける)
 SLA『最初は正義と悪の2項対立なのに、読み進めていくとその対立構造が崩れるところということです。』

後期に向けて

- **人材の確保、採用基準**
 →コンサル基準
 →ライティングスキル基準
- **現メンバーのスキルアップ**
 →部会・勉強会の定着



②- ii 研修合宿；合宿初参加者向け研修会（一部）

SLA研修合宿
初参加メンバー向け資料




2014年9月11日(金)
19:00～20:00




研修会の目標

1. 「教育」的視点を身につける
2. 「大学教育の転換」について理解を深める
3. 「SLA」とは何か、改めて考える




結論から言うと・・・

『教育』や『学校』や『教師』やらというのは、時代によって、変わっていくものだ



ということを“実感を持って、”体感してほしいというのが、「頭の体操」の主旨です。





◆戦前

祖父母世代(70～90歳くらい)

<戦前の教育>



- 教育勅語 315文字の中に12の徳目＝暗誦
- 修身教育
- 読み書き算
- 「真理」が最高価値では“なかった”
- 聖職者／伝達者としての教師
- 女性の参政権もまだない

◆戦後復興、豊かになっていく時期

父母世代、団塊の世代(50～70歳くらい)



- 戦前の、特に道徳的価値観を否定し、幕を開けた戦後
- 世界は、二つの主義で争っていた
- どんどん豊かになり、技術革新が起こった
＝頑張れば、その先に、「成長」・「豊かさ」が待っていることが期待できた時代
- 世界一分厚い教科書
- ちなみにその頃、「国」と「教師(教育界)」は非常に仲が悪かった。

◆学校が荒れていく？新たな時代？


サボ室くらいの世代(30～50歳くらい)

- 学校荒廃と言われる時代
- 「お受験」「受験戦争」
- 時代の転換と言われる1984年臨時教育審議会
→「個性重視」「生涯学習」「国際化・情報化などの変化への対応」
- 「ゆとり教育」
- 新学力観
- 新自由主義


◆今は...？

- 昨年度話題になった教育関連ニュース
- 公務員の退職金削減実施で、中途退職をする教師たち
- いじめ・自殺
- 体罰問題
- 『はだしのゲン』閲覧制限




体罰が良いのか悪いのか(だけ)ではなく、なぜ「問題化」(論争化)するのか？と、考えてみる。

“あの時代”では果たして問題化したのだろうか。何がどう変わってきたのだろうか？今の時代の何を反映した動きなんだろうか。私たちは何を取捨選択しているのだろうか。




Q

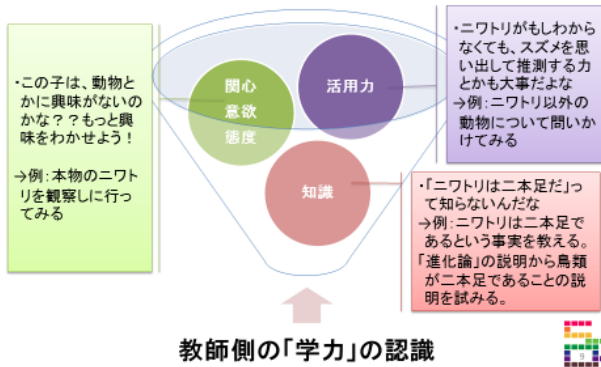
あなたは教師です。ニワトリの絵を子どもに描いてもらった結果、右図のような絵になりました。



あなただったら、この子に対し、何が原因でこうなってしまったと考えるでしょうか？そして、どんな教育をしようと考えますか？



ニワトリ問題に立場で変わるアプローチ



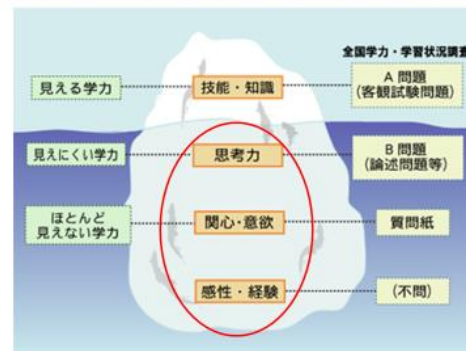
「知識」の側面

- ・「知識」があるかないかに関心あり
→知識がなければ、それを補う
- ・「知識」とは先人たちが積み重ねてきた系統的な学問内容のこと
- ・「知識」の量は数値的に計測可能、「ペーパーテスト」で確認
- ・国際学力調査としてはTIMSSが該当
- ・具体的には...

「関心・意欲・態度」の側面

- ・学習に対する「関心・意欲・態度」にも関心を払う
- ・新学力観 1989年度学習指導要領
- ・梶田叡一の冰山モデル(1994)
- ・人材育成・教育の現場では「関心・意欲・態度」を踏まえたニュー概念＝「コンピテンシー」の育成が求められて、近年、最も重要視されている(詳細は後ほど)

Cf. 梶田叡一の冰山モデル(1994)



「活用力」の側面

- ・学習したことを様々な課題解決に活用することができる力に関心を払う
- ・「活用力」は「リテラシー」の概念と親和性がある
- ・「リテラシー」は基本的には「読み書き能力」のことであるが、昨今では「ある分野の記述(知識)体系を理解し、整理し、活用する能力」として位置付け
- ・国際学力調査としてはPISAが該当
- ・PISAでは「読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシー」を調査
- ・具体的には...

(表) 我が国における「新しい能力」概念

名称	機関・プログラム	年
【初等・中等教育】		
生きる力	文部科学省	1996
リテラシー	OECD-PISA	2000~15 (3年おき)
人間力	内閣府 (経済財政諮問会議)	2003
キー・コンピテンシー	OECD-DeSeCo	2003
【高等教育・職業教育】		
就職基礎能力	厚生労働省	2004
社会人基礎力	経済産業省	2006
学士力	文部科学省	2008
汎用的技能/分野別	OECD-AHELO	2010~12 試行試験
【労働政策】		
エンプロイヤビリティ	日本経営者団体連盟 (日経連)	1999
【成人一般】		
成人力	OECD-PIAAC	実施中

(出典) 松下佳代編著『「新しい能力」は教育を変えるか』2010、ミネルヴァ書房、p3

Ex. キー・コンピテンシー

カテゴリ-1 道具を相互作用的に用いる

- ・言語、シンボル、テキストを相互作用的に用いる
- ・知識や情報を相互作用的に用いる
- ・テクノロジーを相互作用的に用いる

カテゴリ-2 異質な人々からなる集団で相互に関わり合う

- ・他者と良い関係を築く
- ・チームを組んで協同し、仕事をする
- ・対立を調整し、解決する

カテゴリ-3 自律的に行動する

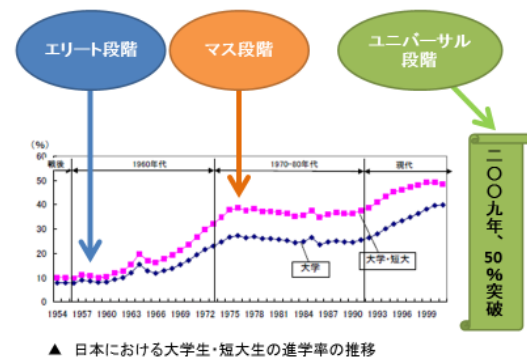
- ・大きな展開の中で行動する
- ・人生計画や個人的プロジェクトを設計し、実行する
- ・権利、利害、限界、ニーズを擁護し、主張する

小括

「学力」について大雑把に分析してきましたが...

- ・一口に「学力」といっても多様な解釈がある
- ・解釈/判断の基準が異なれば、「学力を上げる」アプローチの仕方も様々
- ・決して「新しい能力」の価値が優れているといいたいわけではない

現在の大学教育を取り巻く変化



大学教育の「質」の変化

高等教育の目的	エリート段階	マス段階	ユニバーサル段階
高等教育の機会	特権	特利	低給
大学進学の特典	新分野(家や才能)	標準的(制度化された資格等)	間接的(個人の習得)
高等教育の目的観	人間形成・社会化	知識・技能の伝達	個人・社会・国家の提供
高等教育の主要機能	エリート・支配階級の精神や性格の形成	専門分化したエリート養成・社会の付随者の育成	産業社会に適合しうる全国民の育成
教育課程	高度に構造化・階層的	構造化・権力化(階層的)	非構造的(段階的学習方法の継承)
主要な教育方法・手段	個人指導・師徒関係重視のチューター制・ゼミナール制	非個別対応の多人教講義	通信・TV・コンピュータ・教育機器等の活用
学生の進学・就学(ターン)	中等教育終了後ストレートに大学進学(中断なく)進学(学位取得、ドロップアウト率低い)	中等教育後のノンストレート進学(一部の数字停止(ストップアウト)、ドロップアウトの増加)	入学時期の遅れやストップアウト、成人・勤労学生の進学、職業経験者の再入学が激増
高等教育機関の特色	共通の高・基準を持った大学と専門化した専門学校	多様性(多様なレベルの水準を持つ高等教育機関、総合制教育機関の増加)	高度の多様性(共通の一定水準の喪失、スタンダードものの考え方が疑問視される)
社会と大学との境界	明確に区分、開かれた大学	相対的に希薄化(開かれた大学)	境界区分の喪失、大学と社会の一体化
学生の進路原理	中等教育での成績または試験による選択(能力主義)	能力主義+個人的教育機会均等化原理	万人のための教育保障+集団としての適応水準の均等化

▲ M.トローウ『高学歴社会の大学』1976、東京大学出版会より一部改編して掲載

大学教育分野でのトレンド

- 大学教育学会第35回(2013年)統一テーマ ⇒ 「教育から学習への転換」

大学教育はスクリーニング(選抜)としての効果や、学校歴のブランドによる効果ではなく、その実質が問われ、学習の成果が求められる。同時に、教育する側の論理に立ったカリキュラムや教育活動ではなく、**学習者へ視点が転換**することも意味している。しかし、学習者中心主義は、今に始まったことではなく、小・デューイなど19世紀末の初等教育改革運動の中にすでに見られるものであるが、**教育指導と学習者の自律性とのシレンマ**など多くの論点をほらみ、未だに途上にあるといつてよい。

大学教育における学習者中心主義は、スローガンとしてはたやすいが、そのことが意味するものは、大学教育全体の構造的変化である。主として正課教育を対象にしてきた活動が、**課外活動や非正規教育を含むキャンパス全体に波及**し、キャンパス空間全体の再構築、新たな学習資源概念であるラーニング・コモンズの出現等をもたらす。さらに教育活動の主人公であった教員の役割が、**学習活動の促進・支援者の比重を強め**、TA、スチューデントアドバイザー、教務関係職員、図書館職員、情報センター職員など教育関係職員が役割が大きくなり、**学部・学科の縦割り構造**に基づいて教員が担っていた機能が、キャンパス全体において再統合を必要とする。これらの課題と道筋は、スローガンほどには検討されていない。

▲ 大学教育学会第35回大会HPより
(<http://www.he.tohoku.ac.jp/lges35/program.html>)

大学教育研究・議論のテーマ



「教育から学習への転換」によって生じる大学教育カリキュラムの変化

伝統的アプローチ	新アプローチ
教員中心	学生中心
押さえるべき内容の存在	要点
インプット志向のカリキュラム	学習成果(アウトカム)の明確化
個別の学問分野のためのプログラム	アウトプット志向のカリキュラム
個別的キャリア(官僚、教師など)を想定	構成
知識・内容へと焦点化	学問分野・学際領域・総合領域のためのプログラム
	キャリア観
	学問的・職業的キャリアの明確化
	焦点
	能力(コンピテンス)への焦点化



「新しいアプローチ」台頭の背景

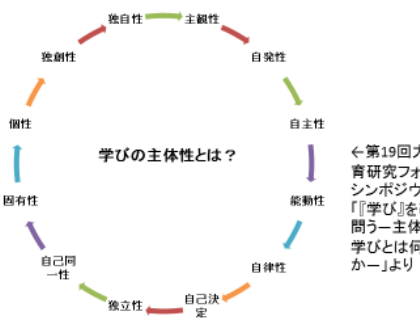
- 大学教育のグローバル化
→ 「出口」の質保証の必要性
ex.) GPAなど
⇒ 国の独自性・固有性を超えた「大学教育」の共通枠組み設定の動き
- 正課カリキュラムだけではなく、補助カリキュラムまで含めた「大学教育」の設計
⇒ 「学習者に与えられる学習経験の総体」としてのカリキュラムの認識の高まり

「新しいアプローチ」台頭の背景

- 講義式授業への比重の低下
→ オンライン学習環境の発展
ex.) MOOCなど
⇒ 大学教育において、「知識を得る」経験は、大学(構内)という場に限定されなくなった
- 大学における学習観、学習形態の多様化
⇒ 生涯学習の観点が強まることで、大学教育へのニーズが細分化していく傾向

時流に乗ることも大事だが、一方で...

- 「主体的に学ぶ」というのはどういうことなのか?



SLAを「仮想敵」から理解してみる

大学生って、自分で学んでいくのが大事なんじゃないの？何を支援するのが(過保護じゃない)？

提示されている課題
大学の学問、大学生が身につけるべき力とは何で、それを支援するとはどういうことなのか？

学部生が1・2年生に教えることなんてできるの？
教えてくれる人が増えたら、教員の負担が減っていいね！

提示されている課題
先輩学生ができること／できないことは何なのか？

教えてくれるところがあるなんてラッキー！
ここに来れば答え教えてもらえるぜい

提示されている課題
ニーズを満たすだけではない組織作りをどうするか



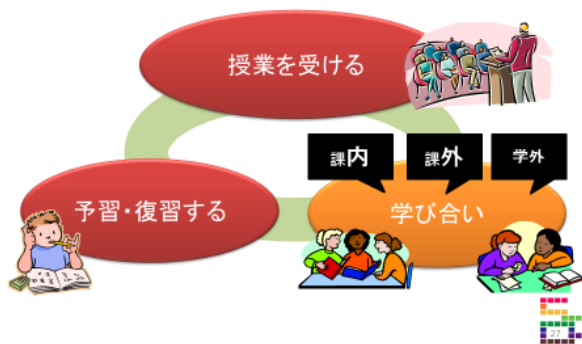
課題 —(課外)学習支援の葛藤・課題

1. 「主体的な学び」を「支援する」ことの矛盾をどう解決するか、どうバランスをとるか。
2. 質保証をどうするか & 学生・教員にどうSLAが行う学習支援について理解してもらうか。
3. 強制力が働かない中でいかに利用してもらうか。
+「いかに利用してもらうか」を探る“サービス業”でもあるが、“教育的組織”でもあることをどう両立させるか。
⇒多様なニーズにいかに対応するか(モチベーションの多様性、レベルの多様性、わからなさの多様性、ニーズの多様性...)
⇒理念・理想からいかにニーズを創り出すか。

※例:より多くの人に利用してもらいたい、が、浜山SLAを利用する学生が良いわけではない。頼り切った学生には、「采ない(で自力で頑張る)」指導も必要であったりもする。

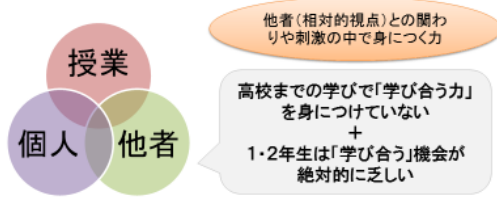


大学生の「学び」



なぜ「学び合い」なのか？

- ◎大学生として身につけてほしい様々な力(伝統的)
多角的視点、批判的思考力、課題探究能力、研究志向、メタ認知...
- ◎大学生として身につけてほしい様々な力(New)
コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力... etc



課題を解く鍵

1. 支援観の転換(拡充)

よくある“支援”のイメージ

- =できない人、困っている人を助ける
- =問題が出てきた後の、事後フォロー

“支援”はそれだけか？

- =できる人、伸びたい人のひと押し(&普通の人)
- =問題が出てこないような、事前の文化創り

* 展開する活動自体の工夫も当然ではあるが、環境設計を含め、学生に与える全体的な“イメージ創り”が非常に重要
* 放っておくこと=主体性の育成、ではない



課題を解く鍵

2. 「先輩の力」の可能性

- ✓ 適度な文脈の共有
- ✓ 学問へのこだわりを持つ、学びに意欲的な先輩たち
- ✓ 少し上の(頑張れば真似できそうな)ロールモデル≒教えずぎない指導
- ✓ 不完全さ、未熟さ →「共に考える」存在



課題を解く鍵

3. 「SLAサポート室」という仕かけ

- ✓ 学生(SLA)組織のかじ取り役(チーム作り)
Cf.『SLA式 ともそだち本 2013』p26等
- ✓ 学生を完成されたマンパワーとして捉えない
- ✓ 適度な柔軟性の創出(⇔形式化、硬直化)

+α. 「学び合い」という仕かけのもう一つの側面

- ✓ 「学び合い」を理念に掲げる運営的理由
 - ・ 「学生の力」で学習支援を行うための質保証
 - ・ “落ちこぼれ”が利用する場所や、“駆け込み寺”ではないというイメージ戦略



SLAの可能性



②-iii 研修合宿；研修会（一部）

「SLAがSLAであることを武器にする夏 2014」
2014年研修合宿 2日目「研修」

研修

【名】(スル)職務上必要とされる知識や技能を高めるために、ある期間特別に勉強や実習をすること。また、そのために行われる講習。 by goo辞書

➡ 学問（専門）スキル
専門知識 / 学ぶ者に必要なもの

➡ 教育スキル
教える者に必要なもの

➡ 対人スキル
人と関わる上で必要なもの

➡ 社会人スキル
組織で働く上で必要なもの



第1部

その前に...

What's SLA?



TA/SA	ピアサポート
学生FD	その他

制度を越え 組織へ	生活支援 ＜学習支援＞
実質的 教育改善	担い手の 成長-チーム

第2部

“教育的”思考

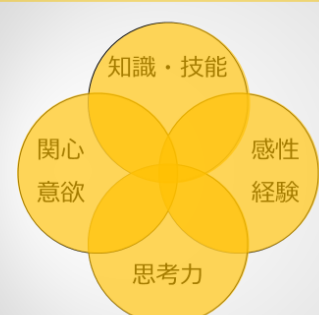


学習支援者のイシキレドコロ！

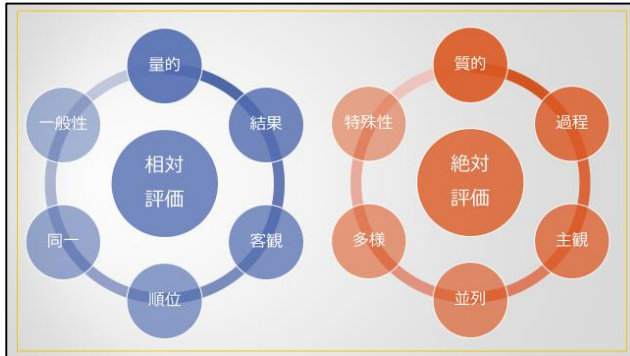
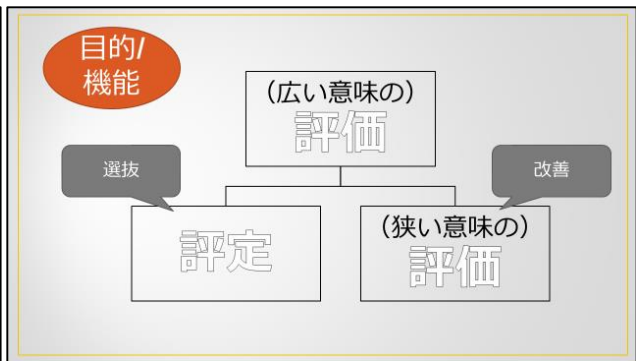
- ① 学力
- ② 学生のモチベーション
- ③ 評価

全国学力・学習状況調査

見える学力	技能・知識	A問題 (客観試験問題)
見えにくい学力	思考力	B問題 (論述問題等)
ほとんど見えない学力	関心・意欲	質問紙
	感性・経験	(不問)



何で攻めるか、即座に見極め戦略を組み立てるのが学習支援者の武器です！

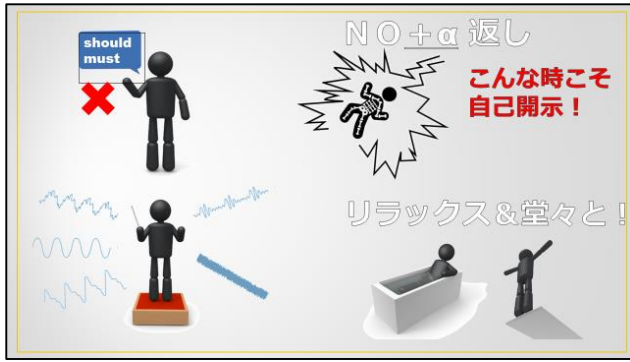


「アサーション/アサーティブ」

原義：主張、断言、断定
 現在（ここで）使う意味：自己表現

◆アサーションとは？
 「相手の立場や人権を尊重しお互いを大切にしながら素直にコミュニケーションをする自己表現法」
 「自分の意見や気持ちを自分にあった方法で表現し、かつ相手も尊重し配慮する自己表現、コミュニケーション」

- 自己表現の3タイプ
- ① **アグレッシブ（攻撃的）**
 自分が正しい事に固執し、他者を踏みにじる攻撃的なやり方
 - ② **ノン・アグレッシブ（非主張的）**
 自分よりも他者を常に優先し、自分を押さえた受身的なやり方
 - ③ **アサーティブ**
 自分の事をまず考えるが、他者をも配慮するやり方



②-iv 研修合宿；ワークショップ（一部）

Work Shop

～SLAによるSLAのための
SLAルーブリックを作成せよ～



SLA研修合宿2014
9/12（金）13:00～17:30

Orientation

impact goal

process role

rule



Orientation 【impact】

- ◆ SLAの活動における各自の目標を自覚化・明示化できるようになる！
- ◆ 自他の意見・考えを共有し、“SLA観”を築く！



Orientation 【goal①】

- ◆ 「ルーブリック」の作成を通じて、SLAの行動基準をSLA自身で創出、具現化する。



Orientation 【goal②】

- ◆ 「SLAって何ですか？」「SLAで得られたものは何ですか？」「SLAの活動の中で自分が頑張ってきたことは何ですか？」の問いに、自分の言葉で答えられるようになる！



Orientation 【process】

- 手法はDialogue（対話≠Discussion）
- 作成物はRubric（評価指標）

Section①

- こちらより材料提供&問いかけ
- 各自思考&書き留め
- チームメンバー同士順番に語る&聴く
- チームで語り合う

Section②

- 繰り返し

Section③

- 繰り返し

Orientation 【role】

<こちら>

- みんなの相互作用の活性化に資するサポート

<みんな>

- 主体的に考え、話し、聴く、そして一緒に創る




Orientation 【rule】

- みんなが安心して意思疎通できる雰囲気作りを心掛ける

具体的に何をしたらいいか覚えてる??



参考：フィンランドの小学校5年生が作った議論における10のルール

- 1.他人の発言を遮らない
- 2.話す時は、ダラダラとしゃべらない
- 3.話す時に、怒ったり泣いたりしない
- 4.分からないことがあったらすぐに質問する
- 5.話を聞く時には、話をしている人の目を見る
- 6.話を聞く時には他のことをしない
- 7.最後まで、きちんと話を聞く
- 8.議論が台無しになるようなことを言わない
- 9.どのような意見であっても、間違いと決め付けない
- 10.議論が終わったら、議論の内容の話はしない

出典：北川達夫、フィンランド・メソッド普及会、2005年、『図解フィンランド・メソッド入門』、経済界、69ページ。



Pre-lecture

・ ルーブリックとは？

表2 作成したプレゼンテーション用ルーブリック（リテラシーの評価）

観点	レベル別・段階毎に達成の度合いを示す。	レベル別・段階毎に達成の度合いを示す。	レベル別・段階毎に達成の度合いを示す。	レベル別・段階毎に達成の度合いを示す。
【観点】 A) 問題を解決する	資料の3つ以上の要約が正しく読み取られたことが確認されている。 複数の資料から論点が導き出されており、論点同士の間接的関係が特定されている。	少なくとも2つの資料から正しく読み取られた内容が記述されている。 複数の資料から論点が導き出されているが、論点同士の間接的関係が特定されていない。	少なくとも1つの資料から正しく読み取られた内容が記述されている。 資料にもとづく論点の推測は一部できているものの、資料を踏まえていない。	解決すべき問題点は特定されていない。 推測がなされているものの、資料を踏まえていない。
【観点】 B) 自分たちの考えを表現する	自分たちの言葉で簡単な語彙で説明できている。PPT 画面も見ながら、課題表示のタイムラインなどが適切である。	自分たちの言葉で簡単な語彙で説明できている。PPT 画面が見ながら、課題表示のタイムラインなどが適切である。	自分たちの言葉で簡単な語彙で説明できている。PPT 画面が見ながら、課題表示のタイムラインなどが適切である。	自分たちの言葉で簡単な語彙で説明できている。PPT 画面が見ながら、課題表示のタイムラインなどが適切である。

【観点】
評価する際の一般的な項目を示す。

【尺度】
レベル別・段階毎に達成の度合いを示す。

【基準】
「観点×尺度」に見られるパフォーマンス（行動）の特徴を記述する

Pre-lecture

【観点】
評価する際の一般的な項目を示す。

何が

【基準】
「観点×尺度」に見られるパフォーマンス（行動）の特徴を記述する

どのようにできると

【尺度】
レベル別・段階毎に達成の度合いを示す。

どう (ex.よい、悪い) なのか

Pre-lecture

【観点】
評価する際の一般的な項目を示す。

何が

- 書き方は色々ある。
Ex) 「○○力」で統一して書く方法
知識、態度...のような単語で各方法
「～に関する事項」のように文章で書く方法
- 今回は、書き方の統一にこだわりすぎない！
- いかに多面的に捉えられるかが鍵！？

Pre-lecture

【尺度】
レベル別・段階毎に達成の度合いを示す。

どうなのか

- 尺度の設定の仕方も色々。
Ex) A・B・C
Excellence・good・needs work
- 今回は次の通り設定。

Excellence(A)	Good(B)	Needs work(C)	Bad(D)
見習いたい！	一人前	まだ修行中	SLA不採用

Pre-lecture

【基準】
「観点×尺度」に見られるパフォーマンス（行動）の特徴を記述する

どのように

- ルーブリック作成の肝！
- それぞれの観点において「見習いたい」「一人前」「修行中」「不採用」にあたる“**具体的な行動**”とはどんなものかを記述する（理念、抽象で終わらない）。
...後で少しだけサンプルをお見せします...

ルーブリックはプロトタイプ

- 「評価表」ではあるけれど、完璧な最終形態のルーブリックはできない（と思った方がよい）
⇒常にアップデート必要なものである
- 全てを盛り込めるわけではないが、より“良い指標”は存在する。
- 可視化、共有化に意味がある



Section ①

～ “イイ姿” をイメージする～

Dialogue ①

まずは簡単に。
 みんなはSLAとしての“イイ姿”って、どんな姿だとイメージしますか？
 具体的に“イいな”と思う人がいればその人を思い浮かべて、何がどう“イイ”のか考えてみましょう。特に思い浮かぶ人がいなければ、理想の姿をイメージしてみよう！

- ▶ personal work
2分間、それぞれの“いい姿”をイメージして、メモ程度に書き出してください。
- ▶ dialogue
 - ・ 1人2分ずつ、考えことをチームに伝えてください。
 - ・ 3分、自由に語り合しましょう

brief lecture ①

「SLAの活動」と一口に言っても、実は皆さん色々なことをしています。場面を思い浮かべてみましょう！

略
 (学生対応以外の様々な活動の写真を見せ、活動の全体を思い返してもらおう)

brief lecture ①

SLAの活動といっても、学生への直接的な対応だけではありません。「SLAとして活動する」ことを成り立たせている観点は沢山あるはず。

Dialogue ②

では、先ほど自分が挙げた“イイ姿”とは異なる側面での“イイ姿”を考えてみましょう。
 (例えば、学生対応の場面を思い浮かべた人は、それ以外の場面ということ)

- ▶ personal work
2分間、個人でイメージして、書き出してください。
- ▶ dialogue
 - ・ 1人2分ずつ、考えことをチームに伝えてください。
 - ・ 3分、自由に語り合しましょう。
 - ・ 5分、みんなでDialogue ①②で出た“いい姿”をざっくりと整理してみてください。「観点」を考える際に参考にします。

Section ②

～ “観点” を洗い出す～

brief lecture ②

セメスターアンケート

「あなたが一目を置くSLAの名前とその理由を教えてください」



見てみましょう～

◆近藤さん

ライティングに関する知識を多く持っており、それを教えて頂いたから。

◆奥田くん

素直さと将来性

◆小島くん

留学生の対応や教職の勉強を生かした対応等すごいと思った

◆紅林くん

- ・SLAとしての意欲、意識、そして自分の意思をしっかり持っているから。そして、自分と全く違う意見を多く持っており、それでいて共感できる事もたくさんあるから。
- ・自分のメンターをしっかりやってくれた。対応時の説明の仕方が好き。

◆沖坂くん

どんなことでも聞いて良いというオーラ。人の話をきちんと聞く性格。

◆吉川くん

化学以外にも物理、数学のかんりの分野を対応できる。話を聞いて勉強になる。

◆中村(悠)くん

「学生と一緒に考える」という様子がよく見られる気がする

◆山下くん

- ・冷静さと物腰の柔らかさを併せ持っている。機転の利いた言葉を発することが多い(学生への対応時でも、集団で会話している時でも)
- ・「教える」ということに関してバランスがよいと思う。ニーズに合った対応をしている。しっかりと自分の意見をいえる所。
- ・安定感。なかなか工夫していることが多い気がする。
- ・教える側ではなく、学生の立場で物事を考えられるから。

◆山下くんと齋藤くん

二人とも、どんな質問に対しても常に落ち着いて対応できている。年下とは思えない。また、答えを聞きに来たような利用者に対して、きちんと指摘できる点も立派だと思う。

◆石井くん

・イベントを企画してくれたり色々。

・自分の時間を割いて、SLAの活動に取り組んでいるから。カルテを見ると「学生の成長」を意識していることが伝わってくるから。

・ハキハキ話す態度が安心感を与えてくれる。(利用学生、SLAメンバーに対して)

・伝える内容がまとまっていて、分かりやすいと思いました。

・一緒に活動していて、教え方や態度を見習いたいと思いました。

◆中村(佳)くん

・いつも窓口の雰囲気気に気を使っている。

・どのようなタイプの学生でもオールマイティに対応し、自然な流れで人を引き込んでいく対応力がすばらしいと思います。

◆中島くん

常に落ち着いていて、それでいて偉ぶらない立ち振舞が学生に安心感と親近感を与えていると思います。それに学生に甘すぎず、厳しすぎず教育的にもバランスがとれていると感じます。参考にしたい対応スタイルです。

◆寺岡さん

・今セメからなのに、すでに効果的なカフェを作り出しているから。学生さんへの気配りがよいし、課題を他のメンバーに言える。何よりカフェが明るくて楽しい。

・学生への親身な対応、積極的に応対や内容を刷新してよいものにしてようとしているところ、確かな英語力等

・ごく短時間しか待機場所にいないのに普通の待機場所の雰囲気や様子をとても正確かつクリエイティブに分析している観察力が恐ろしい。

◆金子くん

確率論はやはり強い...

◆麻生くん

なんかかんや学生さんとうまくコミュニケーションをとっていた(ように見えた)

◆小島くん

学生相手に、例えば「量子力学について説明したほうがいいですか?」といった提案から学問概論の語りをすぐに始められるところ

◆高畑くん

解説がすっきりしていて、説明のときに書いた紙が分かりやすい。後から見てもよく分かる。

◆別所くん

物理の知識があるので問題解くのが速く、字がキレイなので見やすい。必要に応じ声の大きさを変えていてメリハリがついているので生徒も聞いてて飽きない。

◆鈴木学さん

誰と話す時も満面の笑顔を見せてくれる。話していてとても安心感を得られる。見習いたい。

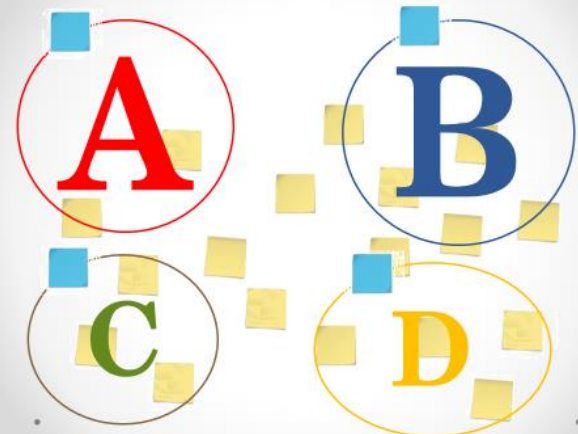
brief lecture ②

色々な次元の言葉で「いいなと思う姿」が記述されていますが、これを**まとめ直し・整理し直し**(カテゴライズ)してみましょう。

言葉の整理

グルーピング

ラベリング



brief lecture ②

言葉の整理

分析、解釈、言語化
そのまま使える物は
だけでもいい。

グルーピング

今回は、大体5~10個にな
るくらいの次元で。グループ
をまたぐものもあるかも。

ラベリング

そのグループにざっくりと名
前をつける。一単語にならな
くてもよい。

brief lecture ②

▶ Sample

誰と話す時も満面の笑顔
を見せてくれる。話して
いてとても安心感を得ら
れる。見習いたい。

円滑なコミュニケーションカ

ライティングに関する
知識を多く持っており、
それを教えて頂いたか
ら。

知識 / 学び合う姿勢

まとめ言葉。「〇〇なこと」と
かでもいいので、できれば名詞。

Dialogue & Work ②

「セメスターアンケート」に挙げられたSLAから
の一目置く“イイ姿”を、整理・分析してみよ
う！

▶ personal work
15分間、個人作業です。まずはやりやすいものから手
をつけてみよう！

▶ dialogue & group work

- 個人の作業したものを見せ合い、1人3分ずつ、作業の間
えたことを、簡単にチームに伝えてください。
- 挙げた「ラベル」を集めて、さらにグルーピングしてくだ
さい。

Section ③

~ “観点” を選択、決定する ~

Class Dialogue

▶ どんな感じか、様子を教えてください◎

Dialogue & Work ③

いよいよ、ルーブリックの作成に取りかかります。
ワーク①で挙げた話、ワーク②のラベルを参考
に、ルーブリックに採用する「観点」を5つ選択、
決定します。ワーク②では、学生対応時の“イイ
姿”が多かったと思うので、ワーク①での話をバ
ランスよく盛り込んでください。

▶ personal work

- まずは個人で、自分ならどんな5つの観点にするか、3
分考えてみましょう。

▶ dialogue & group work

- チームで、5つの観点を洗練させてください。

Section ④

~ “基準” を創る ~

brief lecture ④

- 基準を作ります。が、結構センスがいらいます。

観点	1	2	3	4
(A) 情報 を分析 する	資料①~④のうち、少 なとも3つ以上の資料 から深く読み取られた 内容が含まれている。	資料①~④のうち、少 なとも3つの資料から 深く読み取られた 内容が含まれている。	資料①~④のうち、少 なとも1つの資料から 深く読み取られた 内容が含まれている。	資料は使っている ものの、内容が 乏しい。
(B) 問題 点を発見 する	複数の資料から論点 が書き出されており、論 点間の相違ができた上 で、解決すべき問題 点が設定されている。	複数の資料から論点 が書き出されているが、 論点間の相違が不十 分なため、解決すべ き問題点が曖昧である。	資料にもとづく論点 が書き出されているが、 論点は一部ででき ていないもの、資料を 読み取っていない ため、誤っている。	解決すべき問題 点 は書き取られて いるものの、資料を 読み取っていない ため、誤っている。
(C) ビジ ンやア イデア を提示 する	問題点を本来的に明 確にビジョン（方向性）を 打ち出した上で、それ に基幹された具体的 かつ創意的アイデアを 提示している。	問題点を本来的に明 確にビジョン（方向性）を 打ち出した上で、ア イデアも提示されて いるが、内容が 曖昧である。	アイデアを 提示しているもの があるが、内容が 曖昧である。	アイデアを 提示していない ものがある。
(D) 自分 たちの 考えを 表現する	自分たちの言葉で熱 意を込めて説明でき ている上、PPT 画面も 見やすく、観衆のタイ ムなども適切である。	自分たちの言葉で熱 意を込めて説明でき ているが、PPT 画面 が見にくく、観衆の タイムなどが適切 でない。	PPT 画面 の表示が 不明瞭である。	内容を 説明でき ていない ものがある。

「基準」×「尺度」に見られ
るパフォーマンス（行
動）の特徴を記述する

brief lecture④

▶ Sample

	Excellence (A)	Good (B)	Needs work (C)	Bad (D)
挨拶	挨拶がうまくできる。	挨拶が普通にできる。	挨拶が丁寧でできる。	挨拶が丁寧でない。
挨拶	初対面の人にも、自ら声をかけることができる。	知っている人にも、自ら声をかけることができる。	声をかけられれば、挨拶をする。	目を合わせて挨拶することができない。

ここは適当です

BADは「こんな人いないだろ」って人物像になりがち。いそう・ありそうな感を意識してくれると現実味が増していい感じです！

Dialogue & Work④



いざ、「基準」作り。試行錯誤してみてね！

▶ personal work

・例のごとく、まずは個人作業。1つの観点に関して、自分ならどんな基準文を作るか、3分間考えてみましょう。

▶ dialogue & group work

・ルーブリックを完成させてください！（50分）



ちょっとBreak

break



それぞれのグループのアイデアをちょっと垣間見てみましょう。「ネタが盗まれる|_」ではなく、「さらに良いものを」の精神で☆彡

▶ 4名のグループは2名、3名のグループは1名、両隣のグループの様子を見に行きましょう。

▶ 全体の様子を見ながら、5～10分くらいで「終了」の合図をします。



Let's Share!

Tohoku University Student Learning Adviser

先輩が1・2年生の学びをサポート

フロア 開室: 平日 8:30~18:00

SLA 受付: 平日 10:30~17:50

理系科目 英会話 レポート 自主ゼミ 各種学習イベント

窓口の日時や内容等の詳細情報は、別途ポスター・HPなどで Check してください!

その他、学びに関する質問相談受け付けてます

M棟1階フロアにて♪奥のドアが入口だよ!

どこと学ぼう、どこに育とう、どこで学ぼう Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

問い合わせ先: 東北大学 高度教育・学生支援機構 学習支援センター (SLAサポート室) 022(795)3374 sls-support@bureau.tohoku.ac.jp

▲前期常設ポスター

Tohoku University Student Learning Adviser

SLA DE 英会話 2014 前期セメスター

4/14の週 START

Let's 駅前より近いM棟留学!

時間割	英会話受付	MON	TUE	WED	THU	FRI
12:15~14:00 (13:00 時頃に一旦区切りです)		カフェ (祝日)	カフェ (原)	-	カフェ (寺岡)	-
14:40~17:50		1ON1 (7 階)	1ON1 (2 階)	-	1ON1 (2 階)	-

日程や担当者が変更になる場合もあります。最新情報・詳細は HP や M 棟入口前の看板をチェック!

カフェ みんなで話す「英会話カフェ」、SLA が会をコーディネートします! 出入り自由ですので、お気軽にどうぞ! (- -)

原一由 (E・M2) サラヤより一歩ドイツ留学経験者のナイスガイ 関西住込みの語学で基礎も教えます

寺岡 夕里 (M・4) サラヤより一歩とても話しやすいお兄さん。英語だけでなく中国語もできるか?!

5月以降お休みの! **5月以降お休みの!**

スミット (E・4) 3ボール! サラヤより一歩4年生にしてSLA歴3年のベテラン! 日本語も堪能です!

5月以降お休みの! **5月以降お休みの!**

内内 (M2) 「やりたい」という気持ちが大切! 一緒に英会話の力を伸ばしましょう! どうぞお気軽に声をかけてください!

浜橋 (M2) ちょっとでも英語がしゃべれるようになってほしい! 一緒に英会話の力を伸ばしましょう! どうぞお気軽に声をかけてください!

1ON1 マンツーマンで話す「1on1英会話」、個別に英会話の練習がしたい人はぜひ☆

「1on1」ですが友達と一緒にOK! それぞれのニーズに応じて活用してください! 予約は不要ですが、利用者が重なった場合は1人30分ほどにさせていただきます。それ以外は好きな時間だけどうぞ!

セキ (D3) 中国 サラヤより一歩東洋の7人組の1人。英会話の経験も豊富です。英会話の経験も豊富です。英会話の経験も豊富です。

フラー (E・3) タイ サラヤより一歩とてもおしゃべりなJYFE 留学生。日本語も堪能です。英会話の経験も豊富です。英会話の経験も豊富です。

問い合わせ先: 東北大学 SLA サポート室 本件詳細は 窓口 or SLA ホームページへ! 022(795)3374 http://www.sla.de.tohoku.ac.jp @sla_tomosodachi

▲前期英会話ポスター

Tohoku University Student Learning Adviser

SLAライティング支援 プチセミナー開きます!

月 3 火 5

具体的な「質問」がない人にも! 「何がわからないのか」をわかることが第一歩!

話題: I レポートって何だろう? II 初心者向け★レポート作成に必要なPCスキル III 実践! どんな文が良い文? 悪い文?

6月23日(月) 3コマ	6月30日(月) 3コマ	7月7日(月) 3コマ
6月24日(火) 5コマ	7月1日(火) 5コマ	7月8日(火) 5コマ
7月14日(月) 3コマ	7月22日(火) 5コマ	7月28日(月) 3コマ
7月15日(火) 5コマ	7月23日(水) 3コマ	7月29日(火) 5コマ

1回30分のお試しプチセミナーです

1コマを2回に分けて開催します

月曜=SLA千葉、火曜=SLA近藤が担当 ※7/21(月)は7/23(水)に振り替え

SLA(先輩学生)ならではの、実例を交えた実践的理解が図れます!

3コマの回 ①13:00~13:30 ②13:45~14:15 5コマの回 ①16:20~16:50 ②17:05~17:35

予約不要 M棟1階フロアにて

自分の文章に即したアドバイスが欲しい! 個別の質問をしたい方は、SLAの質問窓口へどうぞ! 窓口時間は看板やHPでチェック★

ポスター・ピラもあるよ プチセミナーの基礎情報にもなっているポスター&ピラが、SLAサポート室の壁面に掲示してあります!

SLAと共に作成したレポート作成サポートシートがフロアに置いてあります! 自由に持って行ってね!

M棟1階フロアは自由に使えるよ!

OPEN 8:30~18:00

どこと学ぼう、どこに育とう、どこで学ぼう Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲前期ライティングプチセミナーポスター

Tohoku University Student Learning Adviser

先輩が1・2年生の学びをサポート!!

受付 10:30~17:50

前セメ中の残りスケジュールはこちら

	7/21	7/22	7/23	7/24	7/25
2コマ	○	○	○	○	○
3コマ	○	○	○	○	○
4コマ	○	○	○	○	○
5コマ	○	○	○	○	○

8/4

物理 数学 化学

オープンキャンパス中(7/30/7/31)も臨時シフトOPEN!

★英会話

★レポート

★はセミナー開催! その他の窓口では個別のアドバイスが受けられます!

Pick Up! レポート、書いていますか?

SLAでは、レポート(ライティング)の相談も受け付けています! レポートの基本的な書き方、PCの使い方、情報検索の仕方、良い文章の書き方等々、レポート作成に関わる質問なら何でもOK! (※ただし、SLAによる「書き直し」は行いません。)

初めにレポートを書く人も、改めてしっかりレポートを書いてみたい人も、自分の文章に即したアドバイスを受けてみませんか?

SLAと共に作成したレポート作成サポートシートがフロアに置いてあります! 自由に持って行ってね!

M棟1階フロアは自由に使えるよ!

OPEN 8:30~18:00

どこと学ぼう、どこに育とう、どこで学ぼう Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲前期テスト期間中ポスター

Tohoku University Student Learning Adviser

SLA DE 英会話 Let's 駅前より近いM様留学!

1月16日 終了予定

2014年度後期シメスター

時間	英会話受付	MON	TUE	WED	THU	FRI
昼休み	12:15~14:00 (13:00時頃 - 一旦区切ります)	-	カフェ (スミット、原、服部)	カフェ (寺岡、服部)	カフェ (七井、廣内、五十嵐)	-
4コマ	14:40~17:50	-	1ON1 (スミット)	1ON1 (七井)	1ON1 (七井)	-

日程や担当者が変更になる場合もあります。最新情報・詳細はHPやM様入口の看板をチェック!

複数人で話す「英会話カフェ」。担当SLAが会話をコーディネートします♪みんなで英語で会話をしてみたい人はぜひ出入り自由ですので、お気軽にどうぞ(´-`) /

Which would you like?
カフェ 1ON1

Come on! Join us!

気軽な Let's English! みんなで楽しく英語を話してみませんか? 自己紹介や健康、サウクル、恋愛等、いろんな話題についての簡単な英語で話してみませんか? 簡単な英語で話した英語がコミュニケーションツールに生まれ変わります!

TEKATA 専任
英語講師

SEI 専任
国文・D3
中・英・日 OK

NEW MEMBER

フィンランドに1年留学経験者です。楽しく英語を話してみませんか?

FUJICHI 専任
文・M2
英文学専攻

FUKUSHI 専任
教-M2
英語学専攻

FATTEI 専任
教-4
フランス留学

IGASHI 専任
教-3
タイ留学

お問い合わせ先: 東北大学学習支援センター (SLAサポート) 詳細は窓口やHPへ!
☎ 022(795)3374 http://www.sla.dc.tohoku.ac.jp @sla_tomosodachi
sln-support@bureau.tohoku.ac.jp (一時的なメール受付け)

作成日 2014/10/10

ともど学ぼう、ともど育とう、ともど学び Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲後期英会話ポスター

Tohoku University Student Learning Adviser

1トピックダイアログ ~90分の「考える対話」~

わんとピ

11/20 (水) 16:30~18:00
場所: M棟1階 SLAラウンジ

topic①「大学生」ってナンダ!?

☆今日のSLA☆
房内まどか (文・M2)

ABOUT “わんとピ”

突然ですがみなさんは、何かよくわからないような...モヤっとした疑問 (にもならないようなもの、ありませんか?) そんな、一見迷ってしまいうようなトピックを1つ取り上げ、対話 (ダイアログ) を通して考えていく。これが「1トピックダイアログ」です。通称「わんとピ」★ただ1つのテーマでも、心と立ち止まって皆で意見を交わしてみようという発想があるかも! もしかすると、何かに疑問を感じたり共感したりする自分自身についても再発見できるかも! そんな90分間の「考える対話」の場に皆さんも参加してみませんか?

今回の1トピックはズバリ「大学生」。当日は、SLAがトピックに関する火付け役になってくれると共に、皆さんのダイアログをサポートします★テーマに興味がある人も、「ダイアログ」に興味がある人も、何となく時間があまるから参加してみようかなって人も、学生さんならどなたでも参加大歓迎です! ぜひ一緒にダイアログをしてみましょう!

☆今日のSLA☆
房内まどか (文・M2)

大学時代ってどんなことできる時期で、大学生ってそもそも何者なのか「誰か時期でしょ」「将来のための勉強をする時期」「大人でも子どもでもない存在」などなど、色々な答えがあるかと思いますが、みなさんはどうしてその答えが納得がいかないのか、あるいは納得がいかない理由が何かあるのかを、ぜひ一緒に考えてみたいと思います。みなさん、ぜひ一緒に考えてみたいと思います。

+++++

お問い合わせ先: 東北大学 高度教育・学生支援機構 学習支援センター (SLAサポート)
☎ 022(795)3374 sln-support@bureau.tohoku.ac.jp (一時的なメール受付け)
http://www.sla.dc.tohoku.ac.jp @sla_tomosodachi 作成日: 2014/11/12

ともど学ぼう、ともど育とう、ともど学び Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲後期イベントポスター

Tohoku University Student Learning Adviser

平日 10:30~17:50
◎マルチメディア教育研究棟 1階フロア SLAラウンジ

物理/数学/化学/実験/英会話/レポート (ライティング) /各種イベント/自主ゼミ/その他、各々のSLAができる学びに関することなら何でもサポートします!

気怠い月曜日を吹っ飛ばせ!

by 月曜午後メンバー SLA

2014年度後期 SLA窓口時間割 (基本)

	月 Mon	火 Tue	水 Wed	木 Thu	金 Fri
1コマ					
2コマ	物 数	物 数	物 数	物 数	物 数
昼休み	物 数	物 数	物 数	物 数	物 数
3コマ	物 数 化	物 数 化	物 数 化	物 数 化	物 数 化
4コマ	物 数 化	物 数 化	物 数 化	物 数 化	物 数 化
5コマ	物 数 化	物 数 化	物 数 化	物 数 化	物 数 化
6コマ	物 数 化	物 数 化	物 数 化	物 数 化	物 数 化

日時等の詳細は、別途ポスター・HPなどでCheckしてください!

お問い合わせ先: 東北大学 高度教育・学生支援機構 学習支援センター (SLAサポート)
☎ 022(795)3374 sln-support@bureau.tohoku.ac.jp (一時的なメール受付け)
http://www.sla.dc.tohoku.ac.jp @sla_tomosodachi 常設ポスター 14歳 作成日: 2014/11/06

ともど学ぼう、ともど育とう、ともど学び Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲後期シフト別企画ポスター①

Tohoku University Student Learning Adviser

平日 10:30~17:50
◎マルチメディア教育研究棟 1階フロア SLAラウンジ

物理/数学/化学/実験/英会話/レポート (ライティング) /各種イベント/自主ゼミ/その他、各々のSLAができる学びに関することなら何でもサポートします!

駅前留学より気軽な留学、6ヶ月にありまう。

by 英会話火曜メンバー SLA ver.A

2014年度後期 SLA窓口時間割 (基本)

	月 Mon	火 Tue	水 Wed	木 Thu	金 Fri
1コマ					
2コマ	物 数	物 数	物 数	物 数	物 数
昼休み	物 数	物 数	物 数	物 数	物 数
3コマ	物 数 化	物 数 化	物 数 化	物 数 化	物 数 化
4コマ	物 数 化	物 数 化	物 数 化	物 数 化	物 数 化
5コマ	物 数 化	物 数 化	物 数 化	物 数 化	物 数 化
6コマ	物 数 化	物 数 化	物 数 化	物 数 化	物 数 化

日時等の詳細は、別途ポスター・HPなどでCheckしてください!

お問い合わせ先: 東北大学 高度教育・学生支援機構 学習支援センター (SLAサポート)
☎ 022(795)3374 sln-support@bureau.tohoku.ac.jp (一時的なメール受付け)
http://www.sla.dc.tohoku.ac.jp @sla_tomosodachi 常設ポスター 14歳 作成日: 2014/11/06

ともど学ぼう、ともど育とう、ともど学び Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲後期シフト別企画ポスター②

Tohoku University Student Learning Adviser

平日 10:30~17:50
◎マルチメディア教育研究棟 1階フロア SLAラウンジ

物理/数学/化学/実験/英会話/レポート (ライティング)/各種イベント/自主ゼミ/その他、各々のSLAができる学びに関することなら何でもサポートします!

To be, or not to be :that is the question.

by 火曜午後メンバー




2014年度後期 SLA窓口時間割【基本】

	月 Mon	火 Tue	水 Wed	木 Thu	金 Fri
1コマ	—	—	—	—	—
2コマ	物 数	物 数	物 数	物 数	物 数
昼休み	物 数	物 数	物 数	物 数	物 数
3コマ	物 数 化	物 数 化	物 数 化	物 数 化	物 数 化
4コマ	物 数 化	物 数 化	物 数 化	物 数 化	物 数 化
5コマ	物 数 化	物 数 化	物 数 化	物 数 化	物 数 化

日時等の詳細は、別途ポスター・HPなどでCheckしてください!

■問い合わせ先: 東北大学 高度教育支援センター (SLAサポート) 022/795/3374 * sla-support@bureau.tohoku.ac.jp (一時的な問い合わせ専用)

常設ポスター* 14後 作成日: 2014/11/06

http://www.sla.dc.tohoku.ac.jp @sla_tomosodachi

◎ともど学ぼう、ともど育とう、ともど学び Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲後期シフト別企画ポスター③

Tohoku University Student Learning Adviser

平日 10:30~17:50
◎マルチメディア教育研究棟 1階フロア SLAラウンジ

物理/数学/化学/実験/英会話/レポート (ライティング)/各種イベント/自主ゼミ/その他、各々のSLAができる学びに関することなら何でもサポートします!

待ってるよ~!

貸し切りのんびり お付き合いです!

SLAの六場木曜午前

by 木曜午前メンバー




2014年度後期 SLA窓口時間割【基本】

	月 Mon	火 Tue	水 Wed	木 Thu	金 Fri
1コマ	—	—	—	—	—
2コマ	物 数	物 数	物 数	物 数	物 数
昼休み	物 数	物 数	物 数	物 数	物 数
3コマ	物 数 化	物 数 化	物 数 化	物 数 化	物 数 化
4コマ	物 数 化	物 数 化	物 数 化	物 数 化	物 数 化
5コマ	物 数 化	物 数 化	物 数 化	物 数 化	物 数 化

日時等の詳細は、別途ポスター・HPなどでCheckしてください!

■問い合わせ先: 東北大学 高度教育支援センター (SLAサポート) 022/795/3374 * sla-support@bureau.tohoku.ac.jp (一時的な問い合わせ専用)

常設ポスター* 14後 作成日: 2014/11/06

http://www.sla.dc.tohoku.ac.jp @sla_tomosodachi

◎ともど学ぼう、ともど育とう、ともど学び Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲後期シフト別企画ポスター④

Tohoku University Student Learning Adviser

平日 10:30~17:50
◎マルチメディア教育研究棟 1階フロア SLAラウンジ

物理/数学/化学/実験/英会話/レポート (ライティング)/各種イベント/自主ゼミ/その他、各々のSLAができる学びに関することなら何でもサポートします!

英語のモヤモヤ、私たちが解消します!

by 木曜英会話メンバー




2014年度後期 SLA窓口時間割【基本】

	月 Mon	火 Tue	水 Wed	木 Thu	金 Fri
1コマ	—	—	—	—	—
2コマ	物 数	物 数	物 数	物 数	物 数
昼休み	物 数	物 数	物 数	物 数	物 数
3コマ	物 数 化	物 数 化	物 数 化	物 数 化	物 数 化
4コマ	物 数 化	物 数 化	物 数 化	物 数 化	物 数 化
5コマ	物 数 化	物 数 化	物 数 化	物 数 化	物 数 化

日時等の詳細は、別途ポスター・HPなどでCheckしてください!

■問い合わせ先: 東北大学 高度教育支援センター (SLAサポート) 022/795/3374 * sla-support@bureau.tohoku.ac.jp (一時的な問い合わせ専用)

常設ポスター* 14後 作成日: 2014/11/06

http://www.sla.dc.tohoku.ac.jp @sla_tomosodachi

◎ともど学ぼう、ともど育とう、ともど学び Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲後期シフト別企画ポスター⑤

Tohoku University Student Learning Adviser

平日 10:30~17:50
◎マルチメディア教育研究棟 1階フロア SLAラウンジ

物理/数学/化学/実験/英会話/レポート (ライティング)/各種イベント/自主ゼミ/その他、各々のSLAができる学びに関することなら何でもサポートします!

? を に変えよう

by 木曜午後メンバー




2014年度後期 SLA窓口時間割【基本】

	月 Mon	火 Tue	水 Wed	木 Thu	金 Fri
1コマ	—	—	—	—	—
2コマ	物 数	物 数	物 数	物 数	物 数
昼休み	物 数	物 数	物 数	物 数	物 数
3コマ	物 数 化	物 数 化	物 数 化	物 数 化	物 数 化
4コマ	物 数 化	物 数 化	物 数 化	物 数 化	物 数 化
5コマ	物 数 化	物 数 化	物 数 化	物 数 化	物 数 化

日時等の詳細は、別途ポスター・HPなどでCheckしてください!

■問い合わせ先: 東北大学 高度教育支援センター (SLAサポート) 022/795/3374 * sla-support@bureau.tohoku.ac.jp (一時的な問い合わせ専用)

常設ポスター* 14後 作成日: 2014/11/06

http://www.sla.dc.tohoku.ac.jp @sla_tomosodachi

◎ともど学ぼう、ともど育とう、ともど学び Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲後期シフト別企画ポスター⑥

Tohoku University Student Learning Adviser

平日 10:30~17:50
@マルチメディア教育研究棟 1階707F SLAラウンジ

物理/数学/化学/実験/英会話/レポート (ライティング)/各種イベント/自主ゼミ/その他、各々のSLAができる学びに関することなら何でもサポートします!

by 木曜午後メンバー ver.A

疑問をもった今がチャンス!




2014年度後期 SLA窓口時間割【基本】

	月 Mon	火 Tue	水 Wed	木 Thu	金 Fri
1コマ	—	—	—	—	—
2コマ	物 数	物 数	物 数	物 数	物 数
昼休み	物 数	物 数	物 数	物 数	物 数
3コマ	物 数 化	物 数 化	物 数 化	物 数 化	物 数 化
4コマ	物 数 化	物 数 化	物 数 化	物 数 化	物 数 化
5コマ	物 数 化	物 数 化	物 数 化	物 数 化	物 数 化

日時等の詳細は、別途ポスター・HPなどでCheckしてください!

お問い合わせ先: 東北大学 高度教育・学生支援機構 学習支援センター (SLAサポート)
☎ 022(795)3374 ✉ sla-support@bureau.tohoku.ac.jp (一時的な問い合わせはメール推奨)
http://www.sla.dc.tohoku.ac.jp @sla_tomosodachi

常設ポスター* 14後 作成日: 2014/11/06

どもと学ぼう、どもに育とう、どもどだち Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲後期シフト別企画ポスター⑦

Tohoku University Student Learning Adviser

平日 10:30~17:50
@マルチメディア教育研究棟 1階707F SLAラウンジ

物理/数学/化学/実験/英会話/レポート (ライティング)/各種イベント/自主ゼミ/その他、各々のSLAができる学びに関することなら何でもサポートします!

by 金曜午後メンバー ver.A

勉強は単位?? そんなことないと思ってます。



2014年度後期 SLA窓口時間割【基本】

	月 Mon	火 Tue	水 Wed	木 Thu	金 Fri
1コマ	—	—	—	—	—
2コマ	物 数	物 数	物 数	物 数	物 数
昼休み	物 数	物 数	物 数	物 数	物 数
3コマ	物 数 化	物 数 化	物 数 化	物 数 化	物 数 化
4コマ	物 数 化	物 数 化	物 数 化	物 数 化	物 数 化
5コマ	物 数 化	物 数 化	物 数 化	物 数 化	物 数 化

日時等の詳細は、別途ポスター・HPなどでCheckしてください!

お問い合わせ先: 東北大学 高度教育・学生支援機構 学習支援センター (SLAサポート)
☎ 022(795)3374 ✉ sla-support@bureau.tohoku.ac.jp (一時的な問い合わせはメール推奨)
http://www.sla.dc.tohoku.ac.jp @sla_tomosodachi

常設ポスター* 14後 作成日: 2014/11/06

どもと学ぼう、どもに育とう、どもどだち Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲後期シフト別企画ポスター⑧

Tohoku University Student Learning Adviser

平日 10:30~17:50
@マルチメディア教育研究棟 1階707F SLAラウンジ

物理/数学/化学/実験/英会話/レポート (ライティング)/各種イベント/自主ゼミ/その他、各々のSLAができる学びに関することなら何でもサポートします!

花の金曜日は SLAから!!

by 金曜午後メンバー ver.B

※花の金曜日、週休二日の導入で、平日(土曜日)の出勤を気にせずに夜まで楽しめるようになったところからいう。(デジタル大発表)



※注: 対応はいたってマシに存じます。

2014年度後期 SLA窓口時間割【基本】

	月 Mon	火 Tue	水 Wed	木 Thu	金 Fri
1コマ	—	—	—	—	—
2コマ	物 数	物 数	物 数	物 数	物 数
昼休み	物 数	物 数	物 数	物 数	物 数
3コマ	物 数 化	物 数 化	物 数 化	物 数 化	物 数 化
4コマ	物 数 化	物 数 化	物 数 化	物 数 化	物 数 化
5コマ	物 数 化	物 数 化	物 数 化	物 数 化	物 数 化

日時等の詳細は、別途ポスター・HPなどでCheckしてください!

お問い合わせ先: 東北大学 高度教育・学生支援機構 学習支援センター (SLAサポート)
☎ 022(795)3374 ✉ sla-support@bureau.tohoku.ac.jp (一時的な問い合わせはメール推奨)
http://www.sla.dc.tohoku.ac.jp @sla_tomosodachi

常設ポスター* 14後 作成日: 2014/11/06

どもと学ぼう、どもに育とう、どもどだち Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲後期シフト別企画ポスター⑨

Tohoku University Student Learning Adviser

平日 10:30~17:50
@マルチメディア教育研究棟 1階707F SLAラウンジ

物理/数学/化学/実験/英会話/レポート (ライティング)/各種イベント/自主ゼミ/その他、各々のSLAができる学びに関することなら何でもサポートします!

あなたの一步、お待ちしております!



2014年度後期 SLA窓口時間割【基本】

	月 Mon	火 Tue	水 Wed	木 Thu	金 Fri
1コマ	—	—	—	—	—
2コマ	物 数	物 数	物 数	物 数	物 数
昼休み	物 数	物 数	物 数	物 数	物 数
3コマ	物 数 化	物 数 化	物 数 化	物 数 化	物 数 化
4コマ	物 数 化	物 数 化	物 数 化	物 数 化	物 数 化
5コマ	物 数 化	物 数 化	物 数 化	物 数 化	物 数 化

日時等の詳細は、別途ポスター・HPなどでCheckしてください!

お問い合わせ先: 東北大学 高度教育・学生支援機構 学習支援センター (SLAサポート)
☎ 022(795)3374 ✉ sla-support@bureau.tohoku.ac.jp (一時的な問い合わせはメール推奨)
http://www.sla.dc.tohoku.ac.jp @sla_tomosodachi

常設ポスター* 14後 作成日: 2014/11/06

どもと学ぼう、どもに育とう、どもどだち Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲後期常設ポスター

Tohoku University Student Learning Adviser

学部1・2年生対象 物理/数学/化学/実験/英会話/レポート (ライティング)/各種イベント/自主ゼミ /その他、各々のSLAができる学びに関することなら何でもサポートします!

平日 10:30~17:50

2014年度後学期セメスター SLAスケジュール(基本)

	月 Mon	火 Tue	水 Wed	木 Thu	金 Fri
1コマ	—	—	—	—	—
2コマ	物数	物数	物数	物数	物数
昼休み	物数	物数	物数	物数	物数
3コマ	物数化	物数化	物数化	物数化	物数化
4コマ	物数化	物数化	物数化	物数化	物数化
5コマ	物数化	物数化	物数化	物数化	物数化

※予定は変更になる場合もあります。最新情報・詳細はHPやM様入口情報板をCheckしてください!

Pick Up!

英会話

	TUE	WED	THU
12:15 ~ 14:00 (13:00開扉一度入り)	カフェ (スエット、原、節)	カフェ (中野、節)	カフェ (中野、節、五)
14:40 ~ 17:50	1on1 (スエット)	1on1 (中野)	1on1 (中野)

★雑談で話す「英会話カフェ」は、担当SLAが全てコーディネートします♪みんなで話して楽しく学びたい人はぜひお時間内出入り自由です(〜)!

★マンツーマン形式の「1on1」は、じっくり自分のペースで話したい人におススメ♪「1on1」ではありますが、英会話の利便性でもOKです♪それぞれのニーズに応じて活用しましょう!

ライティング

月・水・木の4・5コマ

レポート作成のサポートを中心に、ライティング支援を行います! 意外と知らない! 書く! スキル、マンツーマン対応ならではの「あなたの文章に即したアドバイス」を受けませんか? レポート以外の文章にも対応します*

これまでの質問例

- レポート作成に必要なパソコンの使い方がわかりません
- 引用の仕方って、これで合っていますか?
- 構文構成がきちんとしているか、アドバイスが欲しいです!
- 上手く言いたいことが書けていない気がするんですが...

お問い合わせ先: 東北大学 高度教育・学生支援機構 学習支援センター (SLAサポート) 022-795-3374

▲後期総合(教員配布用)ポスター

学習支援センター

ライティング担当SLA募集!

あなたもSLAとして活動してみませんか?

みなさんはSLA (Student Learning Adviser)をご存知ですか? SLAとは、「学生による学生のための学習支援スタッフ」のことで、主に学部3年生以上の先輩学生が、学部1・2年生の学習サポートを行っています。2010年度から活動を開始し、現在は、多くの学生がSLAを活用しています。SLAのコンセプトは、「ともと学ぼう、ともに育とう、ともぞちち」。学生同士の学び合い文化を創っていくことで、大学の学びがより豊かになることを目指しています。そこで必要なのが、**学生である皆さんの力**です! あなたの力と経験をSLAで活かしてみませんか? 皆さんからの応募を心よりお待ちしております*

気になった人は...下記をチェック★

- まずはメール!**
下記4点について s1a-support@bureau.tohoku.ac.jp までメールをしてください。
①名前、②所属・学年、③電話番号、④「説明会」実施希望日時3候補
メールをいただいた後、サポート室から、説明会実施のための日程調整の連絡を送ります。※一週間以内にご返信がない場合はメールが届いていない可能性がありますので再度連絡をお願いします。
- 説明会の実施(所要時間:約30分)**
SLAの概要や活動の流れ等を、SLAサポート室から説明します。この説明会を受けた上で、再度、活動を希望するかどうかを考えてみてください! (この時、登録申込書をお渡しします。)
●場所:川内北キャンパス マルチメディア棟1階 SLAサポート室 ●持ち物:特になし
- 面接・試験の実施(所要時間:約1時間)**
面接では、記載いただいた登録申込書をもとに質疑応答を行います。試験では、主要担当予定科目に関する問題を解いてもらうとともに、対応シミュレーションを行います。
*ライティングの場合は、過去に執筆した論文またはレポートを持参してもらいます。
●場所:川内北キャンパス マルチメディア棟1階 SLAサポート室 ●持ち物:登録申込書

基本応募条件(共通事項)

- ①東北大学の学生であること
- ②学部学生へ良質な学習支援を行う意欲・熱意を十分有していること
- ③自身の学業にも興味を持てること
- ④担当する科目に関連する授業成績が優秀であること

勤務条件

時給:学部1100円/博士前期1200円/博士後期1400円
雇用期間:セメスターごと、継続雇用を基本とする。ただし、今期の募集ではセメスター途中で活動開始を予定。
勤務日時:平日の2~5コマの時間帯で週3~5時間程度(応相談)

来年度から活動スタートの場合は2月末まで随時募集しています

お問い合わせ先: 東北大学 高度教育・学生支援機構 学習支援センター (SLAサポート) 022-795-3374

▲後期臨時SLA募集(ライティング)ポスター

1・2年生の学習サポートしませんか?

2015年度SLA学生募集

みなさんはSLA (Student Learning Adviser)をご存知ですか? SLAとは、「学生による学生のための学習支援スタッフ」のことで、主に学部3年生以上の先輩学生が、学部1・2年生の学習サポートを行っています。2010年度から活動を開始し、現在は、多くの学生がSLAを活用しています。SLAのコンセプトは、「ともと学ぼう、ともに育とう、ともぞちち」。学生同士の学び合い文化を創っていくことで、大学の学びがより豊かになることを目指しています。そこで必要なのが、**学生である皆さんの力**です! あなたの力と経験をSLAで活かしてみませんか? 皆さんからの応募を心よりお待ちしております!

気になった人は...下記をチェック★

- まずはメール!**
下記4点について s1a-support@bureau.tohoku.ac.jp までメールをしてください。
①名前、②所属・学年、③電話番号、④「説明会」実施希望日時3候補
メールをいただいた後、当センターから説明会実施のための日程調整の連絡を送ります。※一週間以内にご返信がない場合はメールが届いていない可能性がありますので再度連絡をお願いします。
- 説明会の実施(所要時間:約30分)**
SLAの概要や活動の流れ等を、当センターから説明します。この説明会を受けた上で、再度、活動を希望するかどうかを考えてみてください! (この時、登録申込書をお渡しします。)
●場所:川内北キャンパス マルチメディア棟1階 学習支援センター ●持ち物:特になし
- 面接・試験の実施(所要時間:約1時間)**
面接では、記載いただいた登録申込書をもとに質疑応答を行います。試験では、主要担当予定科目に関する問題を解いてもらうとともに、対応シミュレーションを行います。
*ライティングの場合は、過去に執筆した論文またはレポートを持参してもらいます。
●場所:川内北キャンパス マルチメディア棟1階 学習支援センター ●持ち物:登録申込書

基本応募条件(共通事項)

- ①東北大学の学生であること
- ②学部学生へ良質な学習支援を行う意欲・熱意を十分有していること
- ③自身の学業にも興味を持てること
- ④担当する科目に関連する授業成績が優秀であること

勤務条件

時給:学部1100円/博士前期1200円/博士後期1400円
雇用期間:セメスターごと、継続雇用を基本とする。
勤務日時:平日の2~5コマの時間帯で週3~5時間程度(応相談)

4月から活動希望の場合は、2月末までが切!

お問い合わせ先: 東北大学 高度教育・学生支援機構 学習支援センター (SLAサポート) 022-795-3374

▲後期次年度SLA募集ポスター

編集後記

「教育から学習」へ、大学教育の転換が叫ばれて久しいですが、本学学習支援センターにおける活動にも「学習者中心」の理念が強く反映されています。2014年度も『主体的な学び』を支援する」という行動指針に基づいて、研究大学における学習支援のあり方を模索してまいりました。この表現は一見すると矛盾しているように思われますが、そんな違和感を払拭してくれる存在が SLA なのではないかと感じています。

単に「教える」のではなく、単に「解答する」のでもなく、SLA は教育と学習の狭間で「学習支援とは何か」を日々模索し続けています。課外におけるドロップイン方式の学習支援では、SLA 側が事前に質問内容を知ることができず、授業のように準備万端で対応に臨めるわけではありません。だからこそ眼前の支援学生の特徴を捉え「個に応じた学習支援」を展開することが何より必要になってきます。ある学生には効果的だった方法でも、状況の異なる学生には通用しないということも学習支援の現場ではしばしば起こり得ます。主体的に学んでもらうために「知識」を与えることが必要な時があれば、一緒に悩み考えることが大切な場合もあります。時にはじっと見守ることも必要です。このように、学生一人ひとりの文脈に寄り添いながら、その「個人」にとって最善の学びのあり方を追求することこそが SLA による「主体的な学びの支援」なのかもしれません。

この「主体的な学びの支援」を言葉だけでおわらせず、より実質的に体现できるようになるためにも、SLA ではこれからも自身の学習支援の「引き出し」を豊かにする活動を続けていきたいと思えます。こうした SLA の成長は、本センターが提供する学習支援の質の向上を支えるものであることはもちろんのこと、SLA として活動する学生自身にとっても、大学で経験する広い意味での学習の機会として意義深いものです。センターでは、本センターを利用する学生、SLA として活動する学生、どちらの学びも支えていきたいと考えています。本報告書ではそのような活動の一端に触れていただけたでしょうか？ まだまだ未熟な実践ではございますが、毎年チャレンジを続けていきますので、皆様から多くのご意見賜れば幸甚でございます。今後ともご指導のほどよろしくお願いいいたします。

(鈴木学、足立佳菜)

学習支援センター (SLA サポート) 年次活動報告書 -2014 年度-

Annual Report 2014 / Center for Learning Support(SLA Support Office)

発行 2015 年 8 月 31 日

編集 東北大学 高度教養教育・学生支援機構 学習支援センター
足立佳菜、鈴木学

連絡先 〒980-8576 宮城県仙台市青葉区川内 41 番地 マルチメディア教育研究棟 1 F
学習支援センター (SLA サポート)

WEB <http://sla.cls.ihe.tohoku.ac.jp/>

印刷 北日本印刷株式会社

※研修合宿報告資料における各種スライドの情報は、学生個人の見解によるものも含まれることをあらかじめご了承ください。

※本冊子掲載の写真データの無断使用を固く禁じます。
